

府道 松原 泉 大津 線 関 連
遺 跡 発 掘 調 査 報 告 書
I

西浦橋遺跡・菱木下遺跡
万崎池遺跡・太平寺遺跡

— 本 文 編 —

財団法人 大阪文化財センター



府道 松原 泉大津線 関連
遺跡発掘調査報告書
I

西浦橋遺跡・菱木下遺跡
万崎池遺跡・太平寺遺跡

— 本文編 —



序 文

堺市を流れる石津川は、その流れの中に幾多の地域の歴史を刻みこんでいます。大山古墳をはじめとする百舌鳥古墳群と「陶邑」古窯址群は、いずれも石津川流域の歴史として存在しています。単に古墳時代のみでなく、弥生文化受容の歴史も石津川を軸にしており、石津川が形成した微地形を利用して、弥生時代の人々はその生活の場を築いていったことが明らかになりました。

都市計画道路府道松原～泉大津線予定地内にある、今回報告する4遺跡は、百舌鳥古墳群と「陶邑」古窯址群の中間に位置し、縄文時代から中近世に至る石津川、和田川中流域の歴史的所産として捉えることができます。

幅約40m、長さ1.4kmにわたる発掘調査は、東西端の氾濫原から中央の段丘全体におよんで実施されました。つい数年前まで、何らの遺跡も周知されていなかった場所であったとは思えない程の、多種多様な遺構・遺物が検出されました。1万数千年前のナイフ形石器から戦前の防空壕まで、驚くほどの量と質であります。西浦橋遺跡で検出された弥生時代の用水堰と、万崎池遺跡で検出された平安時代の堤防は、いずれも灌漑施設としては同じでありながら、その技術水準は大きく異なっています。同じ2・3棟の住居跡であっても、時代が異なれば、その裏にある歴史的な内容は、全く異なったものであったと考えられます。豊富な資料を、豊かな歴史像に構築させる仕事こそ、私達の責務であろうと考えます。

調査によって得られた成果が、一人でも多くの人に生かされ、文化財保護に役立てられるよう心から希望します。

調査にあたり、大阪府教育委員会をはじめ、大阪府土木部道路課、大阪府特定街路建設事務所の関係各位から、多大な援助と協力を得ることができ、心から感謝の意を表する次第であります。今後とも、当センターの事業完遂の為、温かい御支援を賜わるよう、切望してやみません。

財団法人 大阪文化財センター

理事長 加藤 三之雄

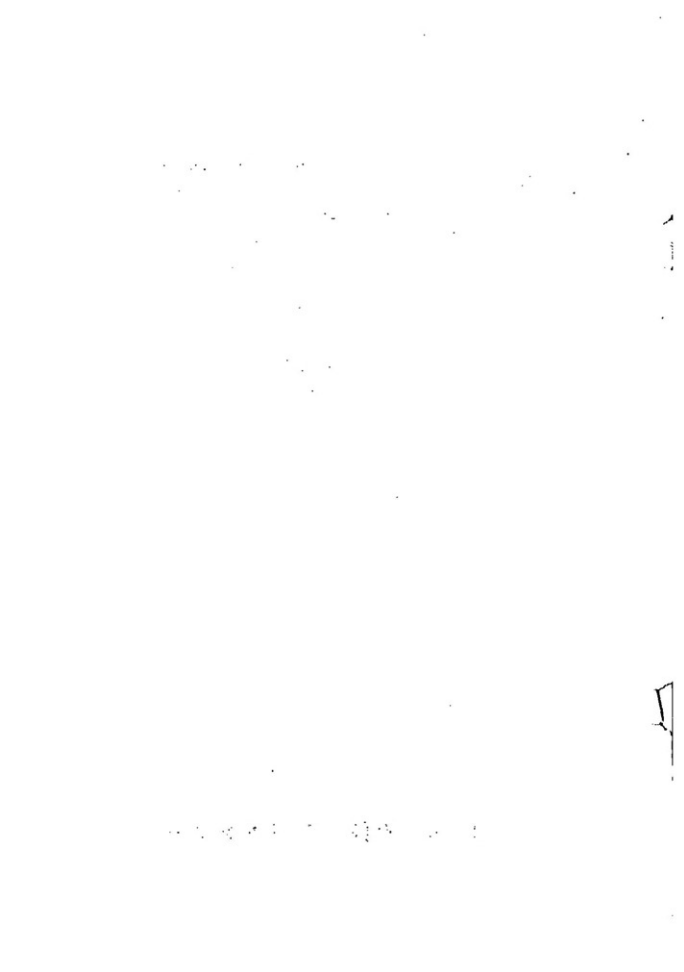


府道松原泉大津線関連遺跡
発掘調査報告書

Ⅱ

— 西浦橋遺跡 —

財団法人 大阪文化財センター



序 文

堺市は大阪府の中央部西寄りに位置する府下第一の衛星都市であります。市域は南北に長く、北西の海浜部と南東の丘陵部にわかれ、海浜部には仁徳天皇陵古墳を中心とする百舌鳥古墳群や中世環濠都市遺跡「堺」など、我が国を代表する遺跡がみられます。また南東丘陵部には、これまた我が国最古で、最大の規模を誇る陶器古窯跡群がひろがっています。このように堺市域は、いわば文化財の宝庫とも言うべき地域であります。

さて、大阪府土木部では松原と泉大津方面を結ぶ都市計画道路の建設を計画いたしました。その路線が泉北丘陵の北端付近を通過することになりました。路線上では大園遺跡・信太寺跡などの著名な遺跡が調査されておりますが、当センターでは大阪府教育委員会の指導によって西浦橋・菱木下・万崎池・太平寺の4遺跡の調査を実施するはこびとなりました。ここに上梓する報告書は西浦橋遺跡にかかるものの第2冊目にあたります。本書が泉北丘陵を含むこの地域の歴史解明の一助となれば、これにまさる喜びはありません。

最後になりましたが、調査に御協力いただいた大阪府教育委員会・堺市教育委員会・大阪府土木部をはじめとする関係各位に厚く御礼申し上げるとともに、今後とも当センターに対し一層の御指導・御鞭撻たまわるようお願いする次第であります。

1984年3月

財団法人 大阪文化財センター

理事長 加藤 三之雄

... ..
... ..
... ..
... ..
... ..

... ..
... ..
... ..
... ..

... ..
... ..
... ..
... ..

... ..
... ..
... ..
... ..

... ..
... ..

例 言

- 1 本書は府道松原大津線建設に伴う、堺市^{（堺市）}・^{（松原市）}西浦橋遺跡の発掘調査報告書である。西浦橋遺跡の発掘調査は下記のように3次にわたって実施している。

次数	工区	調査期間	面積	担当者	報告書
その1	Ⅱ工区	1981年9月8日～1982年3月30日	4,682㎡	芝野圭之助・橋本高明	本報告書（松原大津線調査・Ⅰ 津線調査・Ⅱ）
その2	Ⅰ工区	1982年5月15日～1983年3月31日	3,353㎡	安里 進・橋本高明	
その3	Ⅰ工区	1983年4月1日～1984年3月31日	3,320㎡	大野 薫・橋本高明	

本書は（その2）・（その3）の調査について報告するものである。

- 2 調査は大阪府土木部より委託をうけて、財団法人大阪文化財センターが実施した。調査に要した費用 329,863,000円（その他の遺跡の整理費を含む）は大阪府土木部が負担した。
- 3 遺物整理は調査と併行して実施し、本報告書作成にかかる総括的作業は1983年12月1日から1984年3月31日の間に実施した。
- 4 調査及び報告書作成に関係した者は次のとおりである。

1982年度

理事兼事務局長	井上定清
事務局次長兼総務課長	大塚恭朗
総務課	庶務係 主幹兼庶務係長 阪上允子、主査 田中喜代子、主事 秋山芳廣・灰本明子・千野和久・宮本哲男・田口宗義・船山洋子
	普及係 主幹兼普及係長 福岡澄男、技師 杉本直子、主事 小島容子
業務課	業務課長 中井貞夫（調査総括責任者）、主幹 椋尾孝彦
	業務第4係 業務第4係長 広瀬和雄、技師 山口誠治
	業務第6係 主幹兼業務第6係長 石神 怡、技師 安里 進・橋本高明 技能員 立花正治

1983年度

事務局長	小林廣喜
事務局次長兼総務課長	尾田勝之
総務課	庶務係 主幹兼庶務係長 阪上允子、主査 田中喜代子、主事 秋山芳廣・灰本明子・千野和久・宮本哲男・田口宗義・船山洋子
	普及係 主幹兼普及係長 福岡澄男、技師 杉本直子、主事 小島容子
業務課	業務課長 石神 怡（調査総括責任者）、主幹 吉村信男
	業務第1係 主幹兼業務第1係長 中西靖人、技師 山口誠治
	業務第5係 業務第5係長 尾上 実、技師 大野 薫・橋本高明

技能員 立花正治

- 5 調査にあたっては大阪府教育委員会の指導をうけるとともに、堺市教育委員会・大阪府土木部南部特定事業建設事務所・地元各位の協力を得た。
- 6 自然科学的分野の調査・分析には次の諸氏・諸機関の協力を得ることができた。
- | | |
|----------------------|--------------------|
| サーモ・ルミネッセンス年代測定 | 市川米太氏 (奈良教育大学) |
| ^{14}C 年代測定 | 山田 治氏 (京都産業大学) |
| 樹種鑑定 | 松田隆嗣氏 (元興寺文化財研究所) |
| 樹輪年代法 | 野田真人氏 (京都大学原子炉実験所) |
| 花粉・珪藻分析 | パリノ・サーグェイ株式会社 |
- 7 調査および報告書作成にあたり、次の各氏から有益な指導・助言を得ることができた。記して感謝します。
- 泉 拓良氏 (京都大学)、奥田 尚氏 (八尾市立刑部小学校)、北野俊明氏・樋口吉文氏、野田芳正氏 (堺市教育委員会)、日下雅義氏 (立命館大学)、中尾憲市氏 (大成高校)、那須孝徳氏・樽野博幸氏 (大阪市立自然史博物館)、松尾信裕氏 (大阪市文化財協会)、家根祥多氏 (帝塚山大学)
- 8 本書の編集は橋本が担当し、安里・大野が援助した。

凡 例

- 1 西浦橋遺跡の遺跡略号はNUBである。NUB-I-2は西浦橋遺跡I工区その2を表わす。
- 2 本書遺構図中の方位は国土地理院Ⅱ系の座標北を用いた。
- 3 標高はT.P.に統一した。
- 4 遺構略号はSDが溝を、SKが土壌を表わす。
- 5 遺物は土器・石器・埴輪・土製品・鉄製品ごとに、挿図・図版・観察表に共通する通し番号を与えている。
- 6 遺物実測図の断面は次のように使いわけた。
黒 塗——縄文土器・弥生土器・土師器
白抜き——須恵器・須恵黄土器・埴輪・陶磁器・土製品・サヌカイト製石器・子持勾玉
ドット——黒色土器・瓦器
斜 線——磨石・台石等

例 言

- 1 本書は、大阪府土木部道路課が計画、施行している都市計画道路松原東大津線建設に伴う、堺市菱木、草部、太平寺、平井に所在する西浦橋遺跡、菱木下遺跡、万崎池遺跡、太平寺遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 本調査は、大阪府土木部道路課から、財団法人大阪文化財センターが委託を受けて実施したものである。
- 3 本調査に要した費用、合計1,086,389,000円は、全て大阪府が負担したものである。
- 4 本調査は、昭和55年7月から昭和57年3月までの間実施した。
- 5 出土遺物の基礎的整理作業も発掘調査と並行して実施した。また、本書の作成にかかる総括的な整理作業は、昭和57年4月から昭和57年10月までの7ヶ月間に実施した。
- 6 本調査は、大阪府教育委員会の指導の下、財団法人大阪文化財センターが実施した。調査並びに本書作成に関係した者は以下の組織表の通りである。

調査関係者組織表

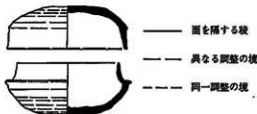
事務局	理事兼事務局長	井上定清
	事務局次長兼総務課長	筒井康雄（現大阪府水道部総務課長代理）
	〃	大塚恭朗
	主幹兼庶務係長	阪上允子、主査 田中喜代子、主事 秋山芳廣、 灰本明子、千野和久、田口宗義、鎗山洋子、宮本 哲男
	主幹兼普及係長	福岡澄男、技師 妹尾直子、主事 小島容子
調査総括責任者	業務課長	堀江門也（現大阪府教育委員会文化財保護課主査）
	〃	中井貞夫
	主幹	椋尾孝彦
	業務第4係長	高島 徹、技師 山口誠治
調査担当	主幹兼第6係長	中井貞夫
	〃	石神 怡、主査 赤木克視、技師 芝野圭之助、 佐久間貴士、久米雅雄、福田英人、橋本高明、村 上富喜子、技能員 立花正治

- 7 本書作成にあたり、西浦橋遺跡、太平寺遺跡の樹種鑑定を嶋倉己三郎先生、万崎池遺跡土壌
基のリン分析を安田博幸先生にお願ひし、玉稿をえたことに深く感謝の意を表します。又石津
川流域の地形分類図の提供を快く承諾していただいた立命館大学前業和子氏に対しても心から
感謝の意を表します。

- 8 本書作成の段階で次の方々、機関の御指導、御教示を得たことに対し深く感謝いたします。
大阪府教育委員会、堺市教育委員会の多くの技師の皆様、佐賀県立九州陶磁文化館 大橋康二、
八尾市刑部小学校 奥田尚、京都大学 泉拓良、同 家根祥多、若狭歴史民俗資料館 網谷克彦
- 9 花粉分析については、パリノサーヴェイ株式会社、木器の保存処理については財団法人元興寺文化財研究所に委託した。
- 10 本調査では、大阪大学、大阪外国語大学、大阪教育大学、大阪キリスト教短期大学、大阪経済大学、大阪芸術大学、大阪女子大学、大阪市立大学、大阪樟蔭女子大学、大阪府立大学、大阪薬科大学、大谷女子大学、関西大学、関西外国語大学、関西外国語短期大学、関西学院大学、京都大学、京都産業大学、近畿大学、金蘭短期大学、神戸市外国語大学、神戸女学院大学、摂女子短期大学、帝塚山学院大学、同志社大学、奈良女子大学、羽衣学園短期大学、ブール学院短期大学、武庫川女子大学、桃山学院大学、立命館大学等の学生諸氏の参加、協力を得た。
- 11 本調査にあたっては、写真、実測図などの記録を作成するとともに、カラースライドも作成した。広く利用されることを希望する。
- 12 執筆分担は次の通りである。
- I、II：石神 怡、III 第1章第1節～第3節：橋本高明、第4節1、2、3：芝野圭之助、3 石器：石神 怡、第5節：芝野圭之助、第2章：芝野圭之助、IV 第1章：久米雅雄、第2章第1節～第4節1、2、3、4、5：佐久間貴士、2 土器：村上富喜子、第5節、第6節：佐久間貴士、V 第1章：橋本高明、第2章：中井貞夫、第3章第1節～第4節1、2：福田英人、3：石神 怡、第5節：福田英人、第4章第1節～第3節：芝野圭之助、第4節1：石神 怡、2、3、4、5、6、7、8：芝野圭之助、7 五輪塔：小島容子、第5節：芝野圭之助、VI 第1章第1節～第4節：赤木克視、第5節：村上富喜子、第6節：赤木克視、VII 石神 怡、VIII・1：安田博幸・奥野礼子、2：嶋倉巳三郎

凡 例

1. 本書の遺構実測図の方位Nは、国土座標による座標北をさす。
2. レベルはすべてT.P.（東京湾平均海面）を用い、+の標示は省いた。
3. 地区割は20mメッシュを1単位とし、最小地点は5mメッシュにより示している。
4. 調査地は各遺跡を以下の調査区に分けた。西浦橋遺跡第Ⅰ（府道松原東大津線関連遺跡発掘調査報告書Ⅰ）・第Ⅱ調査区、菱木下遺跡第Ⅰ～第Ⅲ調査区、万崎池遺跡第Ⅰ～第Ⅳ調査区、太平寺遺跡第Ⅰ・第Ⅱ調査区である。
5. 本書の記述は西から東へ、西浦橋遺跡、菱木下遺跡、万崎池遺跡、太平寺遺跡の順に行なった。挿図および表の番号は各遺跡毎に1からつけた。図版番号は全遺跡とおして1からつけた。
6. 遺構はアルファベットと数字の組合せで表記した。
 アルファベットは、SBK…堅穴住居址、SBP…掘立柱建物、SBF…溝、SDA…溝（人工）、SDN…河川（自然）、SE…井戸、SF…耕作遺構、SKA…土城（土器溜、埋舎含む）、SKN…落ち込み（自然）、SP…池、源、SR…道路、STK…土城基、STP…土器棺、STS…方形周溝墓、SX…その他
 数字は各遺跡の調査区毎に西から東へ1から順にふっている。
7. 遺構実測図の縮尺は $1/400$ 、 $1/40$ 、 $1/40$ 、 $1/40$ 、 $1/400$ を基本としたが、遺構の大きさにより縮尺を変えたものもある。
8. 遺構断面図には、地山を示すのにレンガのスクリーントーンを用いた。
9. 遺物実測図の縮尺は原則として $1/4$ としたが、大型品は $1/6$ 、石器は打製 $1/6$ 、磨製 $1/6$ 、瓦類および拓本 $1/6$ 、木器は小物 $1/6$ 、一般 $1/4$ 、大物 $1/6$ 等、遺物の大きさにより縮尺を変えた。
10. 遺物実測図の断面は、白ぬき…縄文式土器・弥生式土器・土師器・陶器・磁器・石器、黒塗…須恵器、粗いドット…黒色土器、細かいドット…瓦器、斜線…瓦である。なお、木製品は木取りを知るため、年輪の明確なものについて一部年輪を描き込んだ。
11. 土器実測図の線の使い方は次の図に示した通りである。





府道松原泉大津線関連遺跡発掘調査報告書Ⅰ

西浦橋遺跡・菱木下遺跡・万崎池遺跡・太平寺遺跡

目 次

序文	
例言	
凡例	
Ⅰ 調査にいたる経過と調査経過	3
Ⅱ 考古学的・地理的環境と調査の課題	5
第1章 各遺跡の地理的立地	5
第2章 石津川流域の遺跡群とその立地条件	6
第1節 旧石器時代・縄文時代	6
第2節 弥生時代	10
第3節 古墳時代	12
Ⅲ 西浦橋遺跡	25
第1章 第Ⅱ調査区	27
第1節 はじめに	27
第2節 微地形と層序	28
1 微地形	28
2 層序	28
第3節 遺構	29
1 第Ⅱ調査区の遺構	29
第4節 遺物	50
1 概観	50
2 名時代の遺物	51
3 小結	109
第5節 まとめ	113
付 遺物観察表	119
第2章 付論	139
1 板橋壺形土器をめぐる諸問題	139
2 小字名図について	144
Ⅳ 菱木下遺跡	147
第1章 第Ⅰ調査区	149
第1節 はじめに	149

第2節	微地形と層序	149
第3節	遺構	153
1	縄文時代以前の遺構	153
2	弥生時代の遺構	153
3	古墳時代及びそれ以後の遺構	178
第4節	遺物	197
1	トレンチ及び包含層内出土遺物	197
2	弥生時代の出土遺物	198
3	古墳時代及びそれ以後の出土遺物	215
第5節	まとめ	225
付	遺物観察表	231
第2章	第Ⅰ・第Ⅱ調査区	239
第1節	はじめに	239
1	調査範囲と期間	239
2	遺構と遺物	240
3	調査区の地区割と名称	240
第2節	微地形と層序	240
1	微地形	240
2	層序	243
3	遺構面	244
第3節	遺構	245
1	縄文時代	245
2	弥生時代	245
3	古墳時代から奈良時代	261
4	平安時代後期から室町時代	301
5	室町時代後葉から安土桃山時代—16世紀	337
6	江戸時代	344
7	近代から現代	347
第4節	遺物	351
1	縄文時代の遺物	351
2	弥生時代の遺物	352
3	古墳時代から奈良時代の遺物	374
4	平安時代後期から室町時代の遺物	389
5	近世から近代の遺物	459
第5節	花粉分析からみた植生の歴史	464
1	地山	464
2	弥生時代から古墳時代	465
3	平安時代	465
4	鎌倉時代から室町時代(13~15世紀)	465
5	室町時代後葉から安土桃山時代(16世紀)	468
6	江戸時代	468
7	現代	468
第6節	菱木氏と菱木下遺跡	469
付	遺物観察表	471
Ⅴ	万崎池遺跡	487
第1章	第Ⅰ調査区	489
第1節	はじめに	489

第2節	微地形と層序	489
第3節	遺構	490
第4節	遺物	493
第5節	まとめ	496
付	遺物観察表	498
第2章	第Ⅱ調査区	500
第1節	はじめに	500
第2節	微地形と層序	500
第3節	遺構	500
第4節	遺物	504
付	遺物観察表	508
第3章	第Ⅲ・第Ⅳ調査区	510
第1節	はじめに	510
第2節	微地形と層序	510
1	微地形	510
2	層序	510
第3節	遺構	511
1	第Ⅲ調査区	511
2	第Ⅳ調査区	513
第4節	遺物	543
1	第Ⅲ調査区	543
3	第Ⅲ・第Ⅳ調査区の石器	555
2	第Ⅳ調査区	545
第5節	まとめ	556
付	遺物観察表	585
第4章	第Ⅴ調査区	597
第1節	はじめに	597
第2節	微地形と層序	597
第3節	遺構	598
第4節	遺物	626
1	旧石器・縄文・弥生時代の石器	626
5	平安時代	634
2	弥生時代	626
6	鎌倉・室町時代	634
3	古墳時代	629
7	江戸時代	634
4	奈良時代	629
8	小結	636
第5節	まとめ	637
付	遺物観察表	641
Ⅱ	太平寺遺跡	645

第1章 第I・第II調査区	647
第1節 はじめに	647
第2節 微地形と層序	651
1 微地形	651
2 層序	653
第3節 第I調査区の遺構	659
第4節 第II調査区の遺構	660
1 調査の方法	660
2 沖積段丘面の遺構	661
3 氾濫原の遺構	683
第5節 第III調査区の遺物	694
1 はじめに	694
2 各時代の遺物	694
第6節 まとめ	763
付 遺物観察表	765
Ⅴ まとめ—周辺遺跡との関連において—	777
1 はじめに	779
2 各期の概論	779
3 まとめ	811
4 あとがき	812
Ⅵ 付載 自然科学的分析の成果	819
1 堺市万崎池遺跡S TK 118土壌(基?)内土壌のリン分析	821
2 太平寺遺跡・西浦橋遺跡の木材の樹種	824

挿 図 目 次

I 調査にいたる経過と調査経過

第1図 調査遺跡位置と地区制図……………4

II 考古学的・地理的環境と調査の課題

第1図 周辺遺跡分布図……………8

第2図 地形分類と遺跡分布……………9

III 西浦橋遺跡

第II調査区

第1図 調査区位置図……………27

第2図 基本土層図……………30

第3図 STS1、SKA1平面図・断面図……………33

第4図 SBK1平面図・断面図……………34

第5図 SBK2～4平面図・断面図……………35

第6図 SBK5～8平面図・断面図……………36

第7図 SBK5、SBP1平面図・断面図……………37

第8図 竪穴住居址群平面図・断面図……………39、40

第9図 SBK9・10平面図・断面図……………41

第10図 SDA2断面図……………42

第11図 SBP4・5平面図・断面図……………43

第12図 SX4平面図・断面図……………44

第13図 近世土壌群平面図……………45、46

第14図 SKA24平面図・断面図……………48

第15図 SKA23・25、SE1平面図・断面図……………49

第16図 旧石器～弥生時代の石器……………53

第17図 旧石器……………54

第18図 縄文・弥生式土器……………55

第19図 磨製石器……………56

第20図 SDN2出土弥生式土器……………58

第21図 SDA2出土弥生式土器……………59

第22図 SDN1出土土器・その他……………60

第23図 弥生式土器および木器……………61

第24図 木製椅子……………62

第25図 包含層出土古式須恵器他……………64

第26図 包含層出土須恵器……………65

第27図 SDN2出土須恵器……………67

第3図 百舌鳥古墳群古墳分布図……………15

第4図 瑞池表採須恵器……………21

第28図 SDN2出土須恵器……………68

第29図 SDN2出土須恵器……………69

第30図 SDN2出土須恵器……………70

第31図 SDN2出土須恵器……………71

第32図 SDA4出土土器……………72

第33図 SDA3・4、SDN9出土土器他……………73

第34図 包含層出土土器……………74

第35図 SDA2出土6世紀後半須恵器他……………75

第36図 SDA2出土6～7世紀須恵器……………76

第37図 SDN2出土6～7世紀須恵器……………77

第38図 SDA2出土須恵器裝飾付甕……………78

第39図 埴輪……………79

第40図 鞆羽口……………80

第41図 始甕・製塩土器……………81

第42図 ビット内出土遺物……………82

第43図 SDA2出土土器……………84

第44図 SDA2出土土器……………85

第45図 包含層出土須恵器……………86

第46図 SDN2上層出土8世紀須恵器……………87

第47図 包含層出土8～9世紀土器……………88

第48図 SDN2出土須恵器……………89

第49図 須恵器硯……………89

第50図 SDN2出土土器……………90

第51図 施釉陶器……………92

第52図 中世土師器・瓦器・須恵器……………93

第53図 遺構内出土中世土器……………94

第54図 中国陶磁器・瀬戸・唐津……………97

第55図	包含層出土瓦片影	100
第56図	砥石	102
第57図	包含層出土石器	102
第58図	SDA 5 出土土器	103
第59図	備前・丹波・備前・播磨	105
第60図	漢焼地烙・火舎・壺	107
第61図	日本刀・漢焼甕	108

Ⅱ 菱木下遺跡

第Ⅰ調査区

第1図	遺構平面略図	151、152
第2図	トレンチF断面図	153
第3図	SBK1平面図・断面図	154
第4図	SBK2平面図・断面図	155
第5図	SBK3・4平面図・断面図	157
第6図	SBK3・4小トレンチ断面図	158
第7図	SDA1及び隣接土城平面図・断面図	162
第8図	SKA4平面図・断面図	163
第9図	STS1平面図・断面図	165
第10図	STS1築成断面図及び主体部平面図・断面図	167
第11図	STS2・3平面図・断面図	168
第12図	STS2・3周溝切りあい断面図	169
第13図	STS4周溝東壁断面図	170
第14図	STS5平面図	171
第15図	STS5-6周溝南壁切りあい断面図	172
第16図	STS6・7周溝切りあい断面図	173
第17図	STK1・2平面図・断面図	174
第18図	STP2平面図	175
第19図	SBK5・6平面図・断面図	180
第20図	SBP4平面図・断面図	183
第21図	SBP11平面図・断面図	184
第22図	SBP19平面図・断面図	185
第23図	SDA4遺物出土状況	189
第24図	SKA10~12平面図・断面図	191
第25図	SKA13~18・20・21及びSTK20~25平面図・断面図	192
第26図	STK10~16平面図・断面図	194
第27図	SR1(古道)断面図	196
第28図	トレンチ内出土土器	199
第29図	第1・第2包含層内出土土器	200
第30図	SBK1~3内出土土器(SDA1内出土土器を含む)	201
第31図	STS1周溝内出土土器	203
第32図	STS1主体部(K ₂ 、K ₃)内出土土器	203
第33図	STS2・3・5周溝内出土土器	205
第34図	STS4周溝内出土土器	207
第35図	STS6・7周溝内出土土器	209
第36図	STS8溝内出土土器	210
第37図	STS1~5周溝内出土土器拓影図	212
第38図	STS5~8周溝内及びSBK1内出土土器拓影図	213
第39図	土城及びピット内出土土器	214
第40図	STS1周溝内上層出土土器	215
第41図	STS4周溝内上層出土土器	216
第42図	STS5・6周溝内上層出土土器	216
第43図	遺構面道上出土土器A	218
第44図	遺構面道上出土土器B	219
第45図	SBK5内出土土器	221
第46図	SBK6内出土土器	222
第47図	SKA21内出土土器	223
第48図	SDA4内出土土器	226
第49図	SBK1・3内出土土器	227
第50図	STS1・4・6、SDA3内出土	

石器	228	DA4内出土石製品	229
第51図 SBK1、STS5、SKA20、S			
第Ⅱ・第Ⅲ調査区			
第52図 第Ⅱ・第Ⅲ調査区地形図	239	第81図 STK343平面図・断面図	287
第53図 第Ⅱ・第Ⅲ調査区地区制図及び南壁土層図	241、242	第82図 STK347平面図・断面図	287
第54図 第Ⅱ・第Ⅲ調査区弥生時代遺構分布図	247、248	第83図 STK352平面図・断面図	287
第55図 SBK1平面図・土層図・断面図	252	第84図 STK356平面図・断面図	287
第56図 SKA5平面図・土層図	253	第85図 STK361平面図・断面図	288
第57図 SKA10平面図・土層図	253	第86図 STK366平面図・断面図	288
第58図 SKA11・21・28平面図・土層図・断面図	255	第87図 STK369平面図・土層図	288
第59図 SKA27平面図・土層図・断面図	256	第88図 第Ⅱ調査区中世遺構分布図	302
第60図 SDA9土層図	258	第89図 第Ⅲ調査区中世遺構分布図	303
第61図 ビット101平面図・土層図	258	第90図 丸瓦分布図	305
第62図 弥生時代遺構石器・刺片分布図	260	第91図 平瓦分布図	305
第63図 古墳時代以降の地質土中の石器・刺片分布図	260	第92図 IIIW区高台段跡平面図・土層図	309、310
第64図 第Ⅱ・第Ⅲ調査区古墳時代遺構分布図	262	第93図 IIIW区高台段跡実測図	311
第65図 SKA32平面図・断面図	264	第94図 第Ⅱ調査区SBP平面図	316
第66図 土墳墓切り合い図	269	第95図 IIIE区SBP平面図	317
第67図 副葬品・被覆物を伴う土墳墓	276	第96図 IIE区SDA22・24・25土層図	319
第68図 土墳墓遺物の接合関係図	277、278	第97図 IIIW区SDA31・33・35土層図	320
第69図 STK3平面図・土層図	281	第98図 IIIW区SDA27土層図	321
第70図 STK25平面図・断面図	281	第99図 IIIE区SDA37~41土層図	321
第71図 STK73平面図・土層図	281	第100図 SE1平面図・土層図	323
第72図 STK83平面図・土層図	281	第101図 SE2平面図・土層図	324
第73図 STK107・108・109平面図・断面図	282	第102図 SE3平面図・土層図	324
第74図 STK111平面図・土層図	284	第103図 SE4平面図・土層図	325
第75図 STK160平面図・土層図	284	第104図 SE5平面図・土層図	326
第76図 STK181平面図・土層図	284	第105図 SE6平面図・断面図	327
第77図 STK259平面図・土層図	284	第106図 SE7平面図・土層図	328
第78図 STK265・269平面図・土層図	285	第107図 SE10-13平面図・断面図	329、330
第79図 STK321・326平面図・断面図	286	第108図 SE14平面図・断面図	331
第80図 STK340平面図・断面図	287	第109図 SE16平面図・土層図	331
		第110図 SE17平面図・土層図	332
		第111図 STK381平面図・土層図	337
		第112図 SKA43平面図・断面図	338
		第113図 SKA47平面図・土層図	339
		第114図 SKA59平面図・断面図	340
		第115図 SKA61平面図・断面図	340

第116図	ⅢW区高台SKA72土層図……………	340	第144図	第Ⅱ調査区土墳墓出土須恵器……………	381
第117図	ⅢE区中世後葉(16世紀)遺構分布 図……………	341	第145図	第Ⅱ調査区土墳墓等出土須恵器……………	382
第118図	ⅢE区近世遺構分布図……………	341	第146図	第Ⅱ調査区土墳墓出土須恵器・土師 器……………	383
第119図	ⅢE区SKN8平面図……………	341	第147図	第Ⅱ調査区土墳墓出土須恵器……………	384
第120図	SE18平面図・土層図……………	342	第148図	第Ⅱ調査区土墳墓出土須恵器……………	385
第121図	SP1土層図……………	343	第149図	陶棺分布図……………	386
第122図	第Ⅲ調査区水路及び道路の交通・南 壁土層図……………	345	第150図	陶棺……………	387
第123図	第Ⅱ・第Ⅲ調査区近世・近代井戸分 布図……………	348	第151図	陶棺……………	388
第124図	第Ⅲ調査区近代遺構分布図……………	349	第152図	金釧・紡錘車・土甕……………	389
第125図	SE42平面図・断面図……………	351	第153図	建物・硯群関係出土遺物……………	392
第126図	縄文時代石炭……………	352	第154図	SE1出土遺物……………	393
第127図	第Ⅲ調査区SKA27、SDA9出土 弥生式土器拓影図……………	352	第155図	SE1出土遺物……………	394
第128図	第Ⅱ・第Ⅲ調査区出土弥生式土器・ 土製円板……………	356	第156図	SE1・2出土遺物……………	395
第129図	第Ⅱ調査区出土弥生式土器……………	359	第157図	SE3出土遺物……………	397
第130図	第Ⅲ調査区出土弥生式土器……………	360	第158図	SE4・5出土遺物……………	398
第131図	第Ⅲ調査区SKA26・27出土弥生式 土器……………	361	第159図	SE5出土遺物……………	399
第132図	第Ⅲ調査区SBK1、SDA9出土 弥生式土器……………	362	第160図	SE6・7・8出土遺物……………	400
第133図	第Ⅲ調査区SDA9出土弥生式土器 ……………	363	第161図	SE10出土遺物……………	401
第134図	第Ⅲ調査区SDA9出土弥生式土器 ……………	364	第162図	SE9・11・12出土遺物……………	402
第135図	弥生時代石器……………	368	第163図	SE13出土遺物……………	403
第136図	弥生時代石器……………	369	第164図	SE14・15出土遺物……………	404
第137図	弥生時代石器……………	370	第165図	SE16出土瓦質井戸弁……………	405
第138図	弥生時代石器……………	371	第166図	SE16・17出土遺物……………	406
第139図	弥生時代石器……………	372	第167図	SE17出土遺物……………	407
第140図	弥生時代石器……………	373	第168図	SDA21・25・28出土遺物……………	408
第141図	SKA32出土須恵器……………	375	第169図	SDA29・30出土遺物……………	409
第142図	溝・大窪ち込み等出土須恵器……………	376	第170図	SDA30出土遺物……………	410
第143図	第Ⅱ・第Ⅲ調査区土墳墓出土須恵器 ……………	378	第171図	SDA31出土遺物……………	411
			第172図	SDA31~34出土遺物……………	412
			第173図	SDA37・38出土遺物……………	413
			第174図	第Ⅱ調査区溝・土坑出土遺物……………	414
			第175図	SKA72出土瓦質甕……………	415
			第176図	第Ⅱ・第Ⅲ調査区土墳墓・土坑・大 窪ち込み出土遺物……………	416
			第177図	中世陶器……………	421
			第178図	中世陶器……………	422
			第179図	滑滑・妻の厨部文様……………	423

第180图	瀬戸	425	第196图	鉄滓分布图	446
第181图	中国陶磁器	426	第197图	货銭・朝羽口・土鍾・柱状土製品	447
第182图	中国陶磁器	427	第198图	滑石製石刷	448
第183图	軒丸瓦	429	第199图	中世石製品	450
第184图	軒丸瓦	432	第200图	中世木製品	451
第185图	軒平瓦	434	第201图	SE6井戸神材	452
第186图	丸瓦	436	第202图	SE13井戸神材	453
第187图	平瓦	437	第203图	中国陶磁器分布图	458
第188图	鬼瓦	439	第204图	日本陶器わり鉢・すり鉢分布图	458
第189图	ヘラ指き瓦・墨書土器	440	第205图	日本陶器製分布图	458
第190图	埴分布图	441	第206图	近世陶磁器	460
第191图	板状土製品分布图	442	第207图	近世土器	461
第192图	板状土製品	443	第208图	近世土製品・货銭	462
第193图	五輪塔	443	第209图	近世木製品	463
第194图	鉄製品分布图	445	第210图	SE43井戸神瓦	464
第195图	中世金属製品	445	第211图	花粉分析試料採集地点	465

Ⅶ 万崎池遺跡

第Ⅰ調査区

第1图	調査区位置图	489	第4图	SKA2・3・4・5	494
第2图	黒色土器出土状態	490	第5图	黒色土器	495
第3图	現状及び土層图	491、492	第6图	遺物	497

第Ⅱ調査区

第7图	STK45平面图	500	第10图	中世土器	507
第8图	南壁断面图	501	第11图	瓦・磁石	507
第9图	弥生・古墳・奈良時代土器	506			

第Ⅲ・第Ⅳ調査区

第12图	西側谷埴推定位置图	512	第19图	SBK3土埴土器出土状態	521
第13图	西側谷埴土器断面图	513	第20图	SBP14平面图・断面图	522
第14图	谷標準土層图	513	第21图	SX1平面图・断面图	523
第15图	周辺開析谷・古墳時代・弥生時代遺跡位置图	514	第22图	SKA2土器出土状態	524
第16图	SBK1・3・4・5・6平面图・断面图	517、518	第23图	SKA4平面图・断面图	524
第17图	SBK2・11・12・13平面图・断面图	519、520	第24图	土埴墓群	525
第18图	SBK7・8・9・10平面图・断面图	521	第25图	土埴蓋須惠器出土状態	535
			第26图	SDA4出土須惠器壺	540
			第27图	SBP17平面图・断面图	541
			第28图	SBP17柱穴内黒色土器出土状態	541
			第29图	SBP18平面图・断面图	542

第30図	STK 201・208 平面図・断面図	543
第31図	SKA 6 土師皿出土状態	545
第32図	SKA 7・8 平面図・断面図	545
第33図	谷出土弥生式土器	546
第34図	P24出土縄文土器	548
第35図	SX 1 出土管玉	548
第36図	SBK 13出土土器	549
第37図	西側段丘面出土弥生式土器	559
第38図	西側谷青灰色粘土・青灰色砂層出土 弥生式土器	560
第39図	西側谷暗黒色粘土層出土弥生式土器	561
第40図	東側谷青灰色粘土層出土弥生式土器	562
第41図	東側谷暗黒色粘土層出土弥生式土器	563
第42図	東側谷暗黒色粘土層出土弥生式土器	564
第43図	東側谷暗黒色粘土層出土弥生式土器	565

第Ⅴ調査区

第63図	調査区西端南北断面図	597
第64図	SBK 1・2 平面図・断面図	599
第65図	弥生時代ピット及び土坑平面図・断面図	600
第66図	土坑群上層遺構平面図	601
第67図	土坑群平面図及び遺構番号	602
第68図	土坑群時期別変遷図	609
第69図	土坑平面図・断面図	611
第70図	SBP 1 平面図・断面図	616
第71図	SBP 2 平面図・断面図	618
第72図	SBP 3 平面図・断面図	619
第73図	SBF 1、ピット群5 平面図・断面	

Ⅵ 太平寺遺跡

第Ⅰ調査区

第1図	太平寺遺跡の位置	647
第2図	太平寺遺跡周辺地形	648
第3図	調査区及び地区制	649

第44図	谷青灰色粘土層出土弥生式土器	566
第45図	東側谷暗黒色粘土層出土土器	567
第46図	東側谷暗黒色粘土層出土土器	568
第47図	東側谷暗黒色粘土層出土土器	569
第48図	東側谷青灰色粘土層出土遺物	570
第49図	東側谷暗黒色粘土層出土須恵器	571
第50図	東側谷出土江戸時代土器	572
第51図	東側谷出土江戸時代土器	573
第52図	東側谷出土江戸時代土器	574
第53図	谷出土土器	575
第54図	SBK 1・2・3・4 出土土器	576
第55図	SBK 5・6・12 出土土器	577
第56図	SKA 2・4、SX 1 出土土器	578
第57図	P24 出土土器	579
第58図	土坑墓出土須恵器	580
第59図	土坑墓出土須恵器	581
第60図	SKA 5・6、SDA 5、他出土遺物	582
第61図	石器	583
第62図	石器	584

第63図	調査区西端南北断面図	620
第74図	SP 1～7 遺構平面図・断面図	622
第75図	SE 3 平面図・断面図	624
第76図	石器	627
第77図	弥生式土器・土師器・黒色土器	628
第78図	土坑群他出土須恵器	630
第79図	土坑群出土須恵器	631
第80図	土坑群周辺出土須恵器	632
第81図	M14区南壁下層出土遺物他	633
第82図	中・近世遺物	635
第83図	SP 2 出土土款	636

第4図	太平寺遺跡周辺旧地形	651
第5図	周辺の余里地割及び坪付	652
第6図	第Ⅱ調査区土層及び遺構面概略図	653

第 7 図	ボーリング柱状図……………	654	第 34 図	須恵器へつ記号拓影図……………	736
第 8 図	氾濫原土層柱状図……………	655	第 35 図	須恵器叩き目・へつの痕跡等拓影図……………	736
第 9 図	氾濫原最終防掘 C トレンチ土層断面図……………	655	第 36 図	SBK1・2、SKN6、SDN2 I期、茶黒色粘質土層、灰茶色粘質土層出土土器……………	737
第 10 図	F5北壁断面図……………	656	第 37 図	SKN7出土土器……………	738
第 11 図	沖積段丘土層柱状図……………	657	第 38 図	茶黒色粘質土層出土須恵器……………	739
第 12 図	第II調査区調査方法……………	660	第 39 図	茶黒色粘質土層出土須恵器……………	740
第 13 図	最終防掘 B トレンチ断面図……………	661	第 40 図	茶黒色粘質土層出土須恵器……………	741
第 14 図	縄文時代遺構平面図……………	662	第 41 図	茶黒色粘質土層出土須恵器……………	742
第 15 図	E5-c・d北壁断面図……………	663	第 42 図	茶黒色粘質土層出土須恵器……………	743
第 16 図	弥生時代～古墳時代前半遺構平面図……………	665、666	第 43 図	茶黒色粘質土層出土土器……………	744
第 17 図	古墳時代中期遺構平面図……………	669、670	第 44 図	茶黒色粘質土層出土土器……………	745
第 18 図	SBK1・2実測図……………	671	第 45 図	SDN2 II期出土須恵器……………	746
第 19 図	SDN2土層断面図……………	674	第 46 図	SDN2 II期出土須恵器……………	747
第 20 図	SBP1実測図……………	677	第 47 図	SDN2 III期出土須恵器……………	748
第 21 図	平安時代以降遺構平面図……………	679、680	第 48 図	SDN2 III期出土須恵器……………	749
第 22 図	SBP2実測図……………	681	第 49 図	SDN2 II・III期出土須恵器……………	750
第 23 図	F6・G6北壁断面図……………	684	第 50 図	SDN2 III期出土須恵器……………	751
第 24 図	SKA8実測図……………	685	第 51 図	SDN2 III期出土須恵器……………	752
第 25 図	江戸時代遺構平面図……………	687、688	第 52 図	SDN2 III期出土須恵器……………	753
第 26 図	粘土掘削跡実測図……………	689、690	第 53 図	SDN2 III期出土土器……………	754
第 27 図	縄文式土器拓影図……………	694	第 54 図	室町時代洪水跡出土土器……………	755
第 28 図	石器……………	697	第 55 図	室町時代洪水跡出土遺物……………	756
第 29 図	SBP1・2、床土出土土器……………	726	第 56 図	江戸時代洪水跡出土土器……………	757
第 30 図	氾濫原出土瓦拓影図……………	727	第 57 図	蛇行州及び後背沼地堆積層出土遺物……………	758
第 31 図	古墳時代遺構及び遺構上面包含層 (茶黒色粘質土層)の地点別遺物出土状況……………	733	第 58 図	江戸時代水田跡・シルト堆積層出土遺物……………	759
第 32 図	古墳時代包含層下層(黒色粘質土層)の地点別遺物出土状況……………	734	第 59 図	SDN3、SKA4・5出土土器……………	760
第 33 図	古墳時代の地点別鉄押・磁石・鑄羽口出土状況……………	735	第 60 図	鑄羽口・鉄押……………	761
			第 61 図	磁石……………	762

Ⅱ まとめ

第 1 図	TK103 (上段) ON222 (下段) 出土蓋杯……………	793	第 4 図	和気遺跡第35工区遺構図……………	806
第 2 図	万町北遺跡10世紀建物群遺構図……………	804	第 5 図	出羽国東置賜郡土産屋敷……………	807
第 3 図	西ノ辻遺跡中世期遺構図……………	805	第 6 図	福田片岡遺跡中央地区遺構図……………	807

表 目 次

I 考古学的・地理的環境と調査の課題

第1表 百舌鳥古墳群墳形・規模一覧表……………18

第2表 石津川流域遺跡群地形立地存続時期
(地形分類は前葉和子氏による) ……22

II 西浦橋遺跡

第I調査区

第1表 遺構集計表……………31
 第2表 竪穴式住居址一覧表……………34
 第3表 独立柱建物一覧表……………43
 第4表 土墳・埋甕一覧表……………47
 第5表 石器数量表……………51
 第6表 縄文式土器出土地点別数量表……………52
 第7表 弥生式土器包含層内出土地点別数量表…58
 第8表 S D N 2 出土弥生式土器数量表……………58
 第9表 方形四溝墓出土遺物数量表……………58
 第10表 須恵器甕休部外面格子叩き目出土地点別
 数量表……………63
 第11表 埴輪出土地点別数量表……………79
 第12表 製瓦土器出土地点別数量表……………79
 第13表 礪羽口出土地点別数量表……………79
 第14表 繪壺出土地点別数量表……………80
 第15表 製瓦土器出土地点別数量表……………91
 第16表 施釉陶器出土地点別数量表……………91
 第17表 黒色土器出土地点別数量表……………92
 第18表 東播磨系円錐形式別・出土地点別数量表
 ………………92

第19表 青磁碗出土地点別数量表……………95
 第20表 白磁出土地点別数量表……………95
 第21表 中国染付出土地点別数量表……………96
 第22表 常滑焼出土地点別数量表……………96
 第23表 平瓦・丸瓦出土地点・層位別数量表…98
 第24表 平瓦型式別数量表……………98
 第25表 平瓦型式別・出土地点・層位別数量表
 ………………99
 第26表 丸瓦型式別数量表……………99
 第27表 丸瓦型式別・出土地点・層位別数量表
 ………………101
 第28表 竪壁片出土地点別数量表……………101
 第29表 磁石出土地点別数量表……………101
 第30表 近世陶器出土地点別数量表……………104
 第31表 淡焼出土地点別数量表……………106
 第32表 5世紀後半から6世紀初頭における遺
 跡別出土遺物組成表……………110
 第33表 遺構別器種組成数量表……………111
 第34表 S D N 2 出土土器時期別組成一覧表…112
 第35表 繪壺形土器出土地名表(1)~(3)……140~142

III 葦木下遺跡

第I調査区

第1表 弥生時代の竪穴住居址……………160
 第2表 焼土・炭化物共存土墳……………163
 第3表 1号四溝墓の主体部基壇……………166
 第4表 3号四溝墓の主体部基壇……………169
 第5表 5号四溝墓の主体部基壇……………170
 第6表 6号四溝墓の主体部基壇……………172
 第7表 方形四溝墓一覧表……………173

第8表 四溝墓外土壇基一覧表……………175
 第9表 竪穴住居址内土壇一覧……………179
 第10表 竪穴住居址内出土土器比較表……………181
 第11表 独立柱建物一覧表……………182
 第12表 土墳一覧表……………190
 第13表 土壇基一覧表……………195

第Ⅱ・第Ⅲ調査区

第14表 弥生時代溝(SD)一覽表……………	249	第33表 第Ⅲ様式遺構別器種別數量表……………	355
第15表 弥生時代土墳(SKA)一覽表……………	250	第34表 SDA9出土遺物數量表……………	358
第16表 古墳時代土墳(SKA)一覽表……………	265	第35表 弥生式土器の器種組成及び胎土組成の比率……………	358
第17表 古墳時代大落ち込み(SKN)一覽表……………	266	第36表 弥生時代石器數量表……………	365
第18表 古墳時代溝(SD)一覽表……………	266	第37表 縄文・弥生時代石器一覽表(1)・(2)……………	366、367
第19表 土墳墓の形態・規模別分類表……………	272	第38表 陶棺出土遺構一覽表……………	386
第20表 土墳墓の形態別數量表……………	272	第39表 葦木下遺跡主要器種の時期別推移……………	390
第21表 土墳墓の形態別數量図……………	273	第40表 軒丸瓦一覽表……………	430
第22表 土墳墓遺物接合表(1)・(2)……………	279、280	第41表 軒平瓦一覽表……………	435
第23表 古墳時代～奈良時代土墳墓一覽表(1)～(4)……………	289～300	第42表 丸瓦・平瓦一覽表……………	438
第24表 第Ⅱ・第Ⅲ調査区出土瓦數量表……………	304	第43表 鬼瓦一覽表……………	439
第25表 中世遺構の区画と変遷表……………	307	第44表 埴の厚さ別數量図……………	442
第26表 中世獨立柱建物(SBP)・櫓(SF)一覽表……………	315	第45表 金属器出土の遺構・包含層一覽表……………	444
第27表 中世溝(SDA)遺構一覽表……………	318	第46表 金属器一覽表……………	444
第28表 中世井戸(SE)一覽表……………	322	第47表 鉄滓出土の遺構・包含層一覽表……………	446
第29表 中世土墳墓(STK)、土墳(SKA)、大落ち込み(SKN)一覽表(1)～(4)……………	333～336	第48表 滑石製品一覽表……………	448
第30表 近世井戸(SE)一覽表……………	346	第49表 中世磁石一覽表……………	449
第31表 幕末～近・現代井戸(SE)一覽表……………	350	第50表 主要遺構器種別出土量(1)・(2)……………	456、457
第32表 第Ⅱ様式遺構別器種別數量表……………	353	第51表 地区別陶磁器出土量……………	457
		第52表 主要遺構時期別出土量……………	457
		第53表 近世土製品一覽表……………	461
		第54表 SE43の井戸神瓦一覽表……………	464
		第55表 葦木下遺跡花粉分析結果(1)・(2)……………	466、467

Ⅴ 万崎池遺跡

第Ⅱ調査区

第1表 土墳一覽表(1)・(2)……………	502、503
-----------------------	---------

第Ⅲ・第Ⅳ調査区

第2表 堅穴住居址一覽表……………	515	第4表 中世土墳墓一覽表……………	544
第3表 土墳墓群一覽表(1)～(9)……………	526～534	第5表 遺構別主要器種出土量……………	551

第Ⅴ調査区

第6表 SBK1ピット測量表……………	600	第9表 万崎池遺跡第Ⅴ調査区土墳群測量一覽表……………	610
第7表 土墳一覽表(1)～(6)……………	603～608	第10表 土墳墓長軸及び底面標高の關係……………	614
第8表 万崎池遺跡第Ⅴ調査区土墳群測量(長軸)一覽表……………	610	第11表 平安時代獨立柱建物ピット一覽表……………	617

Ⅵ 太平寺遺跡

第Ⅱ調査区

第1表 縄文時代土壌一覧表……………	662	第8表 環蓋内天井面の仕上げナデ……………	718
第2表 弥生時代～古墳時代前半落込み一覧表 ……………	664	第9表 須恵器甕胴部叩き……………	719
第3表 古墳時代の遺物組成とその割合……………	698	第10表 沖積段丘面鞠羽口数量表……………	721
第4表 環及び高環環部の体部高・口径よりみ た法量の分布状況……………	699	第11表 遺構・地点・層位別磁石一覧表……………	722
第5表 高環脚部と環部の組み合わせ……………	703	第12表 遺構・層位別鉄滓重量表……………	723
第6表 環・直口壺の法量と平均値……………	704	第13表 沖積段丘面出土遺物数量表……………	731
第7表 環内底面仕上げナデ……………	718	第14表 古墳時代遺構・上面包含層出土遺物の 組成とその割合……………	732
Ⅲ まとめ			
第1表 和泉地域縄文時代遺跡存続期……………	782	第3表 和泉地域古代中世寺院創建時期……………	809
第2表 遺跡出土土器数量・比率……………	790		

付 図 目 次

Ⅰ 西浦橋遺跡

付図1 西浦橋遺跡第Ⅱ調査区遺構平面図

付図2 西浦橋遺跡第Ⅱ調査区シガラミ

Ⅱ 菱木下遺跡

付図3 菱木下遺跡第Ⅱ調査区遺構平面図

付図6 菱木下遺跡第Ⅱ調査区中世遺構平面図

付図4 菱木下遺跡第Ⅲ調査区遺構平面図

付図7 菱木下遺跡第Ⅲ調査区中世遺構平面図

付図5 菱木下遺跡第Ⅱ・第Ⅲ調査区土壌基平面図

Ⅲ 万崎池遺跡

付図8 万崎池遺跡第Ⅰ調査区遺構平面図

付図11 万崎池遺跡第Ⅳ調査区(西半)遺構平面図

付図9 万崎池遺跡第Ⅱ調査区遺構平面図

付図12 万崎池遺跡第Ⅳ調査区(東半)遺構平面図

付図10 万崎池遺跡第Ⅲ調査区(西半)遺構平面図

付図13 万崎池遺跡第Ⅴ調査区遺構平面図

Ⅳ 太平寺遺跡

付図14 太平寺遺跡第Ⅱ調査区土層縦断面図

付 載 挿 図 目 次

図1 万崎池遺跡土壌S T K 118 試料土壌採取

位置概略図…………… 821

付 載 表 目 次

表1 試料土壌中のリン含量 (PPm) …… 823

表3 西浦橋遺跡出土材樹種一覽表…………… 824

表2 太平寺遺跡出土材樹種一覽表…………… 824

付 載 写 真 図 版 目 次

Plate 1 西浦橋遺跡杭列材…………… 825

Plate 4 太平寺遺跡出土材…………… 828

Plate 2 西浦橋遺跡杭列材…………… 826

Plate 5 太平寺遺跡出土材…………… 829

Plate 3 太平寺遺跡出土材…………… 827

I 調査にいたる経過と調査経過

II 考古学的・地理的環境と調査の課題

1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. 16. 17. 18. 19. 20. 21. 22. 23. 24. 25. 26. 27. 28. 29. 30. 31. 32. 33. 34. 35. 36. 37. 38. 39. 40. 41. 42. 43. 44. 45. 46. 47. 48. 49. 50. 51. 52. 53. 54. 55. 56. 57. 58. 59. 60. 61. 62. 63. 64. 65. 66. 67. 68. 69. 70. 71. 72. 73. 74. 75. 76. 77. 78. 79. 80. 81. 82. 83. 84. 85. 86. 87. 88. 89. 90. 91. 92. 93. 94. 95. 96. 97. 98. 99. 100.

101. 102. 103. 104. 105. 106. 107. 108. 109. 110. 111. 112. 113. 114. 115. 116. 117. 118. 119. 120. 121. 122. 123. 124. 125. 126. 127. 128. 129. 130. 131. 132. 133. 134. 135. 136. 137. 138. 139. 140. 141. 142. 143. 144. 145. 146. 147. 148. 149. 150. 151. 152. 153. 154. 155. 156. 157. 158. 159. 160. 161. 162. 163. 164. 165. 166. 167. 168. 169. 170. 171. 172. 173. 174. 175. 176. 177. 178. 179. 180. 181. 182. 183. 184. 185. 186. 187. 188. 189. 190. 191. 192. 193. 194. 195. 196. 197. 198. 199. 200.

I 調査にいたる経過と調査経過

今回の調査は、都市計画道路府道松原～東大津線建設に伴う事前調査である。この道路は美原町丹上を基点とし、東大津市助松町迄の全長15.7kmの主要幹線道路である。基点から堺市小阪までは近畿自動車道と歌山線との併設区間であり、堺市小阪から終点までが松原～東大津線の単独区間となる。昭和40年7月都市計画決定され、昭和46年3月事業認可がなされた。

このような道路計画の進展の中で、大阪府教育委員会が大阪府土木部と埋蔵文化財の取扱いについて協議を行ない、とりあえず路線内の分布調査と同知遺跡の範囲確認の調査を実施することとなった。そして、昭和50年2月10日付で大阪府より当センターに、府道堺かつらぎ線から府道大阪臨海線間の分布試掘調査の依頼があり、同年2月から3月にかけて調査を実施した。その結果、東より堺市所在太平寺遺跡、万崎池遺跡、菱木下遺跡、西浦橋遺跡、鶴田池東遺跡の5ヶ所の新規の遺跡が発見され、和泉市観音寺遺跡と大園遺跡の範囲確認がなされた。それは『都市計画道路松原～東大津線建設予定地内遺跡試掘分布調査報告書』として、昭和50年3月当センターから刊行された。

その後、新規遺跡については、大阪府教育委員会の手で試掘調査が昭和54年4月になされた。この調査結果に基づき、再度大阪府教育委員会と大阪府土木部で協議がなされ、府道堺かつらぎ線（石津川）から和田川迄の4遺跡（太平寺遺跡～西浦橋遺跡東半部）についての調査依頼が昭和55年4月、大阪府から当センターにあった。昭和55年7月当センターと大阪府の間で受託契約が締結され、調査実施の運びとなった。

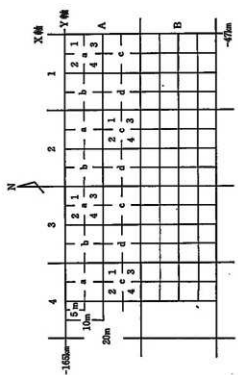
昭和55年8月12日付で、文化財保護法第57条第1項に基づき、文化庁長官あて、埋蔵文化財発掘調査届出書を提出、昭和55年1月16日付で文化庁長官より通知があった。

昭和55年7月より西浦橋遺跡を除く3遺跡について調査が開始され、昭和57年3月に調査は終了した。西浦橋遺跡は若干遅れ、昭和56年9月より調査を開始し、昭和57年3月調査を終了した。なお西浦橋遺跡は当初設計土量を大幅に上まわったので、昭和57年度も引続き調査を実施した。

遺構遺物量の多さに比べて整理期間が短く、本報告書の完成はかなり遅れたが、ようやく今完成の運びとなった。

以下遺跡ごとの調査面積を記しておく。

| 遺 跡 名 | 所 在 地 | 面 積 (㎡) |
|-----------|-----------|---------------|
| 西 浦 橋 遺 跡 | 堺市 菱木 | 4,809 (第2調査区) |
| 菱 木 下 遺 跡 | 堺市 菱木 | 12,300 |
| 万 崎 池 遺 跡 | 堺市 草部、太平寺 | 31,200 |
| 太 平 寺 遺 跡 | 堺市 太平寺、平井 | 6,100 |



第1图 调查点位置与地区制图

I 考古学的、地理的環境と調査の課題

第1章 各遺跡の地理的立地

今回報告する遺跡群はすべて石津川流域の歴史として捉えられる。遺跡群は、石津川本流とその支流である和田川に挟まれた段丘とその開折谷、壘積谷の上に立地する。段丘は、洪積段丘と沖積段丘に分類できる¹⁾。遺跡群の立地する洪積段丘は主として中位段丘であって、今回の調査地には低位段丘は存在しなかった。沖積段丘は縄文後期以後に形成されたことが今回の調査で明らかになった。

和田川右岸に面した氾濫原と沖積段丘が西浦橋遺跡の西半部にあたり、東半部は中位段丘上に位置する。菱木下遺跡から万崎池遺跡まではすべて中位段丘上に立地する。勿論、段丘上にはいくつもの開折谷と壘積谷が存在し、その微地形への対応こそが、各遺跡、各時代の特徴を示すものである。東端の太平寺遺跡は旧石津川の右岸に位置し沖積段丘と氾濫低地上に立地する。

今回の調査は和田川右岸から石津川右岸まで、約1.4kmにわたる調査であり、両河川の氾濫原から氾濫原までの旧地形を露呈させたことになる。全調査区間の約67%が中位段丘、約22%が沖積段丘及び氾濫原、11%が谷地形である。段丘座の傾斜は石津川側に急で、和田川側は緩い。そして中位段丘にはかなり地形の起伏がみられる。大きな谷地形としては、万崎池遺跡第Ⅲ調査区と第4地区の間に存する幅35m、深さ2～3mの南南東—北北西にのびる谷地形と、菱木下遺跡第Ⅲ調査区の南に存在する新池から北北西にのびる谷の2本がみられ、枝谷としてそれぞれ2～3本の谷がみられる。それ以外にも菱木下遺跡第Ⅰ調査区の中心部に、北北西—南南東方向の小谷、万崎池遺跡第Ⅶ調査区に東—西方向の小谷などがみられる。今回の調査地区の中で最も高い地点は万崎池遺跡第Ⅰ調査区と第Ⅶ調査区でT.P.26.5m、低い地点が西浦橋遺跡の西端部と太平寺遺跡の東部でT.P.20.5m、比高約6mである。各遺跡の微地形と遺構の関係は後章で詳述されるが、概括的に述べるならば、住居址は中位段丘と沖積段丘上に、土壌基は壘積浅谷の斜面地、方形四溝基は中位段丘上等を中心に造営されているといえる。水田は検出できなかったが、西浦橋遺跡で検出された堰遺構から導水する溝の延長にある地形から、谷地形を利用した水田が予想される。

時代ごとの遺構・遺物と地形との関係を簡単に記すならば、旧石器時代遺物のプライマリーなあり方はみられなかったが、遺物はほぼ中位段丘全体にみられた。即ち、西浦橋遺跡、菱木下遺跡、万崎池遺跡においてである。縄文時代の遺構としては、西浦橋遺跡の西半部の沖積段丘上に晩期の土壌がみられたが、遺物としては、太平寺遺跡の沖積段丘においても検出され、早期末前期、後期、晩期の土器がみられた。今の所、中位段丘上には縄文時代の明確な遺構・遺物は検出

されていない。弥生時代前期の遺構は検出されておらず、この時期の居住区は確定できないが、西浦橋遺跡内の沖積段丘から中位段丘の縁辺にあたる所に小規模に存在したと推定される。中期になると中位段丘の谷地形に面した所に住いしらしく、菱木下遺跡のほぼ全域と万崎池遺跡第Ⅱ、第Ⅲ調査区、西浦橋遺跡で遺構・遺物が検出された。後期の遺構としては、中期同様、中位段丘上に確認されている。すなわち、万崎池遺跡第Ⅶ調査区に竪穴式住居の存在が知られ、同第Ⅲ調査区の谷からは遺物が検出された。全期間を通じて最も豊富で広範囲の遺構・遺物の検出をみた時期は古墳時代である。即ち、石津川の沖積地から和田川の沖積地までのほぼ全域に亘って、豊富な遺構・遺物の検出がなされた。西浦橋遺跡の中位段丘の縁辺、菱木下遺跡第1地区の中位段丘上、万崎池遺跡第Ⅲ調査区の中位段丘の埋積谷及びその縁辺、太平寺遺跡沖積段丘上等で古墳時代の竪穴式住居が検出された。菱木下遺跡や万崎池遺跡で検出された土墳基群は中位段丘上にある小さな谷地形の斜面地に立地している。奈良時代として明確にできる遺構は西浦橋遺跡の西半部の沖積段丘上及び中位段丘上の菱木下遺跡で検出できた。又前述の菱木下遺跡、万崎池遺跡のいくつかの土墳基群もその時期である。平安時代に入ると地域開発の動向の中で新たな集落の形成がみられるようになる。中位段丘上の万崎池遺跡第Ⅶ、第Ⅲ調査区、沖積段丘上の太平寺遺跡などで掘立柱建物がみられた。又同時期と考えられる溜池用の堤防が万崎池遺跡の開折谷の中に築造されていた。12世紀以降15世紀までの集落としては中位段丘上の西浦橋遺跡、菱木下遺跡第Ⅱ、第Ⅲ調査区で検出されている。西浦橋遺跡の沖積段丘上は主にこの時期の水田として利用されていた。又万崎池遺跡の中位段丘に数基の土墳基群が形成されていたが、古墳時代から奈良時代にかけての土墳基群とはいささか異なる立地であった。

以上概略的に各遺跡の遺構・遺物の検出立地について述べてきたが、その詳細はⅡ以降の各遺跡の論述の中で展開されるものである。遺構立地がどれだけ時代性を反映しているかは同時期のすべての遺構立地が明らかになるなかでしか捉えられないかもしれないが、いえることは同じ性格を想定できる遺構が連続と同じ立地にあるということではなく、比較的短期間にその立地を変えていることが多い。ただし、菱木下遺跡と万崎池遺跡にみられる土墳基は5世紀末から8世紀までの長期間にわたって造営されたものである。又水田についても沖積段丘上に奈良時代もしくは平安時代以降今日まで連続して立地している点で、他の遺構とは異なっているといえる。

第2章 石津川流域の遺跡群とその立地条件

第1節 旧石器時代・縄文時代

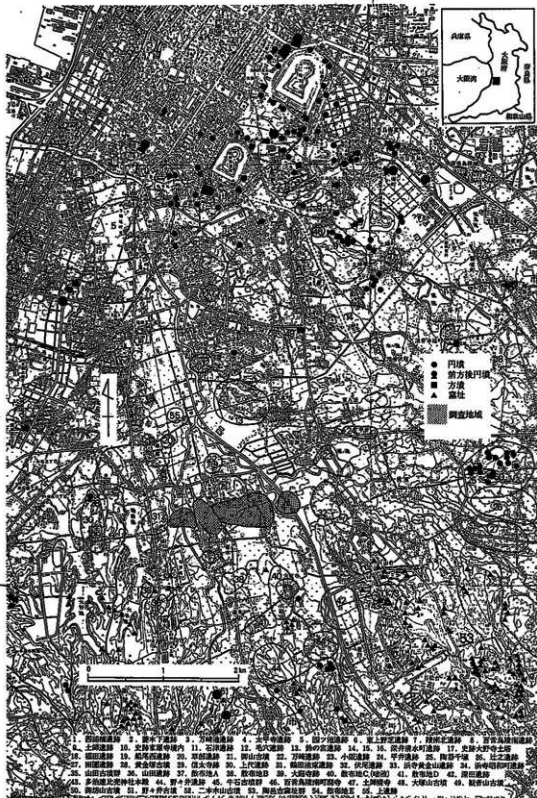
今回の調査で検出された3ヶ所の遺跡の旧石器はいずれも原位置を保ってはず、後世の遺物とともに出土したものである。石津川流域の他遺跡においても旧石器の出土は知られているが、いずれも2次的な堆積物で、一般に量も少ないが、鈴の宮遺跡²⁾では一定の量のまとまりをもって出

土している。広い意味でのナイフ形石器文化に属する遺跡としての野々井遺跡³⁾、鈴の宮遺跡、尖頭器及び有舌尖頭器の時代としての百舌鳥木町遺跡⁴⁾、野々井遺跡、四ツ池遺跡⁵⁾等がある。いずれも中位段丘上に立地する。

縄文時代の遺跡としては、今回太平寺遺跡から出土した早期末～前期初頭の土器がこの地域で最古のものといえる。今迄中期の遺構・遺物は知られていない。四ツ池遺跡⁶⁾の沖積層から後期前葉から中葉にかけての遺構・遺物が検出されている。即ち第2阪国道建設に伴う事前調査での三光台地北西端F地区における土壌、ピット等の遺構と遺物、台地東北部第17区における溝、ピットなどの遺構と遺物の検出がそれである。四ツ池遺跡以外でも縄文時代後期の遺跡が2ヶ所調査されている。1ヶ所は西浦橋遺跡⁷⁾であり、もう1ヶ所は西浦橋遺跡から北に1.2km離れた石津川左岸の沖積段丘上に立地する上遺跡⁸⁾である。時代としてはほぼ四ツ池遺跡のものと同じ頃のもので、後期前葉から中葉のものである。後期後葉から晩期中葉までの遺跡は石津川流域においては希薄である。確実な人跡として次に認められる時代は晩期でも終末に近い、凸帯文の甕を有する時期である。先にのべた四ツ池遺跡、西浦橋遺跡、上遺跡の他、太平寺遺跡の北北西約1.7km、上遺跡の石津川を挟んだ対岸にあたる鈴の宮遺跡⁹⁾がこの時期のものである。鈴の宮遺跡も他遺跡同様沖積段丘上に立地する。今迄の調査においては自然河川のみしか検出されていず、そこから凸帯文の甕を中心とする遺物が多く出土した。以上の4遺跡以外にも石津川支流の百舌鳥川に面した中位段丘の開折谷から凸帯文土器が出土している。該南遺跡¹⁰⁾である。又、西浦橋遺跡の対岸にあたる鶴田池東遺跡¹¹⁾から緑色片岩製石刀が検出されており、厳密な時期は確定できないが終末から余りかけはなれた時期ではないであろう。鶴田池東遺跡は上位段丘上と段丘斜面、開折谷にまたがって立地している。石刀は開折谷から出土した。四ツ池遺跡の西北西1kmの砂堆上に黄金山遺跡¹²⁾があり、そこからも凸帯文土器が出土したとされている。鶴田池東遺跡を除いて他の4遺跡はいずれも晩期終末の時期のもので、弥生文化がこの地に成立する直前もしくはすでに稲作を開始している時期の所産である。これらを相互にどう関連づけるかがこの報告書の第1の課題となる。

以上のべてきた石津川流域の縄文時代の遺跡についてはその立地の点で、石津川を眼前にのぞむ沖積段丘、もしくは氾濫原に立地する遺跡、洪積段丘の開折谷をのぞむ位置に立地する遺跡、海にのぞむ砂堆上の遺跡の3種類に分けられる。これらの立地差が遺跡の遺構・遺物の点でどう異なり、地域内における相互関連がどうであったかについては今後の課題である。これら遺跡の出土土器から石津川流域における沖積段丘の形成時期が縄文時代後期前葉まで遡ることを示している。又、太平寺遺跡における北白川下層式土器の出土から前期迄その形成が遡ることもありえが遺物が二次的堆積の結果である為、可能性にとどめざるをえない。

四ツ池遺跡出土の縄文晩期の凸帯文甕形土器に痕跡があり、縄文時代終末期における稲の存在を確認しているが、この四ツ池遺跡こそ、縄文時代後期以降、とりわけ晩期終末弥生文化成立期以降、この地域の歴史的核としての役割を果たした遺跡である。



- 1. 野宮古墳群 2. 野宮古墳 3. 野宮古墳 4. 野宮古墳 5. 野宮古墳 6. 野宮古墳 7. 野宮古墳 8. 野宮古墳
- 9. 野宮古墳 10. 野宮古墳 11. 野宮古墳 12. 野宮古墳 13. 野宮古墳 14. 野宮古墳 15. 野宮古墳 16. 野宮古墳 17. 野宮古墳
- 18. 野宮古墳 19. 野宮古墳 20. 野宮古墳 21. 野宮古墳 22. 野宮古墳 23. 野宮古墳 24. 野宮古墳 25. 野宮古墳
- 26. 野宮古墳 27. 野宮古墳 28. 野宮古墳 29. 野宮古墳 30. 野宮古墳 31. 野宮古墳 32. 野宮古墳 33. 野宮古墳
- 34. 野宮古墳 35. 野宮古墳 36. 野宮古墳 37. 野宮古墳 38. 野宮古墳 39. 野宮古墳 40. 野宮古墳 41. 野宮古墳
- 42. 野宮古墳 43. 野宮古墳 44. 野宮古墳 45. 野宮古墳 46. 野宮古墳 47. 野宮古墳 48. 野宮古墳 49. 野宮古墳
- 50. 野宮古墳 51. 野宮古墳 52. 野宮古墳 53. 野宮古墳 54. 野宮古墳 55. 野宮古墳

第1圖 周辺遺跡分布図



第2節 弥生時代

四ツ池遺跡¹³⁾は石津川の左岸にあり、低位段丘と沖積段丘にまたがって存在する。低位段丘上で標高約11~12m、沖積段丘上で標高約4~5mである。数年前までは台地の下にあたる氾濫原には弥生時代以前の遺構・遺物は存在せず、台地およびその縁辺に限られると考えられてきたが、最近の調査により台地東の地表面からかなり深い位置に遺構・遺物が確認されつつある。この様な状況は単に四ツ池遺跡だけでなく、石津川流域の沖積地のすべての遺跡についていえることは先にふれたとおりである。

四ツ池遺跡の調査としては三光台地といわれる低位段丘の先端、現在浜寺中学校が建っている地区での昭和20年代以降の調査、昭和40年代の第2阪和国道建設に伴う台地北側の縁辺から氾濫原にかけての調査、それ以降の区画整理事業等の大小の開発に伴う洪積段丘、沖積段丘上の事前調査などが知られている。これらの調査の結果、四ツ池遺跡の歴史は弥生時代・古墳時代を中心にほとんど途切れることなく、今日に至ることが判明した。

台地の東に広がる沖積段丘には数多くの溝、自然河川が検出されているが、とりわけ大きな埋積谷が3本みられ、弥生時代の集落を複数に区切っている。調査担当者はこの遺跡を大きく3群の集落単位に分割できると指摘している。台地上の集落、台地東側の集落、台地の東北部の集落がそれである。仮にそれらを第Ⅰ、第Ⅱ、第Ⅲ集落とするなら、第Ⅰ、第Ⅲ集落は沖積段丘上に立地するものである。台地上の第Ⅱ集落の全体像を必ずしも捉えた訳ではないが、ほぼ弥生時代全期間にわたって存在していたとされている。第Ⅱ集落は、中期中葉の実態は不明であるが他時期は集落として存在したようである。第Ⅲ集落も中期中葉から後期前半までに集落が消滅されたとされているが、遺物としては存在するようで、集落の継続がなかったかどうかは未だ断定しがたいと考える。そして重要な点は、台地北部と西北部にある方形周溝基群が第Ⅰ集落の基城とするなら、第Ⅱ集落も中期中葉と後葉の方形周溝基群を有していることである。

成立時点が第Ⅰ集落と他の2集落とで少し差があり、後者が若干遅れるとされるが、少なくとも前期後葉から中期中葉にかけて3群の集落が存在し、その後もほぼ2群の集落として独立した基城を有して存在していたこと、又、第Ⅰ集落の全容が十分解明された訳ではないが、集落規模、区画溝の存在などの点で、第Ⅰ集落が第Ⅱ、第Ⅲ集落を凌駕していることは明らかである。ただし、第Ⅰ集落の中で一休いくつの単位集団が含まれていたのか、一つだけなのか、複数なのかなどの基本点においても不明な点が多いが、先に述べた方形周溝基のあり方からみて、2つ以上の集団の存在は確実であろう。そして、これらの事実をどう認識するかが四ツ池ムラの歴史像の構築に不可欠であり、第Ⅰ集落がその成立の時点から一貫して、このムラの主導権を持ちえたのか、全く反対に2群ないし3群が全くの対等関係としてあったのか、ある時点から優劣関係が生じたのか等々さまざまな可能性がある。

四ツ池遺跡における集落実態とその変遷過程は石津川流域の弥生諸集落とも無関係ではありえ

なかったであろうが、未だ十分には整理しえない段階である。

縄文時代晩期後葉の集落が、四ツ池遺跡、黄金山遺跡、駿南遺跡、鈴の宮遺跡、西浦橋遺跡などで存在していたことは先にふれたが、これらの集落はいずれも小さな集落であり、決して大規模な集落とは考えられない。ただ西浦橋遺跡では土器棺、土壇などが存在し、一定期間の定着性は裏付けられた。しかし、この地域における縄文土器の中にしめる河内産土器の割合は、弥生土器におけるそれと比較して、非常に高く、決してこの地域だけに基盤を置いて生活したとは考えられない面がある。この地域における弥生文化の受容の点からみた場合、凸帯文土器に数種があり、最も古い弥生土器が存在する四ツ池遺跡が、その核となって活動したことはその後の集落展開から明らかである。四ツ池遺跡以外で弥生時代前期の集落として存在したのは、鈴の宮遺跡、上遺跡、西浦橋遺跡、石津遺跡である。いずれも、弥生時代前期後半からのムラの成立である。弥生時代前期前葉から中葉の段階において鈴の宮遺跡、西浦橋遺跡が四ツ池遺跡における弥生文化の受容過程と併行して縄文時代の生活様式を基本的に固守していたのか、一旦集落が消滅していたのか今後の問題として残る所である。ただ弥生文化のこの地域における受容過程と展開過程の中で、四ツ池ムラ内部の集団関係—第Ⅰ集落と第Ⅱ、第Ⅲ集落の関係—と同様、石津川流域における弥生諸遺跡の集団関係が成立していたと想定される。即ち、弥生文化の核としての水稲農耕の技術体系の伝達と維持は何かの政治性を生み出す契機になりえたであろうから。しかし広瀬和雄氏が指摘しているように、水稲農耕にとって最も必要とされる水であっても、初期水稲耕作の技術段階においては、集団間の利害を生むような水利関係はなかったと推定される。その意味では農耕を維持していく為の生産手段の確保、たとえば水田確保の為の土木事業とそれを遂行するための農具の生産及び関連する石器などの資源の確保等々を通して地域諸集団関係が成立していったのであろう。しかし全体としてこの時期の小規模な集団における自立性の強い生活においては、地域内での一定の人口圧に達するまでは、先鋭化した集団関係には到らなかったであろう。つまり弥生時代中期後葉までのこの地域における社会関係はゆるやかな紐帯関係にとどまったと言えるのではなかろうか。

先にあげた弥生時代前期から継続している中期の集落の他に、鈴の宮遺跡のすぐ北西の石津川の右岸の中位段丘上にある毛穴遺跡¹⁷⁾は弥生時代中期前葉から中葉にかけてムラが成立したようである。万崎池遺跡の成立も中期中葉からである。これらはいずれも弥生文化の受容以降の耕地の外延的拡大の一環として、周辺の遺跡から定着したものであろう。前者は鈴の宮遺跡との間にある谷地形、後者は段丘の小さな開析谷を生産基盤とした集落であったであろう。近接性から言えば、毛穴遺跡と鈴の宮遺跡、万崎池遺跡と西浦橋(菱木下)¹⁸⁾遺跡は大きくは同じムラとして考えるべきかもしれない。鶴田池東遺跡も中期からの成立である。

砂丘上の遺跡については、先にあげた黄金山遺跡の他、日明山遺跡、浜寺公園遺跡等々後背低地を生産基盤としたと考えられる遺跡が多く知られているが、実態は余り知られていない。四ツ池遺跡から約1kmの範囲にあるこれらの遺跡群と四ツ池遺跡との関係についても長い間の課題の

ままである。

石津川流域における弥生時代中期の展開は、前期以降の耕地の分散的拡大の結果としての集落の成立とその後の展開として捉えられ、基本的には集団関係の大きな変動もなく推移したように見える。即ち、西浦橋遺跡で検出された中期前葉から中葉における水利施設としての杭列群遺構にみられる技術的到達点を基盤に、各遺跡が独自の世界を形成していたようである。

弥生時代後期における動向としては、四ツ池遺跡第Ⅱ集落における集落規模の縮小、鈴の宮遺跡、菱木下遺跡における中期後葉から後期にかけての集落の衰退現象が眺みとれる点等々、弥生時代でのこの地域における最も大きな変化が看取される。上記遺跡の衰退現象とは反対に新たな集落の成立がこの地域でみられる。万崎池遺跡第Ⅶ調査区におけるそれと野々井遺跡のそれである。前者は竪穴住居2棟である。野々井遺跡は標高60mの中位段丘上にあり、万崎池遺跡の南約2.5kmの位置にある。長径60.5m、短径45mの環濠の中に5棟の竪穴住居を有し、環濠外にも1棟以上の竪穴住居が存在する。時期的には、弥生時代後期末葉から庄内式土器の時期とされ、鈴の宮、菱木下、万崎池などの諸遺跡がその痕跡を全くもたない時期のものである。この環濠集落はいわゆる集落全体をとりかこむのではなく、環濠の内にある1棟の大型住居を含む有力勢力と環濠外にある劣勢勢力とに分裂した2つ以上の単位集団を有する集落である²¹⁾。弥生時代前期から中期にかけてゆるやかな紐帯関係として成立していた集団関係が中期後葉から後期以降、何らかの理由で集団関係が大きく変化したことをこの集落の成立は物語っている。

なお石津川流域において浜寺町遺跡、菱木遺跡、陶器北遺跡など3ヶ所の銅鐸出土遺跡があるが、これらについては、浜寺町、陶器北、菱木の順に型的に新しいものとされている²²⁾。そして石津川流域全体を1つの祭祀圏と考えるか最低3つの祭祀圏を想定するのによっても問題の所在は異なってくる。

第3節 古墳時代

弥生時代後期後葉から古墳時代前期前葉にかけての集落実態は先にふれた同じ野々井遺跡の第Ⅱ、第Ⅶ地区において最もまとまった状態で検出されている。

野々井遺跡は高位段丘から中位段丘にかけて立地し、先の第1調査区は中位段丘に立地し、他は高位段丘上に立地している。担当者が全体を6調査区に分けたいずれからも古墳時代初頭以降の集落・古墳などが検出されている。報告書が未刊の為、詳細な変遷過程は不明であるが、いくつかの貴重な事実が明らかになっている。即ち、第1調査区の弥生時代後期末から古墳時代初頭にかけての集落の後続集落として、高位段丘上に4群の古墳時代前期の集落が存在する。いずれも1時期2～3棟前後で1単位をなしている。最南端にある第3調査区の南にかたまった8棟の住居址はいずれも一辺6～6.5mで、他群の住居址に比べて大形である。野々井遺跡古墳時代前期の中心地区と考えられる。但し、古墳時代前期の4群の集落がすべて同時期なのか、連続的に存在したのかは不明である為、中心地区とした集落の歴史的位置は今も不明である。この野々井

遺跡における古墳時代前期集落群の形成のあと、同じ所に集落が形成されるようになるのは、泉北窯址群の最古の窯が築造された時期と考えられる²⁴⁾。少なくとも庄内式土器の時期から継続的に集落が存在したのではなく、一時集落の廃絶のあと泉北窯址群で須恵器が生産されはじめる時期まで空白であった。従って、いわゆる布留式の前半の集落は不在であった。

石津川流域で他に庄内式の時期の集落として明確なのは四ツ池遺跡である²⁵⁾。最近の調査で、先に述べた第Ⅲ集落で、1辺約5mの竪穴式住居が2棟1単位で検出されている。他地区でも同時期の遺構が検出されているが、明確な住居址は検出されていない。同時期の他遺跡としては、石津川支流の陶器川の右岸にある沖積段丘上の小阪遺跡がある。遺跡の全面的調査は行なわれていないが、その内容は不明である。鈴の宮遺跡の南端部の沖積段丘上においても庄内式土器が検出されているが、集落実態は不明である。他に石津川の下流の石津遺跡²⁷⁾においても同時期の土器が確認されている。

この古墳時代初頭の遺跡は、四ツ池遺跡、石津遺跡などの弥生時代以来継続して存在する沖積段丘上の遺跡群、小阪遺跡のように以前の痕跡がなく、この時期に新たに集落が営まれ始めた遺跡、弥生時代後期末葉に高位段丘の直下に突然集落が成立し、その後さらに上方の高位段丘上に集落を構えた野々井遺跡の3つに分けられる。第1のタイプは集落内の動向としてはその内に様々な経緯はあったとしても一貫して同じ場所で継続した遺跡であり、第2のそれは、従来遺跡として存在しえなかった自然条件から集落立地が可能となった新たな自然条件—可耕地—への進出として捉えることが可能である。又第3の野々井遺跡の場合、その成立から展開まで、この地域の歴史を語る上で重要な位置を占めるものである。しかし、環濠をもつ集落が、周辺に可耕地として余り余地のない点での生産基盤の問題、それ以後さらに高位に居を移していることの意味、等々問題が多い。石津川流域における弥生時代後期後半の集落がごく限られた所にしかなく、空白に近い状況にあることは先にふれたが、この野々井遺跡の成立が、小阪遺跡のような新たな可耕地への集落全体の単なる移動といったものではなく、その立地からみて、かなり無理な状況への移動として捉えられる。そして、それ以降の古墳時代初頭における丘陵上への移動は環濠集落の新たな展開として捉えることが可能である。環濠内の住居址群は先にふれた第3調査区の大形建物群への移動であり、環濠外の住居址は周辺住居群への移動と捉えることができる。万崎池遺跡第Ⅶ調査区の弥生時代後期の集落もそれ以後には続かず、少なくとも第Ⅷ調査区の前古墳時代中期の集落まで、松原～泉大津線内の遺跡は姿をけすことになる。その意味で、弥生時代後期末から古墳時代初頭までの集落は、この地域ではこの野々井遺跡しか存在しないことになる。現状からみて、庄内期の集落から連続する集落としては沼原にある四ツ池遺跡や石津遺跡²⁸⁾に限られ、他の集落での継続性は確認されていない。しかし和田川上流左岸にある二本木山古墳²⁹⁾の存在からみて、庄内期以降、須恵器生産の開始以前においても、この地域において集落が群在していたことは確実であろう。二本木山古墳以外にも石津川流域において検出したほぼ同時の古墳は他に2基ある。1基は太平寺遺跡の南東400mの丘陵上にある古墳であり、他の1基は今回万崎

池遺跡第1調査区で検出されたものである。後者は削平されており規模等は不明であるが、円筒埴輪が検出された。これら2基の古墳の存在は在地首長とそれに統轄されたムラムラの存在を裏付けるものである。

須恵器生産開始前後の集落としては四ツ池遺跡、石津遺跡の他、これらと同じ集落の構成単位になるかもしれない船尾西遺跡がある。四ツ池遺跡、石津遺跡と同様氾濫原に立地している。

船尾西遺跡を含めたこれら3遺跡は四ツ池集落群として捉えられる程、5世紀前葉から末葉迄、ほぼ同時に集落を営んでいたと考えられる。船尾西遺跡は6世紀以降中世までは集落としての立地は認められないが、石津遺跡、四ツ池遺跡は古墳時代以降も連続と集落が営まれた。

これら3遺跡以外にも石津川支流百舌鳥川左岸の氾濫原を前にした洪積段丘の縁辺に立地する仲野町遺跡があるが、規模等は不明である。

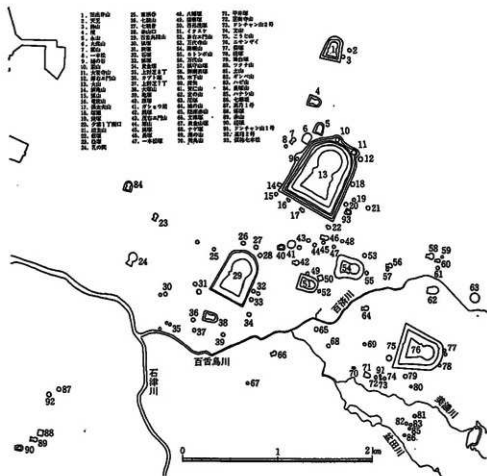
百舌鳥古墳群成立を乳の岡古墳築造をもってそれにあて、その時期を4世紀末5世紀初頭に比定すれば、少なくとも同時もしくは直前の遺跡としては、今の所先述した四ツ池集落群しか知られていない。しかし石津川中流域における小古墳の存在は下流域における遺跡群以外にかなりの数の集落の存在を想定せしめるとともに地域的・政治的結合体の存在を推定せしめるものである。しかも乳の岡古墳を在地首長墓として位置づけるなら、二本木山古墳の上位者としての首長墳と規定でき、ヤマト王権の基城としての百舌鳥古墳群の形成にとっても、極めて重要な役割を果たしたと推定される。

石津川流域における弥生時代成立以降の最大の画期は5世紀前葉から中葉にかけての時期である。即ち、それは百舌鳥陵山古墳にはじまる大王陵造営、それにわずかに遅れて開始される泉北窯址群における須恵器生産の開始、石津川流域の新たな遺跡群の成立という点にそれは顕現している。古墳造営、生産、集落のいずれからみてもこの時期がこの地域における最大の画期であることは確かである。

百舌鳥古墳群という名で知られる古墳群は約100基の大小の古墳から成り立っている。形としては、前方後円墳、帆立貝形古墳、円墳、方墳などである。しかし個々の古墳については十分に解明された例は少なく、未だ古墳群全体を構造として捉えきれていない状況である。従来、百舌鳥古墳群としては石津川右岸を南限とし、田出井山古墳を北限、尼塚古墳を東限とする範囲とされ、石津川左岸の浜寺四ツ塚については一応別扱いとされていたが、百舌鳥古墳群を大王陵としての古墳群、在地首長墓としての古墳群を複数にもつ古墳群の集合体としてとらえ、その地域の一体性を基準にするなら当然浜寺四ツ塚古墳群は百舌鳥古墳群の範囲内で捉えるのが妥当であろう。

調査することなく消滅した古墳がある為、正確な古墳の形態、数値は不明であるが、今日多く人の努力で判明している古墳について概略すれば次の如くである。(第1表)

形態がほぼ判明している古墳が88基、内前方後円墳が20基、帆立貝形古墳11基、方墳7基、円墳50基である。勿論の中には前方後円墳が破壊され、円墳としての形状しか残存していない可能性のものなども含まれる。又数値の判明している69基のうち、前方後円墳は全長487mの大山



第3図 百舌鳥古墳群古墳分布図

古墳から50mの鏡塚古墳まで存在する。少なくとも50m以上のものしかこの形態をとらないことが分る。帆立貝形古墳は全長87mの丸保山古墳から取塚古墳や塚廻古墳の35mまで存在する。方墳の最大のもは塔塚古墳で1辺45m、小さいものは天王古墳の19mである。円墳は大安寺山古墳の径60mを最大とし、坊主山古墳の10mを最小とする。それぞれの最大値を比較すると、前方後円墳、帆立貝形古墳、円墳、方墳の順になる。古墳における階層差を示すものなのであろう。

規模の上から百舌鳥古墳群をいくつかに分けるとすれば、まず150mをこえる大形古墳が7基ある。そのうち二重濠をもつ古墳が5基存在する。藤井寺市津堂城山古墳に初現する二重濠の形態をそれ以後のヤマト王権の大王陵とする為の規定的一要素としえるかどうか確認しえた訳ではないが、田出井山古墳を除く大山古墳、百舌鳥山古墳、ニンザイ古墳、御廟山古墳の4古墳が他の古墳と面然とその規模を異にする点、特異な外部施設の形態としての二重濠の存在は大王陵としてこれらの古墳を位置づけても妥当性を失うものではないのではなかろうか。田出井山古墳については、その大きさの点で問題点も指摘されているが、百舌鳥古墳群中の在地首長墓と

想定される古墳の中で大形古墳としての乳の岡古墳、大塚山古墳、イタスケ古墳が同時期の大王陵と比較して規模の上で圧倒的な差を有している事実、古墳時代前期末から中期初頭にかけての在り地首長古墳の規模の上での相対的大形性などから田出井山古墳と同時代の在り地首長墓との規模の上での隔絶性はよみとれるであろう。又田出井山古墳の大王陵としての規模の小ささそのものについては王権の変遷過程の中で改めて論じるべきであろう。

大王陵としての5基を除く151m以上の2基と100mから150mまでの4基の1群は、乳の岡古墳にはじまる在り地首長墓系列として捉えられるであろう。その規模の大きさは、石津川流域に本拠地をおく地域首長として単に存在しただけでなく、ヤマト王権を背景とした和泉全体の地域支配を想定しえるものである。これら在り地首長墓がどう変遷していったかについては明確に指摘しえず、その終末についても不明である。これら100mクラスの古墳がいずれも中期後半以前の時期を想定され、大王陵における田出井山古墳、ニナンザイ古墳の時期の在り地首長墓がどれに相当するかが問題になるが、今の所どの古墳がそれに相当するかは明確にすることは出来ない。ヤマト王権内部における和泉地域の首長の相対的な位置の変化、和泉地域内部における首長権の変化等々も問題となるであろう。

石津川流域をこえた在り地首長墓の象徴としての100m規模の古墳一終末期にはかなりの小規模化が想定されるが一の下位の一群としては数10m前後の古墳がある。百舌鳥古墳群では規模の点で第3のランクを位置づけられる古墳である。これらの古墳の最も大きな特色は、一定のまとまりを有する点である。比較的によくまとまっている古墳群としては、先にふれた浜寺四ツ塚古墳、ニナンザイ古墳の北1kmの範囲に存在する定の山古墳、尼塚古墳、大木山古墳、波矢古墳など10基近い古墳群、御廟山古墳、大山古墳、百舌鳥陵山古墳にかこまれた中に存在する鉢塚古墳、旗塚古墳、ガシヨク坊古墳などの一群がある。その他にも平井塚古墳や文珠塚古墳など百舌鳥川流域の一帯、大山古墳の西北にある菰山古墳、榎の谷古墳などの存在も陪塚であるなしの問題をこえて解明されなければならない一帯である。

この規模のもう1つの特色は必ずしも一定の形態で存在するのではなく、前方後円墳もあり、帆立貝形古墳もあり、塔塚古墳の如き方墳、ガシヨク坊古墳のような円墳もあるといった様々な形態をもっている点にある。古墳群ごとの十分な変遷過程をおえない為、必ずしもその形態のもつ意味については十分説明しえない。いずれにしてもこれらの古墳は、石津川流域を中心とした地域を統轄した複数グループの首長墓であることは確かである。それは石津川左岸から大津川右岸に存在する首長墓系列における取石地区、備太地区の中期以降の古墳とはほぼ同じ規模を有している点からもそのことは言えるのではないかと考える。どのグループが一体どの地域を基盤として成立したのか、又先に述べたもう1ランク上位の首長との関係をどう捉えるかなどの問題は本報告書の課題として残るものである。

規模の点で最も小さな古墳としては10mから20mの小円墳と小方墳である。規模の判明している約70基のうちの4近くを占める約30基がこの規模である。この古墳も一定の群集性をもってい

る。即ち、ニサンザイ古墳群の南に存在する10基以上の円墳群、御廟山古墳、大山古墳、百舌鳥陵山古墳にかこまれた範囲にある一群、百舌鳥陵山古墳の西南に存在する数基の一群などである。この中には大王陵や大形古墳に近接する小古墳を除いてあるが、既述した古墳の中にも陪塚として存在する古墳もあるかもしれないが、数は少ないと考える。又多くの消滅したのも含まれる為、今後どこまで復原分析が可能かも問題もあるが、これらの古墳をどう捉えるかが百舌鳥古墳群の解明にとって不可欠の条件であることは確かである。

これら小古墳は今迄のべてきた規模からみた階層性の点より、村落首長級の墓として捉えられる可能性を有している。必ずしもこのことを明確に証明しうるものではないが、ニサンザイ古墳の南に存在する古墳群は³⁵⁾陵南遺跡、³⁶⁾土師遺跡との関係を想起せしめるものであり、イタスケ古墳近くにある古墳群は東上野芝遺跡との関連を想定させるものであるといえるからである。勿論想定される村落敷が現在存在する小古墳のすべてで割り切れるものではないが、一応考える余地があると考える。

以上大雑把に百舌鳥古墳群についてその規模と分布から4つの階層性を想定しえるとしたが、今後さらに細かな資料操作と分析を通じて百舌鳥古墳群の構造的解明と歴史的解明がなされねばならないし、その資料のいくつかは今回の報告書の中で語られることになるであろう。そしてその一端として、百舌鳥古墳群と同時期の集落について述べることにする。

先に石津川流域における最大の面期を5世紀前葉から中葉にかけてにおくことを述べ、その根拠の1つとして、流域における新たな集落の形成をあげた。最近10年における石津川流域において調査された遺跡としては百舌鳥川支流の百済川と美濃川の流域にある中位段丘上の4つの遺跡、石津川中流域右岸の沖積段丘上の4つの遺跡、石津川と和田川にはさまれた中位段丘上の3つの遺跡、和田川右岸段丘上の1遺跡、対岸の同左岸段丘上の2遺跡がある。以下簡単に各遺跡についてふれていく。

百舌鳥川流域遺跡群と呼称できる東上野芝遺跡³⁷⁾、³⁸⁾陵南北遺跡、³⁹⁾陵南遺跡、土師遺跡はいずれも開折谷に挟まれたそれほど広くない中位段丘面に立地している。4遺跡の生産基盤としての水田は狭小な開折谷と百済川と美濃川の氾濫原のみで、大規模な水田は到底望めない立地である。いずれも標高約20mの所に立地し、東上野芝遺跡の150m北にはイタスケ古墳、⁴⁰⁾陵南北遺跡の段丘西端には赤山古墳が存在し、⁴¹⁾陵南遺跡の東約200mには湯の山古墳、土師遺跡の東北150mには全長58mの平井塚古墳、そのすぐ東にドンチャン山古墳、正楽寺山古墳などの小古墳があり、500m東北にニサンザイ古墳が存在する。これらの遺跡はいずれも、5世紀中葉から6世紀中・後半までを中心とする集落である。但し部分的には7世紀以降にも継続する。

4遺跡の中で最も北にある東上野芝遺跡から竪穴住居2棟、掘立柱建物5棟が検出され、竪穴住居から掘立柱建物への変化が5世紀後半から6世紀にかけてあったと報告者は述べている。遺物としては、須恵器と土師器を中心とし、その比率は3:1で、圧倒的に須恵器が多いことが示されている。又鉄滓、簡羽口、製塩土器が出土している。

第1表 百舌鳥古墳群墳形・規模一覧表

| 墳形 | 10-13m | 20-29m | 30-39m | 40-49m | 50-69m | 70-99m | 100-149m | 150-199m | 200m~ | 法庫不明 | 計 | 取石地区・住込地区古墳群 | |
|-------|---|--|--|---|---|------------|------------------------------------|--|-----------------------------------|--|---|--|----------------------------------|
| 円 | 1本 3030
1線 3018
坊主 1020
ナゲ 1020
海 1088
正業寺 1070
聖月 1 9960 | 風 1103
酒 4900
七 3020
石 3020
上野芝 8 1703
カブト 3000
上野芝 7 1703
風 3033
カトノ水 1058
阪南新 1058
Fナツハツ 3020
坂 3020
舞台 3070
Fナツハツ 1070 | 塚 3010
風 3020
塚 1064
八 3020
万代寺 1053
?本下 1050 | 塚の 3030
南右エ門 1020
?風 3020
ガシマウツ 3010 | 茶 1100
大安寺 1010
七 1050
?風 3020
ガシマウツ 3010 | 改右エ門 1060 | | | | | 3040
?風 3020
?塚 1本 3020
万代寺 1050
鎮守山 1050
東仁山 1050
集金山 1050
フタチ 1050
?キンペ 1050
?ハナツ 1050
?七 1050
聖月 2 9900 | 50 | 須 塚 60-70m
王 塚 46m
風 塚 56m |
| 小計 | 8 | 14 | 6 | 2 | 5 | 1 | | | | 14 | 50 | | |
| 方墳 | 突 3320
?井 1060
?字 1 1700 | 鈴 1050
1060
?洞 1064
?音 1050 | 磐右エ門 1060 | 塔 3000 | | | | | | | | | |
| 小計 | 3 | 3 | 1 | 1 | | | | | | | 8 | | |
| 横長墳 | | | 塚 3020
塚 1070 | 丸 塚 1060
脚 塚 1050
定 塚 1050 | 電 1050
塚 1060
こうじ 1050
塚 3000 | 塚 (4) 1054 | | | | | | | |
| 小計 | | | 2 | 2 | 4 | 3 | | | | | 11 | | |
| 前方後円墳 | | | | | 塚 1060
塚 1060
早 1060 | 塚 (4) 1054 | 水 塚 1050
長 イクス 1050
長 塚 1050 | 田 1050
出 塚 1050
井 塚 1050
乳 塚 1050
大 塚 1050
塚 1050 | 大 1050
百舌鳥 1050
ニキサンザイ 1050 | 塚 3020
塚 3020
?塚 500
?塚 500
?塚 500
赤 1050 | | 丸 塚 山 96m
突 塚 山 935m
大 塚 山 50m
高木 塚 48m | |
| 小計 | | | | | 4 | 2 | 4 | 4 | 3 | 5 | 22 | | |
| 形態不明 | | | | | | | | | | 文 1060 | | | |
| 小計 | 11 | 17 | 9 | 5 | 13 | 6 | 4 | 4 | 3 | 1 | 52 | | |
| 計 | | | | | | | | | | | | | |

陵南北遺跡も東上野芝遺跡とはほぼ同様の時期の成立と存続である。但しこの遺跡は過去の削平がひどく遺構の残存状況はよくなく、わずかに6世紀の孤立柱建物³⁰⁾が検出されたのみである。しかし遺物としては土器以外に木製の鞍が出土し、注目されている。陵南遺跡はすでに縄文時代晩期の遺跡として述べたが、中心は先の2遺跡と同様5世紀後半から6世紀後半までである。遺構としては竪穴住居13棟、孤立柱建物10棟が重複関係をもって存在した。ここでは必ずしも竪穴住居から孤立柱建物への変遷を確認されなかったが、1単位もしくは2単位の単位集団の集落変遷であるといえる。鉄滓等の遺物は検出されなかった。

最南端に立地する土師遺跡は細い開折谷に幾本にもぎざまれた段丘上に立地する。集落は大きく2単位に分かれ、美濃川右岸に立地するのは中世集落であり、美濃川と壺田川にはさまれた部分に5世紀中葉から6世紀にかけての集落が存在する。5世紀の住居址は南北に走る中央の溝より東にあり、竪穴住居4棟が検出されている。1辺8.5mの方形の竪穴住居の北壁にはカマドが付設されていた。他の住居址は1辺4mから5mのものである。6世紀の竪穴住居は6棟あり、南北の中央溝の両側に3棟づつ存在していた。但しこれらが同時期かどうかは不明であるが、すべて同時期として3単位に分けられる。この集落からは土器以外に製塩土器、鉄滓、鑊羽口、子持勾玉、有孔円板などが出土している。この集落には同時期の孤立柱建物は検出されなかった。又南北溝内から9基の円筒埴輪棺が検出されている。この溝は5世紀末に一旦埋め戻され、その後6世紀初頭の時期に棺を埋葬したとされている。集落成員の特性をこの埋葬形態は示しているのだろうか。

以上4つの集落は調査範囲の限定を考えると、特別大規模な集落では決してない。これらの集落だけで百舌鳥古墳群造営の主体とはなりえないことは明らかである。もっと小単位の集落が多く存在したことを暗示している。判明している竪穴住居址を合計しても同時期せいぜい10棟前後である。集落全体がたとえ、その3倍にはならないだろうと考えられる。陵南北遺跡の実態は今1つ不明な点が多い。土師遺跡と東上野芝遺跡における鉄滓、鑊羽口、製塩土器の存在、初期須恵器の存在等の共通性は、陵南遺跡の様相とかなり大きく異なっている。おしなべて同一内容の集落が同一地域にあったのではないことを証明している。又住居形態にしても、初期の須恵器を有しているも、孤立柱建物を住居としていたのではなく、竪穴住居址がかなり遅くまでこの地域に残ることが明らかになった。

石津川中流城右岸遺跡群とよべる鈴の宮遺跡⁴⁰⁾、太平寺遺跡、深田遺跡⁴¹⁾、壺田遺跡⁴²⁾のうち後者2遺跡は百舌鳥川流城遺跡群と同様、5世紀中葉から後半にかけての成立である。鈴の宮遺跡は縄文時代から集落が営まれていたが、古墳時代中期の集落としては丘陵縁辺と沖積段丘上に立地し、竪穴住居は丘陵縁辺に立地している。5世紀後半の住居址以外に土壊、溝も出土している。同時期の窯が集落のすぐ近い部分で検出されている。しかしきわめて小規模な集落であったと考えられる。

深田遺跡は石津川右岸の標高約30mの沖積段丘上に位置する。すぐ東の丘陵上に多治連比売神

社があり、遺跡から神社前面までの約 200mがこの付近で最も広い可耕地である。その点でこの遺跡の立地する位置は石津川流域の中でも屈指の好条件の場所といえる。つまり、窯址群を後にひかえ、可耕地の確保も比較的容易な場所としてそれはいえる。調査の結果夥しい須恵器の出土とともに櫛列をもつ3棟の建物群、溝、土壇などの遺構が検出された。手持勾玉、轆羽口、製塩土器などが出土した。なお須恵器と土師器の比は8:2であった。報告者はこの遺跡を須恵器の集積地として捉え、石津川を利用して各地に移送したと考えている。須恵器の出土量の多さに対する一つの考え方であっても、それが妥当かどうかについてはさらに検証する必要があると考える。少なくとも製塩土器、轆羽口はすでに述べたようにこの時期のこの地域の集落としては通常の出土品といえ、須恵器生産と直接かかわりあいながら、この地の開発を同時的に行なった中核的集団の集落として捉えておくのが妥当であろう。

豊田遺跡は深田遺跡の東南 1.3kmの地にあり、集落成立は5世紀後半といえる。しかし遺構としては今の所講のみである。しかし深田遺跡同様の性格、つまり石津川流域の開発と須恵器生産の両方に係わりをもった集団であったのだろう。

太平寺遺跡の詳細については後章を参照されたい。

石津川中流域遺跡群は5世紀における地域開発と須恵器生産との関係を抜きに成立しえないのであり、その意味で百舌鳥川流域遺跡群の集落とその担っている質に差はあっても石津川流域の集落群として全体として捉えていくことも今回の報告書の責務の1つである。

その他石津川下流域遺跡群としての四ツ池遺跡、船尾西遺跡、石津遺跡などの存在が知られるが、四ツ池遺跡以外集落の実態は不明である。

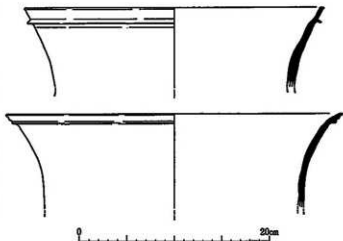
四ツ池遺跡における5世紀の遺構としては2棟の竪穴住居が検出されている。又6世紀のそれもわずかに検出されている。どの程度の可耕地があったかよく分っていないが、沖積段丘上の遺跡としてはかなり広く可耕地を求められると推定され、百舌鳥古墳群の基盤として十分働いたものと思われる。

これら以外に和田川右岸の西浦橋遺跡その南の斐木下遺跡、段丘中央部の万崎池遺跡など今回報告する遺跡群がある。又、対岸の和田川左岸の高位段丘上に山田遺跡⁴³⁾も存在する。詳細は不明であるが5世紀後半から6世紀にかけての集落であり、須恵器の多量の出土から大野池地区窯址群との密接な関係を推定せしめる。

古墳・集落とともに5世紀のこの地域の面影を彩るものとして須恵器生産の開始がある。いわゆる「陶邑」窯の成立である。石津川流域における最古の窯は高蔵地区において成立し、少し遅れて、梅地区・光明池地区にも成立するとされている。今回の調査に関連した周辺の分布調査によって万崎池遺跡の南約 600mの咄池で初期須恵器の窯址が発見され、梅地区の窯の動態について新たな知見をえた。丘陵の入口から奥へという窯の動向は基本的に梅地区でもいえることが分った。須恵器生産とこの地域の集落の関係についても本報告書の課題の1つといえる。

石津川流域の7世紀以降の考古学的資料はその前代に比較して極めて乏しいものであり、これ

からの積み重ねに待たざるをえない。例えば古墳築造にかわる寺院建立を支えるべき7世紀の遺構・遺物の出土は余りみられない。白鳳寺院としてはわずかに⁴⁰駿南庵寺、⁴⁵土師観音寺の周辺が調査されているが、明瞭な遺構は検出されていない。わずかに土師遺跡で奈良時代の掘立柱が検出されている。又駿南遺跡において遺物としては7世紀、8世紀のものが出土しており、



第4図 石鉢表探須恵器

将来的には土師遺跡において氏族の居宅等の検出も予想される所である。又土師遺跡から1.5kmの中位段丘上の深井清水町遺跡も7世紀から8世紀の遺構・遺物が検出されているが、明瞭な建物等は未だみられていない。

石津川流域における歴史時代の集落として明らかなのは土師遺跡の平安時代から鎌倉時代にかけての建物跡で、とりわけ西群の建物には櫓をともなう2棟の建物が検出されている。鈴の宮遺跡においては10世紀から11世紀にかけての仏光寺が創建されている。その後12世紀の井戸が検出された他13世紀には7棟の掘立柱建物が検出されている。後述するように、太平寺遺跡や万崎池遺跡における画期としての10世紀は明らかに新たな地域開発の為によるものであり、それらが仏光寺創建と何らかの関連をもつかどうか興味深い所である。

その他船尾西遺跡においても13世紀の建物が検出されているが、今回菱木下遺跡で報告する中世の屋敷と比較できるような資料はこの地域では未だ検出されていない。

以上後述する各遺跡の論述と係わりあう周辺遺跡について述べてきたが、残された問題についてはまとめとして最後に論述するつもりである。

第2表 石津川流域遺跡群地形立地存続時期（地形分類は前案和子氏による）

| 遺跡群名 | 遺跡名 | 立地 | 時代 | | | | | 備考 | | |
|------------|--|--------------|------------------|----|----|----|----|-----|------|-----------|
| | | | 旧石器 | 縄文 | 弥生 | 古墳 | 古代 | | 中世 | |
| 上流域
遺跡群 | 辻之田 | 高位段丘
* | | | | ○ | | ○ | 註3他 | |
| | 泉北竊址群 | 丘陵・高位段丘 | ○ | | | ○ | ○ | ○ | | |
| 中流域
遺跡群 | 和田川
左岸 | 山田 | 高位 | | | | ○ | | 註43 | |
| | | 山田古墳群 | * | | | | ○ | | | |
| | | 輪田池東上 | 高位～沖積段丘
沖積段丘 | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 註11
註8 |
| | 和田津川
右岸 | 牛石古墳群 | 丘陵 | | | | ○ | | | |
| | | 野々井 | 丘陵、高位中位段丘 | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | 註3 |
| | | 西浦橋 | 中位段丘～沖積段丘 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 註7 |
| | | 葦木下 | 中位段丘 | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| | 石津川
右岸 | 万城池 | * | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| | | 豊田 | 沖積段丘 | | | | ○ | | ○ | 註42 |
| | | 深田 | * | | | | ○ | | | 註41 |
| 太平寺 | | 沖積段丘、氾濫原 | | ○ | ○ | ○ | | ○ | | |
| 鈴の宮 | | 中位段丘、沖積段丘 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 註2他 | |
| 毛穴 | 中位段丘 | | | ○ | | | | 註17 | | |
| 陶器川
流域 | 小阪 | 中位段丘、沖積段丘 | | | | ○ | ○ | ○ | 註26 | |
| 百舌島
川流域 | 深井清水町
土師南
土師
陵南麩寺
陵南
東上野芝
百舌島古墳群 | 中位段丘 | | | | | ○ | ○ | 註46 | |
| | | * | | | | ○ | ○ | | 註45 | |
| | | * | | | | ○ | ○ | ○ | 註36 | |
| | | * | | | | | ○ | | 註44 | |
| | | * | | ○ | | ○ | ○ | | 註10他 | |
| | | 中位段丘、氾濫原 | | ○ | | ○ | ○ | ○ | 註38 | |
| | | 中位段丘 | | | | ○ | ○ | | 註37 | |
| 中位段丘、低位段丘 | | | | | ○ | | | | | |
| 下流域
遺跡群 | 石津川
左岸 | 四ツ池 | 低位段丘
沖積段丘、氾濫原 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 註5他 | |
| | | 船尾西 | 氾濫原 | | ○ | | ○ | ○ | 註30 | |
| | | 浜寺昭和町
黄金山 | 砂堆
* | | | ○ | ○ | ○ | 註12 | |
| 石津川
右岸 | 石津 | 氾濫原 | | ○ | ○ | ○ | ○ | 註27 | | |

注

- 1) 今回の地形分類はすべて前業和子の研究成果に基づく原図によっている。原因掲載を快く承諾いただきから感謝します。
- 2) 北野俊明 「鈴の宮」Ⅲ 堺市教育委員会 1983
- 3) 中村 浩 「歴史環境」【陶邑】Ⅰ 大阪府教育委員会 1976
- 4) 小野山節 「稲作技術の伝来」【堺市史統編】第1巻 1971
- 5) 芹沢長介 「新潟県中林遺跡における有舌尖頭器の研究」 1966
- 6) 「池上・四ツ池遺跡」16、17 第2版和遺跡調査会 1971
樋口吉文 「四ツ池遺跡」 四ツ池遺跡調査会 1981
- 7) 野田芳正 「西浦橋遺跡発掘調査報告」【堺市文化財調査報告】第12集 堺市教育委員会 1983
- 8) 森井貞雄氏教示
- 9) 註2に同じ
- 10) 中村 浩編 「百舌鳥阪南遺跡発掘調査概要」 大阪府教育委員会 1975
- 11) 芝野圭之助 「西浦橋・鶴田池東遺跡発掘調査概要」 1980
- 12) 堅田 直 「四ツ池遺跡」 考古学シリーズ5 帝塚山大学考古学研究室 1969
- 13) 註12、第2版和国道内遺跡調査会 「池上・四ツ池」 1970、同 「第2版和国道内遺跡発掘調査報告書」4 1971、同 「池上・四ツ池遺跡」2～17 1969～1971、四ツ池遺跡調査会 「四ツ池遺跡」1971～1981 堺市教育委員会 「四ツ池遺跡」1977～1983、堺市教育委員会 「四ツ池遺跡発掘調査報告書」 1981
- 14) 樋口吉文 「まとめ」【四ツ池遺跡】 四ツ池遺跡調査会 1978、同 「まとめ」【四ツ池遺跡発掘調査報告書】 堺市教育委員会 1981
- 15) 小嶋暁子 「遺物」【池上・四ツ池】 P.106 第2版和遺跡調査会 1970
北野俊明 「結語」【鈴の宮】Ⅲ P.114 堺市教育委員会 1983
- 16) 広瀬和雄 「岸和田・貝塚市城岡辺の遺跡群の動向」【島中遺跡発掘調査概要】Ⅰ 大阪府教育委員会 1978
- 17) 北野俊明 「遺跡の位置と環境」【鈴の宮】Ⅲ P.4 堺市教育委員会 1983
- 18) 註11に同じ
- 19) 註12に同じ
- 20) 註12に同じ
- 21) 中村 浩 「遺跡の立地とその環境」【陶邑】Ⅱ 大阪府教育委員会 1980
- 22) 小野山節 「稲作技術の伝来」【堺市史】統編第1巻 1971
- 23) 註21に同じ
- 24) 尾谷雅彦氏教示
- 25) 樋口吉文 「四ツ池遺跡」 堺市教育委員会 1983
- 26) 野田芳正 「遺跡の位置と環境」【大阪遺跡発掘調査報告】 堺市教育委員会 1983
- 27) 森 浩一 田中英夫 「堺市浜寺石岸町遺跡概報」【古代学研究】9 1968
- 28) 藤沢一夫 「野々井二本木山古墳の調査」【大阪府の文化財】 大阪府教育委員会 1962
- 29) 芝野圭之助氏教示
- 30) 北野俊明 樋口吉文 「船尾西遺跡発掘調査抄報」 堺市教育委員会 1978
- 31) 北野俊明氏教示
- 32) ここでの数値は基本的に中井正弘の「伝仁徳説と百舌鳥古墳群」での数値に浜寺四ツ塚古墳群を加えている。
- 33) 広瀬和雄 「和泉北部における古墳群の動向」【大園遺跡発掘調査概要】Ⅰ 大阪府教育委員会 1975
- 34) 吉田 晶 「日本古代村落史序説」 1980
- 35) 註10に同じ

- 36) 奥田 登編 「土師遺跡49年度発掘調査概報」 1975、同編 「土師遺跡50年度発掘調査概報」
1976 森村健一 「土師遺跡発掘調査報告書」その1 1976 十河裕都 「土師遺跡発掘調査報告」
「堺市文化財調査報告書」第9集 1981 すべて堺市教育委員会
- 37) 樋口吉文 「東上野芝遺跡発掘調査報告」 「堺市文化財調査報告」第10集 堺市教育委員会 1972
- 38) 奥田 登編 「狭南遺跡発掘調査報告書」 狭南遺跡調査会 1975
- 39) 北野俊明氏教示
- 40) 註2に同じ
- 41) 中村 浩編 「陶邑・深田」 大阪府文化財調査抄報第2集 大阪府教育委員会 1973
- 42) 奥 和之氏教示
- 43) 泉素 峯 「山田遺跡の住居址とその付近」 「和泉考古学」第4号 1959
- 44) 森村健一 「土師遺跡発掘調査報告」Ⅰ 堺市教育委員会 1977
- 45) 堺市教育委員会 「土師南遺跡」現地説明会資料 1984
- 46) 北野俊明・十河裕都 「深井清水町遺跡発掘調査報告」、十河裕都 同 「堺市文化財調査報告書」
第9集 1981、嶋谷和彦 同 「堺市文化財調査報告」第13集 1983、いずれも堺市教育委員会

Ⅲ 西 浦 橋 遺 跡

III 西 浦 橋 遺 跡

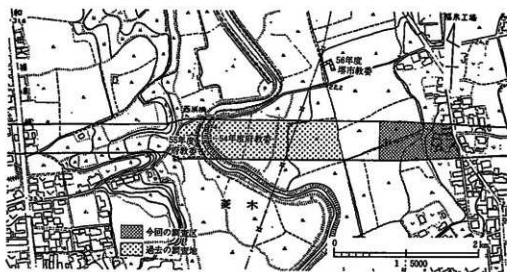
第 1 章 第 II 調 査 区

第 1 節 は じ め に

遺跡の立地、境界 西浦橋遺跡は、東北丘陵内の椋丘段の西北端に位置する洪積段丘の縁辺にひろがる。当遺跡は、遺跡の西部を南から北に向かって流れる和田川によって形成された沖積地・氾濫原と遺跡の東部に見られる洪積段丘中位面にまたがって立地している。又、西を鶴田池東遺跡、東を菱木下遺跡と接しており、これらの遺跡と当遺跡の境界については、東は市道菱木33号線、西は和田川氾濫原で面されている。

過去の調査 当遺跡の調査は、昭和53・54年度に大阪府教育委員会が、和田川の兩岸の沖積地・氾濫原部分を行ない、昭和55年度には、和田川西岸の沖積地部分を大阪府教育委員会が再度実施しており、昭和56年度堺市教育委員会が東岸の沖積地部分を実施している。これまでの調査は、沖積地・氾濫原部分を重点的に行なっており、縄文時代晩期から江戸時代に至る遺構・遺物が断続的に確認されている。

今回の調査は、当初昭和56年9月30日より昭和57年3月31日までの期間で、菱木下遺跡との境界（市道菱木33号線）から西へ163m、822.2mを実施する予定であった。しかし、調査開始に伴い沖積地部分の南北両側に土層観察用トレンチを設定した結果、従来無遺物層として認識の地



第1図 調査区位置図

山とされていた黄色粘土層の下層に灰色砂礫層が確認され、弥生時代中期の壺、甕等の遺物を検出した。よって、急拠、設計変更を行ない調査区を道路センター№540ラインより東側部分の4869㎡を実施することとし、№540ラインより東側部分については、次年度の調査とした。尚、№540を境にして西をⅠ工区、東をⅡ工区とした。今回の調査は、Ⅱ工区を行なった。

調査は、東部の台地上から行ない、順に西部の沖積地部分へと拡大していった。台地上では、弥生時代中期から江戸時代に至る各時期の遺構が、同一面(地山面)から検出され、沖積地部分では、各時期毎に包含層の堆積が見られた。そこには、弥生時代から現代に至る溝・建物跡を中心とした遺構が検出された。

第2節 微地形と層序 (第2図; 図版6)

1 微地形

当遺跡は、前節でも述べられたように、泉北丘陵内のいわゆる榊丘陵の西北端に位置する。遺跡は、南から北に向かって流れる和田川の兩岸に形成された沖積地及び氾濫原と東に接する葦木下遺跡から続く洪積段丘中位面にまたがる形で立地している。

今回の調査区は、和田川の東岸にあたり現和田川から東へ約150m付近の段丘崖を経て葦木下遺跡と接する部分までである。

現地表面の標高は、調査区西端でT.P.+21.10mを測り、地形は東に向かってゆるやかに上昇している。段丘崖直下では、T.P.+21.50mを測る。段丘崖は、約1.0~0.8mの比高を持ち、段丘崖直上ではT.P.+22.30mを測る。62bライン付近までは、比較的急傾斜をもって上昇し、その後はゆるやかな傾斜になる。調査区東端でT.P.+23.35mを測る。

以下、層序について記載するが、段丘面上は、段丘崖付近において若干の斜面堆積層(灰茶色砂質土層)が見られるのみで包含層はほとんど見られず、調査区西部の沖積地、氾濫原を中心に下位より概説する。

2 層序

今回の調査では、現地表面下約1.3mにおいて自然河川内から弥生時代中期の杭列群遺構が検出されたために、これより下層に至る掘削を停止した。しかし、調査中に行なった土層確認のための試掘等の結果によって現地表面下3.0mまでの沖積層を確認した。概ね13層である。

第13層 青灰色砂礫層。厚さ、時期については未確認であるが、縄文時代晩期以前の堆積層であろう。当時の自然河川内の堆積層か氾濫によるものか不明であるが、南北方向に広がりをもつようである。

第12層 青灰色シルト層。調査区中央では約0.8mの厚みであるが、南部では1m以上である。緻密には、3層ないし4層に分層が可能であるが各層の起伏ははげしい。上部には、木材、落葉を伴った腐植土層がブロック状に認められ、内部より縄文時代晩期船橋式土器を1点検出している。又、第12層上面からも船橋式土器を検出している。

第11層 灰色シルト層。 約0.2~0.3mの厚みで堆積している。遺物は検出されていないが、部分的に黒褐色粘土層を含んでいる。

第10層 黄色粘土層。 約0.4~1.0mの厚みを持つ。調査区中央では0.4~0.5m程度であるが、南部では0.8~1.0mある。上層、下層の2層に分層することができる。下層は、やや粘性が強い。2層とも炭化物は含んでいるが、遺物は未確認である。おそらく縄文時代晩期末の堆積層であろう。

第9層 灰色砂層。 第10層上面から切った自然河川内の堆積層である。基本的には、微砂層・細砂層・粗砂層による互層を呈しているが、底部付近及び中間層において落葉、炭化物を含む腐植土層がベルト状に見られる。これは、ある時期の河川の底面近くであろう。弥生時代中期の杭列遺構は、河川が $\frac{1}{2}$ 程度埋没した時点で設置されている。又、河川自体が完全に埋没するのは、弥生時代中期後葉であろう。

第8層 灰褐色砂礫土層。 約0.2~0.4mの厚みをもつ。遺物は、検出されていない。R64・R63区の一部・S64区・T64区と南北に帯状に見られる。北端ではT.P.+20.30m、中央ではT.P.+20.50m、南端ではT.P.+20.70mと北に向かって下降する微高地状を呈している。南端のT64区では平安時代末から鎌倉時代初頭のビツ群が見られ、さらにSDN2の西側をなしている。

第7層 黄灰色粘土層。 約0.3~0.4mの厚みを持つ。下部は砂性が強く、細砂がブロック状に認められる。炭化物は多量含まれているが、遺物は検出されていない。沖積地全域にはほぼ均一に堆積しており、安定した沖積平野を形成している。上面には奈良時代の溝SDA3、SDA4が見られる。

第6層 灰色粘質土層。 約0.15~1.0mの厚みで均一に堆積しているが、64bライン付近より東は茶褐色粘質土層に変わる。平安時代末から鎌倉時代初頭にかけての水田の耕作土であろう。

第5層 茶灰色粘質土層。 約0.2mの厚みで均一に堆積する。64bライン付近のSDA6より東で淡灰茶色砂質土層に変わる。中世の耕作土であろう。

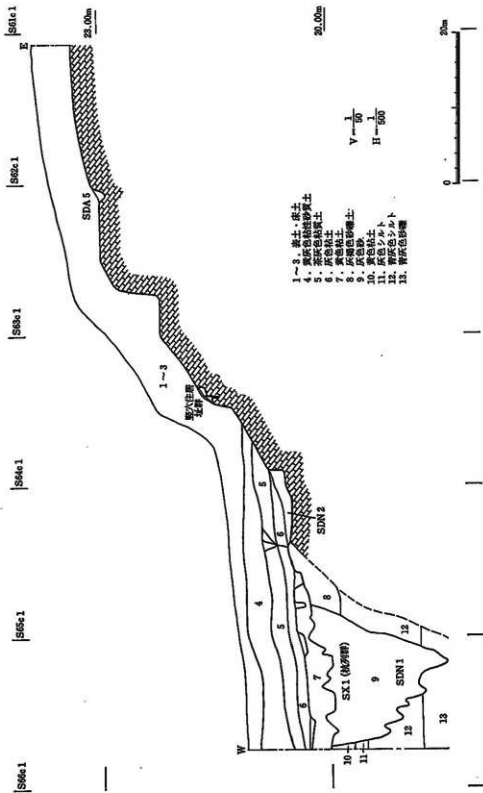
第4層 黄灰色粘性砂質土層。 0.15~0.4mの厚みで調査区西端から段丘崖直下に至る広範囲に認められる。近世の耕作土であろう。

第3~1層 現代水田の床土・耕作土である。

第3節 遺 構 (付図1; 図版2~21)

1 第Ⅰ調査区の遺構

現地調査の段階で検出した遺構は、弥生時代から現代に至る90ヶ所である。その後、報告書作成段階において若干の検討を加えた結果60ヶ所となった。又、縄文時代については、遺物のみ出土し、遺構は検出されなかった。これらの遺構の大半は、段丘上に集中し、土竈・溝・孤立柱建



第2図 計 林 土 層 図

物・堅穴住居址・井戸・鍛冶炉・自然河川・杭列群等バラエティーに富んでいる。その概要は、第1表に示すとおりである。

第1表 遺構集計表

| | | 弥生時代 | 古墳時代 | 奈良時代 | 鎌倉時代 | 室町時代 | 江戸時代 | 計 |
|--------|-----|------|------|------|------|------|------|----|
| 堅穴住居址 | | | 12 | | | | | 12 |
| 掘立柱建物 | | | 1 | 1 | 3 | | | 5 |
| 溝 (自然) | | 1 | 1 | | | 1 | | 3 |
| (人工) | | 1 | | 3 | | | 1 | 5 |
| 井戸 | | | | | | | 2 | 2 |
| 土壇 | | 2 | | | | | 22 | 24 |
| 方形周溝基 | | 2 | | | | | | 2 |
| その他の遺構 | 杭列群 | 2 | | | | | | 2 |
| | 集石 | | | | 1 | | | 1 |
| | 鍛冶炉 | | | | 1 | | | 1 |
| | 埋瓦 | | | | | | 3 | 3 |
| 計 | | 8 | 14 | 4 | 5 | 1 | 28 | 60 |

以下、各時代順に、主要遺構の説明を行なうこととする。

A 縄文時代

先にも述べた様に、この時期の遺構は検出されていないが、若干の土器片・石器（石鏃）が出土している。石鏃は、後世の包含層内より検出されたものであるが、土器片は、第12層青灰色シルト層より比較的良好な縄文時代晩期船橋式を検出している。第12層上面は、面的な調査を行っていないために、遺構の有無は未確認であるが、船橋式土器の包含層であると言えよう。

昭和56年度に堺市教育委員会が当調査区の北西約60mの地点を調査した際にも同時期の遺物が検出されており、又、現在調査中の第Ⅰ調査区でも、縄文時代晩期長原式の甕棺が1基検出されている。これらの事実を総合すると、当調査区近辺に縄文時代晩期末の集落の存在を想定することができる。

B 弥生時代

この時期の遺構としては、調査区東端の台地上に、方形周溝基2基（STS1・2）、土壇2基（SKA1・2）、沖積地部分に自然河川（SDN1）、自然河川に伴う杭列群（SX1）、溝（SDA1）、溝に伴う杭列群（SX2）が検出された。

方形周溝基（STS1・2、SKA1）（第3図；図版11）

調査区東端の台地上（S61区）に検出されたもので、この付近は、調査区内の最高所にあたりT.P.+23.40mを測る。2基の方形周溝基は、共に後世の削平をげしく受け、周溝の一部が検出されたのみで、方形周溝基として取り上げるには非常に問題がある。しかし、すぐ東部に隣

接する菱木下遺跡第Ⅰ調査区に検出された比較的残存状況の良い方形周溝基群と同時期の溝であり、菱木下遺跡第Ⅰ調査区の方形周溝基と立地、距離等の点から一連のものと考えられる事。STS1は、東端で直角に曲がる事、等から検出された2本の溝状遺構を方形周溝基の周溝の一部としてとり扱った。

STS1 東西方向の溝でおそらく方形周溝基の北辺を画するものであろう。溝の西端は、徐々に浅くなり切れている。東端は、やや浅くなりながらも南へ直角に屈曲している。しかし、その先は攪乱土壌に切られ不明である。東西方向の長さ9.0m、幅員1.2~1.6m、深さ0.3mである。埋土は、上層が黒褐色粘質土層、下層が灰黄褐色粘質土層である。埋土内からは、少量の土器片、ナヌカイト片、石燈丁が検出された。又、STS1の南に接する様にして、直径1.0m、深さ0.3mの円形土壇（SKA1）がある。埋土は、STS1の上層で同一であるが遺物は検出されていない。STS1に伴うものとすれば、墓墳の可能性が高い。

STS2 STS1の北東2.5mに位置する東西方向の溝である。西部は、防空壕によって切られ、東部は調査区外に至る。検出長3.5m、幅員1.5m、深さ0.1~0.3mである。埋土は、暗茶灰色砂質土層で少量の土器片、ナヌカイト片を出土した。

先にも述べた様に、これら2基の方形周溝基は菱木下遺跡第Ⅰ調査区西端で検出された7基からなる方形周溝基群に連続するものと考えられる。その中でもSTS1は、最西端に位置し、墓墳の西限にあたるものと思われる。

自然河川（SDN1）、自然河川に伴う杭列群（SX1）、溝（SDA1）、溝に伴う杭列群（SX2）（付図2；図版7~10）

調査区東部の沖積地部分及び微高地に検出されたものである。

自然河川（SDN1） 調査区南西隅から北東方向に向かい、調査区中央付近で大きく蛇行して北西方向へ流れる。川幅は、約10~15m、蛇行地点では約20mある。深さは、米摺の為未確定であるが、蛇行地点付近で川に対して直交したトレンチを入れた結果では、2m程度である。

自然河川（SDN1）に伴う杭列群（SX1） SDN1の蛇行地点すなわち川幅の最も広い所に川に直交して川幅いっぱい打設されている。又、SX1が打設された時点では、SDN1は約3/4埋没している。SX1の全長は、西端が次年度調査地域にかかっている為に不明であるが、検出長は約20mである。SX1は、丸太材（現存長3~7m、直径10~20cmの自然木の枝を切り落とした丸太）を横にして上下二段に重ね、その背後（川下）に丸杭（現存長0.5~0.7m、直径3~5cm）を打設して固定している。そして、丸太材の前面（川上）に板杭（現存長0.4~0.6m、幅員10~15cm、厚み3~5cm、先端部は尖らせている）を密に並べて打設している。さらにその前面には部分的に丸杭が見られる。ただSX1西端の4~5mについては、丸太材は認められず、板杭のみである。

溝（SDA1） SX1の東端より北東方向にのびるものである。幅員約5m、深さ約0.5mである。SDN1の東岸は、この付近では礫層によって形成された微高地で、SDA1は、この

礫層を掘削している。

溝(SDA1)に伴う枕列群(SX2) SDA1とSDN1の接点から、北東方向へ約5mの地点に見られるものである。SDA1に直交して、丸枕を密に打設している。丸木材は見られない。

C 古墳時代

この時期の遺構としては、竪穴住居址(SBK1~12)、独立柱建物(SBP1)、溝(SDN2)がある。

これらの遺構は、全て古墳時代中期、後期に属するもので、前期に遡るものはない。前期は遺物も極めて少量しか出土していない。又、遺構の分布は、台地縁辺部から沖積地部分にかけて集中して見られる。

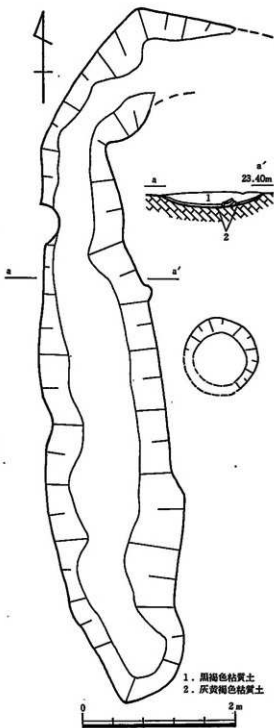
竪穴住居址(SBK1~12) (第4~9図; 図版12~15)

台地縁辺部(S63・T63区)の緩やかな斜面に段丘崖にそって12棟検出された。全て方形プランを呈し、一辺3.0~4.5mと全般的に小さく、後世の削平をばげしく受け、ほとんどのものが原形をとどめていない。ただ、SBK5のみがかろうじて完全なプランを残して検出された。

規模・方位・埋土・時期等については、第2表に記したとおりである。

SBK1 今回検出された住居址群の最も北に位置するもので、他の住居址からやや隔たれた位置にあり、又、最高所にある。東隅と西隅に柱穴が見られるが、削平がばげしく残存状態は非常に悪い。

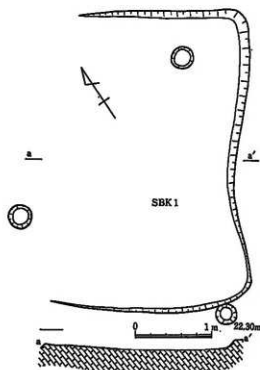
SBK2 北東隅と南東隅に2ヶ所柱穴が見られる。柱穴間は、2.6mである。住居址東辺に周溝(幅員0.2m、深さ0.1m)



第3図 STS1、SKA1平面図・断面図

第2表 竪穴式住居址一覽表

| 番号 | 地区 | 形状 | 規模一辺
(m) | 深
(cm) | 埋 土 | 主 軸 | 時 期 |
|----|---------|----|-------------|-----------|-------------------------|--------------|------------|
| 1 | R63、S63 | 方形 | 4.5 | 5 | 茶灰色礫土 | N34°40'38" E | 5世紀末～6世紀前半 |
| 2 | S63 | 方形 | 3.8 | 11 | 茶灰色粘質土 | N | 5世紀末～6世紀前半 |
| 3 | S63 | 方形 | 4.3 | 12 | 茶灰色粘質土 | N10°44'53" W | 5世紀末～6世紀前半 |
| 4 | S63 | 方形 | 4.4 | 6 | 茶灰褐色粘質土 | N | 5世紀後半 |
| 5 | S63 | 方形 | 3.3 | 10 | 茶灰色粘質土 | N 5°34'49" W | |
| 6 | S63 | 方形 | 4.0 | 5 | 茶灰色粘質土 | N 8°06'34" W | 5世紀末～6世紀前半 |
| 7 | S63 | 方形 | 3.3 | 7 | 茶灰色粘質土 | N36°40'41" E | 5世紀末～6世紀前半 |
| 8 | S63 | 方形 | 3.8 | 10 | 茶灰色粘質土 | N35°28'30" E | 5世紀末～6世紀前半 |
| 9 | S63、T63 | 方形 | 4.4 | 16 | 茶灰色粘質土 | N 9°15'51" W | |
| 10 | T63 | 方形 | 4.0 | 12 | 茶灰色粘質土 | N 6°17'38" W | 5世紀後半 |
| 11 | T63 | 方形 | 4.0 | 11 | 茶灰色礫土 | N40°42'21" E | 5世紀末～6世紀前半 |
| 12 | | | | | 上層：茶灰色砂礫土
下層：淡茶灰色粘質土 | N 9°27'04" E | |



第4図 SBK1平面図・断面図

6・7・8を切っている。

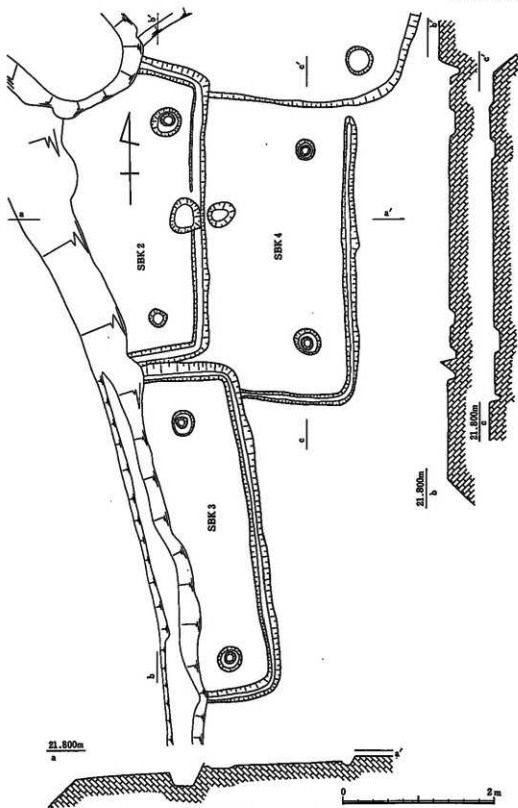
SBK6 SBK5の南西に重複して位置する。柱穴は、北西隅、南西隅、南東隅にあり、柱

をもつ。東辺中央に炭・焼土の入った土壌が見られた。残存状態は、非常に悪く西部約半分は欠損している。

SBK3 SBK9と並んで比較的大型の住居址である。柱穴は、北東隅と南東隅に検出され、間隔は3.2mである。周溝(幅員0.2m、深さ0.1m)は、比較的に明瞭に検出された。SBK2と若干の切合い関係にあり、SBK3が新しい。西側約半分は欠損している。

SBK4 SBK2の東に位置する。SBK2・3に切られている。北東隅と南東隅に柱穴があり、柱穴間隔は2.6mである。

SBK5 今回の調査で検出された住居址の中で最も小型である。唯一完全なプランで検出されたもので、柱穴は住居址の4隅と北辺の柱穴間の中央に1ヶ所見られる。柱穴間隔は、南北1.7m、東西2.0mである。SBK



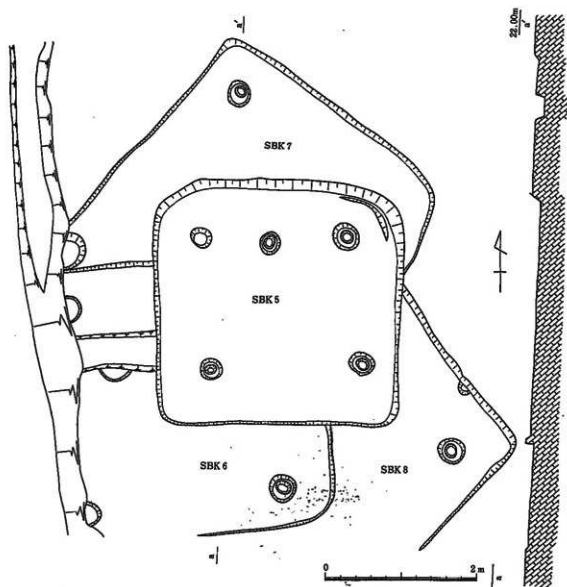
第5圖 SBK 2~4平面圖・断面圖

穴間は南北2.7m、東西2.5mである。

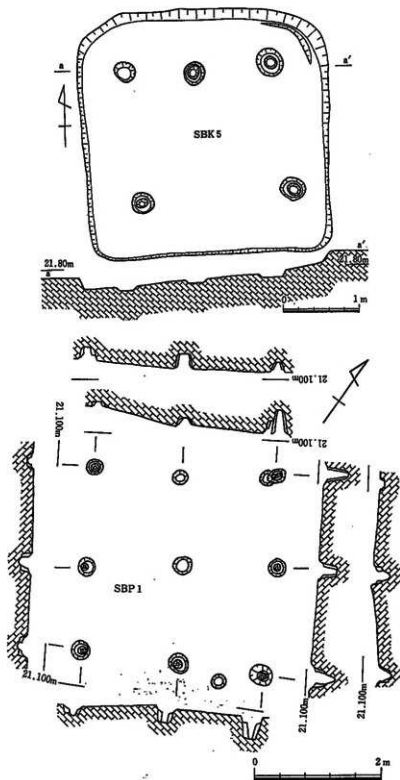
SBK 7 SBK 5の北側に位置する。北隅に1ヶ所柱穴が検出された。

SBK 8 SBK 5の東側に位置するものであるが、若干の「く」の字状の凸が残っている程度であるが、柱穴が1ヶ所検出されている事から一応住居址として扱う事にした。

SBK 9 SBK 6の南に位置するものである。北東隅、南東隅に柱穴が見られ、北東隅の柱穴が住居址隅より1.7m離れるのに対し、南東隅のものは、0.8mしか離れず不揃いである。柱穴間は、3.0mである。北辺から東辺にかけて凹溝(幅員0.2m、深さ0.1m、埋土茶灰黄色粘黄土層)が見られる。西側約1/2は、削平され欠損している。



第6図 SBK 5~8平面図・断面図



第7圖 SBK5、SBP1平面圖・断面圖

SBK10 SBK9の南東に重複する。SBK9とSBK11に切られる。北東隅、南東隅に柱穴が見られ、柱穴間は2.3mである。又、東辺の中央に楕円形の土壇がある。西側約1/4は欠損している。SBK4と共に最古のものと思われる。

SBK11 今回検出された住居址群の最南端に位置するもので、段丘縁を掘り込んでいる。住居址中央に不定形な土壇をもつ。西側約1/4は、削平されている。

SBK12 東側を大きく削平されており、又中央に近世井戸SE2がある為に、原形の約1/4しか残っていないものと思われる。

掘立柱建物 (SBP1) (第7図; 図版12)

段丘崖直下 (S63区南部、T63区北部) に約30個のピットが検出されたが、建物として認め得るものはSBP1のみである。2間×2間の総柱の建物で、南北3.2m、東西3.0mの南北棟である。柱穴の掘り方は全て円形を呈し、直径20~30cmである。又、ピット60、ピット61、ピット65には柱根を残していた。時期は、5世紀末~6世紀前半に位置付けられよう。

溝状遺構 (SDN2~8) (図版16)

段丘崖直下 (S63・64、T63・64区) に、南北方向に見られるもので、沖積地部分の東端に見られる南北の自然堤防状の微高地と段丘崖との間の後背湿地的なものと思われる。調査区南端から北へ約25m続き、幅員約10m、中央の深い部分で0.4mの深さをもつ。埋土は、大きく3層(上・中・下層)に分かれ、下層より黒灰色粘土層・黒灰褐色粘質土層・黒灰茶色粘性土層である。下層は6世紀初及び弥生時代、中層は6世紀後半、上層は8世紀及び平安時代の遺物を含んでいる。更に、下層をベースにしてSDN3~6、中層をベースにしてSDN7~8がある。ところが、これらの溝は、全て南北方向のものであるが、明瞭に検出されたものではなく、自然流路的なものと考えたい。

D 奈良時代

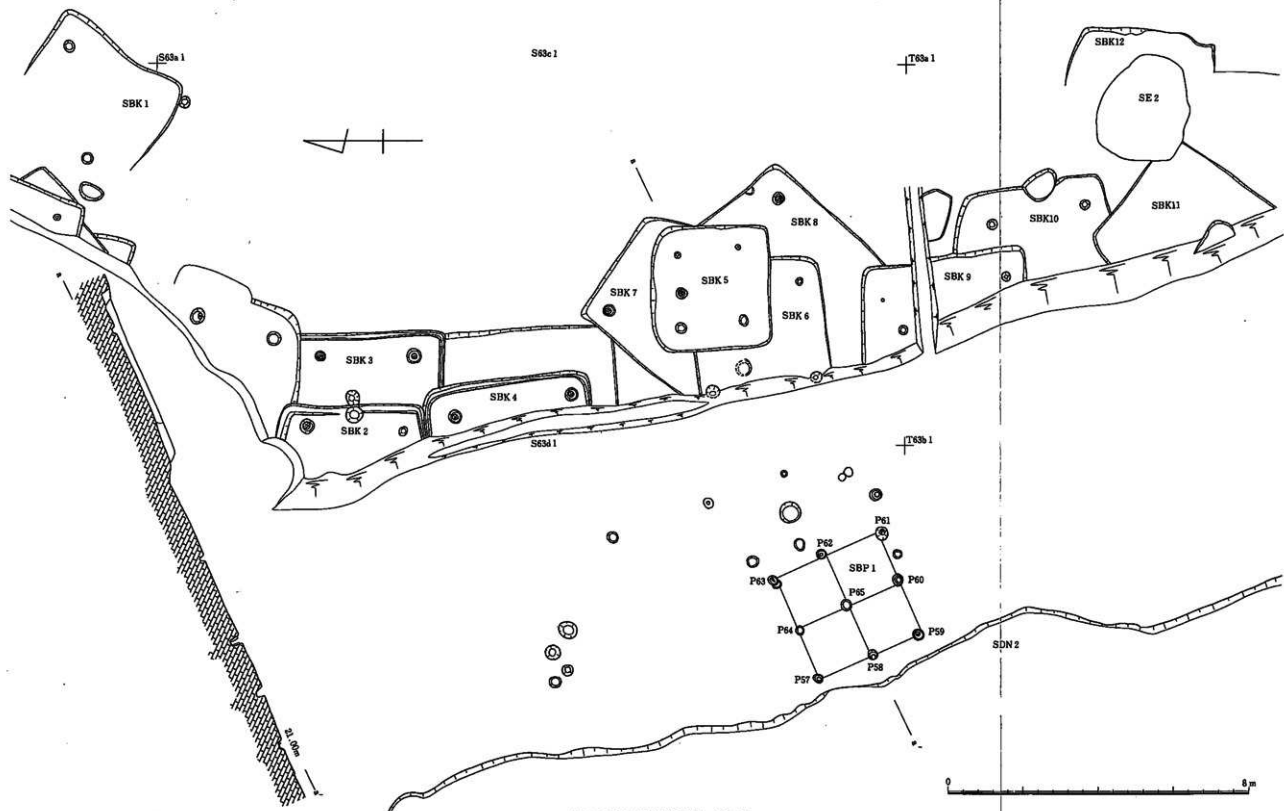
この時期の遺構としては、掘立柱建物 (SBP2)、洪積段丘上の溝 (SDA2)、沖積地部分の溝 (SDA3・4、SDN9) がある。

掘立柱建物 (図版16)

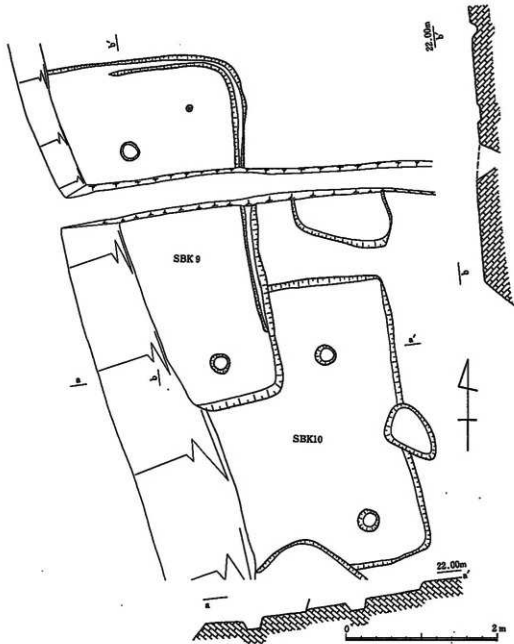
SBP2 古墳時代から徐々に埋没しつつあったSDN2の上面にある。黒灰茶色粘性土層をベースとし、比較的不安定な地盤に立地していると言えよう。桁行3間(5.3m)×梁行3間(4.8m)の南北棟の建物である。東柱は見られない。柱間は、桁行と梁行で異なり、桁行の柱間が1.9m、梁行は第2間が1.9mのほかは1.5mである。掘方の大きさは、ピット37が0.7~0.8mであるが、その他は0.4~0.5mの不整形を呈している。柱穴は、全て0.2m程度である。掘方の埋土は、黒灰茶色土層、柱穴の埋土は、暗灰茶色土層である。

洪積段丘上の溝 (第10図; 図版17)

SDA2 調査区東端S61・R61区に位置する東西方向の溝である。幅員5.0m、深さ0.75~1.0m、全長は西をSDA5に切られ東は調査区外に達するために不明である。検出長15.0mで



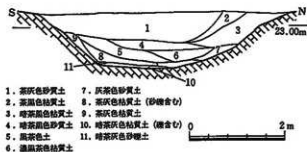
第 8 图 整穴住居址群平面图・断面图



第9図 SBK9・10平面図・断面図

ある。溝底のレベルは、基本的には西に向かって下降するが、中央付近には土壇状の凹地が見られる。埋土は、大きく3層に分けられ下層から暗茶灰色粘質土層、茶灰色粘質土層、茶灰色砂質土層である。上・中層からは大量の土器が検出され、その大半は6世紀後半及び奈良時代の須恵器である。下層の暗茶灰色粘質土層からは、弥生時代中期の土器片しか検出されていない。

沖積地部分の溝 (図版3・5)



第10図 SDA 2断面図

SDA 3 R・S・T65区にあり、ほぼ南から北に向かって調査区を縦断する溝である。幅員約1.0~2.0m、深さ0.2~0.4mを呈し、埋土は上下2層に分かれる。下層は、暗灰褐色粘質土層、上層は暗灰褐色粘質土層である。又、南端から約10mは2段掘りになっており最下層に灰色砂層

が埋積していた。

SDA 4 SDA 3の東側3~5m付近をSNA 3にはほぼ平行に走っているが、調査区はほぼ中央付近で2本に分かれ、1本はSDA 3と合流し、1本は約10m北進してとぎれる。SDA 3に比べて直進性に欠ける。

SDN 9 R63~65区に見られるもので、東西方向に弓なりになっている。おそらく下層のSDN 1・SDA 1と重複した位置にある事から凹地の溜りと考えたい。

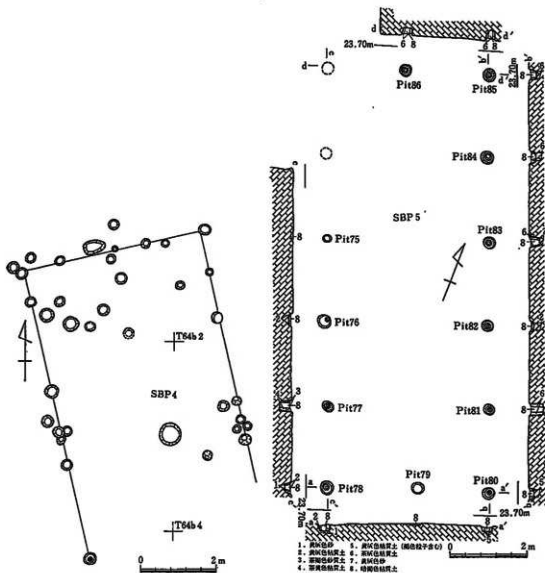
E 鎌倉時代

この時期の遺構としては、掘立柱建物 (SBP 3~5)、築石遺構 (SX 3)、鍛冶炉状遺構 (SX 4) がある。これら遺構は、洪積段丘上と自然堤防上の微高地にある。

掘立柱建物 (SBP 3~5) (第11図; 図版18)

SBP 3・4 T64区にある。この付近は、微高地の中でも最高所にあたりT.P.+ 20.70m前後を測る。40数個のピットが検出されたが、建物として認め得るものは、2棟である。又、この微高地は、南々東に向かって徐々に上昇しており、建物群も調査区外へ連続する可能性が十分に考えられる。SBP 3は、その大半が調査区に達しており、梁行2間 (4.8m)の南北棟の建物と推定できるに過ぎない。掘方は、円形を呈し、直径約0.2mである。掘方の埋土は、灰褐色砂質土、柱穴の埋土は暗灰褐色砂質土である。SBP 4は、SBP 3の北東にあり桁行5間以上 (7.7m以上) × 梁行4間 (5.0m)の南北棟の建物である。しかし、柱間は不規則である。桁行西辺は北から第1間1.0m、第2間2.4m、第3間1.0m、第4間1.0m、第5間2.4m、桁行東辺は第1間1.0m、第2間1.2m、第3間2.4m、第4間1.0m、梁行の北辺は西から第1間1.0m、第2間1.4m、第3間1.4m、第4間1.0mである。掘方は全て円形を呈し、直径0.2~0.3mである。掘方の埋土はピット12・13が黒灰茶色土、その他は灰黄茶色砂質土、柱穴の埋土は暗灰褐色砂質土である。

SBP 5 当調査区の最西端S61区にある。この付近は、今回の調査区内では最高所にあたり、T.P.+ 23.40mを測る。S61区の西部からT61区の西北部にかけて60個以上のピットが密集するが、建物として認め得るものは1棟であった。桁行5間 (11.0m) × 梁行2間 (4.3m)の南北棟の細長い建物である。北西隅とその南の掘方が防空壕によって欠損しているが、SBP 4と

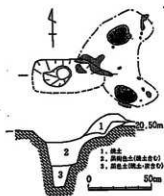


第11圖 SBP 4・5平面図・断面図

第3表 掘立柱建物一覽表

| 番号 | 地区 | 規模 (m) | 面積(m ²) | 建物主軸 | 備考 |
|----|---------|------------------------|---------------------|-------------|------|
| 1 | S63、T63 | 2間 (3.2) × 2間 (3.0) | 9.6 | N63°20'E | 古墳時代 |
| 2 | T63、64 | 3間 (5.3) × 3間 (4.8) | 25.44 | N15°30'20"W | 奈良時代 |
| 3 | T64 | 渠行3間 (4.8) | — | N 6°50'33"E | 鎌倉時代 |
| 4 | T64 | 5間 (7.7) 以上 × 4間 (5.0) | — | N14°02'10"W | 鎌倉時代 |
| 5 | S61 | 5間 (11.0) × 2間 (4.3) | 47.3 | N19°17'24"W | 鎌倉時代 |

比較すると極めて均整のとれた建物と言える。柱間は、桁行の第3間（中心間）が1.9mと狭く、その他は、2.2m～2.3mである。又、建物の南の梁行は、東側の第1間が2.3m、西側の第2間が2.1mである。掘方は全て円形を呈し、直径0.3m程度である。柱穴は、直径0.15～0.2mである。埋土は、掘方が黄灰色粘質土層、柱穴が暗黄茶色粘質土である。



第12図 SX4平面図・断面図

より上方に盛り上がっている。土壌の底部は、直径約10cmの円形を呈し、底から約20cmは炭化物を多量に含む黒灰色粘土層が見られた。土壌の北側には、焼土片と鉄滓が散乱し、SX3の上面からは比較的多量の鉄滓が検出された。SX3とSX4が互に関連する遺構かどうかは、鉄滓の分布範囲がSX2をあまり超えない事から、一応関連するものと考えたい。

F 室町時代

この時期の遺構としては、台地上にある溝(SDA5)のみである。SDA5は、R62・S62区に見られるもので北西方向に下降しつつびて調査区外に達している。幅員2～6m、深さ0.2～0.5mである。S62区内では、ほぼ南北に走り、溝底の比高差も少なく、幅も広い。

G 江戸時代

この時期の遺構としては、土壌群、井戸(SE1・2)、埋燵(SKA23～25)、溝等がある。特に、土壌が多数検出され、台地上の北東部に集中している。

土壌群 (第13図；図版20)

大小合わせて47個検出された。特にS62・R62区に集中して見られる。大半は、円形であるが、長方形等もある。法量・埋土については、第4表のとおりである。

井戸(SE1・2) (第15図；図版21)

2基の井戸が検出されたが、両方共衆掘りである。深さは、3m以上に達する為に底は確認できなかった。平面プランは、SE1(S62区)は円形を呈し、SE2(T63区)は上面がくずれた為か不整形である。

埋燵(SKA23～25) (第14・15図；図版20)

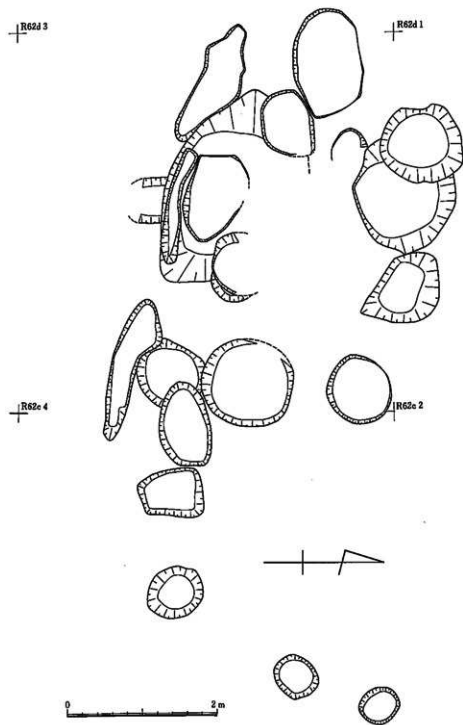
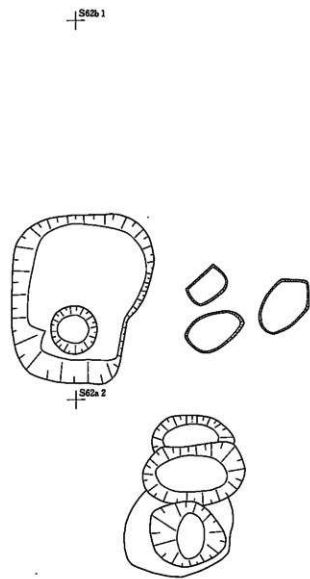
円形の土壌内に、いわゆる炭燵の燵を据えた状態のものを3基検出した。SKA23(R64区)、

集石遺構(SX3)及び鍛冶炉状遺構(SX4) (第12図；図版19)

SX3 R63・64、S64区の西部にかけて、黄灰色粘土層の上面に3～5cm大の小石が集中して認められたものである。人為的なものか、SX3の東側に帯状に見られる微高地の石が崩落したものか不明である。

SX4 SX3内に見られる。試掘トレンチによって、約1/4欠損している為に規模等については不明な点が多い。残存状態から推定すると、隅丸方形の土燵(長辺0.6m、深さ0.5m)の

北側の壁に焼土がこびりついている。この焼土は、土燵の上場より上方に盛り上がっている。土燵の底部は、直径約10cmの円形を呈し、底から約20cmは炭化物を多量に含む黒灰色粘土層が見られた。土燵の北側には、焼土片と鉄滓が散乱し、SX3の上面からは比較的多量の鉄滓が検出された。SX3とSX4が互に関連する遺構かどうかは、鉄滓の分布範囲がSX2をあまり超えない事から、一応関連するものと考えたい。



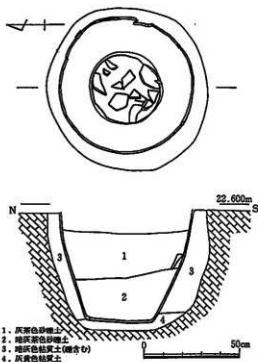
第19圖 近世土城跡平面圖
— 45 · 46 —

第4表 土質・埋裏一覽表

| 土質 | | | | | |
|----|-----------|-----|-----------------|--------|------------------------------------|
| 番号 | 地区 | 形状 | 規模 (cm) | 深 (cm) | 埋 土 |
| 1 | R 62 | 円形 | 直径48 | 8 | 茶色砂礫土 |
| 2 | R 62 | 円形 | 直径69 | 8 | 褐色砂礫土 |
| 3 | R 62 | 円形 | 直径60 | 18 | 上層：茶色砂礫土
下層：褐色砂礫土 |
| 4 | R 62 | 方形 | 長辺75・80、短辺60・40 | 10 | 赤褐色粘質土 |
| 5 | R 62 | 楕円形 | 長径110、短径70 | 6 | 黄褐色粘質土 |
| 6 | R 62 | 円形 | 直径90 | 17 | 暗灰褐色粘質土 |
| 7 | R 62 | 方形 | 長辺100、短辺80 | 8 | 暗灰色砂礫土 |
| 8 | R 62 | 楕円形 | 長径90、短径70 | 12 | 茶褐色粘質土 |
| 9 | R 62 | 円形 | 直径110 | 4 | 黄灰色土 |
| 10 | R 62 | 円形 | 直径100 | 45 | 上層：茶灰色砂礫土
下層：暗灰褐色粘質土 |
| 11 | R 62、S 62 | 不整形 | | 63 | 暗褐色粘質土 |
| 12 | R 62 | 不整形 | | 73 | 上層：淡青灰色粘土
中層：灰黄色砂礫土
下層：黄灰色粘土 |
| 13 | R 62 | 楕円形 | 長径143、短径94 | 6 | 淡黄灰色粘質土 |
| 14 | R 62 | 不整形 | | 11 | 茶褐色砂質土 |
| 15 | R 62 | 楕円形 | 長径110、短径74 | 5 | 黄茶色粘質土 |
| 16 | R 62 | 方形 | 長辺24、短径14 | 25 | 茶灰色粘質土 |
| 17 | R 62 | 円形 | 直径60 | 20 | 黄灰色粘土 |
| 18 | R 62 | 楕円形 | 長径75、短径60 | 17 | 上層：黄灰色砂質土
下層：黄灰色粘質土 |
| 19 | R 62 | 楕円形 | 長径80、短径50 | 4 | 黄灰色粘質土 |
| 20 | S 62 | 円形 | 直径60 | 7 | 灰茶色砂礫土 |
| 21 | S 62 | 円形 | 直径100 | 10 | 褐色砂礫土 |
| 22 | R 62 | 不整形 | | 5 | 茶褐色砂礫土 |

埋裏

| 番号 | 地区 | 掘方形状 | 規模 (cm) | 深 (cm) | 掘方埋土 |
|----|------|------|------------|--------|--------|
| 23 | R 62 | 円形 | 80 | 22 | 暗灰色粘質土 |
| 24 | R 62 | 円形 | 85 | 64 | 暗灰色粘質土 |
| 25 | R 62 | 楕円形 | 長径109、短径86 | 58 | 灰色粘質土 |



第14図 SKA24平面図・断面図

菱木下遺跡第Ⅰ調査区にかけて検出された方形岡溝基群、堅穴住居址群と合わせて丘陵地内における弥生時代中期のムラ(居住地・墓地・生産地)を把握する好資料を得た事である。

古墳時代後期になると、台地縁辺部に堅穴住居址群が見られ、居住地としての様相を示す。この時期の水田は、調査区内では沖積地部分及び後背湿地的な溝SDN2が考えられるが、SDN2については、花粉分析の結果イネ科の植物がきわめて少量しか検出されず水田として利用された可能性は薄い。又、沖積地部分は、畦畔・溝等の水田関連遺構が検出されず、調査区内では、古墳時代後期の水田は見られない。

奈良時代には、段丘崖直下にSBP2が見られる。3間×3間の建物で、SDN2の上面に立地しており、ベースは不安定である。おそらく住居的な建物ではなく、倉庫的な建物が想定される。更に、沖積地部分にはほぼ南北にのびる溝SDA3、SDA4がある。SDA3の底には、若干の砂層が埋積しており水が流れていた事を示すものであろう。又、ほぼ南北に直進している事から人為的に掘削されたものであろう。この時期になってようやく沖積地部分が安定し、利用され始めたと言える。台地上に検出されたSDA2も、最下層が弥生時代中期の土層のみ包含しており、従来谷地形であったものを利用しつつ部分的に底を深くする事によって台地上の水を集積し、水田へ導く灌漑施設と考えられる。

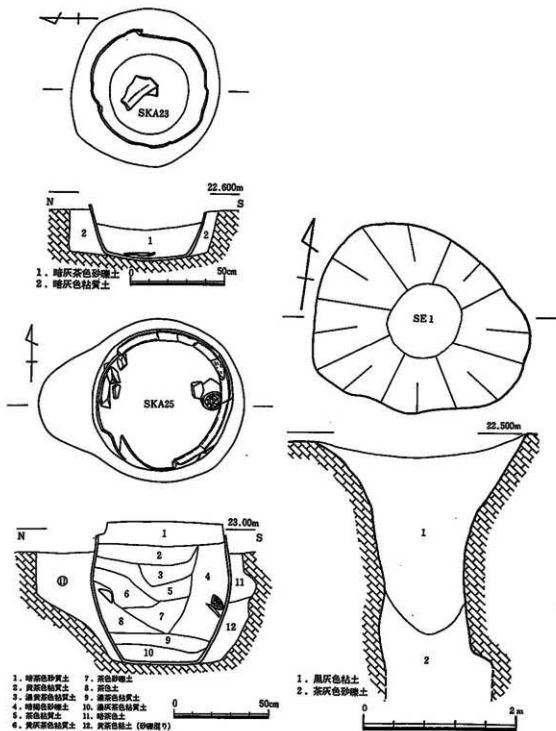
調査区内の沖積地部分が、水田として利用されるのは平安時代末及び鎌倉時代初頭であろう。この頃の建物として、SBP3・4・5の3棟が検出されているが、SBP3・4は沖積地部分

SKA24(S64区)については、約1/2程度しか残っておらず体部中央から上部は欠損していた。SKA25(S64区)は、口縁部が窠内に落ち込んでいたもののほぼ完全な形で検出された。法量・埋土等については、第4表に記したとおりである。

H 小結

以上、各時期の遺構について概略を記したが、今回の調査では弥生時代後期から古墳時代前期にかけて若干の空白期を置きながらも、弥生時代中期から江戸時代にわたる長期間継続した複合遺跡としての様相を十分に示している。

弥生時代中期のSDN1、SDA1、SX1、SX2は、水田経営に不可欠な、水を得る方法の一端が明らかにされたものと言えよう。更に、重要な点は台地上に当調査区及び



第15圖 SKA23·25、SE1平面圖·断面圖

近くの微高地上にあり、SBP5に比べて規画性も乏しい。水田に付随する倉庫的な建物であろう。又、SX3・4の存在は、鉄製農具等の鉄製品に必要な小鍛冶を想定させる。今回の調査区付近の沖積地部分の水田経営は、現代に至るまで継続されているが、台地上の開発は15~16世紀の溝SDA5が掘削されてからと言える。しかし、台地上の開発が顕著に行なわれるのは、土俵・井戸・埋壁が多数見られる様になる17世紀以降であろう。

註

- 1) 大阪府教育委員会 「西浦橋遺跡発掘調査概要」 1981年
- 2) 堺市教育委員会 野田芳正氏御教示

第4節 遺物

1 概観

調査区の東半部洪積段丘上と西半の沖積面とは、遺物の出土量・時期・出土状況が若干異なっていた。東半部では包含層出土遺物量はコンテナ約50箱で主に遺構周辺から出土し、その遺構に相当する時期の遺物が多い。SDA2、SDA5からは弥生時代から室町時代に至る土器が集中的にコンテナ100箱近く出土した。なかでも古墳時代後期から奈良時代の須恵器が出土土器の半数以上を占めていた。その他の遺構は調査区中程の北側と南側にある小規模な埋積谷の周辺に若干みられた。ここは斜面堆積物とともに比較的遺物包含層が厚い地点であった。他には段丘崖と段丘上に南北方向に造成された耕地盛土層に遺物が少量含まれていた。

西半部沖積段丘面上には中・近世の遺物包含層が存在し、旧石器~近世に至る遺物がコンテナ約400箱分出土した。その下層には縄文・弥生時代の河道が検出され、それらの埋没過程の中に溝・杭列等の遺構が検出されたのである。遺物は旧河道とSDN2付近に集中していた。洪積段丘西端にみられる小規模な段丘崖に設けられた住居跡等から転落したものと考えられる。旧河道からは木製品や弥生式土器・石彫丁・サヌカイト等が多数出土しているほか下層の青灰色シルト層からも縄文晩期物が出土している。旧河道埋没後堆積した黄色粘土層中には殆ど遺物はなく、その上面に流れるSDA4から多量の須恵器が出土した。またSDN2からも5世紀末から6世紀初頭の須恵器が多量に出土し、埋没するに従って6世紀後半・8世紀後半の遺物も含んでいた。

遺物包含層からの出土品には旧石器・縄文・弥生時代の石器及び剥片が300点近く検出されたほか、縄文後・晩期、弥生前・中期の土器等が出土している。古墳時代以降は古式須恵器から8世紀の円面硯まで多量の須恵器が出土し、平安時代以降黒色土器・施釉陶器・土師器・瓦器・東播系須恵器鉢・中国陶磁器等々が出土している。中世から近世にかけても伊万里・備前・丹波・信楽・常滑・美濃瀬戸・唐津焼等が在地の土師器・瓦質土器・瓦類・淡焼等と共に出土している。

その他の遺物として埴輪・製瓦土器・鵜羽口・貨銭・鉄滓・磁石等が出土している。以下時代順に上記の遺物について記述するが、溝内出土土器については埋没時期を示す遺物以外に多量の

前時代の遺物（特に須恵器）を含む場合が多く、（SDN2・SDA2・SDA7等）須恵器については、5世紀代から6世紀前半代、6世紀後半代から7世紀前半、7世紀後半から8世紀後半までの三時期に大別して説明することにした。

2 各時代の遺物

A 旧石器時代（第16図1・2、第17図；図版126・127）

SDN2とその周辺から2点のナイフ形石器が出土し、翼状剥片・石核も検出した。SDN2周辺について1mグリッドを約10ヶ所敷け、淡黄白色粘黄礫混り土を20cm近く掘り下げたがサスカイト等は出土しなかった。

本遺跡から出土した旧石器はすべて原位置を保ったものではなく、後世の包含層中から出土したものである。つまり後世の削平による2次堆積物である。しかも中位段丘上ではなく、沖積段丘上からの出土品が多い。

ここではナイフ形石器や翼状剥片のような明瞭な旧石器以外、剥片やチップについてはその風化度を一定の基準とし、著しい風化度を有するサスカイト片を旧石器とした。縄文時代、弥生時代の石器はサスカイト本来の黒味をそれほど失っておらず、明らかに風化度の差がみられた。チャート製の1点を除いて、他はすべてサスカイト製である。全部で約400点出土し、石核、ナイフ形石器、有使用痕石器、翼状剥片などが20点である。

ナイフ形石器が2点出土した（第16図1・2）。1は典型的なナイフ形石器であるが、2はファーストフリックを素材としたものと考えられるもので、小形で、背面調整も、背面からのものである。1は半折しており、2も両端をわずかに欠いている。翼状剥片は1点出土した（第17図1）。打面調整は余り丁寧に行われず3・4回小さく行われているにすぎない。しかも素材の質があまりよくなく、1次剝離の打力が下に抜かず、外側に力が抜けたようで、きれいな剥片とはなっていない。腹面も大きく階段状剝離面が残っている。3（第17図）は剥片素材としては盤状剥片と考えられる。石核は2点出土した。4（第17図）は比較的小さく薄い。風化もあまり進んでいず、打面調整もない。背面も自然面がある。円礫を半裁し、さらに四分した剥片を素材としたものである。円周にそって打面とし、小さな剥片をとっている。時代の下がるものかもしれない。5（第17図）は背面に自然面をもつ盤状石核を素材とした、比較的大きな翼状剥片石核である。ファーストフリックしか剝取されていない。比較的細かな打面調整が施されているが力が下にきれいに抜かず、階段状をなしてとまったためあまりいい剥片がとれず、それ以後石核としては使用されなかったようである。恐らく、右端にみられる調整はスクレパーとして使用する為のものではないかと考えられる。

2（第17図）はチャート製の剥片であるが不思議にも両面ともが腹面状を呈しており、上下2つの打面を有している。

第5表 石器数量表

| | 数量 | % |
|-----------|------|----------------------------|
| ナイフ形石器 | 2 | 10 |
| 剥片石器 | 9 | 45 |
| 有使用痕石器 | 4 | 20 |
| 翼状剥片 | 2 | 10
(27-31と27
ナイフを併せ) |
| 石核 | 3 | 15 |
| フリック 4730 | 計 20 | 100% |

バイポーラー打法とは異なるが、片側の打点は剥離の過程で生じたものであろう。

今回出土したうち、定形石器としてはナイフ形石器2点であり、翼状剥片及び石核も少なく、組成を云々する所までは論じられないが、それほどの磨滅もうけず、極めて近接した位置からの2次堆積物であると推定される。これらの石器は石核の1点を除いて、国府型ナイフ形石器文化の一時期の所産といえる。

B 縄文時代 (第8図; 図版128)

青灰色シルト層から晩期末の甕が出土した以外は包含層及び後世の遺構から出土している。

第6表 縄文式土器出土地点別数表

| | 65区 | 64区 | 63区 | 62区 |
|-------|-----|-----|-----|-------|
| R | | 2 | 1 | |
| S | | | 2 | |
| T | | 1 | 1 | 1 |
| | 1 | 1 | | 1 |
| 遺構その他 | 7 | | | 計 18点 |

土器

縄文後期口縁部4点と晩期壺口縁部8点、阿底部1点が西半部沖積面上の遺構・包含層中より検出された。T65地区青灰色シルト層内より出土した晩期末の甕以外は小破片で文様と胎土について若干説明を加えるのみとする。胎土についてははくさり砂岩を含むものと角閃石・金雲母を含むもの、緑色片岩の風化したものを含むのとに三分された。河内産と考えられる土器は後期の磨消縄文を施すもので、淡黄茶色を呈し、断面は黒色である。砂

粒が多くもろい。晩期の土器は細い刻み目凸帯を口縁端部にめぐらし(第18図4)、淡黄茶色を呈す。胎土は均質で硬い。晩期の甕には若干の緑色片岩を含み、凸帯上に背頭大の圧痕がみえるものが含まれ(第18図1)、河内産のものとは趣を異にするものであった。底部片は在地産の胎土で、外面に擦痕が見え、あげ底を呈す(第18図10)。全体に他地域産のものがよく目についた。特に河内産のものは出土土器の半数以上にのぼるようである。

縄文時代・弥生時代石器 (第16図3~17、第19・56・57図; 図版126)

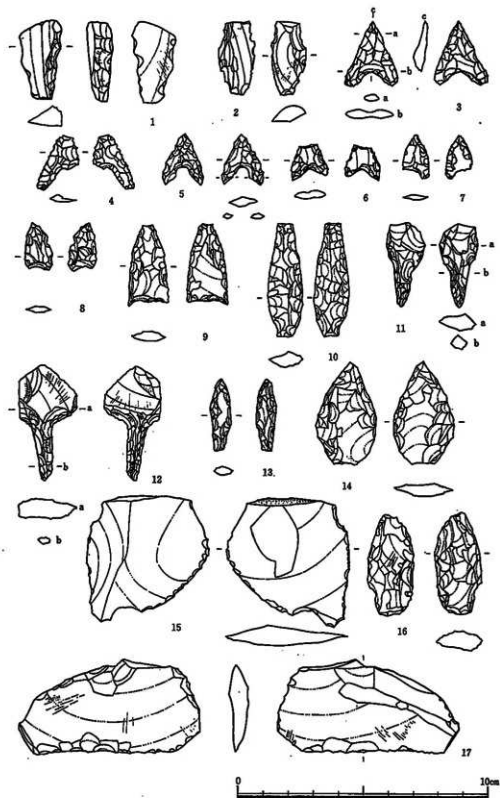
石器については、剥片・チップ等も含めて観察した結果、明確に時期区分し難いものがあり、一括して説明する事とする。

この時期の所産としては剥片、チップも含めて数100点に達する。しかし、石磨丁のような明らかな弥生時代の石器とされる遺物は別として、石鏃、石錐、不定形石器・石斧については必ずしも時代ごとに明らかにできないものもある。従ってその組成としては若干の混乱を伴うことを断っておく。

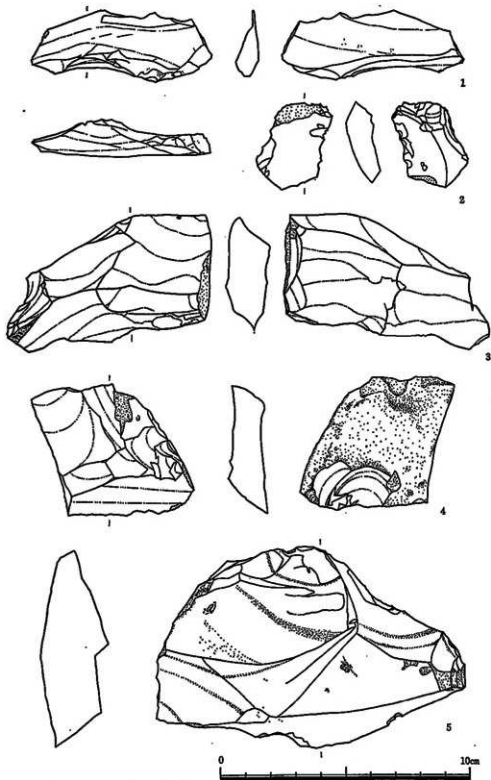
これらの石器はSTS1の周辺とSDN2の中から集中的に出土した。

打製石器と磨製石器の比率は石器素材としての剥片やチップを除くと、打製石器2:磨製石器1となる。打製石器と認められるものが全部で60点、うち未製品を含めて石鏃が17点、以下石錐8点、スクレパー1点、不定形石器26点、有使用痕石器7点であった。剥片が約200点、チップが約200点であった。

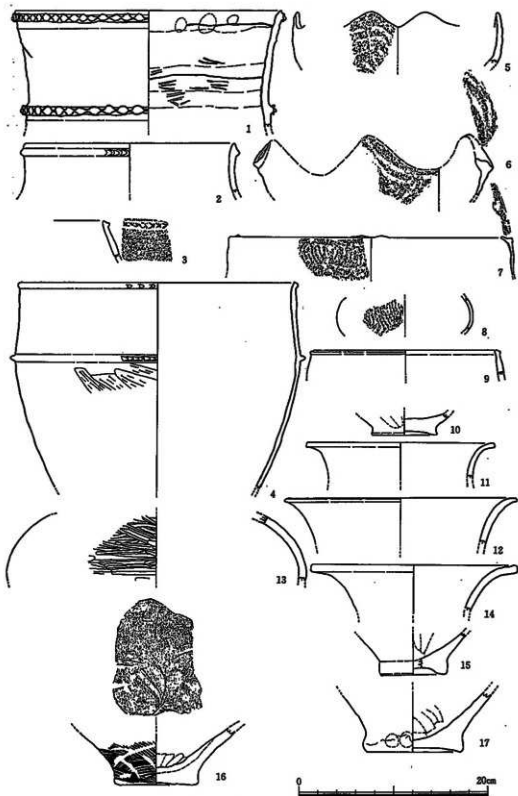
石鏃(第16図3~10・14・16)17点の内、完形品が11点であるが10・14・16以外は凹基式で、



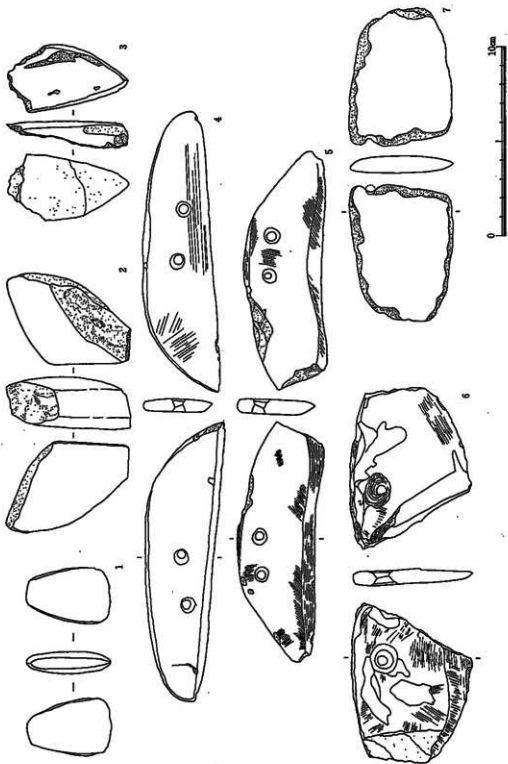
第16図 旧石器～弥生時代の石器



第17圖 旧石器



第18圖 縄文・弥生式土器



第19圖 磨製石器

弥生時代中期前半以前の所産であることを示している。とりわけ4～8は恐らく縄文時代後、晩期の所産と考えられる。4は中期後半頃のものとして推定される。石錐（第16図11～13）はつまみ部を有するタイプ（11・12）とつまみ部を有さない、もみキリ（13）の2つのタイプがある。17（第16図）は横長の剥片の刃部に両面加工を施したナイフ様の石器である。又15（第16図）は幅広い剥片の左右側面に規則的な刃こぼれがみられ、刃部をナイフ状に使用した結果生じたもので、いわゆる有使用度石器である。これら2点は杭列群SX1周辺から出土したもので、弥生時代中期前葉より中葉にかけての時期のものである。石槌も1点出土した。

磨製石器のうち、石庵丁（第19図4～7）が最も多く、10点である。以下石斧3点、砥石4点、凹み石、叩き石など4点であった。石庵丁は5（第19図）を除いてすべて包含層中から出土したものである。5は弥生中期前葉のSTS1から出土したものである。4と5は比較的よく使いこんだものであるが4は比較的製作時の形をよくのこしていると思われる。7は未製品であるが、紐孔の穿孔が施されている。石庵丁はすべて緑色片岩製である。石斧（第19図1～3）のうち3は断面が長楕円形を呈し、始刃をなさないとして推定され、時代としては弥生時代よりむしろ縄文時代とした方が妥当かもしれない。1は扁平の小型の石斧である。工作用のものであろう。3は柱状片刃石斧である。わずかに刃部の角度が判明している。砥石（第56図1・3）は全部で4点出土したが、余り大形のものはなく比較的小さかった。いずれも砂岩製であるが1は比較的粗い砂岩であり、3は硬質砂岩製である。2（第56図）と第57図は砂岩製の叩き石である。

今回のこの地区においては縄文時代包含層の調査が行われなかったが下層にその存在が確認されており、今回報告のものはいずれも本来そこに存在したものの2次堆積物とすることができ、弥生時代の遺構についても中位段丘上の方形周溝基、溝など集落の中心部分からははずれた地区であったこともあって、遺構内からの出土は余りみられず、ほとんどが、後世の包含層から出土したものであった。西浦橋遺跡の石器については菱木下遺跡と総合的に検討を加えた上で、その存在形態を論じる必要があると思われる。

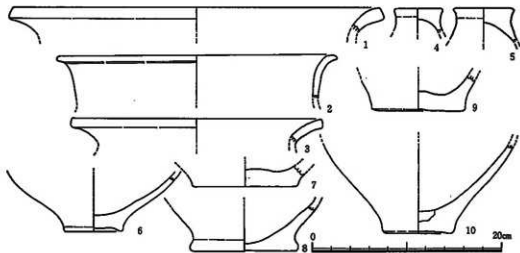
C 弥生時代

土器（第20～23図；図版128～131）

全調査区から出土した土器片は包含層より約400点、遺構内からは約900点出土している。時期的には第Ⅰ～第Ⅶ様式期まで認められ、甕・壺類が器種の大半を占める。高杯・鉢・甕等は若干含まれるにすぎなかった。以下、時期を追って説明する。

第Ⅰ様式期にはごく少量の壺類が、縄文晩期の土器片とともに旧河道とその周辺から出土する。

第Ⅱ様式期に至り、状況が変化する。土器量、出土地区、器種構成、他地城産の土器の流入等が増大・拡大する。時期の限定できる個体は50個体以上認められ、SX1を中心に沖積段丘面上に多く分布していた。これらは残存状態も良好で、石庵丁・剥片石器等と共伴している。また調査区の中央に南北に走る段丘趾の西に接して幅が広く、浅い谷状を呈するSDN2からも約150点近い土器片が出土した。高杯・鉢等も含まれ、河内・紀伊産の土器片も認められた。調査区東



第20図 SDN2出土弥生式土器

半部STS1には須恵器、土師器の混入もあったが、壺5点・甕2点が出土した。STS2からも壺底部3点、河内産のものも含まれ、鉢又は高坏と考えられる破片も混じっていた。サヌカイト破片や石庵丁も含まれた。またSDA2の最下層には当時期よりやや新しい土器を含む単純層がみられた。いずれも細片であるが、楕円平行線文や刺突文を頸部・口縁部に施すものもあり、口縁部内面に楕円点文を

施し、拡張した口縁帯に凹形浮文を持つものもみられた。壺口縁部(第21図1)は胎土に黒色粒及び金雲母が含まれ、茶褐色を呈す。器表面の剝離が著しく、調整の観察は難しい。肥厚し垂下した口縁帯の外面に何らかの施文があったと思わせるわずかなへこみが見られる。甕口縁部

(第21図2)は胎土中に片岩が含まれ、紀伊産のものである。底部片(第21図3~10)は径により、4~5cmの小型のもの、6~8cmの中型、12cm前後の大型のものに分けられた。紀伊産の底部は、やや上げ底気味で体部下増が外方にふんばる。在地産のものには分厚い底部から直立気味に体部へと続く甕と考えられるものと、やや薄い底部から斜め上

第7表 弥生式土器包含層内出土地点別数量表

| | 65 | 64 | 63 | 62 | 61 |
|---|----|----|----|----|----|
| R | 1 | 4 | 2 | | 1 |
| | 26 | 12 | 38 | 32 | 2 |
| S | 28 | 13 | 19 | 50 | 8 |
| | 21 | 11 | 9 | 23 | 4 |
| T | 14 | 5 | 7 | 8 | 2 |
| | 19 | 9 | 1 | 5 | 3 |

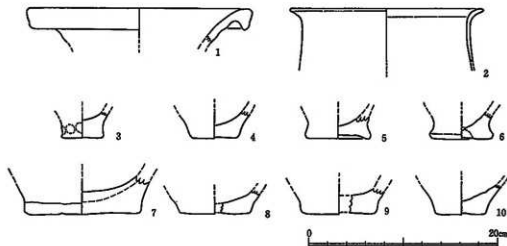
第8表 SDN2出土弥生式土器数量表

| | 口縁部 | 肩部 | 体部 | 底部 | 計 | 比率(%) |
|----|------|------|-------|-------|-------|-------|
| 河内 | 1 | | 7 | | 8 | 5.6 |
| 紀伊 | 2 | | 8 | 4 | 14 | 9.8 |
| 和泉 | 9 | 11 | 69 | 31 | 120 | 84.5 |
| 計 | 12 | 11 | 84 | 35 | 142 | 99.9 |
| 比率 | 8.4% | 7.7% | 59.1% | 24.6% | 99.8% | |

第9表 方形周溝基出土遺物数量表

| | 壺 | 鉢又は高坏 | 甕 | 不明 | 河内産 | サヌカイト | 石庵丁 | その他 |
|------|----|-------|---|----|-----|-------|-----|-----|
| STS1 | 5 | | 2 | 4 | | | | 3 |
| STS2 | 16 | 1 | | 17 | 3 | 1 | 1 | 12 |

のものに分けられた。紀伊産の底部は、やや上げ底気味で体部下増が外方にふんばる。在地産のものには分厚い底部から直立気味に体部へと続く甕と考えられるものと、やや薄い底部から斜め上



第21図 SDA 2出土弥生式土器

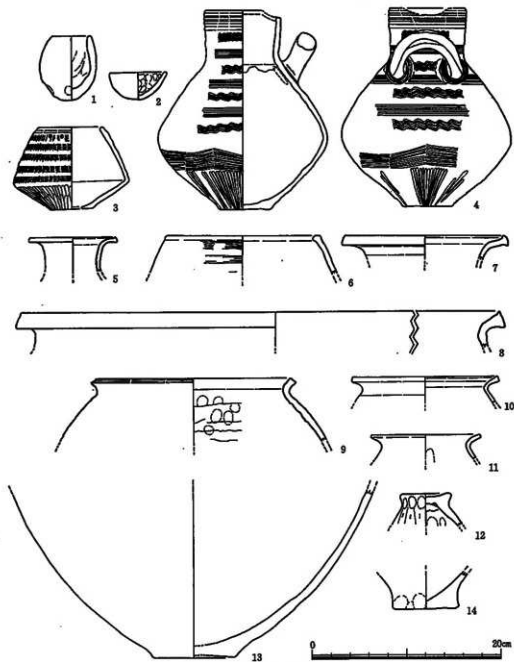
方にひらくものと同様に分類された。

SDA 2に一部認められた第Ⅱ～第Ⅳ様式期の土器はSX 1上面の灰色砂層中に認められる。その上面には黄色粘土が堆積し、この上面に流れる溝内からも出土しているのである。SDA 1の上面を覆う茶褐色礫土中には手握ね土器（第22図1・2）、鉢（第22図6）、甕（第22図10・11）が出土し、SX 1上層からは水指形土器（第22図4）、無頸壺（第22図3）が出土している。水指形土器は直立する口縁部に凹線文がめぐり、平行線文と波状文を交互に7段に亘って施していた。底部・器壁は薄く、外面体部下半に煤が付着していた。無頸壺も口縁部に段状のわずかな凹線が認められ、7条、5段の梯描線状文がめぐり、体部下半は筥磨きされ、底部に穿孔がみられる。口縁部には蓋紐を通す2つの穴がつけられ、内面は全てでなされている。その他にもSDN 2、SDN 4（第32図2）・SDA 2からも同期の土器は出土しているが、量的に減少し、第Ⅳ様式期にはほとんど認められない。SDA 2（第21図3）で数点みられるのみである。

木器（第23、24図；図版130）

沖積段丘下に流れる旧河道（SDN 1）内及び上層杭列SX 1内より、椅子・鉄・板杭等が多数の植物遺体とともに検出された。

椅子は「けんぼなし」¹⁾の原材を輪切りにし、こしかける上面と脚部の側面にまき目があらわれるように木取りし、両端の年輪部分が脚の小口にあたるようになっている。細部加工は小刀状の工具で削り出されている。法量は、上面32cm×34cmの隅丸方形部分の厚さが5cm、脚は厚さ3cmの基部から片方は10cm、他方は12cmの長さを測る。脚の長さの差は、検出時に上に乗っていた大木による圧力か、当初からの人為的なものか不明である。鉄は風化が著しく、残存状態は極めて悪いが厚さ1cm足らずの板部を刃先にし、幅3cm、長さ20cmの板の上に、舟底形造り出しを加工している。板杭は上端部幅11cm、厚さ1.6cm、下端部厚さ2.4cm前後を測り、全長40cm前後のものが一般であった。いずれも弥生中期前半代の所産と考えられる。

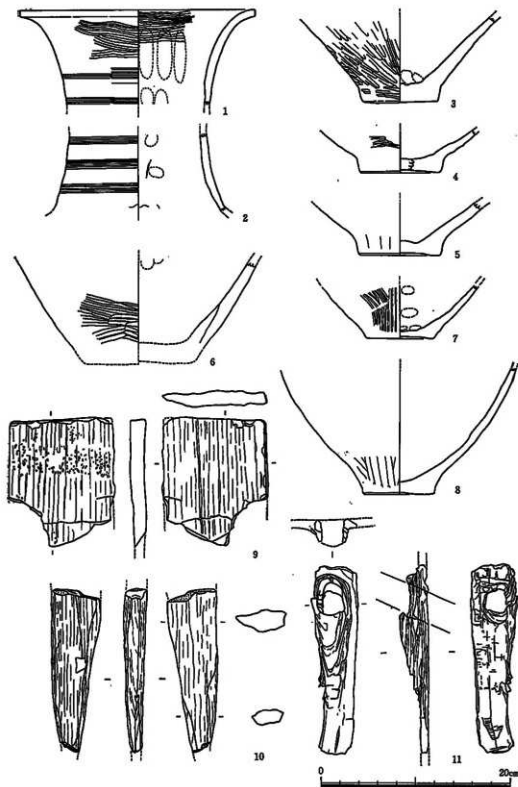


第22図 SDN1出土土器・その他

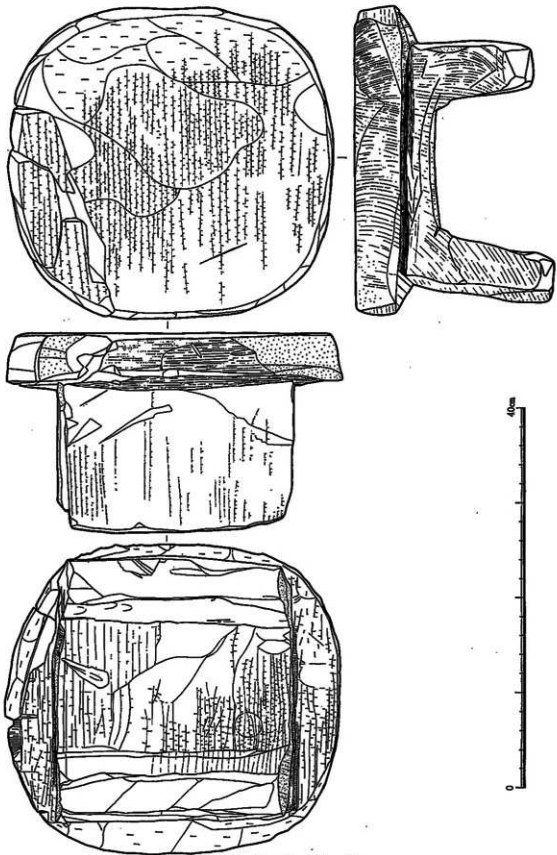
D 古墳時代 (第25~42図; 図版132~146)

須恵器

西浦橋遺跡の今回の調査で最も多量に出土した遺物は古墳時代後期の須恵器である。遺構及び包含層出土須恵器の説明は、5世紀から6世紀前半代はSDN2を中心に、また6世紀後半代のもはSDA2とSDN2からの出土品について行う。他にSDA3、SDA4、SDA5から



第23図 弥生式土器および木器



第24图 木製椅子

も多数出土しているが、包含層出土のものについても若干ふれる程度になる。また型式編年は田辺昭三『陶邑古窯跡群Ⅰ』、『須恵器大成』、中村浩『和泉陶色窯の研究』、府教委『陶色Ⅰ～Ⅳ』を参考にしつつ、集落出土須恵器として一時期に一括される器種構成とその数量の提示に努めた。

5世紀から6世紀前半代 調査区東端 SDA 2、中央部 SDN 2の周辺と上層遺物包含層から多く出土している。TK73型式からTK 216型式に併行するⅠ-1から2の段階の資料も同様の分布範囲で散布していた。な

第10表 須恵器甕体部外面格子叩き目出土地点別数量表

| | 65 | 64 | 63 | 62 | 61 |
|---|---------------------|---------------------|---------------------|---------|---------|
| R | | 3
茶灰色土2 | 1 | 1
※1 | |
| S | 5
茶灰色土※1
3 ※2 | 9
茶灰色土7
暗灰色土1 | 4
暗灰色土2 | 1 | 6
※2 |
| T | 1 | 3
暗灰色土3
茶灰色土1 | 7
暗灰色土3
茶灰色土1 | | |

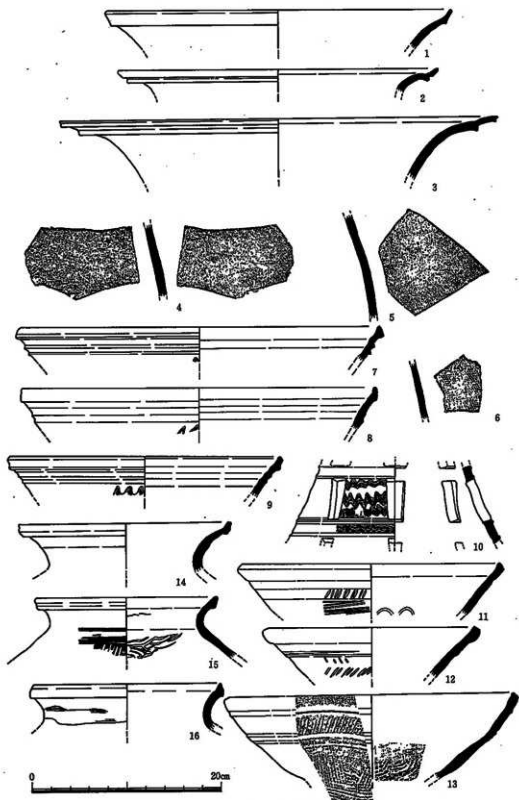
かでも体部外面に細かい格子叩き目を施し、口縁部外面に凸帯をめぐらせ、暗灰色を呈する甕についてピッチアップしてみた。(第25図4～6) 総数41点の分布及び接合関係は第10表のようになり、SDA 2とSDN 2周辺に偏っている。当初 SDA 2周辺に立

※1と※2は接合資料

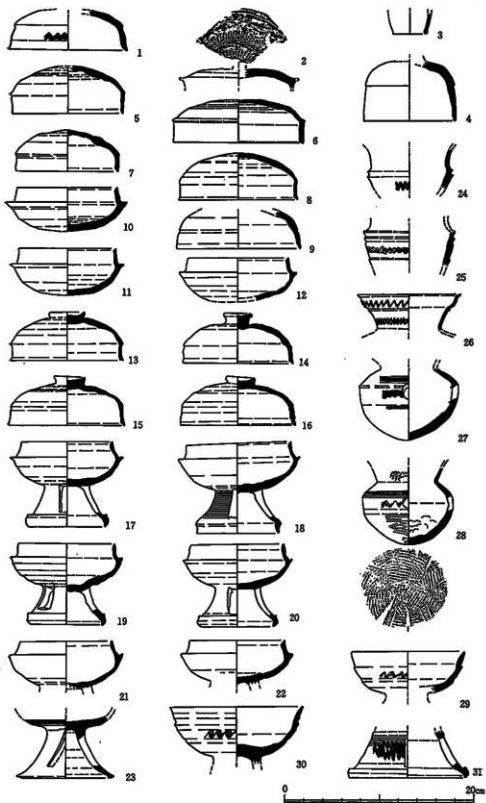
計 41

ち並んでいた古式須恵器群が6世紀後半には破壊され、沖積段丘面上に散布していたと考えられる。器種は大甕が中心で、他に沖積段丘面上の包含層から器台脚部・蓋・壺等も若干見られ、埴輪も少量ある事から、集落が出現する前の祭祀又は古墳に伴う遺物の可能性も考えられる。甕は5～10個体程度、器台・壺等は各1個体づつしかない。器形は雙口縁部が長く、外反したものと直立気味のもののみられ、口縁端部に凸帯がめぐり、蓋及び壺についても凸帯が明瞭で列点文や波状文がみられる。(第25図1～3・10、第26図1・2・4)

これらの器種が次の段階にはやや増加し、甕や壺・甕も多くなる。(第26図～第29図) 5世紀後半から末葉にかけて、高環や環(第27図16～20)が加わり、6世紀初頭にかけて急増する。SDN 2内の遺物を例示すると、環蓋約250(第27図1～6)、環約270点、無蓋高環(第28図14～18)・有蓋高環(第28図5～12)・高環蓋(第28図1～3)がそれぞれ35、48、42点づつ確認された。器台は25点、甕24点(第27図32・33)、壺1点(第29図3)、甕45点(第29図5)、大型裝飾付甕6点が数えられた。形態は、全ての器種で器壁が薄く、小型化する。端部の凸帯や端面が消え丸くなり凹線状を呈する。寛削りも雑になり、壺・甕類の成形度も残る。器台にも環部に叩き痕が残る、脚部にも見える(第31図9)。筒形のものと同形のもののみえ、筒形ものは(第31図4)上位の環部に凹形の透し穴を明け、波状文を一段入れる。筒部は5段に分けられ長方形透しと2～3段の波状文を施す。鉢形ものは口縁部が拡張し、幅1cm弱の面が形成されてくる(第31図1～3)。鉢は浅く薄くなり、内面が磨り減っている。脚部の数と鉢部の数が合致しない事と合わせると、鉢部のみですり鉢風に使用された可能性も考えられる。直口壺には波状文を有するものと、カキ目のみのものとあり(第28図29・30)、甕は中・小型のものが増し、低



第25圖 包含器出土古式須惠器他

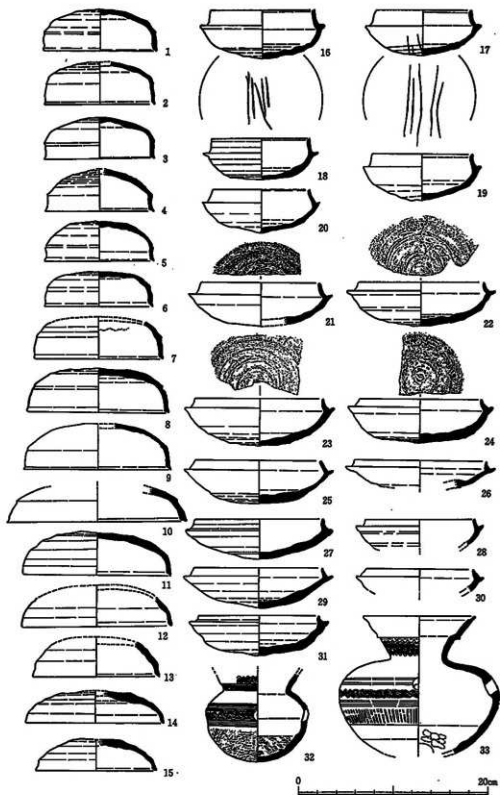


第26圖 包含屬出土須惠器

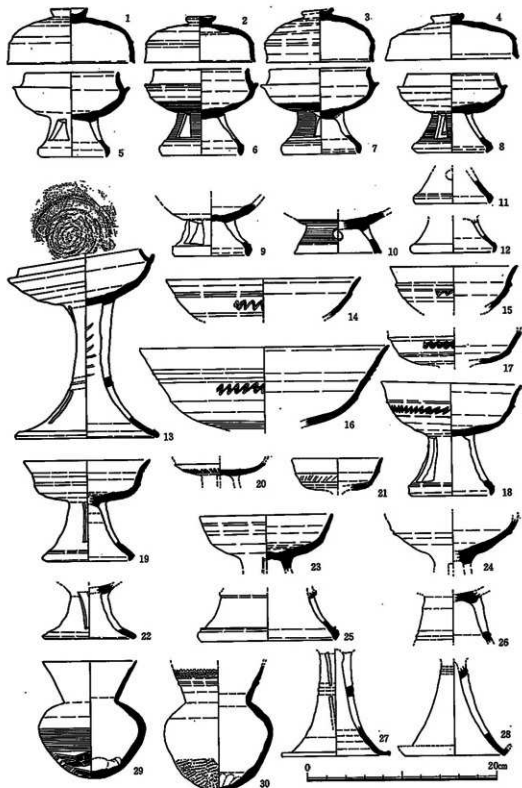
大度焼成のものが多くなる(第29図1~5)。土師器の煮沸形態が皆無に近いこともあり、生焼け中・小型の甕を煮沸用に使用していた可能性も考えておきたい。

6世紀後半から7世紀前半代 出土地点はS DN 2から北西方向に多く見られ、S DA 2~4にも多量に含まれていた(第32~38図)。坏・坏蓋・高坏・小壺・壺蓋・甕・口径15cm前後の壺又は小壺・口径20cm前後の甕・器台(第35図18~21)・陶棺片(第34図18)等があった。S DN 2の器種組成は、坏50点、坏蓋34点、有蓋高坏15点、器台3点、甕6点の他、甕・壺に関しては各40点づつ、他に大形坏・姉壺・鉢も1点づつ含まれていた。またS DN 2出土須恵器は坏230点、坏蓋160点、無蓋高坏12点、有蓋高坏50点、高坏蓋27点、器台30点、甕12点、壺34点、甕54点、裝飾付甕15点が数えられた。時期は古いかもしれないが、製塩土器が20点、姉壺1点、髷羽口も見られた。

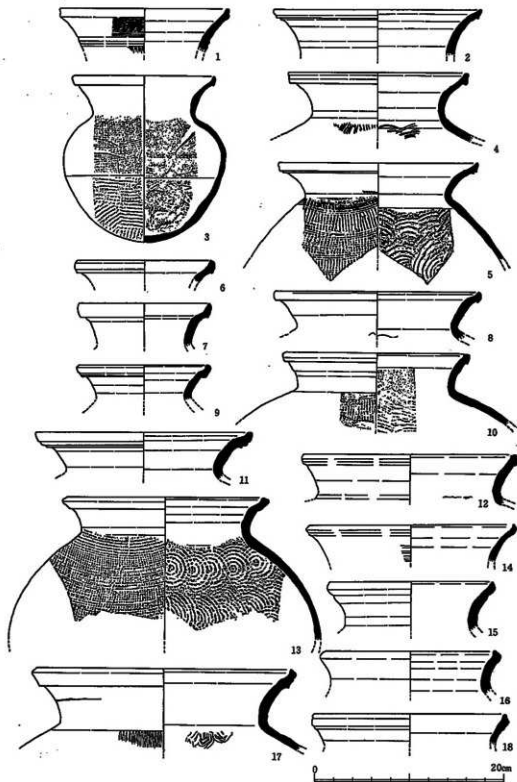
各器種の形態はしだいに丸味を帯び器壁が厚くなっていく。坏蓋は稜線がほとんど意識されず、口径が大形化し、口唇部内面の窪みがしだいに消失し、再び口径が小さくなる。笥削りの範囲が狭くなり、粗雑になっていく。胎土も粗く色調は灰色を呈す(第27図11~15・第32図3~6・第33図3~8・第34図1~7)。坏は立ち上りが短く内傾するようになり、口径も大きく、器壁も厚くなる。底部から受部に向う曲線が徐々に直線化され、底部が尖ってくる。内面に叩きが見られたりもする。次にかえりが坏蓋に移り、空珠つまみが付着されるに至り、坏の小型化が極まり、蓋と身の区別がつかなくなる。この時期の遺物は、数点づつしか見られない(第27図21~31・第32図8~12・第33図11~19・第34図8~10・第35図2)。無蓋高坏は長脚化し、沈線を坏部外面に施すものと、余り長脚化せず、坏蓋をそのまま逆転させているものに分けられる(第28図21・第34図12)。有蓋高坏も、長脚化するものと、短脚のままで、円形透かしをあげるものとがみられる(第28図13・10・第35図5)。高坏蓋は、つまみが小さく低くなり、全体に丸味を持つ(第28図4・第33図10・第35図4)。器台坏部は小さく、浅くなり、口縁部が拡張していたものが、体部と一体になり皿状を呈し、外面の文様も簡素化される(第31図5~8・第35図18)。脚部は台状のものと筒状のものがみられる(第35図19~21)。壺は小壺がみられ、口縁部が長く、端部に面を持ち、体部も丸く外面を笥削りするものから、口縁部が短く、体部が偏平なものになり、器壁も薄くなってゆくようである(第33図29・第34図14~16・第35図27)。甕も丸い体部が徐々に偏平になり、ほぼ平底状となる。口頸部は長大化し、列点文が施される。底部の丸いものは内面に刺突目の痕跡があり、姉壺内面のものと同じ原体のものがみられた(第30図8・第34図19~21・第35図10~14)。甕は口縁部の形態が短く、直立気味になり、口縁部が拡張してゆき、頸部と区別がつかなくなっていく。口縁部内面に段を有するものと、そうでないものがあり、いくつかの口縁部製作手法の差も見られた(第28図11~18・第32図22~26・第36図6~12・第37図3~13)。古墳出土土器等を参考にすると、頸部が4~5cmで外反度が強く、口縁部の幅が1~2cm前後のものが6世紀後半代と考えられ、それ以降、頸部が短く直立し、7世紀初頭以降は、口縁部がきっちりと造り出されていない例が多いようである(第32図23)。他に小さく丸く終る口縁部



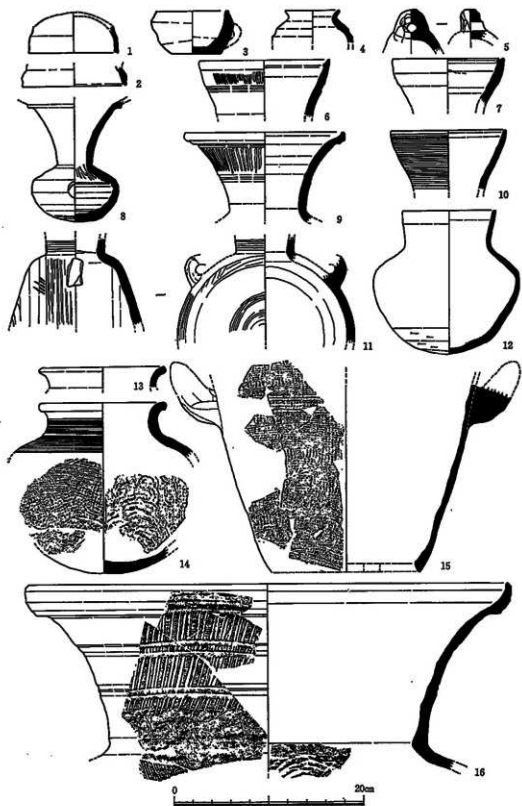
第27圖 S D N 2 出土須惠器



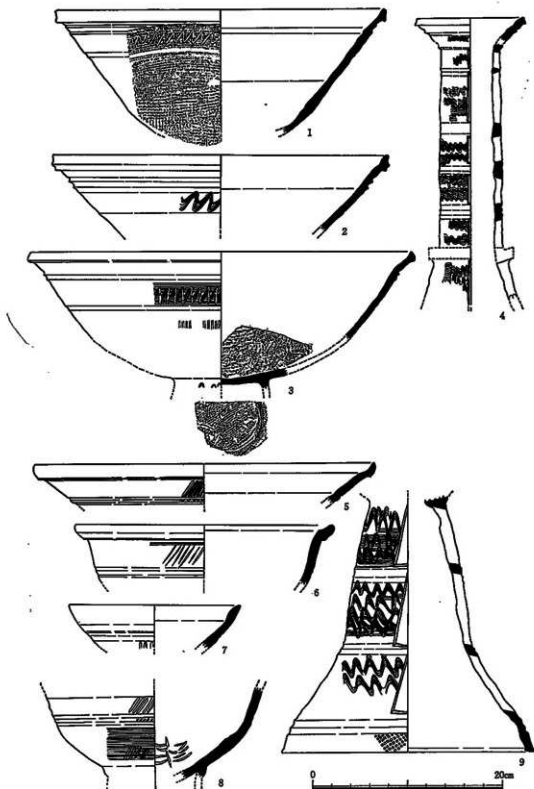
第28图 SDN 2出土铜器



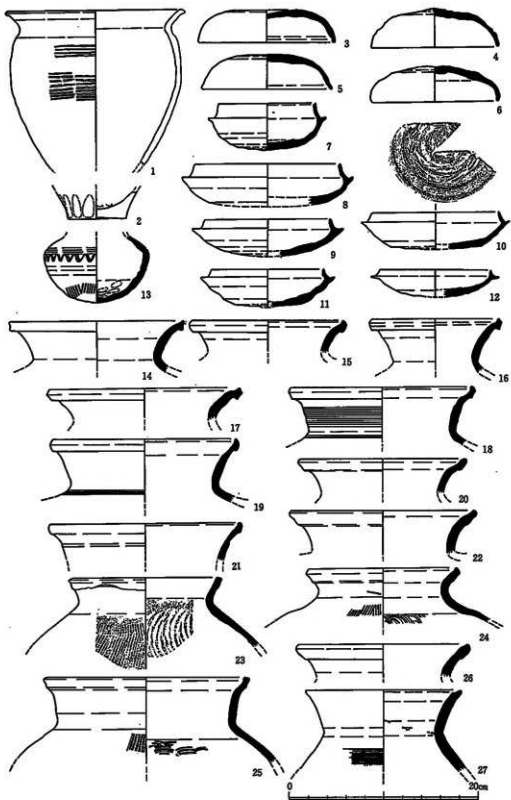
第29圖 S D N 2出土須惠器



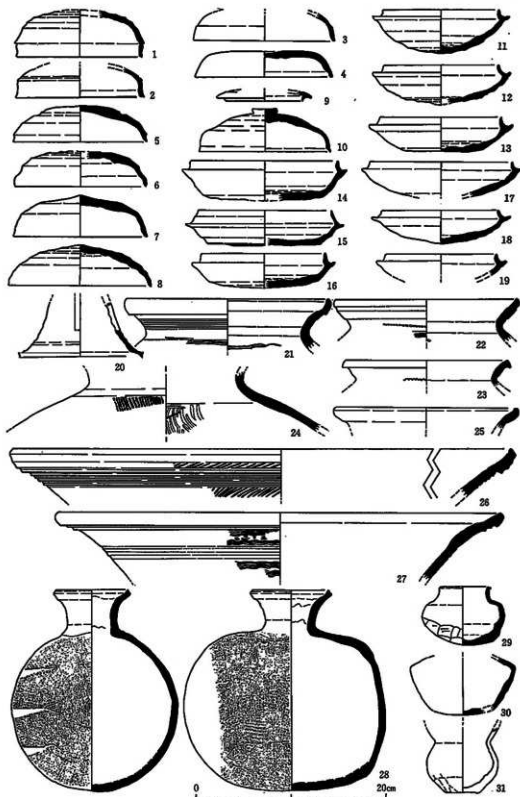
第30图 S D N 2 出土须惠器



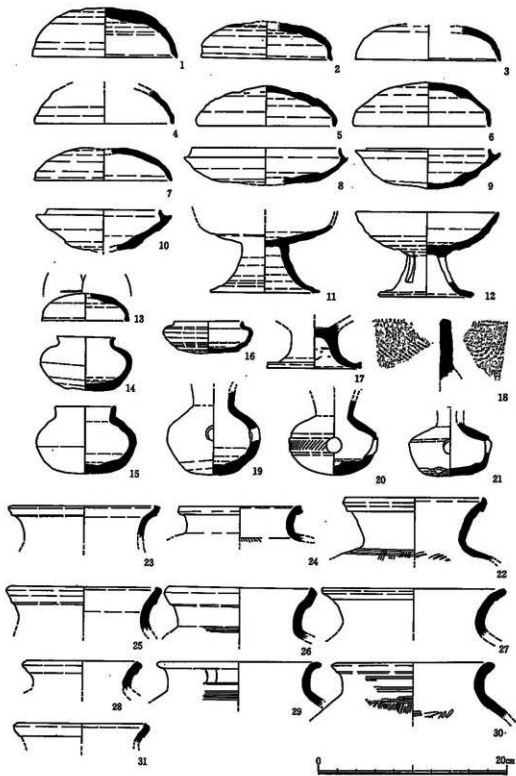
第31圖 SDN 2出土銅器



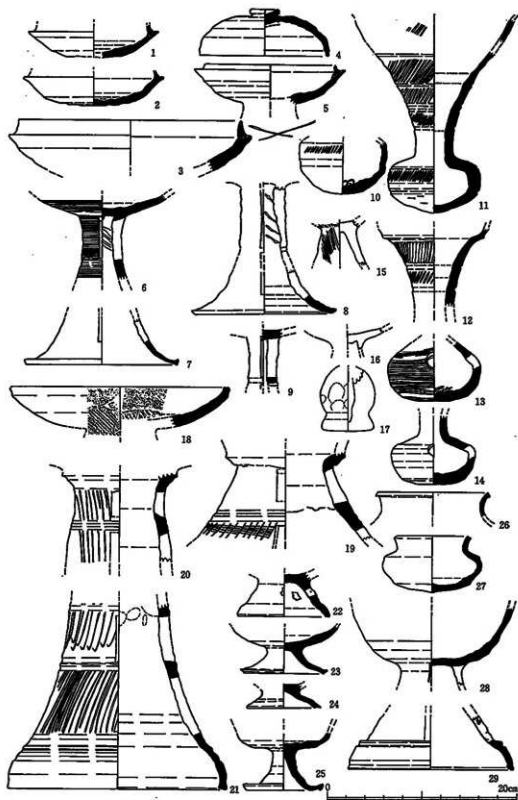
第32图 SDA 4出土土器



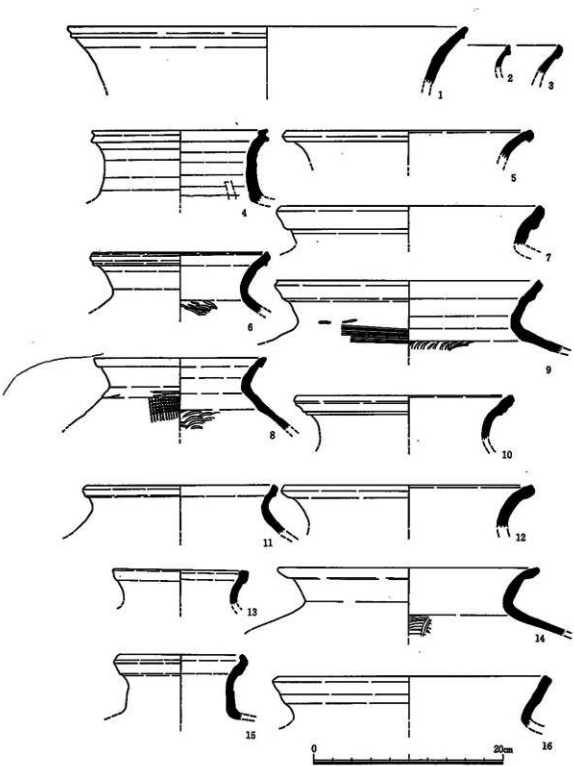
第33圖 SDA3・4、SDN9出土土器他



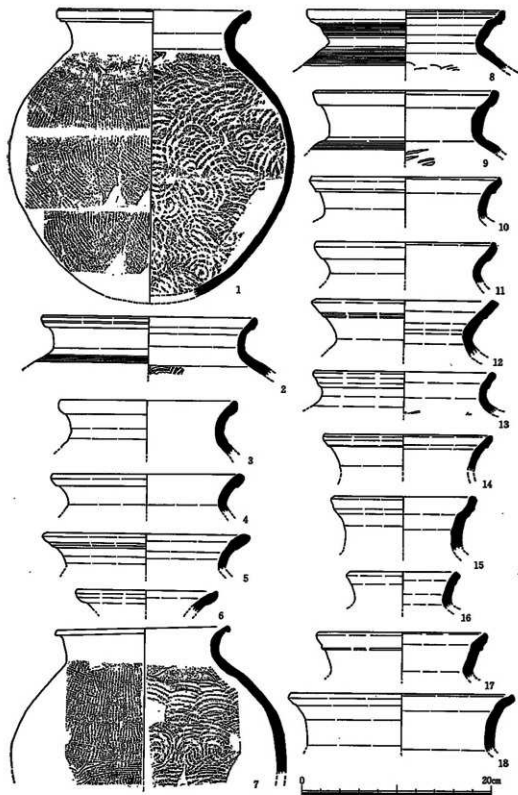
第34圖 包含屬出土土器



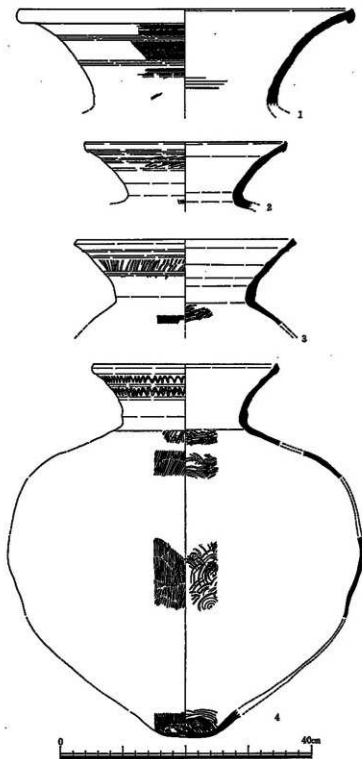
第35圖 SDA 2出土6世紀後半須惠器他



第36图 SDA 2出土6~7世纪须惠器



第37圖 SDN 2出土6~7世紀須惠器



第38図 SDA2出土須恵器裝飾付甕

のものや(第29図16)、口縁帯が丸いもの(第34図30)も見られた。内面の叩き目が肩部内面まで消されていたものが(第29図5、13)、口縁直下まで残るようになり、(第37図1)連続同心円が体部中央に見られるものや(第37図7)、弧状文が粗く施されるもの(第32図23)等、体部整形の差も見出せた。裝飾付大形甕は口縁部の形態と、頸部の裝飾に変化のポイントが認められた。長く外反する口縁部に、丸い端部が造り出されるタイプ(第38図1)から、端部と口縁部が一体となるもの(第38図2)への変化が認められ、それによって、列点文が直立から斜行するようになることが分った。口縁端部下端の区画がなくなってしまうと、文様帯に篋描風の柳描波状文がみられる。(第30図16・第33図26・27・第38図1~4)

甕の口縁部(第33図23)やこね鉢の底部(第43図19)・鎗壺(第41図)・提瓶(第30図11)・俵壺(第33図28)等の器種については出土量も少なく、器形の

変化をたどる事は困難であったが、この時期に該当すると思われた。また各遺構内出土の土器については、いずれもこの時期のものを含むが、堅穴住居跡以外に時期を限定し得るものは少ない。

土師器

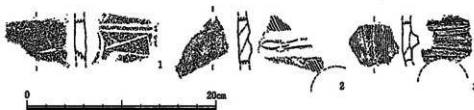
古墳時代の土師器はごく少量の高坏・甕が確認されたのみであった。SDA 2から高坏胴部が出土し、SDN 2からは甕が出土している。前者は外面にわずかに刷毛目を残すもの（第35図15）と、生駒西麓産の胎土によるもの（第35図16）とがみられ、5世紀代のもと考えられた。後者は在地産で（第50図12・19・20）、口縁部が短く、外上方にひろくもので6世紀代の所産と考えられる。高坏胴部はSDA 2周辺の古式須恵器に伴うものかもしれない。いずれにしても磨減が著しく、個体判別が困難なものが多かった。

埴輪

円筒及び形象埴輪が6点出土している。円筒埴輪は外面横刷毛、内面横刷毛後縦刷毛調整が施され、タガ部上幅0.8cm、高さ0.8cmの台形を呈するもの（第39図3）と、外面縦刷毛、内面にて調整、タガ上幅幅1cm、高さ0.3cmのもの（第39図2）がみられる。形象埴輪片は器表面の磨減が著しく調整の観察が困難であったが、片面には筧による施文が窺える。これらの埴輪は沖積段丘面上の中・近世包含層内より出土した。いずれも細片であり、古墳群の存在や祭祀遺構を云々できるものではない。

第11表 埴輪出土地点別数量表

| | 65 | 64 | 63 |
|---|----|----|----|
| R | | 1 | |
| S | 2 | 2 | |
| T | | | 1 |



第39図 埴輪

製塩土器

ここでは薄手のものについて説明する。口径6～8cm、器壁4mm程で胎土精良、内面に貝殻腹線の痕跡がみられる。SDN 2内より25点出土し、包含層内からは4点出土している。R65地点では底径2cm前後で脚高1.5cmを測る脚台式のものが1点²⁾だけ出土している。それ以外の薄手のものは、5世紀末葉以降のもと考えられる。

第12表 製塩土器出土地点別数量表

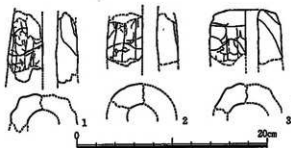
| | 65 | 64 | 63 |
|---|---------|----|----|
| R | 脚台
1 | | |
| S | | | |
| T | | 3 | 1 |

轆羽口（第40図）

全部、古墳時代のもので限定できないが、総数19点が出土した。主にSDN 2周辺に集中して分布している。ひとつは円筒状で先端部、いま一方は多面体を為し、外径7.5cm、内径2.8cm前後である。色調は淡黄色及び赤褐色で、胎土は精良な粘土に

第13表 轆羽口出土地点別数量表

| | 65 | 64 | 63 |
|---|----|----|----|
| R | 2 | 1 | |
| S | | 2 | |
| T | 2 | 8 | |



第40図 輪 羽 口

粗い線が混ざる。器壁は2～2.5cmを測るものと7mm程度のものとある。厚手のものはSDN2内より4点出土しているが時期は不明である。

第14表 甗壺出土地点別数量表

| | 65 | 64 | 63 | 62 | 61 |
|---|----|----|----|----|----|
| R | 2 | 4 | 1 | 1 | |
| S | 4 | 6 | 3 | | 1 |
| T | 3 | 3 | 2 | | |

甗壺

総数30点が出土している。SDN2や、SDA2及び沖積段丘面上の包含層内より出土している。SDN2北寄りにやや集中していた。

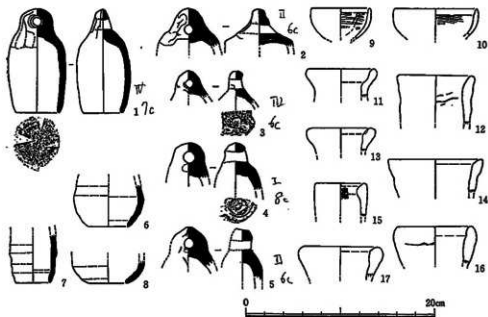
紐の形状、法量、天井部内面の調整、体部最大径の位置（高さ）、口縁部の形状等々のありかたに変化を認め、6世紀後半から8世紀代に及ぶと思われる須恵器甗壺の型式分類を行う。

紐の太さは1.5cm以上のものと、以下に分けられ、天井部内面の調整にはナデ調整、円形原体による圧痕・ナデのち絞りの3類が見られる。天井部の厚さは、1.5cm前後のもの、1cm前後のもの、0.5cm前後のもの3種類が抽出された。これらの紐及び天井部のありかたから、〔I類〕紐の太さ1.5cm以上、内面天井部回転ナデにより面が整えられ、天井部の厚さ1.5cmと厚いもの。

（第41図4）肩は張らず細身であるが紐が太い。体部最大径は上方にあり口縁部は垂下すると考えられる。〔II類〕紐の太さ1.5cm以上で内面天井部は粘土貼り付け後ナデ調整が行われる。天井部の厚さは1cm前後のもので、天井部は面をなし、肩が張り、全体にずんぐりしている。体部最大径は中位にあると思われる（第41図2・5）。〔III類〕紐の太さ1.5cm以下で内面天井部には円形原体による圧痕がみられ、天井部の厚さは0.5cm前後しかない。比較的小づくりで肩も張らない（第41図3）。〔IV類〕紐の太さ1.5cm位で天井部内面はナデ調整の後、外面からの軽いおさえにより絞りがみられる。天井部の厚さは1cm位、丸い形をしている。肩部はやや張り気味で体部は比較的長い。体部最大径は上位にある（第41図1）。

口縁部のみ残存するものは大きく2類に分けられた。口縁が内傾し、口径の小さいもの（第41図8）と、口縁部が直線的で細身のもの（第41図7）とである。前者は粘土紐巻き上げ後ナデ調整され、後者は一気に水びきされている。6世紀後半代のものとは8世紀代のものの差と考えられる。

紐の付け方は、壺部製作後、径1cm位の棒により穿孔されたと考えられているようであるが、



第41図 銅壺・製塩土器

細部のナデ調整や、壺部天井の厚さ等から、壺部製作後、逆転し、棒を置いた後、天井部に粘土紙を乗せ、ナデつけた後、棒を引き抜いたものと思われる。引き抜いた勢いではみ出た粘土を再び穴の周囲にナデつけている。

時期的には、Ⅱ類、Ⅲ類が6世紀代で、Ⅳ類が7世紀、Ⅰ類が8世紀代と考えられる。それぞれ外面が磨滅し、使用されたと解される。

遺構内出土土器 (第42図)

竪穴住居跡内出土土器 SBK 5内出土土器 (13)、この須恵器は6世紀後半～末葉の坏口縁部である。淡灰色を呈し、立ち上りの接合部は屈曲している。受部は薄く仕上がる。SBK 2出土土器 (11、17、19) (17) は、6世紀後半の須恵器坏である。青灰色を呈し、立ち上り高は1cm以内で、受部との境は明瞭である。底部は欠損しているが厚く、外面に回転斫削り痕が残る。

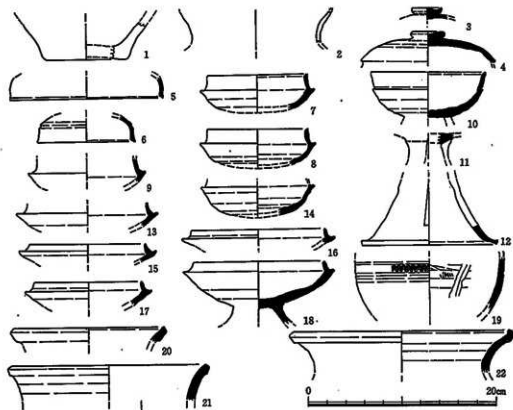
(11) は須恵器短脚高坏接合部付近である。坏底部は薄く、脚増部も接合部に比べ薄くなる。回転ナデは丁寧で、透かし穴は3方にあげられていたと思われる。6世紀前半頃のものであろうか。

(19) は暗青灰色を呈し、焼成堅緻な壺体部である。内面にはわずかに青海波叩き目文が残るが、外面は横ナデされた後文様帯を区画し、7条の棒推波状文を施す。5世紀後半代の須恵器壺又は甕と考えられる。SBK 4付近包含層 (12、15)、約1cmの立ち上り高を有し、受部及び内面との接点に明瞭な境を有する須恵器6世紀末葉坏である (15)。焼成やや軟質、淡灰色を呈する。

(12) は6世紀後半代の高坏脚部である。淡い黒灰色を呈し、内外面にナデ調整する。

ピット内出土土器 ピット69掘り方内出土 (4、5、22)、(4、5) は同一個体の可能性を有する6世紀前半代の高坏壺である。外面は紫青灰色を呈し、口縁端部に刷毛状の斜行する痕跡

が若干みられる。(22)は、外面口縁帯が拡張し始め時期(6世紀初頭～前半)の壺口縁部である。口縁帯幅は1cm以内、頸部長は4～5cmを測り外反する。ビット63掘り方内出土土器(8)、焼成不良で淡白灰色を呈する6世紀初頭の須恵器坏である。内面に立ち上りとの境はなく、受部端は鋭い。立ち上り高は1.5cmを測り、推定口径10.4cmである。ビット44出土土器(6、9)。9は8とよく似ている。焼成は普通で、口縁端がやや厚い。(6)は稜部凹線状を呈する6世紀初頭の須恵器坏である。灰色、焼成やや軟質、胎土精良である。ビット41掘り方出土土器(7、14、20)。7、14は6世紀初頭の須恵器坏部である。器壁は薄く、寛削りは底部のみに施される。14は立ち上りと休部との境は明瞭であるが、7はナデにより不明瞭になっている。20は6世紀前半代の壺又は甕の口縁部である。口縁帯が幅1.2cmでやや拡張し始めたものである。ビット39掘り方内出土土器(3)、これは6世紀初頭の須恵器高坏蓋つまみ部である。外面紫灰色、内面淡灰青白色を呈す。つまみ径は3.3cm、高さは7mmを測る。中央はやや窪む。ビット38掘り方内出土土器(1)。色調淡白褐色、断面黒色を呈す弥生中期の壺又は甕の底部である。胎土は粗く、石英・長石等が見られる。ビット37・47掘り方内出土土器(10)。推定口径12cmを測る無蓋高坏である。口径が小さく文様帯もない。6世紀前半代のもと考えられよう。ビット36柱底内出土土器(16)、立ち上り高1cm以下の須恵器坏口縁部小破片である。青灰色を呈し、胎土精



第42図 ビット内出土遺物

良である。受部はなでにより、立ち上りとの境は不明瞭になっている。6世紀末のものであろう。

E 奈良時代 (第43~50図; 図版 142、147~151)

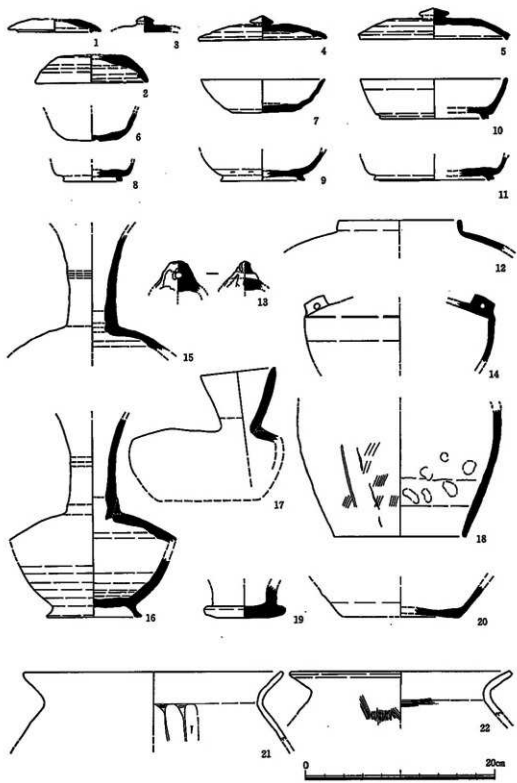
須恵器

ここでは7世紀後半から8世紀末葉に至る須恵器について説明する。7世紀後半から8世紀前半にかけてはSDA 2上層出土の須恵器が中心で、8世紀後半代から9世紀にかけての説明はSDN 2上層出土の資料による。時期区分については古墳時代の項と同様、「陶色」の研究成果を参考にして行った。7世紀中葉から後期はTK 217号窯(平安学園『陶色古窯跡群Ⅰ』による)を参考資料とし、MT21を8世紀前半から中葉とし、TK 7を8世紀後半と考えた。

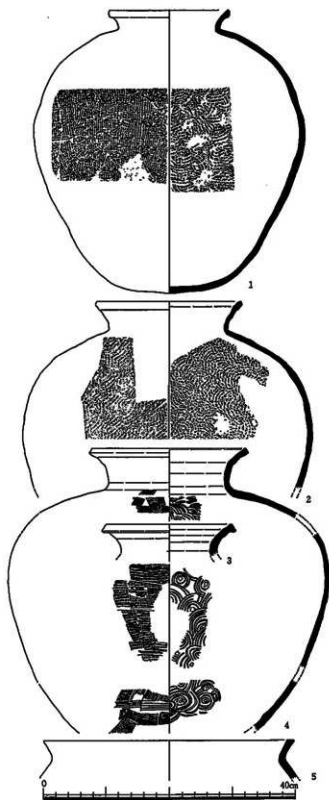
SDA 2出土須恵器は、环壺・坏・薬壺・長頸壺・鉢・甌・平瓮等が含まれ、口径10cm以下の环壺も含まれるが、大半は7世紀後半から8世紀前半に納まるものと考えられる。7世紀後半と考えられる器種は环壺(第43図4)、坏(第43図7)、薬壺(第43図12)でやや遅ると考えられる平瓮(第43図17)、甌(第43図18)もみられる。甌は第44図1、2が口縁増部の丸い承蓋のもので、3、4が、角ばった口縁部を為すものである。5は直口する短頸の甌で、増部は平坦で肩は張らないものである。

包含層出土のものでは、俊壺口縁部(第45図16)、広口壺(第45図13)、鉄鉢(第45図21)、薬壺壺(第45図23)、こね鉢(24)等が、該当するものである。

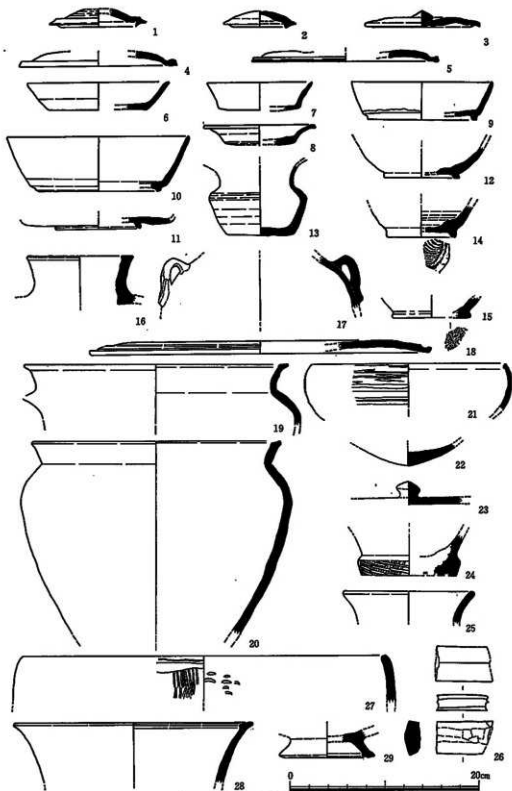
次にSDN 2上層出土須恵器について説明する。7世紀後半と考えられる。环壺(第46図1、2、3、7)や、7世紀初頭の坏も認められるが、大半は、SDA 2で見た、环壺(第43図5)の口縁増部が内傾するのに比べ、垂下するもの(第46図4、9、10、11、12)と、外にはみ出て天井部が低いもの(8、14)が多く、つまみも、(5、6)のように偏平なものがみられる。坏は高台のない類(17~22、31)のうち底部から口縁部に向けて、強目のヨコナデにより直立させるものと(19、21)、ヨコナデにより外反させるもの(20、31)、内彎気味に斜め上方に延びるもの(18、22)とに分けられる。(17)は外面底部を丁寧に仕上げ、ほぼ直立気味に口縁部が立ち上る。高台付の(23~27)は、底部が平坦で、底部端に高台を付け、(23、26、29、30)口縁部が斜め上方に真っ直ぐに延びるものと、高台が底部中央に寄った位置に付けられ、付着後ナデ調整されるもの(24、25、27)とに分けられる。前者は8世紀後半から末葉、後者は8世紀前半から中葉と考えられる。皿は内外面平滑に仕上げられるもの(32)がみられる。鉢は底部が尖り外面施磨きのみられるやや古い段階のもの(34)見られるが、口縁部がややひらき気味で内傾する増部をもつもの(33)が該当する時期のものと考えられた。体部が球形に近い壺(38、41~43)も見られ、糸切り底を有するものも出土している。薬壺の壺(36)は口縁増部がわずかに内側に肥厚し、丸味をもった天井部のものがみられる。土師器変風の広口壺(35)や、ややなで肩の壺(37、39)もみられる。底部径10~11cmを測る鉢は、丸底で施削りするものと、ややあげ底で底部が外側にはみ出さなくて刺突がみられるものと出土している。底部中央が破損しており、磨滅



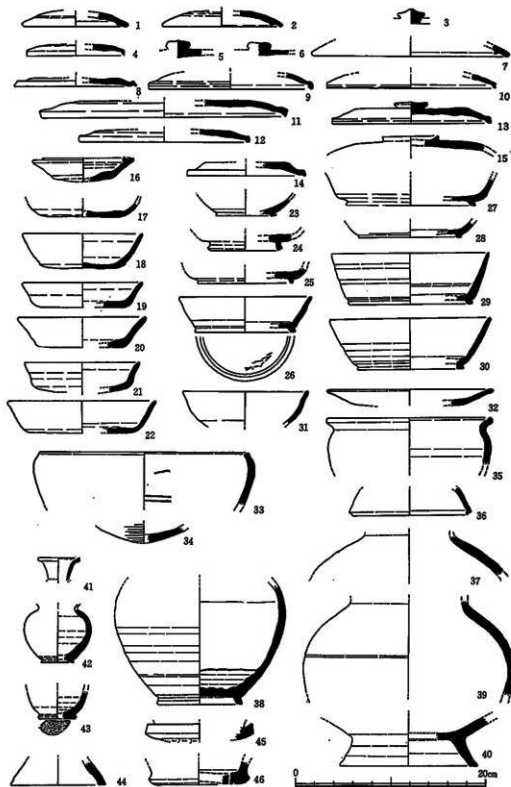
第43图 SDA 2出土土器



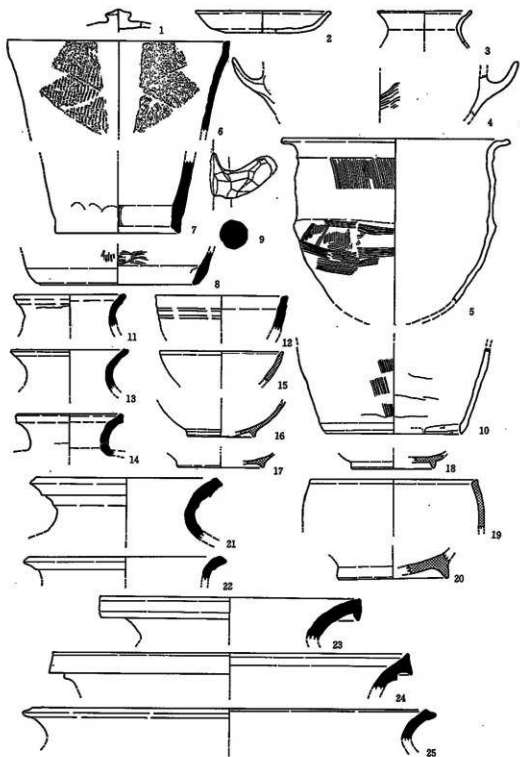
第44图 SDA 2出土土器



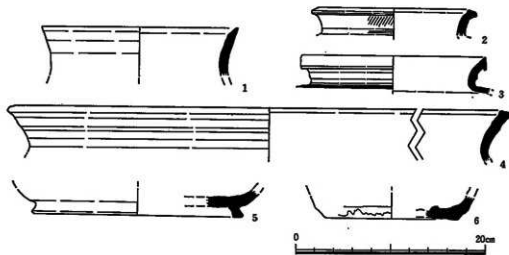
第45图 包含层出土铜器



第46図 SDN 2上層出土8世紀須惠器



第47图 包含层出土8~9世纪土器



第48図 SDN 2出土須恵器

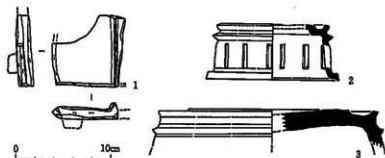
も部分的で、こねる役割より突きつぶす為に使われたものと思われる。その他に台付壺の脚部も見られた(40, 44)。甕は、8世紀後半から9世紀にかけてのものと思われるが、口縁帯が拡大し、面が内傾していたもの(第47図24)から垂下するもの(第47図23)へと変化してくるのである。SDN 7出土の甕は頸部が長く外反し、端部がやや内傾気味に約5mm立ち上っている(第47図14)。またSDA 4出土甕(第32図27)は直口し、なで刷のもの、8世紀代のものと考えられる。同様のものに第48図1~4も該当すると考えられる。

飯は(第47図6~9)絶対年代を決定し難いが、小型で、器壁の厚いもの(7)が包含層より出土している。

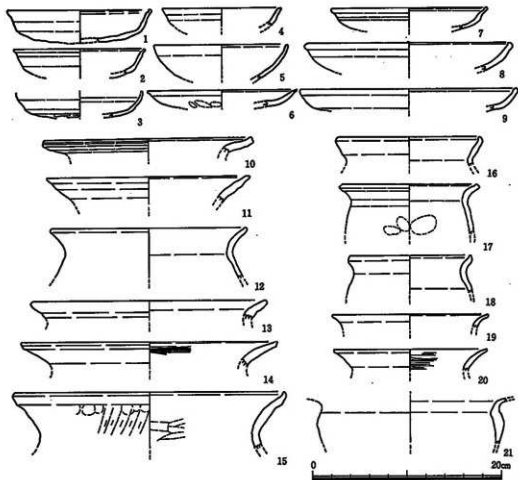
碗の破片は(第49図1~3)、3点出土しているが、(3)は焼きみくらみが上面に見られ失敗品と思われ、(1, 2)は使用された痕跡がある。

土師器

SDN 2 上面より少量出土している。供膳形態の内面には暗文がみられず、煮沸形態には刷毛目が見られない。8世紀後半から平安時代のものまでを含んでいる。坏は口径15cm、器高3cm程



第49図 須 恵 器 碗



第50図 SDN 2出土土師器

度のもの（第50図1、2）がみられ、口縁端部が屈曲する。碗状のものは、口径12～13cm、器高3～4cm以上のもので口縁部が内彎し、端部は屈曲しない。皿は浅いもので、口径15cm、器高2cm（6）やや大きくて深いもの（7）は口径16cm、器高2.5cmで口縁端部が屈曲する。大型品は口径21cm～23cm、深さ2.5cm～3cmを測り器壁が厚い。

甕は、SDA 2出土の（第43図21、22）を8世紀前半のものと考え、口径23cm、口縁長2.8cm、端部外面に幅4mmの面をつくるもの（22）と、口径27cm、口縁長3.6cmを測るもので、端部の丸いもの（21）を基準として考えた。これらはいずれも内外面に刷毛目調整がみられる。SDN 2出土土器で、口縁端部に面を持つものは（第50図10、14）で、包含層出土土器には（第47図5）がある。いずれも口径22cm又は27cmでSDA 2出土土器に近似する。第50図14の口縁部内面には刷毛目が見える。これ以外には端部が丸く終る第50図12、20と、内側に屈曲し、口縁部自体がやや直立するもの第50図16、18と、口縁長が長く、外上方にひらくもの第50図11、13、15とが見られる。17、19（第50図）は口縁部が外反し、端部がやや内側に突出しており、丁度第50図10、

14と第50図—16、18の中間的形態と言えるようである。21(第50図)は口縁部が欠失し詳細は不明であるが、器壁が厚く肩部が張り、頸部がくびれて外面調整も粗雑なことから平安時代前葉のものと考えられた。Ⅰ類(第50図12、20)は古墳時代的様相を示し、6世紀後半から7世紀代のものと考えられる。Ⅱ類(第50図10、14)は8世紀中～後期で、Ⅲ類(第50図17、19)は8世紀後半頃、Ⅳ類(第50図11、13、15)は口縁部の二段ナデや、外面の指押え痕より、16、18(第50図)にはほぼ平行し、9世紀代の所産と考えておきたい。包含層出土の(第47図5)は口径24cm、体部中位に把手の痕跡が残る。

製塩土器 (第41図)

ここでは厚手のものについて説明する。口径5～8cm、口縁部の厚さ1cm前後で胎土の粗いものである³⁾。a類は口径が小さく(5～7cm)、体部の厚さ5mm前後、口縁部の厚さ1cmを測り外反する(11、13)、胎土中に片岩は認められないが、泉南から紀北にかけてのものかもしれない。成形は、筒状の「型」に粘土紐を巻きあげたようで、口縁部内面に「型」からはみ出た痕跡がみられる。焼成は還元焰のものもみられる。b類は器壁6～8mmで、口径8cm前後、口縁部はゆるやかに外反し、面をなす。外面不調整、内面横ナデ調整が施される。胎土には粗い礫が含まれる(12)。c類は口径8～8.5cm、口縁部は丸く、黄色っぽく胎土も粗い。外面に粘土紐接合痕が残る(16)。d類は明瞭に緑色片岩がみられ、口縁部に内傾面を有し、口径10cmを測る(14)。出土地点別に見ると、S DN 2内より21点出土し、包含層内より24点検出されていた。S DN 2から西北西の方向に多く散布していた。これらの遺物は8世紀後半から9世紀初頭にかけて使用されたものと考えられる。

第15表 製塩土器出土地点別数量表

| | 65 | 64 | 63 |
|---|----|----|----|
| R | 1 | 1 | |
| S | 6 | 2 | |
| T | 5 | 4 | 5 |

F 平安時代

須恵器

出土数量は著しく減少し、奈良時代の項で記述した小壺(第46図41～43、第45図14、15)や把手付壺(第43図14)が見られるのみである。二面碗(第49図1)は青灰色を呈し、周縁部を笊削りし、焼成は堅緻である⁴⁾。

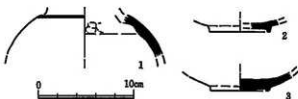
施釉陶器

第16表 施釉陶器出土地点別数量表

総数5点を数える。緑釉は壺、皿の高台部、灰釉は壺、皿類がみられた。緑釉皿(第51図3)は底径6.5cm前後、高台高6mm、高台幅3.5mmを測る。灰釉皿(第51図2)の底部は8cm高台高6.5mm、幅9mmを測った。底部中央の厚さは、緑釉皿6mm～1.2cmと厚く、灰釉皿は4.5mmと薄い。壺は肩部のみで詳細は不明である。胴部径17cm以上、内面に指押え痕が残る、肩部外面に沈線がみられ、古瀬戸の範疇にはいるものであろうか(第51図1)。

| | 65 | 64 | 63 | 62 | 61 |
|---|----|-----|----|----|-----|
| R | | | | | |
| S | | 灰 | 緑 | | 灰・壺 |
| T | | 灰・壺 | 緑 | | |

土師器 (第50図4～6、11、15、21)



第51図 施釉陶器

出土量は少なく、奈良時代の項で述べたS DN 2出土資料が該当するものである。

第17表 黒色土器出土地点別数量表

| | 65 | 64 | 63 | 62 | 61 |
|---|----|----|----|----|----|
| R | 1 | 1 | 2 | | |
| | 2 | 5 | 3 | 3 | 1 |
| S | 6 | 5 | 4 | 2 | 1 |
| | 3 | 13 | 1 | 3 | 3 |
| T | 2 | 5 | 1 | 4 | 6 |
| | | 2 | | 1 | |

黒色土器 (第47図15~20)

総数約90点を数える。包含層上面に約20%、中世層より約60%含まれていた。最も集中するのはS 65-c地区で、S DN 2の北西隅にあたる。施釉陶器や製塩土器も出土しており9~10世紀の何らかの人々の活動が窺える。

埴口縁部約20点、底部約30点を数え、鉢(19、20)・甕等もみられた。埴の形態は口縁部が内

彎するもの(15)と外反するものがみられ、底部は高台断面三角形のもの(17=Ⅰ類)で、底径9cmを測るもの、高台断面形が長く、まっすぐ下におり(18=Ⅱ類)で、底径8.5cmを測るもの、高台断面形が外側にふんばり(16=Ⅲ類)底径7cmを測るものに分類できる。これらの3類は内面黒色を呈し、胎土に若干の差がみられる。恐らく時間的な変化とみられ、10~11世紀代のものと考えたい。

G 中世 (第52~54図)

第18表 東播系練り鉢型式別・出土地点別数量表

| | 65 | 64 | 63 | 65 | 64 | 65 | 64 | 63 |
|---|----|----|----|----|----|----|----|----|
| R | 1 | 1 | | R | 1 | 2 | R | 2 |
| S | 1 | 2 | | S | 3 | 3 | S | 5 |
| T | 1 | | 2 | T | | 1 | T | 1 |

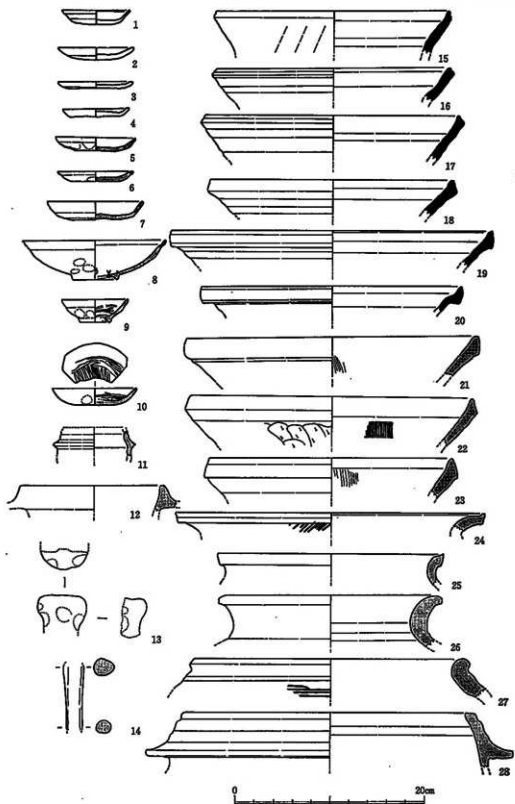
須恵器

主に包含層から出土している東播系須恵器練り鉢(第52図15~20)について説明する。口縁部の形態、口縁部の発達度によりⅠ類=幅1cm未満のもの(第52図15、16)、Ⅱ類=幅1cm~1.5cm(第52図17、18)、Ⅲ類=幅1.5cm以上のもの(第52図19、20)に分類できる。

沖積段丘面上の包含層、茶灰色土(下層=中世層)、暗灰色粘質土(上層=近世)からⅠ類が8点、Ⅱ類が10点、Ⅲ類が10点出土している。数量や分布は余り変わらないが、Ⅲ類にはS 65地区へ集中する傾向が見られる。沖積段丘上のS DA 5からはⅢ類が4点、Ⅱ類が2点出土している(第53図6、7)。

法量については、Ⅰ類が、25cm前後で、口縁部も凹線又は段状を呈し、Ⅱ類は25~26cm位で余り変化はない。Ⅲ類は27~30cmと大形のものが出現してくる。

Ⅰ類は12世紀、Ⅱ類は13世紀、Ⅲ類は14世紀と仮定すると、搬入の量は余り変わらないが、12世



第52图 中世土師器・瓦器・須恵器

紀は小型で数も少なく、分布地点も散在で、当調査区から若干離れた場所で使用された可能性が窺え、13世紀には数量が漸増し、使用頻度も増していると考えられた。14世紀には法量の大きな練り鉢が、前代とほぼ同数搬入されているので、若干の消費増があったようである。

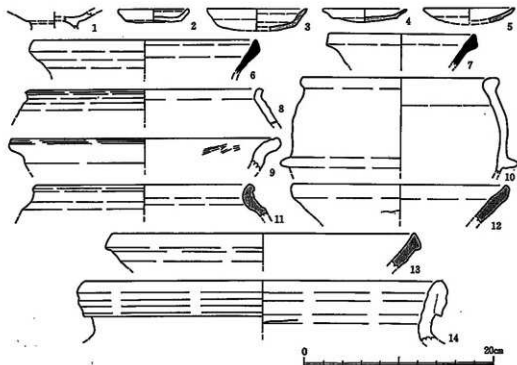
土師器 (第52図1~4)

図化し得たものは4点である。1は包含層(茶灰色土)より出土しているが、他は、より上層からの出土であった。口径6~8cm、器高0.8~1.2cmで、口縁部外面及び内面全体を横ナデし、外面底部は不調整である。遺構より出土したものはピット85掘り方内の(第53図1)高台付皿、S DA 2上面出土皿(第53図2)がある。

瓦器及び瓦質土器

瓦器境の残存状況は余り良くなく、数量的にも多くない(第52図8)。形態的には逆台形又は逆三角形の高台から横方向に体部が延び、斜め上方に上る。口縁部外面は外反し、内面にゆるやかな窪みが見られる。体部外面は指押え痕が残り、内面には格子暗文がみえる。13世紀前半代のものか。

瓦器皿7点のうち、口径8.8~10.6cmを測り、器高1.8~2.3cmに及ぶ(第52図7、10、第53図3)ものをⅠ類とし、口径8.3~8.8cm、器高1.4cm前後を測るもの(第52図5、第53図4)をⅡ類とする。更に小形の口径7.9cm前後、器高1.1cm前後(第52図6)のⅢ類とに分類できる。Ⅰ類を12世紀、Ⅱ類を13世紀前半、Ⅲ類は13世紀中葉から後半頃と考えられる。Ⅰ類は内面に暗



第53図 遺構内出土中世土器

文がみられる。Ⅰ・Ⅱ類は内面及び外面口縁部を横ナゲし、底部外面は指押え痕のみがみられる。

瓦器小碗が出土している。S65—b1地区茶灰色土から検出され、口径6.9cm、器高2.3cmを測る。内底面に笄磨きがみられ底部外面には断面三角形を呈する高台が付着されている。

瓦質土器には土釜・甕・播鉢・不明土製品が出土する。土釜には口縁部が段状を呈する(第52図28)タイプと丸く終る(第52図12)タイプがみられた。また支脚も(第52図14)確認され、様々な承座の土釜が少量ではあるが使用されていたようである。

甕は口縁部及び頸部が長く、薄く外反度の強い(第52図24)ものから、厚く短いものへと変化した、27(第52図)のように玉縁状になってゆく。口径は20~30cm前後で、体部には外面平行叩き、内面ナゲまたは凹み痕がみられる。

播鉢は口縁部の幅1.7~2.2cmでやや丸味を持った面をなすタイプと、ゆるやかに凹むタイプのが出土している。13(第52図)は不明土製品である。

青磁(第54図)

総数22点を数える。調査区北西部、及び南西隅に多く出土している。器種は主に碗である。層位的には近世層と考えられる暗灰色粘質土内に半数以上含まれ、中世層と考える茶灰色土中に4点検出されている。この4点はいずれも碗形態で、外面体部に蓮弁を明瞭に刻み、口縁下約3mmの所に一条の沈線を施し、釉調は厚く緑色も深いもの(Ⅰ類)と、いまひとつは外面に蓮弁を刻まず回転笄削りの後、口縁下7~8mmの所に沈線を施し、内面には回転笄削りの後、4条の柳描き文及び1条のラセン状沈線を施し、口縁下4~5mmの所に沈線を施すもの(Ⅱ類)とに分けられる。更に後者(Ⅱ類)は内面の体底部の境界に凹線をめぐらすものがある。釉調は厚く、色は淡緑色もしくは黄緑灰色を呈する。口縁の形態は外上方に直線的のびるもの(Ⅰ・Ⅱ類のどちらにも含まれる)と、やや外反するものが認められる。どちらも器壁が薄く、深いものである。高台については薄く、接地面が狭く、径の大きいものが認められる(9)。これらが大雑把に13~14世紀代のものと把握し、上層(暗灰色粘質土)に含まれる遺物を見てゆくと、より口縁部が厚いもの(2)、蓮弁が退化したもの、口縁部内外面の沈線のないもの、高台が太く径も小さく、焼成が高温の為、釉が変質しているもの(3)へと変化していると考えられた。

第19表 青磁出土地点別数量表

| | 65 | 64 | 63 | 62 |
|---|----|----|----|----|
| R | 3 | 5 | | 1 |
| S | 1 | 2 | 2 | |
| T | 5 | 1 | 1 | |

白磁(第54図)

総数18点出土している。主に沖積段丘面中央に分布し、青磁の分布とやや異なる。碗と皿はほぼ同数で、上層(暗灰色粘質土層)に11個(碗7、皿4個)、下層(茶灰色土)に7個(碗2、皿5)を数える。碗は、玉縁状の口縁部で、内外面に文様は見られない。器壁が薄く(4mm)長い口縁部で内彎するもの(胎土は灰白色)と、同じく器壁

第20表 白磁出土地点別数量表

| | 65 | 64 | 63 |
|---|----|----|----|
| R | 2 | 4 | |
| S | 4 | 4 | |
| T | 1 | 1 | 2 |

は薄いが内磨せず、外面口縁帯の下に一条のゆるやかな凸帯を持つもの(胎土は白色)がある。Ⅰは内面を平滑に仕上げ、口縁帯を丸くふくらませ、口縁下の凸帯はなだらかに消えかかっている。釉は緑がかかる。また口縁が厚く(厚さ1cm)、口縁下の凸帯を有するものもある。高台は一部のみ出土しているが高さ1cm、幅8.5mm、内面底部に釉のかきとりがある。皿の口縁に端面を有するものと、丸く外反するものがあり、削りによる平底のもの(Ⅰ類)(8)と削り出し高台のもの(Ⅱ類)(7)、削り高台のもの(Ⅲ類)(5)がある。皿Ⅰ類(8)は、やや緑がかった釉で胎土は灰色。皿Ⅱ類は、青白っぽい釉で胎土は白い。皿Ⅲ類は黄緑色がかった釉で、胎土は黄白色を呈する。(6)は高台内に墨書がみられる。

第21表 中国染付出土地点別数量表

| | 65 | 64 | 63 | 62 |
|---|----|----|----|----|
| R | 1 | | | 3 |
| S | | 3 | | 1 |
| T | 3 | | | |

中国染付 (第54図)

総数11点出土している。全て上層(暗灰色粘質土)から出土している。R及びS62区から出土しているものは周辺及び東方の井戸・溝に関連するものであろう。T65・S64区に出土しているものは他の陶磁器類の分布とも重複し、小規模な微高地上に15~16世紀代の建物群存在が見込まれる。いずれも他器種の土器に比べ数量的に少量であるが、供膳形態においては、土師器、唐津・瀬戸等同時期の碗・皿類と伴に一定の比重を占めるものである。堺周辺部における中国陶磁器の普遍的な搬入状況を物語る資料と言えよう。

遺物は口縁部片・底部片のみで完形品はみられない。底部については〔Ⅰ類〕高台が細く低く径が大きいもの。しかも高台内に回転削りによる放射状の凹凸がみられ、その上に釉がかけられている。15は皿と考えられるが見込みに獅子の絵がかかれ、釉は青白色を呈す。16世紀末と考えられる。〔Ⅱ類〕(11)は高台内に厚い釉が施され、高台外側に三重圓線又は唐草文等を描くものである。見込みに圓線により文様区画をつくり唐獅子や草花文を濃い紺色でえがく。〔Ⅲ類〕(13)はふ厚い底部でやや太い高台が削り出される。釉は高台内面に及ばず、色調は黄白色を呈す。外面には木の葉状の文様が密にえがかれ、内面見込み部は圓線内にデザイン化された草花文がみられる。胎土はⅠ類が白、Ⅱ類が灰白、Ⅲ類は黄白色を呈す。

SDA5から青磁碗(2点)、白磁皿(1点)、染付碗(1点)が出土している。

第22表 常滑焼出土地点別数量表

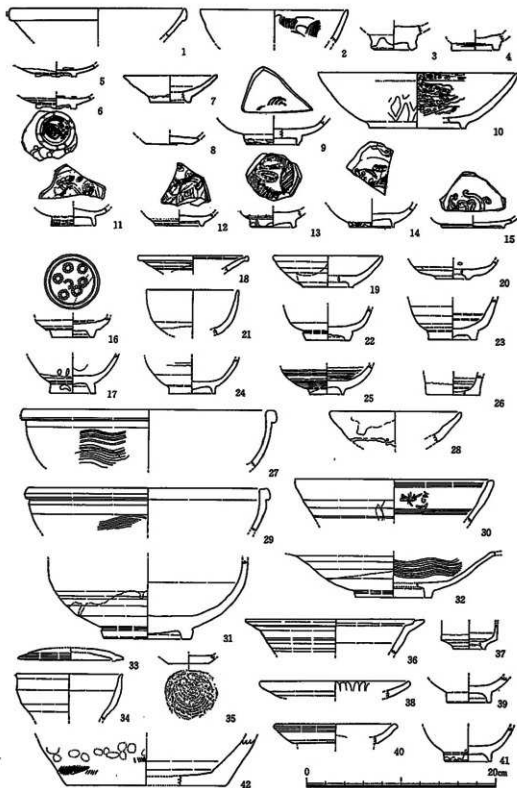
| | 65 | 64 | 63 | 62 |
|---|----|----|----|----|
| R | | | 1 | |
| | 1 | 4 | 1 | 1 |
| S | | 2 | 1 | 2 |
| | 1 | 1 | 1 | |
| T | 1 | 3 | | 1 |
| | | 2 | | |

常滑焼

全部で23点出土している。R64及びT65地区に分布の中心がある。全て壺体部片であった。包含層上層に15点、下層に8点含まれていた。中世における分布の中心がR64区で、近世以降はT65が中心になるようである。

瓦・埴類

埴はS64区で2点出土し、平瓦・丸瓦は全地区で各々約900点・約300点と多数出土している。S64~S65区及



第54图 中国陶磁器・瀬戸・唐津

びR62区に集中し、包含層上層に平瓦400点、下層から220点出土していた。主に北西寄りのS65、R64区から出土している。丸瓦は上層から180点、下層から約100点出土し、上層ではS64区から多く出土しR63・64区は少なく、R64区がやや多いようである。

軒瓦については、蓮珠文軒平瓦がS65・T63区から出土し、唐草文軒平瓦がR64・S64・65区から細片が出土している。軒丸瓦については巴文軒丸瓦がR64、S64・63区及びT64~65区で出土し、宝塔文軒丸瓦がS64区で出土している。いずれもS64区を分布の中心としているようである。

第23表 平瓦・丸瓦出土地点・層別別数量表

| | | 丸 瓦 | | | | | 平 瓦 | | | | | |
|----------------|---|-----|----|----|----|---------------|-----|-----|-----|----|-----|----|
| | | 65 | 64 | 63 | 62 | 61 | 65 | 64 | 63 | 62 | 61 | |
| 全
体 | R | 24 | 33 | 16 | 59 | 6 | R | 63 | 101 | 42 | 123 | 10 |
| | S | 55 | 68 | 32 | | 1 | S | 132 | 171 | 55 | 7 | 6 |
| | T | 41 | 45 | 11 | 4 | | T | 78 | 83 | 20 | 17 | |
| 丸瓦出土地点別数量表 | | | | | | 平瓦出土地点別数量表 | | | | | | |
| | | 65 | 64 | 63 | 62 | 61 | 65 | 64 | 63 | 62 | 61 | |
| 上
層 | R | 5 | 9 | 8 | | | R | 19 | 37 | 21 | 1 | |
| | S | 29 | 46 | 29 | | | S | 58 | 110 | 43 | | |
| | T | 25 | 25 | 8 | | | T | 56 | 62 | 12 | | |
| 上層出土丸瓦、地点別出土地点 | | | | | | 上層出土平瓦、地点別数量表 | | | | | | |
| | | 65 | 64 | 63 | 62 | 61 | 65 | 64 | 63 | 62 | 61 | |
| 下
層 | R | 18 | 22 | | 6 | | R | 37 | 50 | 2 | 24 | |
| | S | 17 | 11 | 3 | | | S | 56 | 21 | 1 | 1 | |
| | T | 19 | 10 | 1 | | | T | 18 | 8 | | | |
| 下層出土丸瓦、地点別出土地点 | | | | | | 下層出土平瓦、地点別数量表 | | | | | | |

第24表 平瓦型式別数量表

| | 凸 面 | 凹 面 | 破片数 |
|-------|----------------|------------|-----|
| I A | 縄 | 布 | 13 |
| I B | " | 布 + 砂 | 40 |
| II A | 縄 + 砂 or 布 + 砂 | | 90 |
| II B | 縄 or 布 | | 20 |
| III A | 粗 砂 | 糸切り or モコツ | 60 |
| B | 細 砂 | " | 23 |
| C | 細 砂 | ナ デ | 370 |
| IV A | 細砂 + ナデ | | 70 |
| B | ナデのみ | | 130 |

次に平瓦の各型式毎の分布状況を概観する。I類は凸面に縄叩きが見え、凹面に布目が見えるものである。離れ砂の有無によりA・Bに分けている。I Aが13点、I Bが40点見られた。また縄叩きと離れ砂が見えるか又は凹面の布目に離れ砂が見えるもの=ⅡA類と、離れ砂がなく、縄目か布目かのいずれかが見られるもの=ⅡB類があり、ⅡA類は90点、ⅡB類は20点出土していた。更に、粗い離れ砂が凸面に、凹面に糸切り痕又は模骨痕が見えるタイプ=ⅢA類と、細かい砂が凸面に見

られ、凹面は糸切り又は模骨痕があるタイプ=ⅡB類に分けられる。これに凸面細砂凹面ナデのみのⅢC類が加わる。Ⅱ類は近世瓦と考えられ、凹面・凸面が不明瞭で、ナデ調整が主体のものである。ⅡA類は細砂があり、ⅡB類はナデのみのものである。第25表に示す通り、上層(暗灰

第25表 平瓦型式別・出土地点・層別数量表

| | ⅠA類 | | | ⅠB | | | ⅡA | | | ⅡB | | | ⅢA | | | ⅢB | | | ⅢC | | | ⅣA | | | ⅣB | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----|-----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|---|---|----|----|---|---|---|---|--|
| | 65 | 64 | 63 | 62 | 61 | 65 | 64 | 63 | 62 | 61 | 65 | 64 | 63 | 62 | 61 | 65 | 64 | 63 | 62 | 61 | 65 | 64 | 63 | 62 | 61 | 65 | 64 | 63 | 62 | 61 | 65 | 64 | 63 | 62 | 61 | | | | | | | | | |
| R | 1 | 2 | 1 | | | 4 | 8 | 1 | 5 | | 7 | 12 | 9 | 14 | 1 | 2 | 3 | 1 | | | 5 | 12 | 2 | 12 | 1 | 2 | 1 | ③ | 1 | 32 | 5 | 11 | ④ | 5 | 2 | 6 | 8 | 1 | 1 | 9 | 6 | 8 | 1 | |
| S | ③ | ③ | | | | 2 | ⑤ | 1 | | | ⑨ | 10 | 4 | 2 | 1 | 3 | ⑤ | 2 | ⑩ | 9 | 3 | 1 | 4 | 3 | 3 | | 5 | 4 | ⑥ | 17 | 5 | 4 | ④ | 3 | | | 7 | ⑦ | 19 | | 1 | | | |
| T | 1 | | | | | 3 | 3 | 5 | 1 | | 5 | 6 | 1 | | | 4 | 2 | 1 | 4 | 2 | 1 | | 2 | 2 | | | 38 | 22 | 4 | | | 7 | 11 | 2 | 8 | | 8 | 28 | 5 | 7 | | | | |
| 上層 | 0 | | | 11 | | | 30 | | | 11 | | | 23 | | | 12 | | | 150 | | | 41 | | | 90 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 下層 | 13 | | | 13 | | | 25 | | | 9 | | | 26 | | | 5 | | | 100 | | | 0 | | | 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

○印は最多出土地点

色粘質土=近世)から出土する割合が多くなるのはⅡB類~Ⅱ類でⅠA類は下層からしか出土していない事が解った。また古いと思われるⅠ・Ⅱ類の瓦は調査区西寄りから多く出土し、ⅢC類等は東寄りでも多数出土している。これらの事から、S64区、R62区で、近世のいつかの時点で時期の混ざった瓦が投棄された事が窺えた。平安後期から中世前半の平瓦については、それ以前から調査区西寄りに散布していたと考えられた。

次に丸瓦について見てみると、凸面縄叩き凹面布目痕を持つもの(Ⅰ類)と、凸面縦ナデ後面取りナデするタイプ(Ⅱ類)、凸面を単にナデだけのもの(Ⅲ類)とに分けられる。Ⅱ類は、凹面に布目痕と糸切り痕とが残るもの(A類)と布目のみが残るもの(B類)と糸切り痕のみ見られる(C類)とに分けられた。いずれも小破片

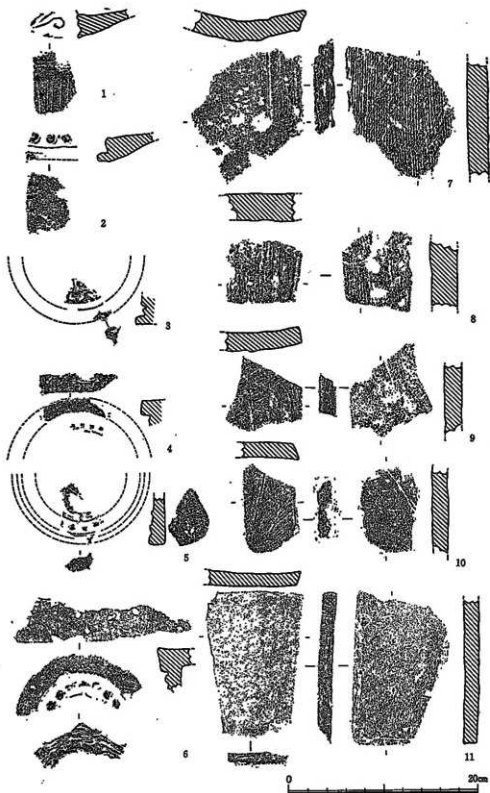
第26表 丸瓦型式別数量表

| | 凸面 | | 凹面 | | 数 |
|---|-----|-------|----------|--|-----|
| Ⅰ | 縄叩き | | 布目痕 | | 57 |
| Ⅱ | A | 面取りナデ | 糸切り痕+布目痕 | | 41 |
| | B | " | 布目痕 | | 149 |
| | C | " | 糸切り痕 | | 36 |
| Ⅲ | ナデ | | ナデ | | 27 |
| 計 | | | | | 310 |

が多く、残存状況は良くなかったが平瓦と同様、S64区とR62区に分布の中心が認められた。しかし型式と土層の関係は平瓦程明確にはあらわれず、分類規準を再度確認する必要も感じられた。一応Ⅰ→Ⅱ類へと新しくなると想定して、第27表を作成し、Ⅰ類が下層に多く、Ⅱ類がやや上層に多く出土することが確認され、ⅡCからⅡ類は殆ど上層にしか検出されない事が判明した。平瓦とはⅠ類同志が対応し、丸瓦ⅡA類と平瓦Ⅱ類が対応し、丸瓦ⅡB類は平瓦ⅢC類と、数量の点で対応するようである。

窯壁

総数11点数えられ、茶灰色土より8点、暗灰色粘質土より3点出土していた。R64・65区に多く分布し、SX3周辺に集中すると見て良からう。しかし瓦類・中世陶磁器の集中地点からは若



第55图 包舍层出土瓦拓影

第27表 丸瓦型式別・出土地点・層位別数量表

| | 地区 | I 類 | | | | | II A 類 | | | | | II B 類 | | | | | II C 類 | | | | | III 類 | | | | | |
|--------|----|-----|----|----|----|----|--------|----|----|----|----|--------|----|----|----|----|--------|----|----|----|----|-------|----|----|----|----|---|
| | | 65 | 64 | 63 | 62 | 61 | 65 | 64 | 63 | 62 | 61 | 65 | 64 | 63 | 62 | 61 | 65 | 64 | 63 | 62 | 61 | 65 | 64 | 63 | 62 | 61 | |
| 総
数 | R | 5 | 4 | 1 | ⑤ | 2 | 1 | 2 | 11 | | | 10 | 17 | 9 | 20 | 1 | 2 | 2 | 2 | ⑤ | 1 | | | 2 | 1 | 1 | 1 |
| | S | 8 | 2 | 4 | | | 4 | ⑤ | 6 | | | 25 | ⑤ | 4 | 1 | 3 | ⑤ | 5 | | | | 2 | ⑤ | 4 | | | |
| | T | 6 | 7 | 1 | 1 | | 2 | 1 | 1 | | | 12 | 13 | 8 | 1 | | 2 | 3 | | | | 3 | 4 | 2 | 1 | | |
| 小計 | | 75 | | | | | 41 | | | | | 149 | | | | | 36 | | | | | 27 | | | | | |
| 上
層 | R | 2 | | | | | | 2 | | | 4 | 8 | 4 | | | 1 | 2 | 2 | | | | 2 | | | | | |
| | S | | 2 | 4 | | | 4 | ⑤ | 4 | | 13 | ⑤ | 4 | | | 3 | ⑤ | 5 | | | | 1 | 3 | ⑤ | | | |
| | T | 4 | 1 | 1 | | | | | | | 4 | 6 | 6 | | | 2 | 1 | | | | | 2 | 3 | 1 | | | |
| 小計 | | 14 | | | | | 21 | | | | | 64 | | | | | 24 | | | | | 16 | | | | | |
| 下
層 | R | 3 | 4 | | | | 1 | | 2 | | 5 | 9 | | 11 | | | | | | | | | | | | | |
| | S | ⑦ | | | | | 2 | 2 | | | 8 | ⑤ | | | | | | | | | | | ⑤ | | | | |
| | T | 2 | 6 | | | | 2 | | | | 7 | 3 | 1 | | | ⑤ | | | | | | 1 | 1 | | | | |
| 小計 | | 22 | | | | | 9 | | | | | 57 | | | | | 2 | | | | | 5 | | | | | |

○印は最多出土地点を示す。

干ずれており、襷羽口とも重複しない。数量も少なく、個体の大きさも2~5cm程度であり、二次堆積の可能性もある。

砥石

8点出土しているが、調査区の南辺に多い。大形のチャート及び砂岩製のものと同小形品がみられる。時代は決定し難いが、襷羽口の分布地点とやや似ており、古墳~奈良時代か又は鎌倉・室町期のものであろう。第57図は縄文時代の叩き石である。

金属器

鉄滓 洪積段丘上及び沖積面上において出土している。R 63・64区、S 62区が分布の中心である。形状は10cm前後、楕円形で厚さ約5cmを測り増からはずされた状態のものと、破損して2~3cmになったものがある。

貨銭 R 64-d区で洪武通宝が茶灰色土より出土し、不明の貨銭が土壌13より出土している(第62図11)。

遺構内出土遺物

ピット及び、土壌内出土遺物は瓦器・土師器等の各遺物の項目で説明したので、ここでは溝内出土遺物について触れたい。

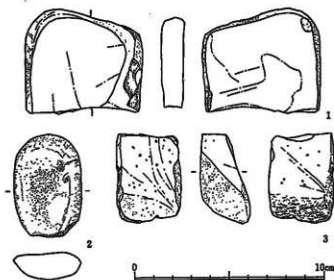
SDA 5 SDA 5はSE 1やSDA 2他土壌・埋変等が近接し、弥生~中世に至る多くの遺物を含んでいる。総数約 800点にのぼり、弥生後期の甕や、生駒西麓産の土器片・古式須恵器・

第28表 窯壁片出土地点別数量表

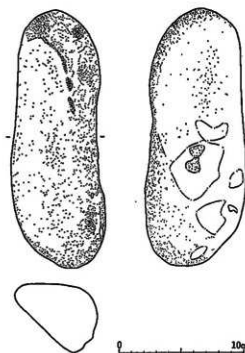
| | 65 | 64 |
|---|----|----|
| R | | |
| S | 2 | 1 |
| T | | 1 |

第29表 砥石出土地点別数量表

| | 65 | 64 | 63 |
|---|----|----|----|
| R | | | |
| S | 1 | | 1 |
| T | 1 | 1 | 1 |



第56図 石



第57図 包含層出土石器

唐津焼 総数64点を数える。碗・鉢類はほぼ調査区の全域に認められるが、皿状のものはR62とT65区に認められる。高台の形や器形によって3分された。I類(第54図19、20)は浅い皿状を呈し、高台が低く逆台形をなす。釉は外面口縁部と内面全体にかかり、トチンの痕跡が認めら

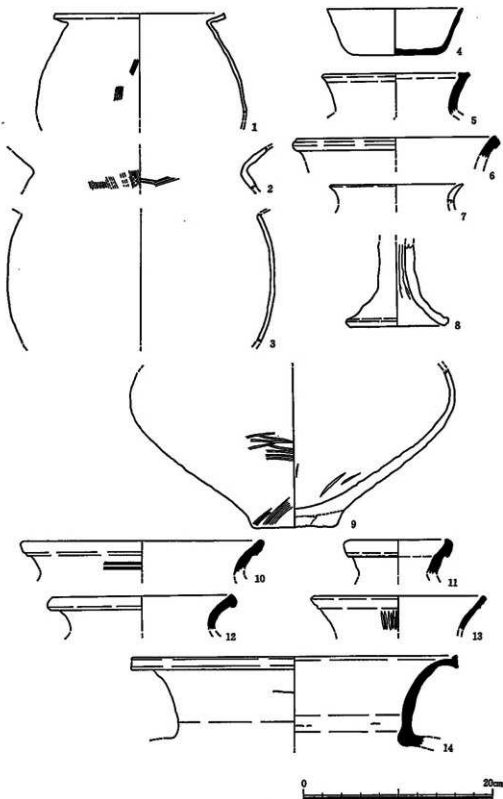
土師器等々も含まれている。これらの前代の遺物は一応捨象して瓦器・土師器・陶磁器について説明する。供膳形態として瓦器(碗・皿)が19点、青・白磁3点、土師器皿の3点を加え25点が数えられ、調理形態として東播系須恵器練り鉢が6点、煮沸形態である土師器土釜が14点数えられた。貯蔵形態は不明である。以上を中世前期の器種構成とし、次に中世後期の器種を見てみる。供膳=瀬戸碗・皿、中国柴付等(5点)、調理=瓦

質搦鉢(2点)、煮沸=瓦質土釜(3点)、貯蔵=瓦質甕・備前焼甕(11点)が数えられた。他の時期の出土遺物量を参考にすると、集落周辺に溝が位置する場合、供膳・調理の比率が高くなり、集落が遠ざかった場合は遺物量が少なく、供膳の比率が下がり、平均的に各器種が出土するようである。

その他 SDN9、SDA3等SDN2上面に走る小溝に土釜、瓦器、瓦類が含まれ、SDN2が、中世まで不安定な状況であった事を物語っている。

H 近世(第54・59~62図; 図版155~157) 陶磁器

美濃・瀬戸焼 総数37点が確認された。碗が23点、菊皿・盛皿等は数点で、16世紀後半から17世紀代のものが大半である。殆ど包含層上層からの出土で、T65地区に集中している。



第58図 SDA5 他出土土器

第30表 近世陶器出土地点別数量表

| | | 65 | 64 | 63 | 62 | 61 |
|-------|---|----|----|----|----|----|
| 美濃瀬戸焼 | R | 2 | 4 | 3 | 2 | |
| | S | 5 | 3 | 2 | | |
| | T | ⑤ | 5 | 1 | | |
| 唐津焼 | R | 1 | 3 | 6 | 5 | 1 |
| | S | 8 | 8 | 4 | 2 | |
| | T | ⑥ | 10 | 2 | 2 | |
| 備前焼 | R | | 9 | 8 | 7 | 3 |
| | S | 6 | ④ | 2 | | |
| | T | 6 | 9 | 3 | 1 | |
| 信楽焼 | R | | 2 | 1 | | 1 |
| | S | 4 | ⑦ | 1 | | 1 |
| | T | 5 | 3 | 1 | | |
| 丹波焼 | R | 1 | | | | |
| | S | 5 | ⑧ | | 1 | |
| | T | 2 | 3 | 1 | | |

れる。Ⅰ類(第54図16、22)は高台が高く、外面上方に稜線を持つ、緑色の釉と黒灰色の釉がみられ、後者の内面には花文が象嵌されている。高台内に釉はかからない。Ⅱ類は高台が細く小さい。暗緑灰色の釉に白灰色の横方向に流れる筋が見られる。内面底部の釉は幅1cmにわたり輪状にかきとられ、重ね焼き痕がある。高台内にも釉と筋目が施される。

口縁部の形態は丸くおわるものと、屈曲し段を持つもの、碗状のもので直立するややふ厚いタイプが見られる。他に黒釉の小壺がSE1より出土する。鉢形のもは、口縁部が玉縁状で、内外面に波状文を施したものと、口縁部が外反し、内外面に濃緑色の釉を施したものとある。この高台はガッシリしたもので、周刃を笥削りし、釉はかからない。いまひとつは、口縁が外上方に伸びやや肥厚して丸く終るタイプで、内外面にやや白っぽい黒灰茶色の釉がかかり、内面口縁部下に白色の象嵌がみられるものである。

備前焼 総数75点が調査区のはほぼ全域から出土している。包含層上層から大半が出土し、S64・R64区に集中している。R

64・S65区では下層からも検出されている。近世の揺鉢・変・壺等が多くみられる。揺鉢は近世のものが大半である。口縁部の形態は2cm幅の口縁帯に2本の凹線がめぐる。体部外面は笥削り又は横ナデ調整され、内面口縁部上端に段を持ち、楯目の上部は横ナデにより消される。楯目は9~11条、色調は濃茶色・黄褐色を呈す。口径は大・中・小の三類に分けられ、それぞれ、20、30、40cm前後を測る。他の焼きものは平均30cmではほぼ一定している(第59図1~6)。

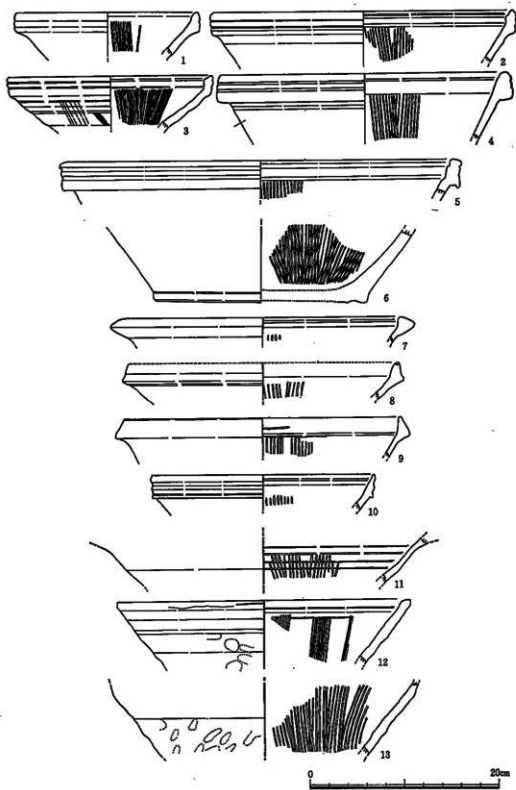
信楽焼 総数26片のうちS64区からT65区にかけて半数近く出土している。包含層上層に殆ど含まれていた。揺鉢体部3点、口縁部6点が出土している。口縁部の形態は肥厚し、上端に面を持つものと、外面端部が拡張し、凹面をなすもの、更に拡張し、幅2cmを測り2条の凹線が施されるものに分けられる(第59図7~11)。

丹波焼 総数19点中、変が8点、揺鉢3点、壺4点を数える。揺鉢口縁部は端部が方形をなし、内面にゆるやかな凹線がめぐる。体部外面に指押さえ痕がのこり、内面に9条の楯目が施される。濃茶色で、断面、灰黒色を呈す(第59図12・13)。

澁焼

主に調査区の東方洪積段丘面上に残存状況の良好な個体が多く、西方沖積段丘面上の包含層から出土した個体は小破片が多い。

R61~63区より出土した地烙はⅠ類=口縁部が内彎しやや幅が狭く、Ⅱ類=口縁部が直立し、幅の長いものとに分けられる。Ⅰ類は西方の沖積面上に多く(第60図2・4)、Ⅱ類は洪積段丘



第59圖 繪前・丹波・但來・摺鉢

第31表 漢焼出土地点別数量表

| | | 65 | 64 | 63 | 62 | 61 |
|--------|---|----|----|----|----|----|
| 甕 | R | 1 | 2 | 9 | 14 | 6 |
| | S | 6 | 11 | 1 | | |
| | T | 6 | 6 | 3 | 3 | |
| 地
絡 | R | | | 4 | | 4 |
| | S | 8 | 8 | 1 | | |
| | T | | 3 | 2 | 13 | |
| 火
舎 | R | | | 2 | 2 | 3 |
| | S | | 2 | 1 | | |
| | T | 2 | 3 | | 1 | |

面上で多く(第60図3・5~7)出土している。底部はいずれも離れ砂・型造り成形と考えられ、薄い仕上りで外面には煤が付着している。

火舎はドーム状の天井に三筋の柳葉状の透かし穴があげられ、平坦な底部に退化した脚が付される。内面上半部に煤の痕跡がみられる。

土釜は(第60図8)口縁部のみが残存で、内外面を回転ナデ調整する。

甕は口径30cmの小形のもの(第60図10)と、60~70cmを測る大形のもの(第60図9)がみられる。口縁部の形態は分厚い方

形を呈し、上面が逆台形をなす。口縁部が短く、肩が張る器形から、口縁部が長くなり、肩が張らないものへと変化する。埴甕SKA25(第61図4)のように底部は丸底で型づくりと考えられる。体部内面は叩きのあて具の痕跡があり、その上を横ハケ調整している。外面は斜めの粗いナデ又は平行叩きもしくは刷毛調整がみられる。

貨銭 (第62図)

寛永通宝が調査区北側トレンチ内より出土している。直径2.3cm、厚さ1mm、一辺7mmの穴があく。

遺構内出土遺物

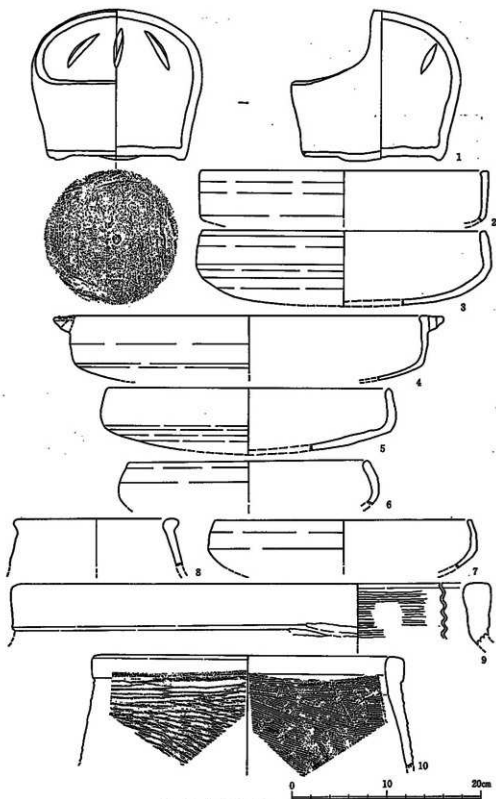
SE1 漢焼の土塼、土釜が出土している。土塼は内面に刷毛目が施され、外面は篋削りしている。器壁が厚く、口縁部内面に凹線がみられる。土釜は口縁部が長く、端部を肥厚させ、上端に面をつくる。鈎は下方にさがる。橙色を呈し、胎土は密である。

仮設道路内井戸 伊万里焼燗台・皿・甕他、瓦類等、近世~近代にかけて遺物が出土している。燗台は草花文を外面に施し、底部以外に青白色の釉をかける。

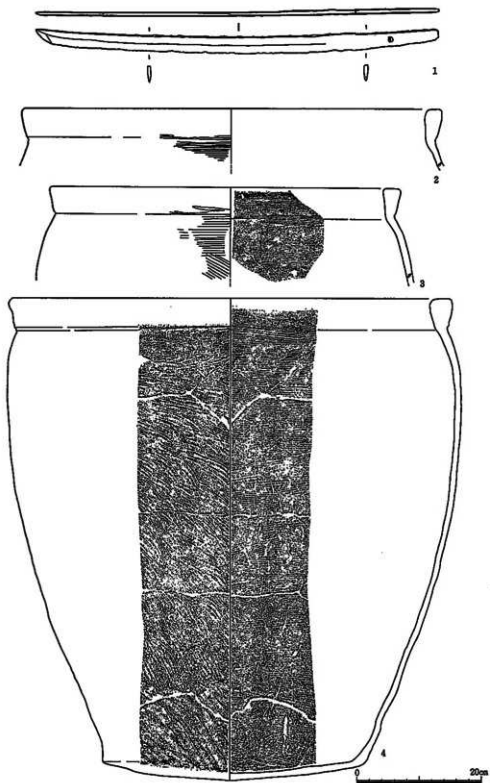
SKA23 17世紀代と考えられる。備前焼溜鉢が出土している(第62図3)。

SKA25 青磁碗・伊万里焼碗・軒丸瓦(第62図6)・平瓦・丸瓦が出土している。青磁は見込みに圓線がめぐり、わずかに象嵌が窺える。高台は丸く、高い。高台内は釉をかき取って中心部分だけ残している。体部外面下半には退化した蓮弁の基部がわずかに見える。胎土は白灰色で黒色微粒を若干含む。軒丸瓦は径13.6cm、左回りの三ツ巴文で頭部は丸く、尾部は短く独立している。外区内縁の珠文は径7mm前後で16個並んでいる。節傷が多く見られる。丸瓦との接合部はナデ調整される。接合粘土は余り多くない。丸瓦は幅13cm、厚さ2.9cmである。外区外縁の幅は1.2~1.9cmを測る。内区と外区との間には一条の圓線が周る。

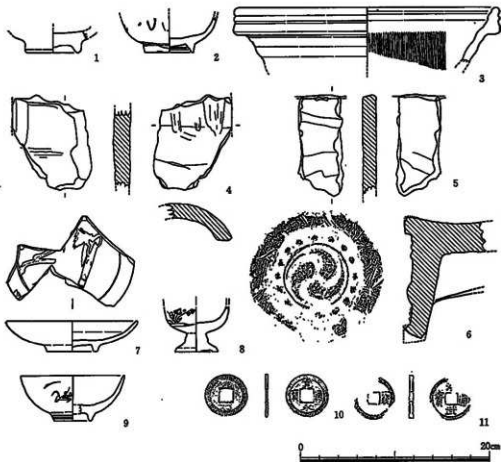
平瓦は平坦で凹凸面の区別がつかない。片面は不調整で他方は側面に接する部分をナデ調整する。丸瓦は凹面に布目瓦痕が見られ、長側面をナデ、凸面は磨き風に従方向のナデ調整がみられた。両者とも胎土に小さな片岩を思わせる砂粒を含んでいた。



第60圖 淡熊地岳・火舎・甕



第61圖 日本刀・換籠



第62図 遺構内出土遺物

I 近・現代 (第61図; 図版157)

防空壕内出土遺物

S61区で検出された防空壕内より日本刀一振が出土した(第61図1)。他に鉢等の雑器も投棄されていた。

3 小結

西浦橋遺跡出土遺物について観察してきたが、土器を中心にして気付いた点を羅列しておく。

A 縄文式土器

出土点数が少量であるにもかかわらず、個体差が大きく、他地域産の土器が目立つ事が言える。後期の土器は瀬戸内・近畿地方で縁帯文土器と供伴し、東州では四ツ池・板原・三軒屋・淡輪遺跡⁶⁾等で出土している。河内方面では林・国府・縄手遺跡等で知られている。晩期の土器に関しては、矢張り個体差の大きい事と、他地域産の土器が目立つ事が指摘された。これらの型式差、時間差と考えるならば、少量の器種と数少ない土器を運びつつ生活する集団が想定される。

B 弥生式土器

横間辺にⅡ～Ⅲ様式期の土器が認められ、口縁部の形態・底部の形態から時間的な差と思われる変化が認められた。また方形周溝基間辺の土器群には壺が多く、他地域産の土器もみられ、同様に横間辺についても手捏ね土器や把ツ手付土器、底部穿孔無頸壺等様々な器種と、他地域産の土器片が確認された。他地域産の土器についても片岩や角閃石といった指標となる鉱物の含まれ方に差がある事も判明した。

C 古式須恵器

大甕・壺・器台等が分布しており、その状況から洪積段丘上のSDA2周辺に置かれていた可能性が考えられた。5世紀前半から中葉にかけて周辺遺構は東側の菱木下遺跡では知られておらず、何らかの単独の祭祀儀礼等に伴う土器の設置かもしれない。周辺地域の調査例が増加すれば分布の中心とその意味が判明するであろう。散片出土している埴輪片との関係も興味深い。

D 6世紀初頭の土器群

第32表 5世紀後半から6世紀初頭における遺跡別出土遺物組成表

| | | 供 膳 | | 調理 | | 煮沸 | | 貯 蔵 | | | 小計 | 製埴土器 | 罎羽口 | 計 |
|------------|-----|------------------|-----------------|--------------|-----|-----|----------------------|----------------------|---------------|--------------|------|------|-----|------|
| | | 罎・坏・他 | 高 坏 | 器 台 | 甌・鉢 | 甕 | 大形 ^{40cm以上} | 中形 ^{20cm以上} | 小 形 | | | | | |
| SDN2 | 須恵器 | 約250組
(57.2%) | 約90組
(20.6%) | 25
(5.7%) | | | | 6
(1.4%) | 46
(10.5%) | 20
(4.6%) | 437 | | | |
| | 土師器 | | 1 | | | 20 | | | | | 21 | 20 | 4 | 482 |
| 太平寺
茶黒粘 | 須恵器 | 90組 | 15組 | 0 | 6 | | | 0 | 2 | 46 | 159 | 62 | 48 | 335 |
| | 土師器 | 3 | 6 | | 4 | 51 | | | | 2 | 66 | | | |
| 深田 | 須恵器 | 74 | 60 | 7 | 20 | | | 212 | | 49 | 422 | | | |
| | 土師器 | | 22 | 5 | 5 | 119 | | | | 59 | 210 | | 1 | 633 |
| SD1 | 須恵器 | 370 | 200 | 12 | 36 | | | 942 | | 160 | 1720 | | | |
| | 土師器 | 3 | 6 | 9 | 9 | 318 | | | | 96 | 441 | | | 2161 |
| 船橋 | 須恵器 | 50 | 2 | | | | | 2 | 15 | 3 | 72 | 219 | | |
| | 土師器 | 15 | 19 | | 32 | 69 | | | | 11 | 146 | | | 437 |
| 船橋 | 須恵器 | 70 | 10 | 2 | 1 | | | 1 | 2 | 15 | 101 | | | |
| | 土師器 | 11 | 5 | | 46 | 100 | | | | 19 | 181 | 111 | | 393 |

SDN2下層で検出され、約500個体以上を数え、供膳形態が圧倒的に多い事が判った。土師器は殆ど見られず、須恵器の罎・坏・高坏等が半数以上を占めていたのである。供膳形態366点、貯蔵形態72点、煮沸形態20点、その他製埴土器20点、罎羽口4点を数えた。総数482点中、須恵器が437点で90.7%を数えた。供膳形態は75.9%を占めている。煮沸形態は4%にすぎない。¹⁰⁾太平寺遺跡の茶黒色粘質土及び、落ち込みの組成は、須恵器が47%を占め供膳形態が34%を占めている。煮沸形態は15%である。次に深田遺跡のSD1出土土器について見ると、須恵器が67%を占め、供膳形態が168点で26.5%を数え、煮沸形態が18.7%を占めていた。いずれも不明その他は除外して数えている。河内の集落遺跡の代表として、船橋遺跡¹²⁾0地区Ⅱ層・Ⅲ層の遺物につ

いて見ておくと、須恵器と土師器の割合はほぼ3対7で、5世紀後半代のほうがやや須恵器の比率が高い。供膳形態は35～40%であった。

このように見てくると、SDN2の須恵器の比率の高さは和泉の一般的動向の中に納まるとしても、供膳形態の豊富さと、煮沸形態の稀少さが目立つと言える。船橋遺跡の例では供膳形態40%、煮沸形態35%の比率で、SDN2の4%や、太平寺遺跡の13%、深田遺跡の14～18%はやや少量に過ぎるようである。大園遺跡の6世紀後半代の煮沸形態についても18%前後と低率である。先述したように生焼けの中・小形甕を煮沸用に使用した可能性を考えておく。

E 6世紀後半の土器群

まずSDA2から述べると、供膳形態（環・環蓋を一組として）が約40%、貯蔵形態が約50%で、煮沸形態は10%にすぎない。更に甕・壺類の編年を明確にし、器種構成も法量別にとらえ直す必要性を感じた。第33表はその他の遺物を省略しているが、SDN2に關しては供膳形態が圧倒的に多く、煮沸形態の少なさが目立った。複数時期の遺物を含む遺構内出土遺物の宿命かもしれないが、集落の一般的な生活形態が直接放棄されたとは考えられない様相であった。

第33表 遺構別器種組成数量表

| | | 環 | 環蓋 | 高環 | 器台 | 壺 | 大甕 | 甕 | 壺 | 小計 | 比率 | 供膳 | 貯蔵 | 煮沸 | 計 |
|------|-----|-----|-----|----|----|----|----|------|----|------|-------|---------|---------|---------|-----|
| SDA2 | 須恵器 | 50 | 34 | 15 | 3 | 6 | 1 | 45 | 40 | 194 | 89.8% | 68 | 92 | (20) | 217 |
| | 土師器 | 2 | | 1 | | | | (20) | | 23 | 10.2% | (37.7%) | (51.1%) | (11.1%) | |
| SDN2 | 須恵器 | 230 | 160 | 62 | 30 | 12 | 15 | 54 | 34 | 597 | 98.3% | 320 | 115 | (10) | 607 |
| | 土師器 | | | | | | | (10) | | (10) | 1.7% | (71.9%) | (25.8%) | (2.2%) | |

F 7世紀後半から8世紀前半代の土器群（SDA2上層）

SDA2上層の器種構成は、供膳形態が80点前後で、壺類に長頸壺・短頸壺・耳付壺・平釜・無頸壺が増えるが、貯蔵形態は、壺が約10点、甕が約20点ほどで土師器甕は矢張、少量である。船橋遺跡では、供膳形態須恵器、土師器、合わせて1200点を数え、貯蔵形態約400点、煮沸形態約600点を数え、圧倒的な遺物量の差が窺える。依然として供膳が多く、煮沸が少ない。

G 8世紀後半代の土器群

SDN2では供膳形態・約300点、貯蔵形態・約40点、煮沸形態・約50点、製塩土器・約30点を数えた。SDA2上層から比べると、土師器が増加し、貯蔵形態が減少しつつある。船橋遺跡では、古墳時代中期に供膳と煮沸の割合がほぼ同数であったものが、奈良時代には2対1の割合に供膳形態が増加している。和泉北部地域では、古墳時代中期において、供膳と煮沸がほぼ2対1であった太平寺・深田遺跡と、20対1の西浦橋遺跡が見られ、古墳時代後期のSDA2では4対1、SDN2では35対1と差がひらき、8世紀前半、SDA2上層で8対1、SDN2上層で5対1位に縮まってくる。出土地点の性格にもより、曖昧な数字を提示して比較しても始まらないが、資料を示すことによって、特殊か普通かを判断する材料にもなり得るであろう。

れ、約1000本の矢板材が打設されたのであった。岸辺から長さ4~5mの丸木材を投入し、1mおきに丸杭により固定された二段重ねの堰は更に幅10cm前後の矢板材により補強され、水位を約1m上昇させる構造にする。勿論、導水路となるSDA1がすでに開削され、水量調節用の杭が打たれ、溜水施設もつくられている。洪積段丘面と交差するポイントは、幾重にも杭列を打設し、水取口を確保している。こうして築かれた堰がどの程度の規模の共同体により維持管理され、どの程度の水田面積を潤す水量が得られたのかは不明である。しかし構築の主体はそれ程多くは望めない。つまり、1000本以上の杭はほぼ同種の樹木であり、樹令数100年の大木を利用すれば、数本で材料は得られるのである。古照遺跡等で見られる丸太杭の場合は、ほぼ似た長さ、太さの樹木を数多く集めなければならない。土盛工程も加わり比較的大きな集団の統御された行動が必要であろう。次に水田位置については、石庵丁の出土や溜水施設の位置からさほど遠く離れていないと考えられる事、実際の集落が数少なく、方形岡溝墓も10基前後で共同体成員は20人程度と考えられる事があげられる。しかし和田川支流にもっと井堰が設けられ、それぞれが有機的に関連し結合していた可能性が全くない訳ではない。和田川を更に遡ると川幅が狭くなり、蛇行も小規模なものとなる。こうした言わば急流にあたる地点の丘陵上に銅鐸が埋納されていたのである。和田川水系の水源を守る祭祀が行なわれた可能性は高く、その場合、和田川流域に存在する共同体の代表者が参加する事は充分考えられる。今後の資料の増加に期待する。

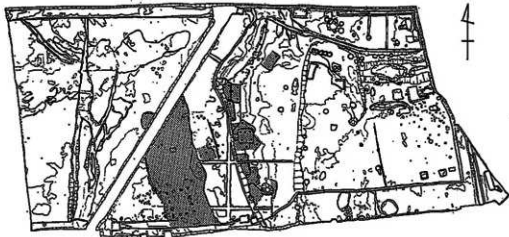


第63図 遺構更遷図(Ⅰ)弥生時代

弥生中期後半から古墳時代

この時期、井堰は埋没し、段丘上の集落も急速に変遷し、移動する。鈴の宮遺跡¹⁷⁾や万崎池遺跡、信太寺遺跡¹⁸⁾、菱木下遺跡においてもその傾向は否めない。古墳時代前期まで、西浦橋遺跡に明確な遺物・遺構はない。古墳時代中葉の古式須恵器の段階からしだいに遺構・遺物が検出され、はじめ、5世紀後半の段階で堅穴住居が2棟〔4、10〕出現し、5世紀末から6世紀前半にかけて、〔(2→3)・6〕→〔倉・1・(8→7)・11〕と建て替えられる現象が起こった。遺構は削

平が激しく、遺物も少量で、若干建物が多すぎるくらいもあるが、SDN 2内の遺物量や、地形の著しい改変を考慮すれば、存在自体は否定されるものではない。これらの堅穴住居跡はSDN 2が南南東方向に延び、菱木集落へ続く東側段丘崖に更に検出される可能性が高い。沖積段丘の



第64図 遺構実測図(II) 古墳時代

溝と相俟って新たな和田川流域開発の集団が選地したものであろうか。6世紀後半以降の展開とも関係するが、住居規模も小さく、建て替えも激しい事から、従属的な性格の村や、非日常的な村である可能性も考えられる。出土遺物は供皿形態が多く、器台が豊富で、製塩土器も出土している。

いずれにしても、対岸の山田遺跡¹⁹⁾、上流の野々井遺跡²⁰⁾、石津川流域の太平寺遺跡、深田遺跡、豊田遺跡等の集落立地・展開・土器組成等との比較検討が急がれる。また陶器山に存在する田圃遺跡²²⁾・辻之遺跡の実態も西浦橋遺跡を理解するうえで不可欠のものである。この時期の須恵器生産²³⁾は、大野池周辺の窯が、桜池、光明池周辺へと移動し、原山大師周辺と牛石古墳群周辺に窯跡が集まってくる。高蔵寺跡が位置する丘陵では前代からの生産が継続し、次の段階に一旦減少傾向を見せる直前にあたる。

このように当期の西浦橋遺跡の存在は、山田遺跡周辺、大野池周辺の变化、野々井遺跡及び牛石古墳群が立地する丘陵の変化に関係するものと考えられる。

6世紀後半

この時期、再び、堅穴住居群(5・9・12)が出現し、ややおくれ、菱木下遺跡に西接する段丘上にも遺物が多くみられるに至る。S BK 5他も規模が小さく、供皿形態の占める割合が高い。沖積面は安定度を増し、ほぼ南北に通る溝を掘削し、和田川沖積面及び、埋積谷の開発を一段と安全なものにする働きかけが行なわれたようである。先述したように、大野池周辺の窯は操業の中心を光明池・谷山池に移し、牛石・原山周辺は安定的に生産し、順次谷奥へと進んでいる。野々井、辻之遺跡では大規模な集落が出現し、狭山池周辺に窯跡が増えると言われる時期であり、

深田遺跡や山田遺跡、豊田遺跡は姿を消している。また松尾塚原古墳群・山田古墳群・牛石古墳群・陶器千塚古墳群が営まれ、墓制を媒介とした「政治関係」が明確に当地域にも訪れる。その内容は豊富で、個性的である。この時期は、沖復面は開発され、段丘上に集落が集中し、古墳と窯が高位段丘及び丘陵に存在する状況を想定すれば良からう。こうした状況下における西浦橋遺跡堅穴住居群の存在は前代の内容と、(形態こそ類似するが、)大きく異なると言えよう。中村浩は、須恵器窯に各種の笥記号が焼成され、いくつかの手法の土器がみられる事と、群集墳の存在、更に文献から氏族の復原を通して、中間層を想定し、須恵器生産を官僚的・組織的に把握する試みを行っている²⁴⁾。しかしその根拠となる笥記号、群集墳、文献記録との関連性は稀薄であり、「中間層出現の契機・よって立つ基盤・存続時期・内容・性格・以後の消長」等々課題は多い。6世紀後半に規程される以前は二本木山古墳や黄金塚古墳の被葬者との関係はどのようなもので、6世紀後半以降消滅する辻之、菱木下・西浦橋・野々井遺跡の集落文記者は何処へ繋がってゆくのであろうか。転々と移動する集団を純粋に制度的・政治的に把握し得たのであろうか。

7世紀初頭から後半

この時期にかけて再び開墾とした遺跡の風景が訪れる。菱木下遺跡に近接する洪復段丘には若干の遺物散布も見られるが、7世紀後半代まで大きな変化はなかった。これは「陶色」の研究の中でもよく取りあげられる7世紀初頭の窯跡の激減に関係するのかわ不明である。西浦橋遺跡の南方に続く榑・美木多丘陵地区では著しい窯跡の減少はなく、他地区に比べれば漸減である。周辺の遺跡を見ても、7世紀前半から中葉にかけて展開する遺跡は油田寺遺跡・野々井遺跡があげられる程度である。

7世紀後半から8世紀前半

周辺に古代寺院が建立され、窯跡地域では瓦陶兼業窯や平窯が築かれる。当調査区では東端部のSDA 2上層において遺物が多数検出され、菱木下遺跡に再び集落が出現した事を物語っている。西浦橋遺跡に西接する鶴田池東遺跡²⁵⁾ではこの時期の大量の土器が谷の中から出土している。



第65図 遺構実測図 (III) 奈良・平安時代

8世紀後半代にはSDN 2もほぼ埋没し、平安時代にかけて軟弱な地盤に3間×3間の孤立柱建物が増えてくる。沖積面上の包含層から硯や施釉陶器も出土しているが、東方の洪積段丘上に想定される集落からの流出物ではなかろうか。

8世紀後半から平安時代

8世紀後半以降・梅・美木多地区に須恵器窯は消える。高蔵寺・陶器山地区もほぼ消滅に近い状態となる。こうした窯跡地域の変容を背景にして、西浦橋遺跡のありかたも若干変化している。須恵器がやや減少し、土師器が漸増してくるのである。圧倒的に生活用具の中心を占めてきた須恵器が平安時代以降皆無の状況を呈するのである。そして、沖積面上の溝も埋没してしまう。

平安後期

この時期に至りようやく木調査区に遺構が掘削される。ここでも建物の柱穴や周辺包含層から出土する瓦片より、鶴田池東遺跡や、葦木下遺跡を木村とする従属的な集落の可能性が窺えた。遺物の内容は包含層内の細片とは言え、東北段丘地形に位置する集落周辺の典型的なものと考えられた。平安後期から流入する東播磨練り鉢は徐々にその数を増し、輸入陶磁器、在地の瓦器、土師器と日常容器の器種を構成する事も判明した。瓦類は陶磁器と併に沖積段丘面の数箇所に投棄されたようである。これらの2次堆積物の分析からも、在地の瓦の形態変化が追求し得、寺院本体の消長を推定する事もできるであろう。

鎌倉・室町期

この時期には鍛冶炉も設けられ、中世農村の風景を呈している。恐らくすでに和田川流域の条里地割が施行され、実際に機能していたであろう。洪積段丘上には土壌が掘削され、SDA 5が滞水している。徐々にではあるが確実に近世商品生産の前提となる段丘上の自作の条件が整えられる様子が窺える。



第66図 遺構変遷図 (IV) 鎌倉・室町時代

17世紀以降

この時期、洪積段丘上には井戸が開削され、澆焼甕を使用した肥溜が集中して埋められる。澆

焼窯は口縁部内面と底部、体部下半に肥料をくんだりしゃくの使用痕が残っている。

このようにして旧石器から近世、現代の防空壕まで西浦番遺跡を紹介してくると、西浦番遺跡における最も主体的な、本来的な、重要性の高い遺物・遺構は弥生中期前半に和田川支流ととり組んだ、西浦番弥生人の残した裡跡であろう。勿論その他の遺構が重要でないと言う訳ではない。大きく視野を日本全体にひろげて見た時、当調査区の遺構・遺物は如何なる時期のものでも充分比較対照されるに足る資料であると確信する。おしむらくは、報告者の力量不足による誤解と無理解、道路建設による現状の改変、杭列の保護処置の遅れ等、遺跡の責任外の現代人の側の問題が多数残されている事である。

註

- 1) 嶋倉巳三郎氏の御教示による。
- 2) 広瀬和雄「小島東遺跡発掘調査概要」1978による舞台IV式である。
- 3) 国栗和雄他「田山遺跡」大阪文化財センター 1983
- 4) 註3 P.58 第57図 に似る。
- 5) 貝塚市内及び大島郡周辺に多く出土している。「摂河泉文化資料」5号
- 6) 渡辺昌宏他「淡輪遺跡発掘調査概要Ⅱ」1981
渡辺・芝野他「池上遺跡発掘調査概要Ⅱ」1980
- 7) 何らかの祭祀行為の痕跡を考えたい。
- 8) 田辺福年TK73～TK 216 併行期 田辺昭三「陶邑古窯跡群Ⅰ」1966
- 9) 田辺福年TK47併行
- 10) p. 731 参照。
- 11) 中村 浩「陶邑・深田」『大阪府文化財調査抄報』第2輯 1973 P.11
- 12) 田辺・原口・田中・佐原「船橋Ⅱ」1962 出土遺物観察表より作成
- 13) 広瀬和雄「付2、6世紀後半における集落出土土器の2・3の分析」『大園遺跡発掘調査概要Ⅵ』1961
- 14) 原口正三「船橋Ⅰ」1962
- 15) 古園遺跡調査団編「古園遺跡」松山市文化財調査報告書V 1974
- 16) 梅原米治「銅鐸に関する若干の新知見」『考古学雑誌』31巻5号・突線紐式銅鐸
- 17) 堺市教委北野俊明氏の御教示による。
- 18) 大阪府教委広瀬和雄氏の御教示による。
- 19) 泉大津高校編「和泉考古学」1960
- 20) 中村 浩「陶邑Ⅱ」1977
- 21) 大阪府教委奥 和之氏の御教示による。
- 22) 堺市教委石田 修氏の御教示による。
- 23) 大阪府教委「陶邑Ⅰ～Ⅴ」1976～1982
- 24) 中村 浩「陶邑古窯跡群の検討」『古代を考える』4号
- 25) 芝野圭之助「西浦番・鶴田池遺跡発掘調査概要」1980
堺市教委による跡の宮遺跡の調査・船橋遺跡・深井清水町遺跡の調査等では8世紀前半から中葉の段階で須恵器が少量で土師器が多く出土している。全園遺跡では須恵器出土の割合が多いようである。いづれにしても、鶴田池東・西浦橋・信太寺・池田寺等で出土する須恵器量の多さと区別されるところである。今後府中・和泉寺周辺の須恵器出土のありかたが判明すれば、遺跡の性格等について論及し得よう。

付、西浦橋遺跡第Ⅱ調査区出土遺物観察表

凡 例

1. 法量については、()内残存値、推：推定値、復：復原値、高：器高、残存：破片の残存値を示し、口、胴、基、底などは径を示す。
2. 胎土には長石、石英、チャート、くさり礫砂粒を主に含むが、それ以外の特徴的な砂粒を記入した。砂粒は大きさにより、大 $>5\text{mm}$ 、 $2\text{mm}<\text{中}\leq 5\text{mm}$ 、 $0.5<\text{細}\leq 2\text{mm}$ 、微 $\leq 0.5\text{mm}$ とした。

旧石器～弥生時代の石籠

| 図番号 | 図番号 | 種類 | 遺構・地区・層位 | 高・幅・厚(m) | 重量 | 備考(石材・その他) |
|------|-------|---------|--------------------|-------------------|--------|-----------------|
| 16-1 | 120-1 | ナイフ形石器 | R64-e4 灰白色 | 3.3 × 1.70 × 0.8 | 5 g | ヤマトイト。黒化の著しい石籠。 |
| 2 | 2 | ナイフ形石器 | SDN2 T63-b4 黒褐色土 | 3.0 × 1.42 × 0.7 | 2.04g | * |
| 3 | 3 | 石籠 | T63-d1 緑灰色粘質土 | 2.6 × 2.2 × 0.3 | 1.49g | * |
| 4 | 3 | 石籠 | SDN2 S64-e3 | 2.2 × 1.67 × 0.3 | 0.94g | * 縄文時代。 |
| 5 | 4 | 石籠 | B61-b4 黒褐色粘質土 | 2.1 × 1.7 × 0.4 | 0.71g | * |
| 6 | 6 | 石籠 | T63-d1 緑灰色粘質土 | 1.4 × 1.5 × 0.35 | 4.08g | * |
| 7 | 7 | 石籠 | SDN1 黒灰色粘質土 | 1.8 × 1.05 × 0.25 | 0.38g | * |
| 8 | 8 | 石籠 | SD3-b3 緑灰色粘質土 | 1.9 × 1.1 × 0.3 | 0.547g | * |
| 9 | 13 | 石籠 | R62-d2 黒灰色粘質土 | 2.2 × 1.68 × 0.4 | 2.07g | * |
| 10 | 13 | 石籠 | R62-e2 黒灰色粘質土 | 4.5 × 1.43 × 0.65 | 3.72g | * |
| 11 | 10 | 石籠 | SDA2 S61-b1 黒灰色粘質土 | 3.4 × 1.58 × 0.7 | 2.64g | * |
| 12 | 9 | 石籠 | SDA2 S61-b2 黒褐色砂質土 | 4.6 × 2.3 × 0.8 | 5.23g | * |
| 13 | 11 | 石籠 | 表層 | 2.9 × 0.80 × 0.4 | 0.86g | * |
| 14 | 14 | 石籠 | S65-e4 黒褐色土 | 4.1 × 2.4 × 0.6 | 5.5 g | * |
| 15 | 17 | 不定形石器 | SX1 | 5.0 × 4.9 × 0.85 | 20 g | * |
| 16 | 15 | 石籠未成産品? | S61-b2 黒灰色粘質土 | 4.1 × 1.82 × 0.8 | 5.84g | * |
| 17 | 16 | 不定形石器 | SX1 | 2.7 × 7.2 × 0.75 | 23.71g | * |

旧石器

| 図番号 | 図番号 | 種類 | 遺構・地区・層位 | 高・幅・厚(m) | 重量 | 備考(石材・その他) |
|------|-------|------|---------------|----------------------|---------|------------|
| 17-1 | 127-1 | 縄状石片 | S63-e4 緑褐色土 | 2.9 × 7.35 × 0.95 | 19.5 g | ヤマトイト。 |
| 2 | 4 | 刮片 | S65-e4 黒褐色土 | (3.00) × (3.4) × 1.2 | 11.64g | チャート。 |
| 3 | 3 | 石核 | S63-e2 黄灰色粘質土 | 5.5 × 8.2 × 1.2 | 73.64g | ヤマトイト。 |
| 4 | 3 | 石核 | SDA4 S64-b1-4 | 5.2 × 6.5 × 1.45 | 57.7 g | * |
| 5 | 5 | 石核 | T63-d2 黄灰色砂礫土 | 8.1 × 12.33 × 2.7 | 309.7 g | * |

縄文・弥生式土器

| 図番号 | 図番号 | 種類 | 遺構・地区・層位 | 径 量(m) | 成形・装束 | 量器・土器・陶器・その他 |
|------|--------|------|-------------------|-----------------------|------------------------------|-------------------|
| 16-1 | 120-9 | 縄文土器 | SX1 | 径口20.0, 高(12.0) | (外)横子ナドも凸部。(内)部底のも横子ナ。ナキ付ナ。 | 金堂等・片石(少)、黄褐色 |
| 2 | 6 | 縄文土器 | S63-e3 黒褐色土 | 径口21.8, 高(5.0) | (外・内)ナナ。(口)部凸部凸部。 | 砂粒(赤)。におい黄褐色 |
| 3 | 7 | 縄文土器 | SX1 | 高(4.0) | (外・内)ナナ。(口)部凸部凸部。 | 丸石等・雲母、緑褐色 |
| 4 | 10 | 縄文土器 | T63-e3 黄褐色粘土上面 | 径口28.6, 径厚11, 高(21.7) | (外・内)ナナ横凸部はすりつけ痕跡不目。(外)体ノ腫脹。 | 砂粒(赤)。黒褐色。ヌキ付 |
| 5 | 3 | 陶片 | SDN1 S64-d4 | 径口21.6, 高(5.0) | (外)凹縁。(内)ナナ。 | 雲母・砂粒(赤)。黄褐色 |
| 6 | 1 | 縄文土器 | 陶片 表層 | 径口25.2, 高(5.0) | (外)凹縁。(内)ナナ。(口上)部凹縁。 | 内丸石・雲母、黒褐色 |
| 7 | 3 | 縄文土器 | S64-e2 黒褐色粘土 | 径口28.6, 高(4.0) | (外)縄文。(内)ナナ。(口)凹縁。 | 砂粒(赤)。におい黄褐色 |
| 8 | 5 | 縄文土器 | 埴 S64-e2 黒褐色粘土 | 径厚最大径7.2, 高(3.0) | (外)縄文。(内)ナナ? | 砂粒(赤)。黄褐色 |
| 9 | 4 | 縄文土器 | 埴 S65-b3 | 径口19.2, 高(2.7) | (外)ナナ。(内)横ナナ。 | 砂粒(赤)。褐色。ヌキ付 |
| 10 | 8 | 縄文土器 | 埴 黄褐色シルト | 径底 6.6, 高(2.0) | (外)凹縁。(その他・外・内)ナナ。 | 砂粒(赤)。褐色 |
| 11 | 120-17 | 弥生土器 | SX1 R65-d3 黄褐色砂質土 | 径口20.0, 高(4.0) | (外)細頸ナナ。(内)割部して黄褐色不目。 | 横・砂粒(赤)。黄褐色 |
| 12 | 16 | 弥生土器 | R65-e3 黄褐色砂 | 径口24.4, 高(4.0) | (外・内)割部して黄褐色不目。 | 横・砂粒(赤)。褐色 |
| 13 | 18 | 弥生土器 | R65-b3 黄褐色砂 | 径底 6.6 | (外)ヘラミダナ。(内)ナナ。 | 砂粒(赤)。黄褐色 |
| 14 | 14 | 弥生土器 | SX1 | 径口21.4, 高(5.0) | (外・内)細頸ナナ。 | 横・砂粒(赤)。灰白色 |
| 15 | 20 | 弥生土器 | SDN1 | 径底 6.6, 高(2.0) | (外)細オキエ。ナナ?。(内)ナナ。 | 砂粒(赤)。灰褐色 |
| 16 | 17 | 弥生土器 | S65-e4 黄褐色砂 | 径底 8.6, 高(1.1) | (外)ヘラミダナ。(内)細頸ナナ。(内)ナナ。 | 砂粒(赤)。黄褐色 |
| 17 | 120-12 | 弥生土器 | R65-e2 黄褐色砂 | 径 9.6, 高(6.0) | (外)細頸オキエナナ。(内)細頸と割みのナナ。 | 横・砂粒(赤)・砂粒(赤)。黄褐色 |

磨製石器

| 図番号 | 図番号 | 種類 | 遺構・地区・層位 | 高・幅・厚(m) | 重量 | 備考(石材・その他) |
|------|--------|--------|---------------|--------------------|---------|------------|
| 19-1 | 126-15 | 石斧 | S64-e2 黄褐色土 | 3 × 4.4 × 3.2 | 23.64g | 砂質片岩(紀ノ川) |
| 2 | 20 | 石斧 | SDN2 T64-e3 | 6.5 × 4.9 × 2.75 | 107.86g | 砂岩 |
| 3 | 19 | 凸状片刃石斧 | T63-b4 緑灰色粘質土 | 3.52 × (6.4) × 1.4 | 32.71g | 砂質片岩 |

| 図番 | 図番 | 種類 | 遺構・地区・層位 | 法 量(m) | 成 形・ 割 断 | 備考(石材・その他) |
|------|----|--------|-------------------|------------------------|----------|------------|
| 19-4 | 23 | 石瓦丁 | S65-e4 洗灰色砂 | 4.2 × 14.74 × 0.7 | 52.41g | 瓦の背側面破片 |
| 5 | 22 | 石瓦丁 | S751 S61-b4 暗褐色土 | (4.5) × (12.43) × 0.75 | 42.71g | 褐色片断 |
| 6 | 24 | 石瓦丁 | R65-e1, 2, 3 灰褐色土 | 6.4 × 6.45 × 0.8 | 60.22g | 同瓦片断 |
| 7 | 21 | 瓦丁表面破片 | S65-e3 灰褐色土 | 5.5 × (7.2) × 0.9 | 55.57g | 瓦の背側面破片 |

SDN 2 出土土器

| 図番 | 図番 | 種類 | 遺構・地区・層位 | 法 量(m) | 成 形・ 割 断 | 備考(土色・胎色・その他) |
|------|--------|-------|-----------------------------|----------------|--------------------------|-----------------|
| 20-1 | 131-23 | 弥生式土器 | 甕 SDN 2 Y6-e1 茶褐色土 | 径口29.4, 高(2.0) | (外・内)側面滑しく肌張堅硬不可辨。 | 砂粒(赤), 赤褐色, 普通 |
| 2 | 21 | 弥生式土器 | 甕 SDN 2 | 径口29.4, 高(4.0) | (外・内)側面滑しく肌張堅硬不可辨。 | 砂粒(赤), 灰白色, 普通 |
| 3 | 22 | 弥生式土器 | 甕 SDN 2 S63-e2 灰褐色土 | 径口29.4, 高(2.0) | (外・内)側面滑しく肌張堅硬不可辨。 | 砂粒(赤), 灰白色, 普通 |
| 4 | 131-24 | 弥生式土器 | 甕 SDN 2 S63-e4, S61-e3 灰褐色土 | 径 5.0, 高(2.0) | (外・内)側面滑しく肌張堅硬不可辨。 | 砂粒(赤), 灰褐色, 普通 |
| 5 | 25 | 弥生式土器 | 甕 SDN 2 S63-b4 灰褐色土 | 径 6.2, 高(3.0) | (外・内)側面滑しく肌張堅硬不可辨。 | 砂粒(赤), 褐色, 普通 |
| 6 | 129-9 | 弥生式土器 | 甕 SDN 2 | 径径 6.4, 高(5.7) | (外)部紐ナデ。(内)側面滑しく肌張堅硬不可辨。 | 砂粒(赤), 褐色, 普通 |
| 7 | | 弥生式土器 | 甕 SDN 2 T63-e2 灰褐色土 | 径11.0, 高(3.0) | (外・内)側面滑しく肌張堅硬不可辨。 | 砂粒(赤), 灰褐色, 普通 |
| 8 | 129-10 | 弥生式土器 | 甕 SDN 2 | 径径11.4, 高(4.0) | (外・内)側面滑しく肌張堅硬不可辨。 | 砂粒(赤), 褐色, 普通 |
| 9 | 131-26 | 弥生式土器 | 甕 SDN 2 S63-b4 灰褐色土 | 径 9.6, 高(3.0) | (外・内)側面滑しく肌張堅硬不可辨。 | 砂粒(赤), 洗灰褐色, 普通 |
| 10 | | 弥生式土器 | 甕 SDN 2 T63-e2 灰褐色土 | 径径 7.4, 高(3.0) | (外・内)側面滑しく肌張堅硬不可辨。 | 砂粒(赤), 灰褐色, 普通 |

SDA 2 出土土器

| 図番 | 図番 | 種類 | 遺構・地区・層位 | 法 量(m) | 成 形・ 割 断 | 備考(土色・胎色・その他) |
|------|--------|-------|--------------------------|------------------------|---------------------|--------------------|
| 21-1 | 129-1 | 弥生式土器 | 甕 SDA 2 最下層 | 径口23.4, 高(3.0) | (外)ナデ。(内)側面不明。 | 灰褐色(赤), 黄褐色, 普通 |
| 2 | 2 | 弥生式土器 | 甕 SDA 2 S61-e2 茶褐色土 | 径口20.4, 高(5.7), 径底18.0 | (外)ナデナデ。(内)側面不明。 | 砂粒(赤), 褐色, 普通 |
| 3 | 129-8 | 弥生式土器 | 甕 SDA 2 | 径 4.4, 高(3.0) | (外)部ナデナデ。(内)側面不明。 | 砂粒(赤), 褐色, 普通 |
| 4 | 9 | 弥生式土器 | 甕 SDA 2 茶褐色土 | 径径 4.7, 高(2.0) | (外・内)ナデ。 | 赤・砂粒(赤), 洗い褐色, 普通 |
| 5 | 10 | 弥生式土器 | 甕 SDA 2 茶褐色土 | 径 6.5, 高(2.0) | (外・内)ナデ。 | 赤・片断, 灰褐色, 普通 |
| 6 | 130-4 | 弥生式土器 | 甕 SDA 2 R61-e4 最下層 洗灰褐色土 | 径 6.4, 高(3.0) | (外)部紐ナデ。(内)部ナデナデナデ。 | 片断・砂粒(赤), 洗い褐色, 普通 |
| 7 | 3 | 弥生式土器 | 甕 SDA 2 茶褐色土 | 径12.0, 高(4.0) | ナデ? | 赤・砂粒(赤), 洗い褐色, 普通 |
| 8 | 131-11 | 弥生式土器 | 甕 SDA 2 R61-e4 最下層 | 径径 7.4, 高(3.0) | 側面滑しく肌張不明。 | 砂粒(赤), 灰褐色, 普通 |
| 9 | 13 | 弥生式土器 | 甕 SDA 2 S61-e2 茶褐色土 | 径径20.4, 高(5.7) | ナデ? | 砂粒(赤), 褐色, 普通 |
| 10 | 12 | 弥生式土器 | 甕 SDA 2 R61-e4 最下層 洗灰褐色土 | 径 5.3, 高(3.0) | (外・内)ナデ? | 赤・砂粒(赤), 洗い褐色, 普通 |

SDN 1 出土土器・その他

| 図番 | 図番 | 種類 | 遺構・地区・層位 | 法 量(m) | 成 形・ 割 断 | 備考(土色・胎色・その他) |
|------|-------|-------|---------------------|--------------------------|---------------------------------------|------------------------|
| 22-1 | 129-1 | 弥生式土器 | 167a7 S64-e2.4 茶褐色土 | 口 3.6, 径 6.0, 高 6.8 | (外口・外体)ナデ。(外体)部ナデナデ。(内)部ナデナデ。 | 砂粒(赤), 洗い褐色, 普通 |
| 2 | 2 | 弥生式土器 | 167a7 S64-e2.4 茶褐色土 | 口 5.5, 高 2.9 | (外)ナデ。(内)部ナデナデ。 | 黄赤・砂粒(赤), 洗い褐色, 普通 |
| 3 | 6 | 弥生式土器 | 無明層 SDN 1 灰褐色土 | 径6.7, 径4.4, 径12.1, 高 8.7 | (内口)部紐。(外)部紐五枚の環状文。(外体)下へ3.1まで。(内)ナデ。 | 赤, 洗灰褐色, 普通 |
| 4 | 7 | 弥生式土器 | 無明層 SDN 1 S65-e4 | 径口 7.5, 径 5.8, 高 22.0 | (外)へナデナデ。(外)部紐。環状文。(内)ナデ。外体滑らか。胎ナデナデ。 | 砂粒(赤), 洗灰褐色, 普通 |
| 5 | | 弥生式土器 | 甕 R61-e3 灰褐色土 | 径口 9.0, 高(3.0) | (外・内)部紐ナデ。 | 赤・砂粒(赤), 洗灰褐色, 普通 |
| 6 | 129-1 | 弥生式土器 | 無明層 S64-e2.4 茶褐色土 | 径口18.0, 高(4.0) | (外)部紐ナデ。胎面平紋文。(内)部紐ナデ。 | 砂粒(赤), 洗い褐色, 普通 |
| 7 | 5 | 弥生式土器 | 甕 R64-e3 | 径口14.6, 高(2.0) | (外・内)部紐ナデ。 | 赤・砂粒(赤), 洗灰褐色, 普通 |
| 8 | 6 | 弥生式土器 | 甕 S62-e4 灰褐色土 | 径口23.3, 高(3.0) | (外・内)ナデ。 | 砂粒(赤), 赤褐色, 普通 |
| 9 | 4 | 弥生式土器 | 甕 S64-b4 洗灰色砂 | 径口20.4, 径底20.2, 高(5.0) | (外)側面滑しく肌張不明。(内)ナデ。(内)部ナデナデナデ。胎ナデナデ。 | 赤・洗灰褐色・砂粒(赤), 洗灰褐色, 普通 |
| 10 | 3 | 弥生式土器 | 甕 S64-e2.4 洗灰色砂 | 径口15.0, 径底13.2, 高(3.0) | (外・内)部紐ナデ。 | 砂粒(赤), 灰褐色, 普通 |
| 11 | 2 | 弥生式土器 | 甕 S64-e2.4 茶褐色土 | 径口11.3, 径底9.4, 高(7.0) | (外・内)ナデ。(内)部紐ナデ。 | 赤・洗灰褐色・砂粒(赤), 褐色, 普通 |
| 12 | 129-3 | 弥生式土器 | 甕 SDN 1 R65-e3 | 径 5.0, 高(3.0) | (外)へナデナデ。胎ナデナデ。(内)部ナデナデナデ。 | 砂粒(赤), 洗い褐色, 普通 |
| 13 | | 弥生式土器 | 甕 R65-e3 茶褐色土 | 径径 8.8, 径底38.0, 高(17.5) | (外・内)側面滑しく肌張不明。(外)部へナデナデナデ。(内)部ナデナデ。 | 砂粒(赤), 洗灰褐色, 普通 |
| 14 | 131-7 | 弥生式土器 | 甕 SDN 1 S64-e4 | 径 6.2, 高(4.0) | (外)部ナデナデ。(内)部ナデナデ。 | 砂粒(赤), 洗灰褐色, 普通 |

弥生式土器および本器

| 図番 | 図番 | 種類 | 遺構・地区・層位 | 法 量(m) | 成 形・ 割 断 | 備考(土色・胎色・その他) |
|------|--------|-------|----------------|----------------|---------------------------------|-----------------------|
| 23-1 | 129-11 | 弥生式土器 | 甕 SX 1 S63-e2 | 径口24.7, 高(3.0) | (外・内)へナデナデ。側面滑しく胎面平紋文。(内)部ナデナデ。 | 砂粒(赤), 洗灰褐色, 普通 |
| 2 | 129-15 | 弥生式土器 | 甕 SX 1 | 径径18.4, 高(6.0) | (外)ナデ胎面平紋文。(内)部ナデナデ。 | 赤・砂粒(赤), 洗灰褐色・灰褐色, 普通 |
| 3 | 129-6 | 弥生式土器 | 甕 SDN 1 S64-e2 | 径径 9.0, 高(3.0) | (外)ナデ胎面平紋文。(内)部ナデナデ。(内)部ナデナデナデ。 | 砂粒(赤), 黄色, 普通 |

| 図番号 | 図面番号 | 種類 | 形状 | 遺構・地層・層位 | 法 量(m) | 成 形・ 割 異 | 断面・土相・地味・その他 |
|------|--------|-----|------|------------------|-------------------|---------------------------------------|-------------------|
| 22-1 | 22 | 埋設部 | 高坪 | T02-01 黒褐色土・赤褐色土 | 幅0.0、高(4.0) | (内)埋設ナシ、ヘラ削り。(内)埋設ナシ。 | 砂粒(赤)、黒褐色、普通 |
| 23 | 23 | 埋設部 | 高坪 | T02-02 黒褐色土 | 高(6.4) | (内)オキモノ、粘土つぼみ、埋設ナシ。(内)埋設ナシ。(内)土まじり。 | 砂粒(赤)、灰白色、普通 |
| 34 | 130-13 | 埋設部 | 堀 | T14-02 暗褐色粘質土 | 高(4.0) | (内)ヘラ削り。(内)埋設ナシ。 | 砂粒(中)、灰白色、普通 |
| 35 | 19 | 埋設部 | 堀 | R03-03 灰白色砂 | 幅1.5、高(3.7) | (内)埋設ナシ。(内)埋設ナシ、甲、イノ埋設ナシ。 | 砂粒(赤)、灰白色、不良 |
| 36 | 27 | 埋設部 | 段 | SON 2 黒褐色粘質土 | 幅0.8、長さ0.8、高(3.9) | (内)二段の段状文、凸凹。(内)ナシ。 | 砂粒(赤)、黒色、自然土 |
| 37 | 28 | 埋設部 | 段 | T13-01 黒褐色土 | 高(7.1) | (内)オキモノの粘土、段状文、オキモノ、ヘラ削り。(内)埋設ナシ。 | 砂粒(赤)、灰白色、普通 |
| 38 | 130-7 | 埋設部 | 段 | T13-01 黒褐色土 | 高(9.1) | (内)埋設ナシのオキモノ、粘土、ナダの段状文、ヘラ段状文。(内)埋設ナシ。 | 砂粒(赤)、灰白色、普通 |
| 39 | 29 | 埋設部 | 溝渠基壇 | T13-02 黒褐色土・赤褐色土 | 幅0.12.0、高(4.3) | (内)埋設ナシ、ヘラ削り(右側)、段状文、イノ埋設ナシ。 | 砂粒(中)、黒褐色、灰白色、自然土 |
| 40 | 30 | 埋設部 | 高坪 | T13-02 黒褐色土・赤褐色土 | 幅0.14.0、高(6.1) | (内)埋設ナシ。段状文、ヘラ削り。(内)埋設ナシ。 | 砂粒(中)、黒褐色、自然土 |
| 41 | 130-17 | 埋設部 | 高坪 | S03-03 暗褐色粘質土 | 幅0.12.1、高(4.9) | (内)埋設ナシ。(内)オキモノの段状文。(内)埋設ナシ。 | 砂粒(赤)、灰色、中々土 |

SON 2 出土遺棄物

| 図番号 | 図面番号 | 種類 | 形状 | 遺構・地層・層位 | 法 量(m) | 成 形・ 割 異 | 断面・土相・地味・その他 |
|------|-------|-----|----|---------------------------|-----------------------|---|-------------------|
| 22-1 | 1 | 埋設部 | 高坪 | SON 2 黒褐色砂礫 | 幅0.12.0、高 4.4 | (内)天上へヘラ削り(右側)。(その他外・内)埋設ナシ。 | 砂粒(赤)、灰白色、中々土 |
| 2 | 130-1 | 埋設部 | 高坪 | SON 2 暗褐色粘質土 | 幅0.11.6、高(4.0) | (内)天上へヘラ削り。(その他外・内)埋設ナシ。 | 砂粒(赤)、灰色、自然土 |
| 3 | 2 | 埋設部 | 高坪 | SON 2 T04-01 | 幅0.11.5、高(4.3) | (内)天上へヘラ削り(右側)。(その他外・内)ナシ。 | 砂粒(赤)、灰白色、赤褐色、普通 |
| 4 | 3 | 埋設部 | 高坪 | SON 2 黒褐色粘質土 | 幅0.11.4、高(4.0) | (内)天上へヘラ削り(右側)。(その他外・内)埋設ナシ。 | 砂粒(赤)、灰白色、普通 |
| 5 | 4 | 埋設部 | 高坪 | SON 2 T04 黒褐色砂礫 | 幅0.11.4、高 4.2 | (内)天上へヘラ削り(右側)。(その他外・内)埋設ナシ。 | 砂粒(赤)、灰色、普通 |
| 6 | 130-2 | 埋設部 | 高坪 | SON 2 暗褐色粘質土・黒褐色粘質土 | 幅0.11.4、高 3.65 | (内)埋設ナシ(右側)。(内)埋設ナシ。 | 粘土、質灰色、普通 |
| 7 | 5 | 埋設部 | 高坪 | SON 2 黒褐色砂礫 | 幅0 5.6、高(3.1) | (内)天上へヘラ削り(右側)。(その他外・内)埋設ナシ。 | 砂粒(赤)、灰白色、自然土 |
| 8 | 6 | 埋設部 | 高坪 | SON 2 暗褐色砂礫土・黒褐色粘質土 | 幅0.15.0、高 4.6 | (内)天上へヘラ削り(右側)。(内)中心埋設ナシ。(内)埋設ナシ。 | 砂粒(赤)、灰色、普通 |
| 9 | 130-3 | 埋設部 | 高坪 | SON 2 暗褐色粘質土 | 幅0.15.4、高(4.7) | (内)埋設ナシ。 | 砂粒(赤)、灰色、自然土 |
| 10 | 7 | 埋設部 | 高坪 | SON 2 T03-02 黒褐色土・赤褐色土 | 幅0.12.6、高(3.7) | (内)オキモノ埋設ナシ。(内)ナシ。 | 粘土、灰色、普通 |
| 11 | 130-4 | 埋設部 | 高坪 | SON 2 | 幅0.15.6、高 4.55 | (内)天上へヘラ削り(右側)。(その他外・内)埋設ナシ。 | 砂粒(赤)、灰白色、自然土 |
| 12 | 8 | 埋設部 | 高坪 | SON 2 | 幅0.15.8、高(3.0) | (内)埋設ナシ。 | 砂粒(赤)、灰白色、普通 |
| 13 | 9 | 埋設部 | 高坪 | SON 2 T04-01 黒褐色粘質土 | 幅0.13.4、高(3.65) | (内)天上へヘラ削り。(その他外・内)埋設ナシ。 | 砂粒(赤)、灰色、普通 |
| 14 | 10 | 埋設部 | 高坪 | SON 2 T04-01 黒褐色土 | 幅0.14.5、高(3.0) | (内)天上へヘラ削り。(その他外・内)埋設ナシ。 | 砂粒(赤)、灰白色、普通 |
| 15 | 11 | 埋設部 | 高坪 | SON 2 | 幅0.11.3、高(4.3) | (内)天上へヘラ削り。(その他外・内)埋設ナシ。 | 砂粒(赤)、灰色、普通 |
| 16 | 130-5 | 埋設部 | 坪 | SON 2 | 幅0.13.0、高 5.1 | (内)天上へヘラ削り。(内)埋設ナシ。 | 砂粒(赤)、灰色、普通 |
| 17 | 6 | 埋設部 | 坪 | SON 2 T04 | 幅0.0、変12.2、高 4.8 | (内)ナダ後削り(右側)。(内)埋設ナシ。(内)ナシ。 | 砂粒(赤)、灰色、自然土 |
| 18 | 12 | 埋設部 | 坪 | SON 2 黒褐色砂礫 | 幅0.10.2、高 4.3 | (内)坪へヘラ削り(右側)。(その他外・内)埋設ナシ。 | 粘土、質灰色、普通、段状文、自然土 |
| 19 | 13 | 埋設部 | 坪 | SON 2 暗褐色粘質土 | 幅0.10.5、変12.4、高 4.9 | (内)ナダ後削り(右側)。(内)ナシ。 | 砂粒(赤)、灰白色、自然土 |
| 20 | 14 | 埋設部 | 坪 | SON 2 黒褐色粘質土・暗褐色粘質土 | 幅0.10.2、高 4.85 | (内)坪下・外堀へヘラ削り(右側)。(その他外・内)埋設ナシ。 | 砂粒(赤)、灰白色、普通 |
| 21 | 130-7 | 埋設部 | 坪 | SON 2 | 幅0.10.4、変15.1、高(4.0) | (内)埋設ナシ。(内)甲、イノ埋設ナシ。 | 砂粒(赤)、灰色、普通、自然土 |
| 22 | 15 | 埋設部 | 坪 | SON 2 T04-03 黒褐色粘質土 | 幅0.13.2、変15.4、高 4.8 | (内)坪下・外堀へヘラ削り(右側)。(内)埋設ナシ。(その他外・内)ナシ。 | 砂粒(赤)、灰白色、自然土 |
| 23 | 130-8 | 埋設部 | 坪 | SON 2 暗褐色粘質土 | 幅0.14.4、変15.8、高 5.0 | (内)坪下・外堀へヘラ削り(右側)。(内)埋設ナシ。(その他外・内)埋設ナシ。 | 砂粒(赤)、灰白色・灰褐色、普通 |
| 24 | 16 | 埋設部 | 坪 | SON 2 暗褐色粘質土・黒褐色粘質土 | 幅0.12.8、変15.2、高 4.6 | (内)坪下・外堀へヘラ削り(右側)。(内)埋設ナシ。(その他外・内)埋設ナシ。 | 砂粒(赤)、灰白色、自然土 |
| 25 | 17 | 埋設部 | 坪 | SON 2 T04-01 黒褐色粘質土 | 幅0.12.3、変15.8、高 4.5 | (内)坪下・外堀へヘラ削り。(その他外・内)埋設ナシ。 | 砂粒(赤)、灰白色、普通 |
| 26 | 18 | 埋設部 | 坪 | SON 2 S04 黒褐色土 | 幅0.13.8、変15.8、高(3.9) | (内)埋設ナシ。 | 砂粒(赤)、灰色、普通 |
| 27 | 19 | 埋設部 | 坪 | SON 2 S04-01 黒褐色粘質土 | 幅0.12.4、変15.4、高 4.2 | (内)坪下・外堀へヘラ削り。(その他外・内)埋設ナシ。 | 砂粒(赤)、灰白色、普通、自然土 |
| 28 | 20 | 埋設部 | 坪 | SON 2 暗褐色粘質土 | 幅0.11.6、変13.5、高(4.2) | (内)埋設ナシ。 | 砂粒(赤)、灰色、普通 |
| 29 | 21 | 埋設部 | 坪 | SON 2 T03-04 黒褐色土・黒褐色土 | 幅0.12.2、変15.4、高 4.8 | (内)埋設ナシ。併伴・外堀へヘラ削り。(内)埋設ナシ。 | 砂粒(赤)、灰色、普通、自然土 |
| 30 | 22 | 埋設部 | 坪 | SON 2 T03-02 黒褐色土 | 幅0.11.2、変13.4、高(3.2) | (内)埋設ナシ。 | 砂粒(赤)、灰白色、普通、自然土 |
| 31 | 130-9 | 埋設部 | 坪 | SON 8 | 幅0.12.6、変14.6、高 4.5 | (内)坪下・外堀へヘラ削り。(内)埋設ナシ。(内)埋設ナシ。 | 砂粒(赤)、灰白色、自然土 |
| 32 | 10 | 埋設部 | 段 | SON 2 T04-S03 黒褐色土・暗褐色粘質土 | 長さ 7.6、変10.3、高(9.4) | (内)オキモノ、段状文、甲、ヘラ削り。(内)ナシ。埋せナシ。 | 砂粒(赤)、灰色、普通 |
| 33 | 11 | 埋設部 | 段 | SON 2 暗褐色粘質土 | 幅0.11.8、変 5.6、変(14.5) | (内)ナシ。段状文。(内)ナシ。(内)埋設ナシ。 | 砂粒(中)、灰色、高坪、自然土 |

SON 2 出土遺棄物

| 図番号 | 図面番号 | 種類 | 形状 | 遺構・地層・層位 | 法 量(m) | 成 形・ 割 異 | 断面・土相・地味・その他 |
|------|-------|-----|----|--------------|---------------------|--------------------------|------------------|
| 22-1 | 130-1 | 埋設部 | 高坪 | SON 2 黒褐色粘質土 | 幅0.12.3、高 5.8 | (内)天上へヘラ削り。(その他外・内)埋設ナシ。 | 砂粒(赤)、灰褐色、高坪、自然土 |
| 2 | 2 | 埋設部 | 高坪 | SON 2 黒褐色粘質土 | 幅0.11.6、変15.3、高 4.8 | (内)天上へヘラ削り。(その他外・内)埋設ナシ。 | 砂粒(赤)、灰色、普通、自然土 |

| 調査号 | 調査期 | 種別 | 種名 | 地層・地区・層位 | 柱高 (m) | 成形・調査 | 資料(土・樹皮・その他) |
|------|-------|-----|----|-------------------------|----------------------------|--|--------------------------|
| 28-3 | 130-2 | 調査塚 | 塚 | SDN 2 T64-1 | 口 5.6、つまみ4.5、高(外)7.0 | (外周)へう割り(内部)ナシ。(その他外・内)内部ナシ。 | 砂鉄(赤)、灰白色、赤褐色 |
| 4 | 3 | 調査塚 | 塚 | SDN 2 黒沢色土 | 直径14.0、高 4.8 | (外周)へう割り。(その他外・内)ナシ。 | 砂鉄(赤)、黄褐色、赤 |
| 5 | | 調査塚 | 高塚 | SDN 2 暗褐色粘質土 | 径19.6、高さ1.5、5.5、高 8.8 | (外周)へう割り。(その他外・内)ナシ。 | 砂鉄(赤)、灰色、黄褐色 |
| 6 | 130-4 | 調査塚 | 高塚 | SDN 2 暗褐色粘質土 | 直径 9.8、高さ 4.7、深部 8.2、高 9.1 | (外)へう割り。ナキ。(内)内部ナシ。(内)ナシ(土質)。 | 砂鉄(赤)、灰白色、黒褐色、赤褐色 |
| 7 | | 調査塚 | 高塚 | SDN 2 S63-64
黒沢色粘土 | 直径10.4、高さ 4.8、高 9.0 | (外周)へう割り。(その他外・内)ナシ。 | 砂鉄(赤)、灰白色、赤褐色 |
| 8 | 130-5 | 調査塚 | 高塚 | SDN 2 | 直径 9.4、高 6.8 | (外周)へう割り。(内)内部ナキ。(その他外・内)ナシ。 | 砂鉄(赤)、黄褐色、赤褐色 |
| 9 | | 調査塚 | 高塚 | SDN 2 暗褐色粘質土 | 径 5.1、径 7.7、高(外)5.0 | (外周)へう割り。(内)ナシ。ナシ(土質)。 | 砂鉄(赤)、灰白色、赤褐色 |
| 10 | | 調査塚 | 高塚 | SDN 2 T64-1
赤褐色土 | 直径 6.4、高さ 7.8、高(外)3.0 | (外周)へう割り。(その他外・内)内部ナシ。(その他外)ナキ。(内)内部ナシ。 | 砂鉄(赤)、灰色、灰白色、赤褐色 |
| 11 | | 調査塚 | 高塚 | SDN 2 T63-2
黄褐色砂質土 | 直径 4.3、高(外)1.1 | (外)へう割りナシ。(内)内部ナシ。 | 砂鉄(赤)、灰白色、赤褐色 |
| 12 | | 調査塚 | 高塚 | SDN 2 T63-2
黄褐色砂質土 | 直径 9.2、高(外)3.0 | (外)へう割りナシ。(内)内部ナシ。 | 砂鉄(赤)、灰色、赤褐色、赤褐色 |
| 13 | 130-6 | 調査塚 | 高塚 | SDN 2 T63
黒沢色粘土 | 径12.8、高さ 5.2、高 20.0 | (外周)へう割り。(内)内部ナシ。(内)ナシ(土質)。 | 砂鉄(赤)、暗褐色、黄褐色、黒褐色 |
| 14 | | 調査塚 | 高塚 | SDN 2 T63-2
黒沢色粘土 | 直径20.4、高(外)2.0 | (外)へう割りナシ。(外周)波状文。 | 砂鉄(赤)、灰色、黒褐色 |
| 15 | | 調査塚 | 高塚 | SDN 2 暗褐色粘質土 | 直径13.4、高(外)2.0 | (外)へう割りナシ。(外周)波状文。 | 砂鉄(赤)、灰白色、黒褐色、赤褐色 |
| 16 | 130-7 | 調査塚 | 高塚 | SDN 2 T63-2 | 直径16.2、高(外)3.0 | (外周)へう割りナシ。(外)波状文。(外)へう割りナシ。(内)内部ナシ。 | 砂鉄(赤)、黄褐色、赤褐色 |
| 17 | | 調査塚 | 高塚 | SDN 2 T63-2
黒沢色粘土 | 直径14.7、高 12.2 | (外周)へう割りナシ。(外)波状文。(外)へう割りナシ。(内)内部ナシ。 | 砂鉄(赤)、灰色、赤褐色 |
| 18 | 8 | 調査塚 | 高塚 | SDN 2 T63-2
赤褐色土 | 直径13.2、高 6.8 | (外周)へう割りナシ。(その他外・内)内部ナシ。 | 砂鉄(赤)、灰色、黒褐色 |
| 19 | | 調査塚 | 高塚 | SDN 2 T63-4
黒沢色粘土 | 高(外)0.0 | (外周)波状文。(外周)へう割り。(外・内)内部ナシ。(内)ナシ(土質)。 | 砂鉄(赤)、灰白色、赤褐色 |
| 21 | | 調査塚 | 高塚 | SDN 2 T64-1
黒沢色粘土 | 直径 9.4、高(外)3.0 | (外)ナシ。へう割りのナシ。(外)へう割り。(内)内部ナシ。(内)ナシ(土質)。 | 砂鉄(赤)、灰色、赤褐色 |
| 22 | | 調査塚 | 高塚 | SDN 2 T63-4
黒沢色粘土 | 直径 3.8、高さ 9.1、高(外)5.0 | (外)へう割りナシ。ナシ(土質)。 | 砂鉄(赤)、灰白色、赤褐色 |
| 23 | | 調査塚 | 高塚 | SDN 2 T64-1
黒沢色粘土 | 径15.4、高(外)6.0 | (外周)へう割り。(その他外・内)内部ナシ。 | 砂鉄(赤)、灰色、赤褐色 |
| 24 | | 調査塚 | 高塚 | SDN 2 T64-3
赤褐色土 | 高(外)4.0 | (外周)へう割り。(その他外・内)内部ナシ。 | 砂鉄(赤)、灰色、赤褐色 |
| 25 | | 調査塚 | 高塚 | SDN 2 暗褐色粘質土・黒褐色粘土 | 直径14.8、高(外)2.0 | (外)へう割りナシ。 | 砂鉄(赤)、黄褐色、赤褐色 |
| 26 | | 調査塚 | 高塚 | SDN 2 T63-2
黒沢色粘土 | 直径 6.0、高(外)3.0 | (外)へう割りナシ。(外)へう割りのつまみ。ナシ(土質)。 | 砂鉄(赤)、暗褐色、赤褐色 |
| 27 | | 調査塚 | 高塚 | SDN 2 T63
赤褐色土・黒沢色粘土 | 直径11.4、高(外)1.0 | (外)へう割りナシ。(内)内部ナシ。(内)ナシ(土質)。 | 砂鉄(赤)・灰白色・黒褐色、赤褐色 |
| 28 | | 調査塚 | 高塚 | SDN 2 S64-3
赤褐色土 | 直径10.2、高(外)2.0 | (外)へう割りナシ。ナシ(土質)。 | 砂鉄(赤)、暗褐色、赤褐色、赤褐色 |
| 29 | 130-1 | 調査塚 | 塚 | SDN 2 | 口 9.8、高 5.7、径11.2、高 13.4 | (外周)ナキ。(内)内部ナシ。 | 砂鉄(赤)、黄褐色、黒褐色、(外)へう割りナシ。 |
| 30 | 1 | 調査塚 | 塚 | SDN 2 T63-2
黒沢色粘土 | 径13.1、高さ 4.8、径11.4 | (外周)波状文。(外周)ナシ。(内)内部ナシ。(外)へう割りナシ。 | 砂鉄(赤)、黄褐色、赤褐色、黒褐色 |

SDN 2 出土調査

| 調査号 | 調査期 | 種別 | 種名 | 地層・地区・層位 | 柱高 (m) | 成形・調査 | 資料(土・樹皮・その他) |
|------|-------|-----|----|----------------------------|-----------------|----------------------------------|-------------------|
| 29-1 | 130-3 | 調査塚 | 塚 | SDN 2 T63
黒沢色粘土・暗褐色粘土 | 直径17.8、高(外)3.0 | (外周)内部ナシ。(外)ナキの波状文。(内)内部ナシ。 | 砂鉄(赤)、暗褐色、赤褐色 |
| 2 | 1 | 調査塚 | 塚 | SDN 2 S63-4
暗褐色粘土 | 直径21.8、高(外)5.0 | (外)へう割りナシ。 | 砂鉄(赤)、暗褐色、赤褐色 |
| 3 | 130-1 | 調査塚 | 塚 | SDN 2 T64
赤褐色土・赤褐色土 | 直径14.8、高 17.5 | (外周)へう割りナシ。(外)ナシ(土質)。 | 砂鉄(赤)、灰白色、暗褐色、赤褐色 |
| 4 | | 調査塚 | 塚 | SDN 2 S64-3-4
赤褐色土 | 直径19.0、高(外)6.0 | (外)内部ナシ。(外・内)内部ナシ。(内)内部ナシ。 | 砂鉄(赤)、灰色、赤褐色 |
| 5 | 130-4 | 調査塚 | 塚 | SDN 2 T63
黒沢色粘土・暗褐色粘土 | 直径20.0、高(外)10.0 | (外)ナキのつまみ。外周のつまみナシ。(内)内部ナシ。内部ナシ。 | 砂鉄(赤)、灰白色、赤褐色 |
| 6 | 130-2 | 調査塚 | 塚 | SDN 2 T64-3
赤褐色土 | 直径14.2、高(外)2.0 | (外)へう割りナシ。 | 砂鉄(赤)、黄褐色、赤褐色 |
| 7 | 4 | 調査塚 | 塚 | SDN 2 T63-2
黒沢色粘土 | 直径13.8、高(外)7.0 | (外)へう割りナシ。 | 砂鉄(赤)、赤褐色、赤褐色 |
| 8 | | 調査塚 | 塚 | SDN 2 T64-4
赤褐色土 | 直径21.36、高(外)3.1 | (外)へう割りナシ。(外)ナキ。 | 砂鉄(赤)、暗褐色、赤褐色 |
| 9 | 130-6 | 調査塚 | 塚 | SDN 2 黒沢色土 | 直径13.2、高(外)3.0 | (外)へう割りナシ。 | 砂鉄(赤)、灰白色、赤褐色 |
| 10 | 130-7 | 調査塚 | 塚 | SDN 2 T63-4
黒沢色粘土・黒沢色粘土 | 直径19.4、高(外)7.4 | (外)黒褐色層のつまみナシ。ナシ。(内)内部ナシ。 | 砂鉄(赤)、灰白色、赤褐色 |
| 11 | | 調査塚 | 塚 | SDN 2 S63-4
赤褐色土 | 直径22.8、高(外)3.0 | (外)へう割りナシ。 | 砂鉄(赤)、灰白色、赤褐色 |
| 12 | | 調査塚 | 塚 | SDN 2 T63-2
上面 | 直径20.4、高(外)2.0 | (外)へう割りナシ。 | 砂鉄(赤)、灰色、赤褐色 |
| 13 | 130-8 | 調査塚 | 塚 | SDN 2 T63-2
黄褐色砂質土 | 直径20.8、高(外)3.0 | (外周)ナキの層のつまみナシ。(内)内部ナシ。 | 砂鉄(赤)、灰白色、赤褐色 |
| 14 | 130-5 | 調査塚 | 塚 | SDN 2 T63-2
黒沢色粘土 | 直径21.4、高(外)6.0 | (外)へう割りナシ。(外)ナキ。 | 砂鉄(赤)、灰白色、赤褐色 |
| 15 | | 調査塚 | 塚 | SDN 2 T63-2
黒沢色粘土 | 直径17.2、高(外)3.0 | (外)へう割りナシ。 | 砂鉄(赤)、黄褐色、赤褐色 |
| 16 | | 調査塚 | 塚 | SDN 2 S63-4
黒沢色粘土 | 直径18.0、高(外)4.0 | (外)へう割りナシ。 | 砂鉄(赤)、暗褐色、赤褐色、黒褐色 |
| 17 | | 調査塚 | 塚 | SDN 2 T63-2
赤褐色土 | 直径26.8、高(外)8.0 | (外)黒褐色層のつまみナシ。(外)内部ナシ。(内)内部ナシ。 | 砂鉄(赤)、灰色、赤褐色、黒褐色 |
| 18 | | 調査塚 | 塚 | SDN 2 S64-3
赤褐色土 | 直径20.2、高(外)3.0 | (外)へう割りナシ。 | 砂鉄(赤)、灰褐色、赤褐色 |

SDN 2 出土遺棄物

| 図番 | 図面番号 | 種別 | 器種 | 遺跡・地区・層位 | 法量(m) | 成形・調査 | 発着地・色別・施文・その他 | |
|----|--------|--------|-----|-----------------------------|----------------------------|-----------------------------------|--|-------------------|
| 30 | 146-17 | 磁器器 | 甕 | SDN 2 | 径口 9.4, 高(1.0) | (外・内) 磁絵ナデ。 | 砂絵(赤), 灰白色, 普通 | |
| | 2 | 16 | 磁器器 | 坏 | SDN 3 埴谷色粘質土 | 径口 9.7, 高(2.0) | (外・内) 磁絵ナデ。 | 緑青・砂絵(赤), 陶灰色, 生焼 |
| | 3 | 137-1 | 磁器器 | 菓子付瓶 | SDN 2 T63
黒灰色粘質土・赤褐色土 | 口 7.4, 底 5.3, 高 4.35 | (外体下・外底) ヘラ削り(造回り)。内(底)深溝施文。(その他)磁絵ナデ。 | 砂絵(赤), 緑灰色, 普通 |
| | 4 | 146-20 | 磁器器 | 甕 | SDN 2 T63-3-4
黒灰色土 | 径口 6.4, 底 5.6, 高(2.5) | (外・内) 磁絵ナデ。 | 砂絵(赤), 灰白色, 生焼 |
| | 5 | 18 | 磁器器 | 甕 | SDN 2 T64-2-2
赤褐色土 | 穴径(開口) 9.0, 深(1.1), 高(4.5) | (底上) 粘土付着。(外・内) ナデ。 | 砂絵(赤), 灰黄色, 生焼 |
| | 6 | 22 | 磁器器 | 甕 | SDN 2 S63
上層 | 径口 12.4, 高(6.6) | (外口) 内面施文。(その他・内) 磁絵ナデ。 | 砂絵(赤), 灰白色, 普通 |
| | 7 | 23 | 磁器器 | 甕 | SDN 2 S64-2-1
赤褐色土・黒褐色土 | 径口 11.8, 高(5.1) | (外・内) 磁絵ナデ。(内口) 粘土のつらめ。 | 砂絵(赤), 灰白色, 普通 |
| | 8 | 137-3 | 磁器器 | 甕 | SDN 2 S64-2-1
黒灰色粘土 | 径口 9.2, 底 9.3, 高(12.7) | (外体下) ヘラ削り(造回り)。内(底) シボリム。(その他) ナデ。 | 砂絵(赤), 灰白色, 型焼 |
| | 9 | 4 | 磁器器 | 甕 | SDN 2 T63
赤褐色土 | 口 16.4, 底 8.4, 高(9.5) | (外口) カキム。後ナデ後ヘラ削り施文。(外・内) 磁絵ナデ。 | 砂絵(赤), 灰白色, 普通 |
| | 10 | 4 | 磁器器 | 甕 | SDN 2 S63-64
上層赤褐色土 | 径口 12.0, 高(6.6) | (外) カキム。(内) 磁絵ナデ。 | 砂絵(赤), 灰色, 普通 |
| | 11 | 137-2 | 磁器器 | 甕 | SDN 2
赤褐色土・黒灰色粘質土 | 径口 6.3, 高(9.3) | (外口) ヘラ削り。(外体下・外底) カキム。(内) 磁絵ナデ。 | 砂絵(赤), 暗褐色, 良好 |
| | 12 | 5 | 磁器器 | 甕 | SDN 2 T63
黒灰色粘質土・赤褐色土 | 口 9.7, 高 15.2 | (外体下・外底) ヘラ削り。(その他外・内) 磁絵ナデ。 | 砂絵(赤), 灰白色, 生焼 |
| | 13 | 146-19 | 磁器器 | 甕 | SDN 3 埴谷色粘質土 | 径口 12.6, 底 11.1, 高(1.3) | (外・内) 磁絵ナデ。 | 砂絵(赤), 緑灰色, 生焼 |
| | 14 | 137-6 | 磁器器 | 甕 | SDN 2
黒灰色粘質土・黒灰色粘土 | 径口 12.6, 底 12.8 | (外側・外底) カキム。(外底) 平打等。(内面) 磁絵ナデ。 | 砂絵(赤), 灰色, 普通 |
| | 15 | 8 | 磁器器 | 甕 | SDN 2
黒灰色粘質土・埴谷色粘質土 | 径口 15.6, 高(19.7) | (内) 平打等施文カキム。(内) 平打ナデ。(内) ヘラ削り。 | 砂絵(赤), 灰色・黄灰色, 普通 |
| 16 | 7 | 磁器器 | 甕 | SDN 2 T63-64
黒灰色粘質土・黒褐色土 | 径口 10.4, 高(11.8) | (内) カキム。(内) カキム施文。後ナデナデ。(内) 磁絵ナデ。 | 砂絵(赤), 灰白色, 普通 | |

SDN 2 出土遺棄物

| 図番 | 図面番号 | 種別 | 器種 | 遺跡・地区・層位 | 法量(m) | 成形・調査 | 発着地・色別・施文・その他 | |
|----|-------|-------|-----|-----------------------------|------------------------------|---------------------------|--------------------------------------|-------------------|
| 31 | 139-5 | 磁器器 | 甕 | SDN 2 T64-1-1
黒灰色粘土・黒褐色土 | 径口 30.0, 高(18.0) | (外口) 内面平打等。(外側) カキム。磁絵ナデ。 | 砂絵(赤), 暗灰色, 普通 | |
| | 2 | 3 | 磁器器 | 甕 | SDN 2 T63
黒灰色粘質土・赤褐色土 | 径口 35.4, 高(4.0) | (外体下) 磁絵ナデ。(内) 磁絵ナデ。粘土のつらめ。 | 砂絵(赤), 陶灰色, 良好 |
| | 3 | 6 | 磁器器 | 甕 | SDN 3
黒褐色土・赤褐色土 | 径口 40.0, 底 34.3(好断) | (外) 磁絵ナデ。ハケム。磁絵ナデ。(内) 同心円形ナデ。 | 砂絵(赤), 陶灰色, 良好 |
| | 4 | 4 | 磁器器 | 甕 | SDN 2 T63
黒灰色粘質土・赤褐色土 | 径口 13.4 | (外) 磁絵ナデ。(内) 磁絵ナデ。田オケニ。赤褐色土。 | 砂絵(赤), 灰色, 良好, 磁器 |
| | 5 | 5 | 磁器器 | 甕 | SDN 2 S63
埴谷色粘質土 | 径口 35.6, 高(4.5) | (外体下) ヘラ削り施文。(外口・内) 磁絵ナデ。 | 砂絵(赤), 灰白色, 普通 |
| | 6 | 5 | 磁器器 | 甕 | SDN 3 埴谷色粘質土 | 径口 37.0, 高(6.2) | (外体下) ヘラ削り施文。(その他外・内) 磁絵ナデ。 | 砂絵(赤), 黄灰色, 普通 |
| | 7 | 5 | 磁器器 | 甕 | SDN 2 S63-2
埴谷色粘土 | 径口 18.0, 高(4.6) | (外口・外底) ヘラ削り。(外体下) ナデ。ヘラ削り施文。(内) ナデ。 | 砂絵(赤), 灰白色, 生焼 |
| | 8 | 5 | 磁器器 | 甕 | SDN 2 T63-4, -2
黒褐色土・赤褐色土 | 径口 15.6, 高(22.8) | (内) 平打等カキム。ヘラ削りナデ。(内) 平打等ナデ。 | 砂絵(赤), 灰色, 普通 |
| | 9 | 139-7 | 磁器器 | 甕 | SDN 2 T63
黒褐色土・赤褐色土 | 径口 4.4, 高(17.0) | (外) ナデカキム後磁絵ナデ。(内) ナデ。 | 砂絵(赤), 灰白色, 普通 |

SDA 4 出土土器

| 図番 | 図面番号 | 種別 | 器種 | 遺跡・地区・層位 | 法量(m) | 成形・調査 | 発着地・色別・施文・その他 | |
|----|-------|--------|-----|------------------------------|--------------------------|-------------------------|-----------------------------------|--------------------|
| 32 | 139-5 | 非発着地土器 | 甕 | SDA 4 T64-2
赤褐色粘質土・黒灰色粘質土 | 径口 18.6, 底 16.4, 高(17.0) | (外) 叩キ。(外口・内) 磁絵ナデ。 | 赤褐色・灰オリーブ色, 普通 | |
| | 2 | | 甕 | SDA 4 T64-4 | 底 6.1, 高(3.0) | (外) ヘラ削りのもナデ。(内) ナデ。 | 砂絵(赤), におい褐色, 普通 | |
| | 3 | 143-1 | 磁器器 | 坏 | SDA 4 T64-3 | 径口 14.1, 高 3.4 | (外口上) ヘラ削り(造回り)。(その他外・内) 磁絵ナデ。 | 砂絵(赤), 灰色, 普通 |
| | 4 | 2 | 磁器器 | 坏 | SDA 4 T64-3
赤褐色粘質土 | 径口 13.3, 高 4.1 | (外口上) ヘラ削り(造回り)。(その他外・内) 磁絵ナデ。 | 砂絵(赤), 灰色, 普通 |
| | 5 | 3 | 磁器器 | 坏 | SDA 4 9・T64 | 径口 13.4, 高 3.7 | (外口上) ヘラ削り。(その他外・内) 磁絵ナデ。 | 砂絵(赤), 灰色, 普通, 自然焼 |
| | 6 | 5 | 磁器器 | 坏 | SDA 4 T64-3
赤褐色粘質土 | 径口 13.3, 高 3.8 | (外口上) ヘラ削り(造回り)。(その他外・内) 磁絵ナデ。 | 砂絵(赤), 灰色, 生焼 |
| | 7 | 143-4 | 磁器器 | 坏 | SDA 4 T65-1 | 径口 10.2, 底 12.4, 高 4.9 | (外体下・外底) ヘラ削り(造回り)。(その他外・内) 磁絵ナデ。 | 砂絵(赤), 灰白色, 普通 |
| | 8 | 5 | 磁器器 | 坏 | SDA 4 T65-1 | 径口 15.2, 底 18.0, 高(4.8) | (外体下) ヘラ削り。(その他外・内) 磁絵ナデ。 | 赤・砂絵(赤), 黄灰色, 普通 |
| | 9 | 143-5 | 磁器器 | 坏 | SDA 4 T64-2
赤褐色粘質土 | 径口 13.0, 底 15.8, 高(1.9) | (外体下) ヘラ削り。(その他外・内) 磁絵ナデ。 | 赤・砂絵(赤), 灰色, 普通 |
| | 10 | 6 | 磁器器 | 坏 | SDA 4 T65-1 | 径口 13.3, 底 15.8, 高(2.0) | (外体下) ヘラ削り。(その他外・内) 磁絵ナデ。 | 砂絵(赤), 灰色, 普通 |
| | 11 | 5 | 磁器器 | 坏 | SDA 4 T64-2
赤褐色粘質土 | 径口 11.8, 高(4.6) | (外体下) ヘラ削り(造回り)。(その他外・内) 磁絵ナデ。 | 砂絵(赤), 灰色, 普通 |
| | 12 | 5 | 磁器器 | 坏 | SDA 4 T65-3 | 径口 11.6, 底 13.4, 高(1.2) | (外体下) ヘラ削り。(その他外・内) 磁絵ナデ。 | 砂絵(赤), 灰白色, 少し施文 |
| | 13 | 143-7 | 磁器器 | 甕 | SDA 4 S64-2
赤褐色粘質土 | 径口 11.8, 高(7.0) | (外) 磁絵ナデ。ヘラ削りのもナデ。黒い叩キ。(内) ナデ。 | 砂絵(赤), 灰色, 普通 |
| | 14 | 8 | 磁器器 | 甕 | SDN 2・SDA 4 T65-1 | 径口 18.2, 底 12.4, 高(5.0) | (外・内) 磁絵ナデ。 | 砂絵(赤), 灰白色, 型焼 |
| | 15 | 5 | 磁器器 | 甕 | SDA 4 T64-2 | 径口 15.9, 高(3.6) | (外・内) 磁絵ナデ。 | 砂絵(赤), 灰白色, 普通 |
| | 16 | 5 | 磁器器 | 甕 | SDA 4 T64-2 | 径口 13.4, 底 9.8, 高(5.7) | (外・内) 磁絵ナデ。 | 砂絵(赤), 灰色, 普通 |
| | 17 | 5 | 磁器器 | 甕 | SDA 4 T65-3 | 径口 20.0, 高(2.5) | (外・内) 磁絵ナデ。 | 砂絵(赤), 灰色, 普通 |
| | 18 | 143-9 | 磁器器 | 甕 | SDA 4 T65-1 | 径口 19.0, 底 15.8, 高(6.5) | (外) カキム。(その他外・内) 磁絵ナデ。 | 砂絵(赤), 灰白色, 生焼 |
| | 19 | 10 | 磁器器 | 甕 | SDA 4 T64-2
赤褐色粘質土 | 径口 19.4, 底 16.6, 高(6.7) | (外) 叩キのみカキム。(その他外・内) 磁絵ナデ。 | 砂絵(赤), 灰白色, 生焼 |

| 国番号 | 国別番号 | 種類 | 名称 | 用途・地区・層位 | 数量(m) | 成形・調整 | 備考(土・色別・組成・その他) | |
|-------|-------|-----|-----------------------|-----------------------|----------------------------------|-------------------------------------|-----------------|--|
| 22-20 | 成造砂 | 質 | SDA 4 T65-2 | 窪口17.4, 高12.4 | (外・内)同級ナデ。 | 砂粒(赤), 灰白色, 普通 | | |
| 21 | 成造砂 | 質 | SDA 4 T64-2 | 窪口17.7, 高12.4 | (外・内)同級ナデ。 | 砂粒(赤), 灰白色, 普通 | | |
| 22 | 成造砂 | 質 | SDA 4 T64-4 | 窪口19.3, 高14.3 | (外・内)同級ナデ。 | 砂粒(赤), 灰白色, 普通 | | |
| 23-13 | 成造砂 | 質 | SDA 4 S64-2
高灰色砂質土 | 窪口15.3, 仮蓋12.3, 高17.3 | (外)母骨ナデ, (内)内中心部ナデ, (外・内・内)同級ナデ。 | 砂粒(赤), 灰色, 普通 | | |
| 24 | 11 | 成造砂 | 質 | SDA 4 T65-1 | 窪口15.6, 仮蓋13.6, 高13.6 | (外)高灰土母骨ナデ, (内)内中心部ナデ, (外・内)ナデ。 | 砂粒(赤), 灰白色, 普通 | |
| 25 | 12 | 成造砂 | 質 | SDA 4 T64-4 | 窪口20.8, 仮蓋18.8, 高18.8 | (外)高灰土母骨ナデ, (内)内中心部ナデ, (外・内・内)同級ナデ。 | 砂粒(赤), 灰白色, 普通 | |
| 26 | 成造砂 | 質 | SDA 4 S65-2
灰白色砂土 | 窪口18.9, 高13.9 | (外・内)同級ナデ。 | 砂粒(赤), 浅灰色, 普通 | | |
| 27 | 14-14 | 成造砂 | 質 | SDA 4 T64-2
高灰色砂質土 | 窪口16.3, 仮蓋12.4, 高16.3 | (外)母骨ナデ, (内)母骨ナデ, (外・内)ナデ。 | 砂粒(赤), 灰白色, 普通 | |

SDA 3・4、SDN 9 出土土種別

| 国番号 | 国別番号 | 種類 | 名称 | 用途・地区・層位 | 数量(m) | 成形・調整 | 備考(土・色別・組成・その他) |
|------|--------|-----|-----------------------|-------------------------------|---------------------------------|-------------------------------------|-----------------------|
| 23-1 | 144-2 | 成造砂 | 灰質 | SDA 4 | 窪口13.3, 高14.3 | (外)へう張り, 削りナデ。 | 砂粒(赤), 明黄色, 自然級 |
| 2 | 成造砂 | 灰質 | SDA 3 S65-2
暗灰色粘土 | 窪口13.4, 高13.1 | (外・内)同級ナデ。 | 砂粒(赤), 灰色, 普通 | |
| 3 | 成造砂 | 灰質 | SDA 3 | 窪口14.6, 高12.6 | (外・内)同級ナデ。 | 砂粒(赤), 青灰色, 普通 | |
| 4 | 成造砂 | 灰質 | SDA 4 S64-4 | 窪口14.3, 高 2.7 | (外)ナデ同級へう張り, (内)ナデ。 | 砂粒(赤), 灰色, 良好 | |
| 5 | 144-4 | 成造砂 | 灰質 | SDN 9 | 窪口14.6, 高 3.8 | (外)へう張り, (内)同級ナデ。 | 砂粒(赤), 灰色, 良好, 高灰土母骨 |
| 6 | 3 | 成造砂 | 灰質 | SDA 4 | 窪口13.8, 高13.0 | (外)へう張り(仮張り), 削りナデ。 | 砂粒(赤), 灰色, 普通 |
| 7 | 成造砂 | 灰質 | SDA 4 S64-4 | 窪口14.6, 高 4.4 | (外)へう張り, (その他)内同級ナデ。 | 砂粒(赤), 灰白色, 普通 | |
| 8 | 144-5 | 成造砂 | 灰質 | SDA 4 | 窪口14.8, 高 4.2 | (外)へう張り(仮張り), (その他)内同級ナデ。 | 砂粒(赤), 灰白色, 普通 |
| 9 | 成造砂 | 高灰質 | SDA 3 | 窪口 8.6, 高11.0 | (外・内)同級ナデ, (外・内)母骨ナデ。 | 砂粒(赤), 灰白色, 普通 | |
| 10 | 144-1 | 成造砂 | 高灰質 | S65-4 高灰色土 | 窪口15.4, つまみ2.5, 高 4.5 | (外)へう張り, (その他)内同級ナデ。 | 砂粒(赤), 灰色, 普通 |
| 11 | 成造砂 | 灰 | SDA 4 | 窪口13.3, 高 4.6 | (外)へう張りナデ, (外)へう張り(仮張り), (内)ナデ。 | 砂粒(赤), 灰白色, 中々普通 | |
| 12 | 成造砂 | 灰 | SDA 4 | 窪口12.0, 高(4.1) | (外)へう張りナデ, (内)中心部ナデ, (その他)内ナデ。 | 砂粒(赤), 灰色, 普通, 自然級 | |
| 13 | 成造砂 | 灰 | SDN 9 | 窪口12.7, 高 3.6 | (外)へう張り, 破砕へう張り, (内)粘土つりナデ。 | 砂粒(赤), 灰白色, 良好, 高灰土母骨 | |
| 14 | 成造砂 | 灰 | SDN 9 S64-2
高灰色砂質土 | 窪口15.3, 高(4.2) | (外)削りナデ。 | 砂粒(赤), 灰色, 普通, 土母骨 | |
| 15 | 成造砂 | 灰 | SDA 3 | 窪口13.6, 高(3.7) | (外)へう張り, (その他)内同級ナデ。 | 砂粒(赤), 青灰色, 普通 | |
| 16 | 成造砂 | 灰 | SDN 9 | 窪口11.8, 高(3.7) | (外)へう張り, (その他)内同級ナデ。 | 砂粒(赤), 明黄色, 良好 | |
| 17 | 成造砂 | 灰 | T65-1 灰白色 | 窪口15.1, 高(3.7) | (外)へう張りナデ, (内)削りナデ, (内)同級ナデ。 | 中々普通, 砂粒(赤), 灰色, 母骨ナデ | |
| 18 | 144-6 | 成造砂 | 灰 | SDN 9 | 窪口12.3, 高 3.5 | (外)へう張り, (外)同級ナデ。 | 砂粒(赤), 灰白色, 普通, 高灰土母骨 |
| 19 | 成造砂 | 灰 | SDA 4 | 窪口12.9, 仮蓋12.9, 高12.9 | (外・内)同級ナデ。 | 砂粒(赤), 明黄色, 普通 | |
| 20 | 成造砂 | 高灰 | SDA 4 T64-2 | 窪口12.9, 高(3.7) | (外・内)同級ナデ, ナデ。 | 砂粒(赤), 灰色, 普通 | |
| 21 | 144-10 | 成造砂 | 質 | SDA 3 S65-2
高灰色粘質土 | 窪口20.1, 高13.2 | (外)母骨ナデ, (内)中心部青灰土母骨, (その他)内ナデ。 | 砂粒(赤), 灰白色, 普通 |
| 22 | 成造砂 | 質 | SDA 3 S65-2
暗灰色粘質土 | 窪口19.9, 仮蓋18.9, 高(4.0) | (外)母骨ナデ, カギ, ナデ, (内)同級ナデ, ナデ。 | 砂粒(赤), 灰色, 普通 | |
| 23 | 144-9 | 成造砂 | 質 | SDA 4 S64-4 | 窪口17.1, 仮蓋14.8, 高12.7 | (外)母骨ナデ, (内)削りナデ, (その他)内ナデ。 | 砂粒(赤), 青灰色, 普通 |
| 24 | 成造砂 | 質 | SDA 4 | 窪口16.2, 高(6.5) | (外)青灰土母骨, (内)高灰土母骨, (その他)内同級ナデ。 | 砂粒(赤), 浅灰色, 普通 | |
| 25 | 成造砂 | 質 | SDA 3 | 窪口19.0, 高(3.1) | (外・内)同級ナデ。 | 砂粒(赤), 灰白色, 普通 | |
| 26 | 144-12 | 成造砂 | 質 | T65-1 灰白色 | 窪口18.0, 幅12.2, 高(6.0) | (外)へう張りナデ, (外)削りナデ, (内)削りナデ, (内)ナデ。 | 砂粒(赤), 青灰色, 普通 |
| 27 | 11 | 成造砂 | 質 | SDA 4 | 窪口16.2, 高(7.1) | (外)削りナデ, (その他)内同級ナデ。 | 砂粒(赤), 灰色, 普通 |
| 28 | 8 | 成造砂 | 質 | SDN 2 上層 | 窪口 7.8, 高 5.3, 高 12.2 | (外)母骨ナデ, (内)削りナデ, (内)削りナデ, (内)削りナデ。 | 砂粒(赤), 灰色, 普通, 高灰土母骨 |
| 29 | 7 | 成造砂 | 短距離 | SDN 9 | 窪口 6.0, 高 7.1 | (外)母骨ナデ, (内)削りナデ。 | 砂粒(赤), 青灰色, 良好, 高灰土母骨 |
| 30 | 成造砂 | 質 | SDN 9 | 窪口11.3, 高(6.0) | (外)削りナデ, (外・内)削りナデ不可。 | 砂粒(赤), 灰白色, 普通 | |
| 31 | 土母砂 | 小型 | SDA 3 | 窪口 3.5, 仮蓋 5.8, 高17.8, 高(3.5) | (外)削りナデ, (内)削りナデ, (内)削りナデ。 | 砂粒(赤), 灰白色, 普通, 普通 | |

包含層出土土種別

| 国番号 | 国別番号 | 種類 | 名称 | 用途・地区・層位 | 数量(m) | 成形・調整 | 備考(土・色別・組成・その他) |
|------|-------|-----|---------------------|----------------|---------------------------|--------------------|-----------------|
| 34-1 | 成造砂 | 灰質 | T64-2 灰白色 | 窪口15.3, 高 5.2 | (外)へう張り(仮張り), (内)母骨ナデ。 | 砂粒(赤), 灰白色, 普通, ナデ | |
| 2 | 成造砂 | 灰質 | T63-1
青灰色土, 高灰色土 | 窪口13.8, 高(3.0) | (外)へう張り(仮張り), (その他)内同級ナデ。 | 砂粒(赤), 灰白色, 普通 | |
| 3 | 成造砂 | 灰質 | S65-3 灰白色 | 窪口18.4, 高(3.6) | (外)ナデへう張り, (内)ナデ。 | 砂粒(赤), 灰色, 普通 | |
| 4 | 成造砂 | 灰質 | T63-1 暗灰色粘質土 | 窪口14.9, 高(3.0) | (外)ナデへう張り, (内)ナデ。 | 砂粒(赤), 灰色, 普通 | |
| 5 | 成造砂 | 灰質 | S65-3 高灰色粘土 | 窪口17.4, 高 4.2 | (外)ナデへう張り, (内)ナデ。 | 砂粒(赤), 暗黄色, 良好 | |
| 6 | 144-1 | 成造砂 | 灰質 | S65-2 高灰色粘土 | 窪口14.4, 高 4.5 | (外)ナデへう張り, (内)ナデ。 | 砂粒(赤), 青灰色, 普通 |

| 調査号 | 調査期 | 種別 | 形種 | 遺構・地区・層位 | 法 量(m) | 成 形・調 整 | 調査土・土質・地蔵・その他 |
|-------|-------|-----|------|------------------------------|-----------------------|---|------------------|
| 25-23 | 140-9 | 調査跡 | 高坪 | SDA 2 S61-1
茶褐色砂質土 | 径 8.3, 高 3.7, 高(4.0) | (外)環状へり削りナダ。(その他外・内)ナダ。 | 砂状(赤)、灰色、普通 |
| 24 | 8 | 調査跡 | 池 | SDA 2 S61-1
茶褐色砂質土 | 径 7.7, 高(2.5) | (外)・内)ナダ。 | 砂状(赤)、灰色、普通 |
| 25 | 10 | 調査跡 | 高坪 | SDA 2 S61-1
茶褐色砂質土 | 径 8.5, 径 8.4, 高(6.1) | (外)・内)ナダ。 | 砂状(赤)、黄灰色、普通 |
| 26 | | 調査跡 | 池 | SDA 2 S61-1
茶褐色砂質土 | 径口11.4, 高(2.0) | (外)・内)環状ナダ。 | 砂状(赤)、黄灰色、黄灰色、普通 |
| 27 | 130-6 | 調査跡 | 短形竪穴 | SDA 2 S61-1
茶褐色砂質土 | 径口 7.4, 高 6.9 | (外)環状へり削り。(その他外・内)環状ナダ。 | 砂状(赤)、灰色、普通 |
| 28 | 7 | 調査跡 | 倉付式 | SDA 2 S61-1
茶褐色砂質土・茶褐色粘質土 | 径 6.5, 高(7.0) | (外)外下へり削り。(その他外・内)環状ナダ。
(7.1)上2～4.7(高) | 砂状(赤)、灰色、土塊 |
| 29 | | 調査跡 | 倉付式 | SDA 2 S61-1
茶褐色粘質土 | 径7.3, 寸少し径4.1, 高(5.0) | (外)・内)環状ナダ。 | 砂状(赤)、灰白色、普通 |

SDA 2 出土 6～7 世紀須器

| 調査号 | 調査期 | 種別 | 形種 | 遺構・地区・層位 | 法 量(m) | 成 形・調 整 | 調査土・土質・地蔵・その他 |
|------|--------|-----|----|-----------------------|------------------------|--------------------------------|-------------------|
| 26-1 | | 調査跡 | 大甕 | SDA 2 S61-1
茶褐色砂質土 | 径口41.3, 高(6.0) | (外)・内)環状ナダ。 | 甕・砂状(赤)、灰色、良好、自然層 |
| 2 | | 調査跡 | 甕 | SDA 2 S61-1
茶褐色砂質土 | 径 1.8, 高(2.0) | (外)・内)環状ナダ。 | 砂状、灰白色、普通 |
| 3 | | 調査跡 | 甕 | SDA 2 S61-1
茶褐色砂質土 | 径 3.5, 高(3.1) | (外)ナダ。段地、内)ナダ。 | 砂状(赤)、灰白色、良好 |
| 4 | | 調査跡 | 甕 | SDA 2 S61-1
茶褐色粘質土 | 径口20.3, 高(7.0) | (内)部不整方向のナダ。(外)・内)環状ナダ。 | 砂状(赤)、灰色、普通 |
| 5 | 142-11 | 調査跡 | 甕 | SDA 2 S61-1
茶褐色砂質土 | 径25.4, 高(3.0) | (外)・内)口ナダ。(外)半円形ナダナキ。(内)同心円ナダ。 | 砂状(赤)、黄灰色、灰白色、普通 |
| 6 | 9 | 調査跡 | 甕 | SDA 2 S61-1
茶褐色砂質土 | 径18.2, 高(4.3) | (内)部ナダ。(その他外・内)環状ナダ。 | 砂状(赤)、オリーブ灰白色、良好 |
| 7 | | 調査跡 | 甕 | SDA 2 S61-1
茶褐色砂質土 | 径27.6, 高(4.0) | (外)・内)環状ナダ。 | 砂状(赤)、暗灰色、良好 |
| 8 | 142-13 | 調査跡 | 甕 | SDA 2 S61-1
茶褐色粘質土 | 径口17.8, 径部14.9, 高(7.0) | (外)ナキのみナダ。段地ナキ。(内)同心円ナダ。 | 甕・砂状(赤)、灰色、普通、自然層 |
| 9 | 10 | 調査跡 | 甕 | SDA 2 S61-1
茶褐色粘質土 | 径口27.3, 高(5.0) | (外)部ナダの上からナキ。(外)普通環状ナダ。 | 砂状(赤)、灰色、普通 |
| 10 | | 調査跡 | 甕 | SDA 2 S61-1
茶褐色砂質土 | 径口28.8, 高(4.0) | (外)・内)環状ナダ。 | 砂状(赤)、オリーブ色、普通 |
| 11 | | 調査跡 | 甕 | SDA 2 S61-1
茶褐色砂質土 | 径口29.4, 高(4.0) | (外)・内)ナダ。 | 砂状(赤)、灰白色、良好 |
| 12 | | 調査跡 | 甕 | SDA 2 S61-1
茶褐色砂質土 | 径口25.8, 高(4.0) | (外)・内)環状ナダ。 | 甕、灰色、良好、自然層 |
| 13 | | 調査跡 | 甕 | SDA 2 S61-1
茶褐色砂質土 | 径口14.0, 高(3.1) | (外)・内)環状ナダ。 | 甕・砂状(赤)、灰白色、良好 |
| 14 | | 調査跡 | 甕 | SDA 2 S61-1
茶褐色砂質土 | 径口27.3, 径部18.8, 高(7.0) | (外)・内)口ナダ。(外)半円形ナダ。(内)同心円ナダ。 | 甕・砂状(赤)、灰色、良好、自然層 |
| 15 | 142-15 | 調査跡 | 甕 | SDA 2 S61-1
茶褐色砂質土 | 径口13.0, 高(5.7) | (外)・内)ナダ。 | 砂状(赤)、灰色、良好 |
| 16 | | 調査跡 | 甕 | SDA 2 S61-1
茶褐色砂質土 | 径26.6, 高(5.0) | (外)・内)環状ナダ。 | 砂状(赤)、暗灰色、普通 |

SDN 2 出土 6～7 世紀須器

| 調査号 | 調査期 | 種別 | 形種 | 遺構・地区・層位 | 法 量(m) | 成 形・調 整 | 調査土・土質・地蔵・その他 |
|------|-------|-----|-----|----------------------------|-----------------|---------------------------------|-----------------|
| 27-1 | 130-6 | 調査跡 | 甕 | SDN 2 緑灰色粘質土・黄褐色粘質土・茶褐色粘質土 | 径口20.0, 高(0.1) | (外)環状ナダ。(内)部環状ナダ。(内)同心円ナダ。 | 砂状(赤)、灰白色、普通 |
| 2 | | 調査跡 | 甕 | SDN 2 | 径口22.3, 高(4.0) | (外)・内)ナダ。(外)環状ナダ。(内)同心円ナダ。 | 砂状(赤)、灰白色、普通 |
| 3 | | 調査跡 | 甕 | SDN 2 T63-2 | 径口18.3, 高(0.70) | (外)・内)環状ナダ。 | 砂状(赤)、灰色、普通 |
| 4 | | 調査跡 | 甕 | SDN 2 | 径口20.0, 高(4.3) | (外)・内)環状ナダ。 | 砂状(赤)、灰白色、土塊 |
| 5 | | 調査跡 | 甕 | SDN 2 S61-1 茶褐色土 | 径口20.0, 高(3.0) | (外)・内)環状ナダ。 | 砂状(赤)、灰色、普通、自然層 |
| 6 | | 調査跡 | 甕 | SDN 2 S61 上層 | 径口14.0, 高(2.2) | (外)・内)環状ナダ。 | 砂状(赤)、灰色、普通 |
| 7 | 130-7 | 調査跡 | 甕 | SDN 2 緑灰色粘質土・黄褐色粘質土・茶褐色粘質土 | 径口20.1, 高(17.0) | (外)ナダ。段地ナキのみナキ。(内)ナダ。(内)同心円ナダ。 | 砂状(赤)、灰白色、土塊 |
| 8 | | 調査跡 | 甕 | SDN 2 T63-2 | 径口20.0, 高(3.0) | (外)ナダ。段地ナキのみナキ。(内)ナダ。(内)同心円ナダ。 | 砂状(赤)、灰白色、土塊 |
| 9 | 130-8 | 調査跡 | 甕 | SDN 2 T63-3 | 径口18.0, 高(5.7) | (外)環状ナダ。(外)ナキ。(内)環状ナダ。(内)同心円ナダ。 | 砂状(赤)、灰白色、土塊 |
| 10 | | 調査跡 | 甕 | SDN 2 S61-1 茶褐色土 | 径口19.75, 高(4.2) | (外)・内)環状ナダ。 | 砂状(赤)、灰白色、普通 |
| 11 | | 調査跡 | 甕 | SDN 2 T63-2 | 径口18.7, 高(3.0) | (外)・内)環状ナダ。 | 砂状(赤)、灰白色、普通 |
| 12 | | 調査跡 | 甕 | SDN 2 上層 黄灰色土 | 径口18.5, 高(5.0) | (外)・内)環状ナダ。 | 砂状(赤)、灰白色、普通 |
| 13 | | 調査跡 | 甕 | SDN 2 S61-1 | 径口20.0, 高(3.7) | (外)環状ナダ。(内)同心円ナダ。(内)同心円ナダ。 | 砂状(赤)、灰白色、土塊 |
| 14 | | 調査跡 | 甕 | SDN 2 T64-1 茶褐色土 | 径口18.0, 高(0.80) | (外)・内)環状ナダ。 | 砂状(赤)、灰色、普通 |
| 15 | | 調査跡 | 甕 | SDN 2 | 径口14.0, 高(5.50) | (外)・内)環状ナダ。 | 砂状(赤)、灰白色、普通 |
| 16 | | 調査跡 | 納屋? | SDN 2 S61-1
黄灰色土・黄褐色粘質土 | 径口11.0, 高 3.9 | (外)・内)環状ナダ。 | 砂状(赤)、灰色、普通 |
| 17 | | 調査跡 | 甕 | SDN 2 S61-1
黄褐色粘質土 | 径口17.4, 高(4.30) | (外)・内)環状ナダ。 | 砂状(赤)、灰白色、普通 |
| 18 | | 調査跡 | 甕 | SDN 2 S61-1
黄褐色粘質土 | 径口22.4, 高(5.0) | (外)・内)環状ナダ。 | 砂状(赤)、灰白色、普通 |

SDA 2 出土須器跡動物遺骸

| 調査号 | 調査期 | 種別 | 形種 | 遺構・地区・層位 | 法 量(m) | 成 形・調 整 | 調査土・土質・地蔵・その他 |
|------|-------|-----|----|-------------------------------|------------------------|--------------------------------|-----------------|
| 26-1 | 130-6 | 調査跡 | 甕 | SDA 2 S61-1
茶褐色砂質土・茶褐色粘質土 | 径口28.8, 高(3.0) | (外)ナキのみナダ。段地ナキ。(内)ナダ。(内)同心円ナダ。 | 砂状(赤)、緑色、良好、自然層 |
| 2 | 141-3 | 調査跡 | 甕 | S61-1, 2 茶褐色砂質土・黄褐色粘質土・黄褐色砂質土 | 径口22.0, 径部18.3, 高(0.7) | (外)輪縁部点文。段地ナキ。(内)同心円ナダ。 | 砂状(赤)、緑褐色、良好 |

| 図番 | 図名 | 種類 | 形状 | 遺構・地区・層位 | 法 量(m) | 成 形・調 査 | 調査土・色調・構成・その他 |
|------|-------|-----|----|---------------------------|----------------------------|------------------------------|-------------------|
| 20-3 | 143-7 | 埋設部 | 溝 | SDA2 S63-2
溝内砂質土・溝底砂質土 | 溝口33.8、幅33.1、高13.0 | (外)へう掘成法、貫棒子等ナシ。(内)同心円ナシ、ナシ。 | 砂粒(黄)、灰白色、普通 |
| 4 | 143-8 | 埋設部 | 溝 | SDA1 S61-2
溝内砂質土 | 口28.4、幅19.8、深さ20.0
高0.0 | (外)成状文、平打甲キ、ナシ。(内)同心円ナシ、ナシ。 | 砂粒(黄)、灰色、良好、(黄)灰土 |

埋 籠

| 図番 | 図名 | 種類 | 形状 | 遺構・地区・層位 | 法 量(m) | 成 形・調 査 | 調査土・色調・構成・その他 |
|------|-------|----|----|--------------|---------------|---------------------------|---------------|
| 20-1 | 140-6 | 埋籠 | 形籠 | S64-2 溝内土 | 径5×6.5×1.3 | (黄)ナシ。(黄)へう掘成法。 | 砂粒(黄)、溝灰色、普通 |
| 2 | 4 | 結核 | 円筒 | T63-3 埋設色粘質土 | 径40×4 厚1.0 | (外)へう掘成法、貫棒子ナシ。(内)ナシ、ナシ。 | 砂粒(黄)、褐色、普通 |
| 3 | 5 | 結核 | 円筒 | S65-2 溝内土 | 径5.3×4.5厚21.0 | (外)たがけ貫棒子へう。(内)へう掘成へう、ナシ。 | 砂粒(黄)、褐色、普通 |

埋 羽 口

| 図番 | 図名 | 種類 | 形状 | 遺構・地区・層位 | 法 量(m) | 成 形・調 査 | 調査土・色調・構成・その他 |
|------|-------|-----|-----|-------------|----------------------|-------------------------|------------------------|
| 40-1 | 140-2 | 土製品 | 埋羽口 | T64-4 埋設茶色土 | 径7×5.0(外)7.3(内)2.8 | (外)シボロメ、取柄、ナシ。(内)刺網。 | 砂粒(黄)、(外)溝灰色、(内)灰色 |
| 2 | 3 | 土製品 | 埋羽口 | S63-3 溝内土 | 径5×3.5(外)7.4(内)3.2 | (外)シボロメ後ナシ。(内)刺網。 | (外)砂粒(黄)、(外)溝灰色、(内)溝灰色 |
| 3 | 1 | 土製品 | 埋羽口 | S64-1 | 径5.5×4.8(外)7.4(内)3.6 | (外)ナシ。(内)刺網不明。(他)取柄、ナシ。 | 砂粒(黄)、(外)灰色 |

焼灰・製土器

| 図番 | 図名 | 種類 | 形状 | 遺構・地区・層位 | 法 量(m) | 成 形・調 査 | 調査土・色調・構成・その他 |
|------|--------|-----|---------------------|---------------------|--------------------------------|------------------------------|-------------------|
| 43-1 | 145-9 | 埋設部 | 溝 | R65-C3 | 口(外)4.4、幅3.0、高10.0 | (外)溝内へう掘り後ナシ。(その他外・内)ナシ、ナシ。 | 黄・砂粒(黄)、灰色、普通 |
| 2 | 145-25 | 埋設部 | 溝 | T63-2 埋設色粘質土 | 穴径10.0、高0.9 | (外)粘土どわがけナシ。(内)ナシ。(外)粘土のつづめ。 | 砂粒(黄)、埋設色、普通 |
| 3 | 36 | 埋設部 | 溝 | T64-1 埋設色粘質土 | 穴径 0.5、高0.0 | (埋上)粘土のつづめ。(内)0.0ナシ。 | 砂粒(黄)、灰色、普通 |
| 4 | 24 | 埋設部 | 溝 | S64-3、4 溝内土 | 穴径 1.3、高0.9 | (埋上)粘土のつづめ。(内)シボロメの指ササギナシ。 | 砂粒(黄)、明褐色、灰白色、良好 |
| 5 | 23 | 埋設部 | 溝 | SDN2 S62-4 溝内土 | 穴径 4.8、高0.9 | (埋上)粘土しり挿合網。(内)へう掘成、(内)20ナシ。 | 黄・砂粒(黄)、灰色、埋設色、普通 |
| 6 | 27 | 埋設部 | 溝 | S65-2 | 溝口 4.8、径棒 7.4、高(外)6.0 | (外・内)取柄ナシ。 | 砂粒(黄)、オリーブ灰色、普通 |
| 7 | 29 | 埋設部 | 溝 | S64-2
溝内土・埋設色粘質土 | 溝口 3.8、径棒 7.8、高(外)5.0 | (外・内)取柄ナシ。 | 砂粒(黄)、明褐色、普通 |
| 8 | 28 | 埋設部 | 溝 | T65-1 埋設色粘質土 | 溝口 3.8、径棒 7.8、高(外)5.0 | (外・内)取柄ナシ。 | 砂粒(黄)、埋設色、普通 |
| 9 | 7 | 製土器 | SDA3 T66-1 | 溝口 6.4、高(外)3.0 | (外)刺網なし(調整器不明。(内)口ナシ)。(外)取柄不明。 | 褐色、粘土粘質土、生焼 | |
| 10 | 11 | 製土器 | SDN2 T63-2 | 溝口 8.5、高(外)3.0 | (外)刺網なし(調整器不明。(内)口ナシ)。(外)取柄不明。 | 褐色・砂粒(黄)、埋設色、生焼 | |
| 11 | 14 | 製土器 | SDN2 T63-2
溝内砂質土 | 溝口 6.8、高(外)3.0 | (外・内)刺網なし(調整器不明)。 | 砂粒(黄)、埋設色、生焼 | |
| 12 | 9 | 製土器 | T63-3 埋設色粘質土 | 溝口 7.3、高(外)3.0 | (外・内)刺網なし(調整器不明)。(内)粘土しり。 | 黄・砂粒(黄)、赤褐色、生焼 | |
| 13 | 10 | 製土器 | T65-1 溝内土 | 溝口 6.3、高(外)3.0 | (外・内)刺網なし(調整器不明)。 | 砂粒(黄)、灰色、生焼 | |
| 14 | 8 | 製土器 | R65-2 埋設色粘質土 | 溝口 9.4、高(外)3.0 | (外)指ササギ。(内)刺網なし(調整器不明)。 | 灰黄・砂粒(黄)、褐色、灰色、生焼 | |
| 15 | 16 | 製土器 | R64-3 溝内土 | 溝口 4.8、高(外)3.0 | (外・内)刺網なし(調整器不明)。(内)粘土しり。 | 褐色・砂粒(黄)、埋設色、生焼 | |
| 16 | 13 | 製土器 | SDN2 T63-2 溝内土 | 溝口 7.8、高(外)3.0 | (外・内)刺網なし(調整器不明)。 | 黄・砂粒(黄)、灰色、生焼 | |
| 17 | 12 | 製土器 | SDN2 S62-4 溝内土 | 溝口 7.8、高(外)3.0 | (外・内)刺網なし(調整器不明)。(外)粘土しり。 | 黄・砂粒(黄)、褐色、生焼 | |

ビット内出土遺物

| 図番 | 図名 | 種類 | 形状 | 遺構・地区・層位 | 法 量(m) | 成 形・調 査 | 調査土・色調・構成・その他 |
|------|-------|-------|----|-------------------|-------------------------------|-----------------------------|-------------------|
| 42-1 | | 発見式土器 | 釜 | Fa38 掘り方 | 径21.8、高(外)13.4、高(内)3.0 | 刺網なし(調整器不明)。 | 砂粒(黄)、灰白色、普通 |
| 2 | | 土器 | 甕 | SBK2 | 径口14.9、径底13.4、高(外)3.0 | 刺網なし(調整器不明)。 | 灰黄・砂粒(黄)、細かい磁器、普通 |
| 3 | | 埋設部 | 円筒 | Fa39 掘り方 | つまみ 2.3、高(外)0.9 | (外)取柄ナシ。(内)1cm幅の平打子ナナ目2ホ。 | 砂粒(黄)、埋設色・赤灰色、普通 |
| 4 | 152-1 | 埋設部 | 円筒 | Fa69 掘り方 | 高(外)1.0 | (外)へう掘り。(その他外・内)取柄ナシ。 | 黄・砂粒(黄)、溝灰色、生焼 |
| 5 | | 埋設部 | 円筒 | Fa69 S63 掘り方 | 径口16.0、高(外)3.0 | (外)口部ホキヤメ掘り？(その他外・内)取柄ナシ。 | 砂粒(黄)、灰色、普通 |
| 6 | | 埋設部 | 円筒 | Fa44 | 径口10.2、径底 3.4、高(外)3.0 | (外・内)取柄ナシ。 | 黄・砂粒(黄)、灰色、普通 |
| 7 | | 埋設部 | 円筒 | Fa41 掘り方 | 径口16.3、径底11.9、高(外)3.0 | (外)下へう掘り。 | 砂粒(黄)、灰色、普通、生焼 |
| 8 | | 埋設部 | 円筒 | Fa63 S63 掘り方 | 径口10.4、径底13.0、高(外)3.0 | (外・内)取柄ナシ。 | 砂粒(黄)、埋設色、生焼 |
| 9 | | 埋設部 | 円筒 | Fa44 | 径底12.3、高(外)3.0 | (外・内)取柄ナシ。(埋)粘土のつづめ。 | 砂粒(黄)、灰白色、生焼 |
| 10 | 152-3 | 埋設部 | 高杯 | Fa47-3 掘り方 | 径口12.0、径底11.4、高(外)3.0、(内)底0.5 | (外)下・外側へう掘り。(その他外・内)取柄ナシ。 | 砂粒(黄)、灰色、普通 |
| 11 | | 埋設部 | 高杯 | SBK2 S63 溝内土 | 径底 4.8、高(外)0.9 | (外・内)取柄ナシ。 | 砂粒(黄)、灰白色、普通 |
| 12 | 152-2 | 埋設部 | 高杯 | S63 埋設色粘質土・埋設色粘質土 | 径底12.4、高(外)0.9 | (外・内)取柄ナシ。 | 砂粒(黄)、埋設色、普通 |
| 13 | | 埋設部 | 円筒 | SBK5 埋設色粘質土 | 径底14.8、高(外)3.0 | (外・内)取柄ナシ。(埋)粘土のつづめ。 | 黄・砂粒(黄)、灰白色、普通 |
| 14 | | 埋設部 | 円筒 | Fa41 掘り方 | 径底11.8、高(外)3.0 | (外)下へう掘り(底掘り)。(その他外・内)取柄ナシ。 | 砂粒(黄)、灰色、普通 |
| 15 | | 埋設部 | 円筒 | S63 埋設色粘質土 | 径口12.0、高(外)3.0 | (外・内)取柄ナシ。 | 砂粒(黄)、オリーブ灰色、普通 |
| 16 | | 埋設部 | 円筒 | Fa36 埋籠 | 径口14.0、高(外)3.0 | (外・内)取柄ナシ。 | 砂粒(黄)、埋設色、普通 |

| 図番 | 図番 | 種別 | 形状 | 道幅・地区・層位 | 法量(m) | 成 形 ・ 調 査 | 骨付土・色調・組成・その他 |
|-------|--------|-----|----|-------------------|----------------------|-----------------------------|-------------------|
| 42-17 | | 成層砂 | 砂 | SBN2 2 | 開口11.3、覆厚19.3、高(1.0) | 併・内削掘ナシ。 | 砂粒(赤)、灰色、普通 |
| 18 | 15D-10 | 成層砂 | 高坪 | SBN11 茶褐色砂質土 | 開口3.0、高(6.5) | (併外下)へう削り。(併)ナシ。(口)覆厚0の点。 | 砂粒(赤)、灰色、普通、自然 |
| 19 | | 成層砂 | 蓋 | SBN2 2 543 茶褐色土 | 開口6.8、覆厚19.8、高 5.5 | (併外下)面状。(併)不正方向のナシ、両心内削りナシ。 | 砂粒(赤)、灰色、普通 |
| 20 | | 成層砂 | 覆 | PH41 覆り方 | 開口15.6、覆厚3、高(1.7) | 併・内削掘ナシ。 | 砂粒(赤)、灰白色、普通 |
| 21 | | 成層砂 | 覆 | SKA2 2 542 灰白色砂質土 | 開口20.4、高(1.7) | 併・内削掘ナシ。 | 砂粒(赤)、オリーブ色、普通、自然 |
| 22 | | 成層砂 | 覆 | PH49 543 覆り方 | 開口12.4、高(1.0) | (併)キキのものナシ。(その他)内削掘ナシ。 | 砂粒(赤)、灰色、普通 |

SDA 2 出土土層

| 図番 | 図番 | 種別 | 形状 | 道幅・地区・層位 | 法量(m) | 成 形 ・ 調 査 | 骨付土・色調・組成・その他 |
|------|-------|-----|-----|------------------------------|----------------|--------------------------------------|----------------|
| 43-1 | | 成層砂 | 坪 | SDA 2 541-1
茶褐色砂質土 | 開口9.6、高(1.0) | 併・内削掘ナシ。 | 砂粒(赤)、灰色、自然 |
| 2 | | 成層砂 | 坪 | SDA 2 541-1
茶褐色砂質土 | 開口9.6、高(1.0) | (併外上)へう削り。(併外下・口)掘削ナシ。(併)掘削ナシ。 | 砂粒(赤)、灰色、普通 |
| 3 | | 成層砂 | 坪 | SDA 2 541-1
茶褐色砂質土 | 高(1.0) | (併)へう削り。(併)掘削ナシ。 | 砂粒(赤)、灰白色、自然 |
| 4 | 14D-2 | 成層砂 | 坪 | SDA 2 541-1
茶褐色砂質土・茶褐色砂質土 | 開口3.0、高 7.5 | (併外上)へう削り。(併外下)削りのものナシ。(併)掘削ナシ。 | 砂粒(赤)、暗赤褐色、普通 |
| 5 | 1 | 成層砂 | 坪 | SDA 2 541-1
茶褐色砂質土 | 開口15.5、高 3.2 | 併つまみ・口掘削ナシ。(併外上)へう削り。(併)掘削ナシ。 | 砂粒(赤)、灰白色、普通 |
| 6 | | 成層砂 | 坪 | SDA 2 541-1
茶褐色砂質土 | 覆厚 5.4、高(1.0) | (併)へう削り。(併)掘削ナシ。 | 砂粒(赤)、灰色、普通 |
| 7 | 14D-5 | 成層砂 | 坪 | SDA 2 541-1
茶褐色砂質土 | 開口12.9、高 3.4 | (併外上)へう削りのものナシ。(併外下)掘削ナシ。(併)掘削ナシ。 | 砂粒(赤)、灰白色、自然 |
| 8 | | 成層砂 | 坪 | SDA 2 541-1
茶褐色砂質土 | 高(1.0) | 併・内削掘ナシ。 | 砂粒(赤)、緑灰色、普通 |
| 9 | 14D-4 | 成層砂 | 高坪併 | SDA 2 541-1 4.3
茶褐色砂質土 | 高(1.0) | (併外上)掘削ナシ。(併外下・高)へう削り。(併)掘削ナシ。 | 砂粒(赤)、灰白色、普通 |
| 10 | 3 | 成層砂 | 高坪併 | SDA 2 茶褐色砂質土 | 開口15.4、高 4.3 | 併・内削掘ナシ。 | 砂粒(赤)、暗赤褐色、普通 |
| 11 | | 成層砂 | 坪 | SDA 2 541-1
茶褐色砂質土 | 高(1.0) | 併・内削掘ナシ。 | 砂粒(赤)、黄灰色、普通 |
| 12 | | 成層砂 | 蓋 | SDA 2 541-1 (7才上層)
茶褐色砂質土 | 開口12.8、高(3.3) | 併・内削掘ナシ。 | 砂粒(赤)、灰(白)色、普通 |
| 13 | | 成層砂 | 給養 | SDA 2 541-1
茶褐色砂質土 | 6.9、高(3.1) | 併掘削ナシ。(併)掘削ナシ。(給)給土付着。 | 砂粒(赤)、灰色、自然 |
| 14 | | 成層砂 | 不付保 | SDA 2 541-1
茶褐色砂質土・茶褐色砂質土 | 高(1.0) | 併・内削掘ナシ。(併)掘削ナシ。 | 砂粒(赤)、灰色、普通 |
| 15 | | 成層砂 | 高坪併 | SDA 2 541-1
茶褐色砂質土 | 高(1.0) | 併・内削掘ナシ。(併)中央(高)二条の比露。 | 砂粒(赤)、灰白色、普通 |
| 16 | 14D-1 | 成層砂 | 高坪併 | SDA 2 541-1
茶褐色砂質土 | 高(30.7) | (併外上)へう削りナシ。(併)掘削キキ。(併)掘削ナシ。(併)掘削ナシ。 | 砂粒(赤)、灰白色、普通 |
| 17 | 2 | 成層砂 | 平尺 | SDA 2 541-1
茶褐色砂質土・茶褐色砂質土 | 口 7.9、高(10.0) | 併・内削掘ナシ。 | 砂粒(赤)、オリーブ色、普通 |
| 18 | 4 | 成層砂 | 蓋 | SDA 2 541-1
茶褐色砂質土・茶褐色砂質土 | 覆厚13.8、高(14.5) | (併)掘削ナシ。(併)掘削ナシ。(併)掘削キキナシ。 | 砂粒(赤)、灰白色、自然 |
| 19 | | 成層砂 | ナリ坪 | SDA 2 541-1
茶褐色砂質土 | 覆厚 8.4、高(1.0) | 併・内削掘ナシ。 | 砂粒(赤)、灰色、普通 |
| 20 | | 成層砂 | 坪 | SDA 2 541-1
茶褐色砂質土 | 覆厚12.4、高(1.1) | 併・内削掘ナシ。(併)掘削ナシ。 | 砂粒(赤)、にじみ褐色、普通 |
| 21 | 14D-6 | 土砂層 | 坪 | SDA 2 541-1
茶褐色砂質土 | 開口8.8、高(7.0) | (併)掘削ナシ。(併)掘削ナシ。(併)掘削ナシ。 | 砂粒(赤)、にじみ褐色、普通 |
| 22 | | 土砂層 | 覆 | SDA 2 茶褐色砂質土 | 開口22.9、高(4.0) | (併)掘削ナシ。(併)掘削ナシ。 | 砂粒(赤)、褐色、普通 |

SDA 2 出土土層

| 図番 | 図番 | 種別 | 形状 | 道幅・地区・層位 | 法量(m) | 成 形 ・ 調 査 | 骨付土・色調・組成・その他 |
|------|-------|-----|----|-------------------------------------|-----------------------|-----------------------------|------------------|
| 44-1 | 14D-8 | 成層砂 | 覆 | SDA 2 541
茶褐色砂質土・灰褐色土 | 開口18.4、高 45.4 | (併)掘削砂子キキ。(併)掘削内削りナシ。 | 砂粒(赤)、灰色、良好、自然 |
| 2 | 7 | 成層砂 | 覆 | SDA 2 R-541
茶褐色砂質土・茶褐色砂質土・茶褐色砂質土 | 開口12.8、高(11.0) | (併)平尺中削りのものナシ。(併)掘削内削りナシ。 | 砂粒(赤)、灰色、自然 |
| 3 | | 成層砂 | 覆 | SDA 2 541-1
茶褐色砂質土 | 開口12.8、高(1.0) | 併・内削掘ナシ。 | 砂粒(赤)、暗赤褐色、良好 |
| 4 | 14D-3 | 成層砂 | 坪 | SDA 2 541-1
茶褐色砂質土・茶褐色砂質土 | 開口14.5、覆厚11.8、高(10.5) | (併)掘削砂子キキ、ナシ。(併)掘削内削りナシ、ナシ。 | 併・砂粒(赤)、灰(白)色、普通 |
| 5 | 14D-5 | 成層砂 | 覆 | SDA 2 541-1
茶褐色砂質土 | 開口19.7、高(1.0) | (併)へう削りのものナシ。(併)掘削ナシ。 | 併・灰色、普通、自然 |

包含層出土土層

| 図番 | 図番 | 種別 | 形状 | 道幅・地区・層位 | 法量(m) | 成 形 ・ 調 査 | 骨付土・色調・組成・その他 |
|------|-------|-----|-----|---------------------|---------------|-------------------------------|-------------------|
| 45-1 | | 成層砂 | 坪 | S44-1 3
暗赤褐色砂質土 | 開口10.2、高(1.0) | (併)ナシ掘削ナシ。(併)ナシ。(併)掘削掘削あり。 | 併・砂粒(赤)、灰白色、普通 |
| 2 | 14D-3 | 成層砂 | 覆 | S42-1 4、4.3
茶褐色土 | 開口7.6、高 1.7 | (併)へう削り掘削ナシ。(併)ナシ。 | 併・砂粒(赤)、黄灰色、良好、自然 |
| 3 | | 成層砂 | 坪 | S45-1 3
茶褐色土 | 開口12.2、高 1.7 | (併)掘削ナシ。(併外下)ろくろ目シケ用。(併)掘削ナシ。 | 併・砂粒(赤)、灰白色、普通 |
| 4 | 14D-2 | 成層砂 | 坪 | T00-1 2
灰褐色土 | 開口17.4、高(1.3) | 併・内削掘ナシ。 | 砂粒(赤)、暗灰色、良好 |
| 5 | 1 | 成層砂 | 坪 | T00-1 3
暗赤褐色土 | 開口19.6、高(1.1) | (併)へう削り掘削ナシ。(併)ナシ。 | 併・砂粒(赤)、灰白色、普通 |
| 6 | 7 | 成層砂 | 坪 | T00-1 2
茶褐色土 | 開口14.7、高 2.9 | 併・内削掘ナシ。 | 併・砂粒(赤)、黄灰色、暗褐色 |
| 7 | 4 | 成層砂 | 坪 | 茶褐色土 | 開口11.0、高(1.0) | (併)ナシ。(併)掘削ナシ。 | 砂粒(赤)、黄灰色、普通 |
| 8 | | 成層砂 | 蓋 | T00-1 2
茶褐色土 | 開口11.4、高 2.0 | (併)へう削り、削りのものナシ、掘削ナシ(併)ナシ。 | 併・砂粒(赤)、灰白色、普通 |
| 9 | | 成層砂 | 高坪併 | T00-1 1 | 開口14.7、高 2.95 | 併・内削掘ナシ。 | 併・砂粒(赤)、灰白色、自然 |
| 10 | 14D-6 | 成層砂 | 高坪併 | S45-1 2 | 開口12.4、高 3.8 | 併・内削掘ナシ。 | 併・砂粒(赤)、灰白色、普通 |

| 調査号 | 調査時期 | 種類 | 形状 | 遺構・地区・層位 | 法 量(m) | 成 形・ 装 束 | 資料出土・色別・断面・その他 |
|-------|--------|-----|----|------------------|------------------------|------------------------------------|-------------------|
| 45-11 | 147-3 | 瓦葺部 | 瓦 | SDN 2 594+2 茶褐色土 | 高(1.1) | 併・内凹部ナシ。 | 赤瓦(土)・黄瓦(土)・白瓦(土) |
| 12 | 14 | 瓦葺部 | 瓦 | 545+1 茶褐色土 | 高(1.2) | 併・高(1)赤瓦葺。併・内凹部ナシ。 | 赤瓦(土)・黄瓦(土)・白瓦(土) |
| 13 | 148-8 | 瓦葺部 | 瓦 | 545+3 暗褐色粘質土 | 縦 7.6, 高(7.7) | (併)へう張り(左側)。併・傾斜粘土台からの赤瓦葺あり。(併)ナシ。 | 赤瓦(土)・黄瓦(土)・白瓦(土) |
| 14 | 147-10 | 瓦葺部 | 瓦 | T94+4 茶褐色土 | 横断 7.4, 高(1.0) | (併)傾斜ナシ。(併)傾斜ナシ。(併)傾斜ナシ。 | 赤瓦(土)・黄瓦(土)・白瓦(土) |
| 15 | 12 | 瓦葺部 | 瓦 | 505+1 暗褐色粘質土 | 横断 8.5, 高(1.2) | (併)傾斜ナシ。赤瓦葺。(併)傾斜ナシ。 | 赤瓦(土)・黄瓦(土)・白瓦(土) |
| 16 | 147-13 | 瓦葺部 | 瓦 | T93+2 暗褐色粘質土 | 口11.3, 高(1.1) | (併)内凹部ナシ。 | 赤瓦(土)・黄瓦(土)・白瓦(土) |
| 17 | 147-13 | 瓦葺部 | 瓦 | 564+4 灰白色土 | 高(1.4) | 併・内凹ナシ。 | 赤瓦(土)・黄瓦(土)・白瓦(土) |
| 18 | 11 | 瓦葺部 | 瓦 | 594+4 茶褐色土 | 口35.2, 高(1.0) | (併)傾斜ナシ。(併)傾斜ナシ。(併)傾斜ナシ。 | 赤瓦(土)・黄瓦(土)・白瓦(土) |
| 19 | 147-13 | 瓦葺部 | 瓦 | T94+2 暗褐色土 | 横断17.4, 高(1.2) | 併・内凹部ナシ。 | 赤瓦(土)・黄瓦(土)・白瓦(土) |
| 20 | 148-13 | 瓦葺部 | 瓦 | T94+3 茶褐色土 | 横断16.0, 高(1.2) | (併)へう張り。(併)ナシ。 | 赤瓦(土)・黄瓦(土)・白瓦(土) |
| 21 | 147-8 | 瓦葺部 | 瓦 | T65+4 茶褐色土 | 横断19.4, 高(1.4) | (併)ナシ。(併)へう張り。(併)傾斜ナシ。 | 赤瓦(土)・黄瓦(土)・白瓦(土) |
| 22 | 8 | 瓦葺部 | 瓦 | R43+3 暗褐色粘質土 | 高(1.0) | (併)へう張り。(併)傾斜ナシ。 | 赤瓦(土)・黄瓦(土)・白瓦(土) |
| 23 | 148-2 | 瓦葺部 | 瓦 | 543+4 暗褐色粘質土 | 高(1.0) | 併・内凹ナシ。 | 赤瓦(土)・黄瓦(土)・白瓦(土) |
| 24 | 147-15 | 瓦葺部 | 瓦 | 543+1 暗褐色粘質土 | 横断19.6, 高(1.0) | (併)傾斜ナシ。赤瓦葺。併・傾斜ナシ。(併)傾斜ナシ。 | 赤瓦(土)・黄瓦(土)・白瓦(土) |
| 25 | 147-15 | 瓦葺部 | 瓦 | R11+1, 4 暗褐色粘質土 | 横断13.5, 高(1.0) | (併)傾斜ナシ。(併)傾斜ナシ。(併)傾斜ナシ。 | 赤瓦(土)・黄瓦(土)・白瓦(土) |
| 26 | 147-16 | 瓦葺部 | 瓦 | T93+2 茶褐色土 | 横断 6×3.5 | へう張り。 | 赤瓦(土)・黄瓦(土)・白瓦(土) |
| 27 | 9 | 瓦葺部 | 瓦 | T 84+1 茶褐色土 | 横断18.5, 高(1.0) | (併)傾斜ナシ。(併)傾斜ナシ。(併)傾斜ナシ。 | 赤瓦(土)・黄瓦(土)・白瓦(土) |
| 28 | 147-13 | 瓦葺部 | 瓦 | T65+2 暗褐色粘質土 | 横断25.4, 高(1.0) | 併・内凹ナシ。 | 赤瓦(土)・黄瓦(土)・白瓦(土) |
| 29 | 147-13 | 瓦葺部 | 瓦 | 594+4 茶褐色土 | 横断 7.6, 横断 9.8, 高(1.0) | 併・内凹ナシ。 | 赤瓦(土)・黄瓦(土)・白瓦(土) |

SDN 2 上層出土 8 世紀瓦葺部

| 調査号 | 調査時期 | 種類 | 形状 | 遺構・地区・層位 | 法 量(m) | 成 形・ 装 束 | 資料出土・色別・断面・その他 |
|------|--------|-----|----|-----------------------|----------------------|--------------------------|-------------------|
| 46-1 | 147-17 | 瓦葺部 | 瓦 | SDN 2 T65+4 茶褐色土 | 横断 9.8, 高(1.0) | 併・内凹部ナシ。 | 赤瓦(土)・黄瓦(土)・白瓦(土) |
| 2 | 18 | 瓦葺部 | 瓦 | SDN 2 593+4 暗褐色粘質土 | 横断18.3, 高(1.0) | (併)傾斜ナシ。(併)傾斜ナシ。(併)傾斜ナシ。 | 赤瓦(土)・黄瓦(土)・白瓦(土) |
| 3 | 20 | 瓦葺部 | 瓦 | SDN 2 594+1 暗褐色粘質土 | 高(1.0) | 併・内凹部ナシ。 | 赤瓦(土)・黄瓦(土)・白瓦(土) |
| 4 | 22 | 瓦葺部 | 瓦 | SDN 2 594+1 暗褐色粘質土 | 横断19.3, 高(1.0) | 併・内凹部ナシ。(併)傾斜ナシ。 | 赤瓦(土)・黄瓦(土)・白瓦(土) |
| 5 | 21 | 瓦葺部 | 瓦 | SDN 2 594+1 暗褐色粘質土 | 高(1.0) | 併・内凹部ナシ。 | 赤瓦(土)・黄瓦(土)・白瓦(土) |
| 6 | 25 | 瓦葺部 | 瓦 | T64+3 茶褐色土 | 横断 2.4, 高(1.0) | 併・内凹ナシ。 | 赤瓦(土)・黄瓦(土)・白瓦(土) |
| 7 | 19 | 瓦葺部 | 瓦 | SDN 2 593+4 茶褐色土 | 横断17.4, 高(1.0) | 併・内凹部ナシ。 | 赤瓦(土)・黄瓦(土)・白瓦(土) |
| 8 | 27 | 瓦葺部 | 瓦 | SDN 2 T64+1 茶褐色土 | 横断12.8, 高(1.0) | 併・内凹部ナシ。 | 赤瓦(土)・黄瓦(土)・白瓦(土) |
| 9 | 23 | 瓦葺部 | 瓦 | SDN 2 T63+4 茶褐色土 | 横断12.8, 高(1.0) | 併・内凹部ナシ。 | 赤瓦(土)・黄瓦(土)・白瓦(土) |
| 10 | 24 | 瓦葺部 | 瓦 | SDN 2 593+4 暗褐色粘質土 | 横断17.8, 高(1.0) | 併・内凹部ナシ。 | 赤瓦(土)・黄瓦(土)・白瓦(土) |
| 11 | 147-13 | 瓦葺部 | 瓦 | SDN 2 T93+4 茶褐色土・灰白色土 | 横断25.4, 高(1.0) | (併)へう張り。併・傾斜ナシ。(併)傾斜ナシ。 | 赤瓦(土)・黄瓦(土)・白瓦(土) |
| 12 | 147-16 | 瓦葺部 | 瓦 | SDN 2 | 横断17.8, 高(1.0) | (併)へう張り。併・傾斜ナシ。(併)傾斜ナシ。 | 赤瓦(土)・黄瓦(土)・白瓦(土) |
| 13 | 148-1 | 瓦葺部 | 瓦 | 543+1, 4 暗褐色粘質土 | 横断16.8, 高 2.4 | (併)傾斜ナシ。(併)傾斜ナシ。(併)傾斜ナシ。 | 赤瓦(土)・黄瓦(土)・白瓦(土) |
| 14 | 147-28 | 瓦葺部 | 瓦 | SDN 2 594+4 暗褐色粘質土 | 横断12.4, 高(1.0) | (併)へう張り。併・傾斜ナシ。(併)傾斜ナシ。 | 赤瓦(土)・黄瓦(土)・白瓦(土) |
| 15 | 29 | 瓦葺部 | 瓦 | SDN 2 T63+2 茶褐色土 | 高(1.0) | 併・内凹部ナシ。 | 赤瓦(土)・黄瓦(土)・白瓦(土) |
| 16 | 147-13 | 瓦葺部 | 瓦 | SDN 2 593+4 暗褐色粘質土 | 横断 8.4, 高 2.5 | (併)傾斜ナシ。(併)傾斜ナシ。(併)傾斜ナシ。 | 赤瓦(土)・黄瓦(土)・白瓦(土) |
| 17 | 147-13 | 瓦葺部 | 瓦 | SDN 2 上層 T63+2 暗褐色粘質土 | 高(1.0) | (併)へう張り。(併)傾斜ナシ。 | 赤瓦(土)・黄瓦(土)・白瓦(土) |
| 18 | 147-13 | 瓦葺部 | 瓦 | SDN 2 594+4 暗褐色粘質土 | 横断12.4, 高 2.6 | (併)傾斜ナシ。(併)傾斜ナシ。(併)傾斜ナシ。 | 赤瓦(土)・黄瓦(土)・白瓦(土) |
| 19 | 147-13 | 瓦葺部 | 瓦 | SDN 2 594+4 暗褐色粘質土 | 横断12.4, 高 2.6 | 併・内凹部ナシ。 | 赤瓦(土)・黄瓦(土)・白瓦(土) |
| 20 | 147-13 | 瓦葺部 | 瓦 | SDN 2 T94+3 茶褐色土 | 横断13.3, 高 3.3 | 併・内凹部ナシ。 | 赤瓦(土)・黄瓦(土)・白瓦(土) |
| 21 | 147-13 | 瓦葺部 | 瓦 | SDN 2 T63+3 茶褐色土 | 横断12.0, 高(1.0) | 併・内凹部ナシ。 | 赤瓦(土)・黄瓦(土)・白瓦(土) |
| 22 | 147-13 | 瓦葺部 | 瓦 | SDN 2 T63+2 茶褐色土 | 高 6.6, 高(1.0) | (併)傾斜ナシ。(併)傾斜ナシ。 | 赤瓦(土)・黄瓦(土)・白瓦(土) |
| 23 | 147-13 | 瓦葺部 | 瓦 | SDN 2 T63+2 茶褐色土 | 高 6.8, 高(1.0) | (併)傾斜ナシ。(併)傾斜ナシ。 | 赤瓦(土)・黄瓦(土)・白瓦(土) |
| 24 | 147-13 | 瓦葺部 | 瓦 | SDN 2 上層 T94+3 茶褐色土 | 高19.6, 高(1.0) | (併)へう張り。(併)傾斜ナシ。 | 赤瓦(土)・黄瓦(土)・白瓦(土) |
| 25 | 147-13 | 瓦葺部 | 瓦 | SDN 2 上層 T94+3 茶褐色土 | 高19.6, 高(1.0) | (併)へう張り。(併)傾斜ナシ。 | 赤瓦(土)・黄瓦(土)・白瓦(土) |
| 26 | 147-13 | 瓦葺部 | 瓦 | SDN 2 上層 T94+3 茶褐色土 | 横断13.8, 高19.6, 高 3.7 | 併・内凹部ナシ。 | 赤瓦(土)・黄瓦(土)・白瓦(土) |
| 27 | 147-13 | 瓦葺部 | 瓦 | SDN 2 T63+2 茶褐色土 | 高19.6, 高(1.0) | (併)傾斜ナシ。(併)傾斜ナシ。 | 赤瓦(土)・黄瓦(土)・白瓦(土) |
| 28 | 147-13 | 瓦葺部 | 瓦 | SDN 2 594+4 暗褐色粘質土 | 高19.6, 高(1.0) | (併)へう張り。(併)傾斜ナシ。(併)傾斜ナシ。 | 赤瓦(土)・黄瓦(土)・白瓦(土) |

| 図番号 | 図種番号 | 種類 | 形種 | 連絡・地区・層位 | 法 量(m) | 成 形・ 質 質 | 備考(土質・色調・組成・その他) |
|-------|--------|-----|---------|-------------------------|-----------------------|---------------------------------------|---------------------|
| 46-29 | | 成層砂 | 高砂付砂 | SON2 T64-e1 茶褐色土 | 径口16.8, 高さ11.0, 高 5.4 | 砂・内) 粗砂ナテ。 | 砂粒(赤)、灰色、良好 |
| 30 | | 成層砂 | 高砂付砂 | SDN2 S63-d4 茶褐色土 | 径口16.4, 高さ12.6, 高 5.4 | 砂・内) 粗砂ナテ。 | 砂粒(赤)、灰色、普通 |
| 31 | 147-36 | 成層砂 | 砂 | SDN2 S63-d4 黒灰色粘砂 | 径口12.7, 高さ(3.0) | (外側上) 粗砂ナテ。(内側下) へりナテ。(内) 粗砂ナテ。 | 粘土・砂粒(赤)、緑褐色、普通 |
| 32 | 35 | 成層砂 | 黒 | SDN2 T64-e3 茶褐色土 | 径口17.3, 高さ(3.0) | 砂・内) ナテ。 | 粘土・砂粒(赤)、黄褐色、普通 |
| 33 | 148-12 | 成層砂 | 砂鉄 | SDN2 地味色粘質土 | 径口22.3, 高さ(3.0) | (内) 粗砂ナテ。 | 粘土・砂粒(赤)、灰色、普通 |
| 34 | 147-43 | 成層砂 | 鉄砂 | SON2 上層 T64-e4 茶褐色土 | 高さ(3.0) | (内) へりナテのみナテ。左側下。(内) 粗砂ナテ。 | 粘土・砂粒(赤)、黄褐色、普通 |
| 35 | | 成層砂 | 底口土 | SDN2 S64-e2 茶褐色土・茶褐色土 | 径口17.0, 高さ(3.1) | 砂・内) 粗砂ナテ。 | 粘土・砂粒(赤)、緑褐色、普通 |
| 36 | 147-27 | 成層砂 | 黄砂 | SDN2 T63-e4 茶褐色土 | 径口11.5, 高さ(3.0) | 砂・内) 粗砂ナテ。 | 粘土・砂粒(赤)、黄褐色、普通 |
| 37 | 36 | 成層砂 | 有 理 埋砂 | SDN2 S63-d4 茶褐色土 | 高(4.7) | (内) 粗砂ナテ。(内) ナテ(へりナテのみナテ)ナテ。 | 粘土・砂粒(赤)、灰白色、やや普通、無 |
| 38 | | 成層砂 | 黄砂 | SON2 2 浜茶褐色砂質土 | 径長 9.0, 高さ(3.0) | (内) 粗砂ナテ。へりナテ右回り、ナテ。(内) 粗砂ナテ。粘土のつぎナテ。 | 粘土・砂粒(赤)、灰色、普通、自然砂 |
| 39 | | 成層砂 | 埋砂 | SON2 T63-d4 茶褐色土・茶褐色土 | 高さ(3.0) | (内) 粗砂ナテ。沈積。(内) 粗砂ナテ。 | 粘土・砂粒(赤)、灰色、やや軟 |
| 40 | 148-9 | 成層砂 | 黄 | SON2 上層 T63-e4 | 径長13.5, 高さ(3.0) | 砂・内) 粗砂ナテ。(内) 埋砂混合の粘土のつぎナテ。 | 粘土・砂粒(赤)、灰白色、普通 |
| 41 | | 成層砂 | 黄 | SON2 T64-e1 茶褐色土 | 径口 4.2, 高さ(3.0) | 砂・内) 粗砂ナテ。 | 粘土・砂粒(赤)、灰色、普通、自然砂 |
| 42 | 148-6 | 成層砂 | 黄 | SDN2 T63-d1 茶褐色土・緑褐色粘質土 | 径長 3.4, 高さ(3.0) | (外側) 粗砂ナテ。(内側・高砂) へりナテ。(内) 粗砂ナテ。 | 粘土・砂粒(赤)、灰色、緑褐色、自然砂 |
| 43 | 7 | 成層砂 | 黄 | SON2 上層 T63-e2 | 径長 3.8, 高さ(3.0) | (外側) へりナテのみナテ。(内側) 未切り。(内) 粗砂ナテ。 | 粘土・砂粒(赤)、にやや普通 |
| 44 | 147-42 | 成層砂 | 分層埋砂の付? | SDN2 S63-d4 黒灰色粘砂 | 径長 9.5, 高さ(3.0) | 砂・内) 粗砂ナテ。 | 粘土・砂粒(赤)、緑褐色、普通 |
| 45 | 41 | 成層砂 | 鉄 | SON2 上層 T63-e4 | 径長11.4, 高さ(3.0) | (内) 粗砂ナテ。(内側) へりナテ。(内) 粗砂ナテ。 | 粘土・砂粒(赤)、灰色、やや軟 |
| 46 | 40 | 成層砂 | 鉄 | SDN2 S64-e1 黒灰色粘砂 | 径長10.6, 高さ(3.0) | (内側) 粗砂ナテ。(内側) へりナテ。(内) 粗砂ナテ。 | 粘土・砂粒(赤)、灰色、普通 |

包倉層土 9～9世紀土層

| 図番号 | 図種番号 | 種類 | 形種 | 連絡・地区・層位 | 法 量(m) | 成 形・ 質 質 | 備考(土質・色調・組成・その他) |
|------|--------|-----|----|---------------|-------------------------|----------------------------------|------------------|
| 47-1 | 148-15 | 土砂層 | 黄 | T63-e1 地味色粘質土 | つぎ42.8, 高さ(2.1) | (内) ナテ。(内) ナテ。 | 砂粒(赤)、褐色、普通 |
| 2 | 330-3 | 土砂層 | 黄 | T64-e2 地味色粘質土 | 径口14.0, 高さ 2.3 | (内側下) 粗砂ナテ。(内側上) 内) 粗砂ナテ。 | 砂粒(赤)、緑褐色、普通 |
| 3 | 148-14 | 土砂層 | 黄 | T63-e1 茶褐色土 | 径口9.8, 高さ(3.0) | 砂・内) ナテ。 | 砂粒(赤)、灰白色、普通 |
| 4 | 21 | 土砂層 | 黄 | 地味色粘質土 | 高(4.5) | (内) 粗砂ナテ。(内) へりナテ。 | 砂粒(赤)、灰白色、普通 |
| 5 | 150-4 | 土砂層 | 黄 | T64-d1 地味色粘質土 | 径口23.5, 径長11.3, 高(7.3) | (内) ナテ。(内側) ハナメ。(内) 粗砂ナテ。へりナテ。 | 砂粒(赤)、明褐色、普通 |
| 6 | 148-3 | 成層砂 | 黄 | R65-e1 | 径口23.4, 高さ(3.0) | (内) 平行卵石。(内) 粗砂ナテ。 | 砂粒(赤)、灰白色、普通 |
| 7 | 9 | 成層砂 | 黄 | R64-d2 茶褐色砂質土 | 径長13.5, 高さ(7.0) | ナテ。(内側下) 粗砂ナテ。(内側上) へりナテのみナテ。 | 砂粒(赤)、緑褐色、黄褐色、普通 |
| 8 | 6 | 成層砂 | 黄 | R64-e3 茶褐色土 | 径長16.8, 高さ(3.0) | (内側) 平行卵石、へりナテ。(内) 同心円卵石、粗砂ナテ。 | 砂粒(赤)、黄褐色、普通 |
| 9 | 8 | 成層砂 | 黄 | T63-e2 茶褐色土 | 高さ(3.0) | (内) 粗砂ナテ。(内) ナテ。 | 砂粒(赤)、黄褐色、普通 |
| 10 | 20 | 土砂層 | 黄 | T63-e1 茶褐色土 | 径長14.3, 高さ(3.0) | (内) 平行卵石。(内) ナテ。 | 砂粒(赤)、褐色、軟 |
| 11 | 4 | 成層砂 | 黄 | T63-e2 地味色粘質土 | 径口11.6, 高さ(3.0) | 砂・内) 粗砂ナテ。 | 砂粒(赤)、地味色、普通 |
| 12 | | 成層砂 | 黄 | T63-e3 地味色粘質土 | 径口11.6, 高さ(3.0) | 砂・内) 粗砂ナテ。 | 砂粒(赤)、黄褐色、良好、鉄含有 |
| 13 | | 成層砂 | 黄 | T63-d1 茶褐色土 | 径口12.4, 高さ(4.0) | 砂・内) ナテ。 | 砂粒(赤)、灰白色、自然 |
| 14 | | 成層砂 | 黄 | R64-e4 地味色粘質土 | 径口11.0, 高さ(4.0) | 砂・内) 粗砂ナテ。(内側下) 内) 粗砂土のつぎナテ。 | 砂粒(赤)、灰色、普通、自然砂 |
| 15 | 148-16 | 成層砂 | 黄 | R63-d4 地味色粘質土 | 径口12.8, 高さ(3.0) | (内) 粗砂ナテ。(内) 粗砂ナテ。 | 砂粒(赤)、褐色、普通 |
| 16 | | 成層砂 | 黄 | R65-d2 茶褐色土 | 径長 7.8, 高さ(3.0) | 砂・内) 粗砂ナテ。 | 砂粒(赤)、明褐色、普通 |
| 17 | 148-18 | 成層砂 | 黄 | R61-d4 茶褐色粘質土 | 径長 9.0, 高さ(1.0) | 砂・内) 粗砂ナテ。 | 砂粒(赤)、褐色、良好、良好 |
| 18 | 19 | 成層砂 | 黄 | R65-e4 茶褐色土 | 径長 8.6, 高さ(3.0) | 砂・内) へりナテ。(内側) 内) 粗砂ナテ。 | 砂粒(赤)、褐色・黄褐色、普通 |
| 19 | 17 | 成層砂 | 鉄 | S63-e1 茶褐色土 | 径口17.3, 高さ(3.0) | 砂・内) 粗砂ナテ。 | 砂粒(赤)、褐色・灰褐色、普通 |
| 20 | 22 | 成層砂 | 鉄 | S63-e3 茶褐色土 | 径長11.4, 高さ(3.0) | 砂・内) 粗砂ナテ。 | 砂粒(赤)、褐色・緑褐色、普通 |
| 21 | | 成層砂 | 黄 | R63-d3 茶褐色土 | 径口19.0, 高さ(3.0) | (内) ナテ。(内側) ナキキ。(内) ナテ。(内) 粗砂ナテ。 | 砂粒(赤)、灰色、普通 |
| 22 | 148-2 | 成層砂 | 黄 | T63-d2 地味色粘質土 | 径口20.0, 高さ(3.0) | 砂・内) 粗砂ナテ。 | 砂粒(赤)、黄褐色、自然 |
| 23 | 1 | 成層砂 | 黄 | R61-b2 茶褐色粘質土 | 径口16.2, 高さ(3.0) | (内) 平行卵石ナテ。(内) ナテ。 | 黄・砂粒(赤)、緑褐色、普通 |
| 24 | 5 | 成層砂 | 黄 | T64-e2 地味色粘質土 | 径口22.8, 高さ(4.0) | 砂・内) 粗砂ナテ。 | 砂粒(赤)、灰白色、普通 |
| 25 | 7 | 成層砂 | 黄 | T63-d1 茶褐色土 | 径口27.2, 径長 6.4, 高さ(4.0) | 砂・内) ナテ。 | 砂粒(赤)、灰白色、良好、鉄含有 |

SON2 出土項墓

| 図番号 | 図種番号 | 種類 | 形種 | 連絡・地区・層位 | 法 量(m) | 成 形・ 質 質 | 備考(土質・色調・組成・その他) |
|------|--------|-----|----|-----------------------|-----------------|----------------------------------|------------------|
| 48-1 | 148-11 | 成層砂 | 黄 | SDN2 | 径口10.6, 高さ(3.1) | 砂・内) 粗砂ナテ。 | 砂粒(赤)、灰白色、自然 |
| 2 | | 成層砂 | 黄 | SDN2 S64-e3, 4 地味色粘質土 | 径口15.6, 高さ(3.0) | (内側上) 卵石のみナテ。(内側下) ナキキ。(内) 粗砂ナテ。 | 粘土・砂粒(赤)、緑褐色、普通 |

| 図番号 | 図面番号 | 種類 | 形状 | 遺構・地区・層位 | 法 量(m) | 成 形・測 量 | 備考(出土・包埋・施設・その他) |
|------|--------|-----|------|-------------------|---------------|----------------------|------------------|
| 40-3 | | 瓦葺部 | 塀・歩道 | SDN 2 T63-4 茶褐色土 | 幅口19.4、高(3.6) | (外側)母+敷ナメ。(内側)母+敷ナメ。 | 砂粒(赤)、灰色、青濁、白濁等 |
| 4 | 149-13 | 瓦葺部 | 塀 | SDN 2 S63-2 母灰黄色土 | 幅口33.4、高(5.2) | (外側)前縁ナメ。 | 砂粒(赤)、灰白色、青濁 |
| 5 | 12 | 瓦葺部 | 高台付塀 | SDN 2 | 幅縁22.6、高(3.6) | (外・内)前縁ナメ。 | 砂粒(赤)、灰白色、赤濁 |
| 6 | 16 | 瓦葺部 | 塀 | SDN 2 S64-e3 茶褐色土 | 幅縁13.6、高(2.6) | (外側)ナメヘラテ張り。(内)直縁ナメ。 | 赤・砂粒(赤)、砂灰色、青濁 |

須恵器類

| 図番号 | 図面番号 | 種類 | 形状 | 遺構・地区・層位 | 法 量(m) | 成 形・測 量 | 備考(出土・包埋・施設・その他) |
|------|--------|-----|-----|---------------------|---------------------|--------------------------|--------------------|
| 40-1 | 149-25 | 須恵器 | 二重瓶 | S65-e2 茶褐色土 | 瓶 7.6、径 7.7、高(1.7) | 小口・瓶底・仕切ヘラ張り。(図)ナメ、節部ナメ。 | 赤・砂粒(赤)、赤褐色、良好(節部) |
| 2 | 149-11 | 須恵器 | 瓶 | S65-e4 母灰黄色土・灰白色粘質土 | 直径11.6、脚14.6、高(6.6) | (外・内)ナメ。 | 赤・砂粒(赤)、赤褐色、良好(節部) |
| 3 | 20 | 須恵器 | 瓶 | T66-e1 母灰黄色土 | 直径21.1、高(4.6) | (外側)ナメ。(内)不整ナメ。(内)直縁ナメ。 | 赤、灰色、良好、白粉粒、赤濁等 |

SON 2 出土土師器

| 図番号 | 図面番号 | 種類 | 形状 | 遺構・地区・層位 | 法 量(m) | 成 形・測 量 | 備考(出土・包埋・施設・その他) |
|------|--------|-----|----|-------------------------|---------------|-------------------------------------|------------------|
| 40-1 | 130-1 | 土師器 | 埴 | SDN 2 上層 T66-e1 | 幅口15.6、高(3.6) | (外・内)直縁ナメ。 | 砂粒(赤)、褐色、良好 |
| 2 | 131-4 | 土師器 | 埴 | SDN 2 T64-e1 茶褐色土 | 幅口13.6、高(2.7) | (外・内)直縁ナメ。 | 砂粒(赤)、褐色、青濁 |
| 3 | 7 | 土師器 | 埴 | SDN 2 上層 S64-e1・3 茶褐色土 | 高(2.3) | (外)直縁ナメ。(外)母下)敷ナメ。(内)直縁ナメ。 | 砂粒(赤)、褐色、青濁 |
| 4 | 2 | 土師器 | 皿 | SDN 2 T64-e2 茶褐色土 | 幅口12.4、高(2.6) | (外・内)直縁ナメ? | 砂粒(赤)、褐色、青濁 |
| 5 | 8 | 土師器 | 皿 | SDN 2 T64-e1 茶褐色土 | 幅口13.6、高(3.3) | (外・内)直縁ナメ(複製物不可推定)。 | 砂粒(赤)、褐色、青濁 |
| 6 | 8 | 土師器 | 皿 | SDN 2 上層 S63-e2 茶褐色土 | 幅口16.4、高(1.7) | (外)直縁ナメ。(外)母下)敷ナメ。(内)直縁ナメ。 | 砂粒(赤)、灰黄色、青濁 |
| 7 | 1 | 土師器 | 皿 | SDN 2 T63-e1 茶褐色土 | 幅口16.4、高(2.6) | (外・内)直縁ナメ。 | 砂粒(赤)、赤褐色、青濁 |
| 8 | 5 | 土師器 | 皿 | SDN 2 T64-e1 茶褐色土 | 幅口21.2、高(3.6) | (外・内)直縁ナメ。 | 砂粒(赤)、褐色、青濁 |
| 9 | 2 | 土師器 | 皿 | SDN 2 T63-e4 灰白色粘質土 | 幅口22.6、高(2.3) | (外)直縁ナメ不整ナメ?(内)直縁ナメ。 | 砂粒(赤)、褐色、青濁 |
| 10 | 15 | 土師器 | 甕 | SDN 2 S64-e1 茶褐色土 | 幅口21.6、高(1.6) | (外・内)直縁ナメ。 | 砂粒(赤)、灰白色、青濁 |
| 11 | 18 | 土師器 | 甕 | SDN 2 | 幅口21.4、高(2.6) | (外・内)直縁ナメ。 | 砂粒(赤)、洗灰粒色、青濁 |
| 12 | 150-2 | 土師器 | 甕 | SDN 2 | 幅口23.2、高(5.4) | (外・内)直縁ナメ。 | 砂粒(赤)、洗灰粒色、青濁 |
| 13 | 132-13 | 土師器 | 甕 | S64-e3、4 灰白色土・茶褐色土 | 幅口24.4、高(2.1) | (外・内)直縁ナメ。 | 砂粒(赤)、褐色、青濁 |
| 14 | 17 | 土師器 | 甕 | SDN 2 S63-e4 母灰黄色土・茶褐色土 | 幅口27.6、高(2.6) | (外)直縁ナメ。(内)直縁ナメ。ヘラ張り。ホキテマナメ。 | 砂粒(赤)、洗灰粒色、青濁 |
| 15 | 16 | 土師器 | 甕 | SDN 2 S64-e1 茶褐色土 | 幅口28.6、高(6.6) | (外)直縁ナメ。母ナメのヘラ張りのみ縁ナメ。(内)直縁ナメ。ヘラ張り。 | 砂粒(赤)、褐色、青濁 |
| 16 | 12 | 土師器 | 甕 | SDN 2 S64-e3 茶褐色土 | 幅口14.6、高(2.4) | (外)直縁ナメ。(内)ナメ? | 砂粒(赤)、こぶい褐色、青濁 |
| 17 | 130-11 | 土師器 | 甕 | SDN 2 母灰色粘質土 | 幅口14.2、高(5.3) | (外)直縁ナメのみナメ。(内)母ナメ。母ナメナメ。 | 砂粒(赤)、こぶい褐色、青濁 |
| 18 | 131-14 | 土師器 | 甕 | SDN 2 | 幅口12.6、高(4.1) | (外・内)直縁ナメ。 | 砂粒(赤)、褐色、青濁 |
| 19 | 11 | 土師器 | 甕 | SDN 2 T63-b4 茶褐色土 | 幅口16.4、高(1.6) | (外・内)直縁ナメ。 | 砂粒(赤)、褐色、青濁 |
| 20 | 10 | 土師器 | 甕 | SDN 2 T64-e1 茶褐色土 | 幅口16.6、高(2.6) | (外)直縁ナメ。(内)ナメ。 | 砂粒(赤)、洗灰粒色、青濁 |
| 21 | 9 | 土師器 | 甕 | SDN 2 T64-e1 茶褐色土 | 高(4.6) | (外・内)直縁ナメ。 | 砂粒(赤)、褐色、青濁 |

高輪陶器

| 図番号 | 図面番号 | 種類 | 形状 | 遺構・地区・層位 | 法 量(m) | 成 形・測 量 | 備考(出土・包埋・施設・その他) |
|------|--------|------|----|---------------|------------------------|-------------------------|--------------------|
| 40-1 | | 高輪陶器 | 甕 | S64-e3 母灰色粘質土 | 高(4.4) | (外・内)母下)直縁ナメ。(内)母下)敷ナメ。 | 砂粒(赤)、洗灰粒色、青濁 |
| 2 | 149-23 | 高輪陶器 | 皿 | T63-b4 茶褐色土 | 径 5.4、高(6.4、高(1.6) | (外)直縁ナメ。(その他)内・直縁ナメ。 | 砂粒(赤)、褐色、(高台)内(洗灰) |
| 3 | 24 | 高輪陶器 | 皿 | S63-23 母灰色粘質土 | 直径 5.8、高(高台)6.6、高(1.6) | (外)直縁ナメ。(その他)外・内直縁ナメ。 | 砂粒(赤)、紫灰色、洗灰 |

中世土師器・瓦器・須恵器

| 図番号 | 図面番号 | 種類 | 形状 | 遺構・地区・層位 | 法 量(m) | 成 形・測 量 | 備考(出土・包埋・施設・その他) |
|------|--------|-----|----|---------------|---------------|-------------------------|--------------------|
| 40-1 | 130-5 | 土師器 | 小皿 | S65-b3 茶褐色土 | 幅口 7.2、高 1.5 | (外)直縁ナメ。(内)ナメ。 | 砂粒(赤)、洗灰粒色、青濁 |
| 2 | 6 | 土師器 | 皿 | T64-e1 母灰色粘質土 | 幅口 8.0、高 1.3 | (外)直縁ナメ。(外)直縁ナメ。(内)ナメ。 | 砂粒(赤)、洗灰粒色、青濁 |
| 3 | 7 | 土師器 | 皿 | S63-d3 灰白色土 | 幅口 7.8、高 0.7 | (外)直縁ナメ。(外)直縁ナメ。(内)ナメ。 | 砂粒(赤)、灰褐色、青濁 |
| 4 | 10 | 土師器 | 皿 | S65-e4 母灰色粘質土 | 幅口 7.6、高(0.6) | (外)直縁ナメ。(外)直縁ナメ。(内)ナメ。 | 砂粒(赤)、洗灰粒色、洗灰 |
| 5 | 8 | 瓦器 | 瓦 | S63-d4 母灰色粘質土 | 幅口 8.4、高 1.4 | (外側)敷ナメ。(内)直縁ナメ。 | 赤・砂粒(赤)、洗灰色・灰白色、青濁 |
| 6 | 9 | 瓦器 | 瓦 | T65-e4 灰白色土 | 幅口 8.0、高 1.0 | (外側)敷ナメ。(内)直縁ナメ。 | 赤・砂粒(赤)、灰白色・洗灰色、青濁 |
| 7 | 13 | 瓦器 | 瓦 | T64-e3 母灰色粘質土 | 幅口10.2、高 1.9 | (外側)敷ナメ。(内)直縁ナメ。 | 砂粒(赤)、灰白色・洗灰色、青濁 |
| 8 | | 瓦器 | 瓦 | S64-e4 茶褐色土 | 幅口15.6、高(4.6) | (外側)敷ナメ。(外側)ヘラナメ。(内)不整。 | 砂粒(赤)、灰白色、洗灰色、青濁 |
| 9 | | 瓦器 | 小皿 | S63-b1 茶褐色土 | 幅口 7.8、高(2.4) | (外)直縁ナメ。(内)母下)母ナメ。 | 赤、母灰色、青濁 |
| 10 | 130-13 | 瓦器 | 瓦 | S64-b3 母灰色粘質土 | 幅口 8.8、高(1.7) | (外側)敷ナメ。(内)ヘラナメ。 | 赤・砂粒(赤)、褐色、灰白色、青濁 |

| 図番号 | 図面番号 | 種 類 | 種 類 | 造 成・地 区・層 位 | 造 量(m) | 成 形・調 整 | 裏面(土)・色別・形状・その他 |
|-------|--------|------------------|--------|-------------|-----------------------|--------------------------------------|-----------------|
| 20-11 | 瓦葺土葺 | 土葺 | T65-44 | 赤褐色土 | 幅口 6.6, 高(1.15) | (外・内)面貼ナテ。 | 赤・暗灰色・灰白色・普通 |
| 21 | 瓦葺土葺 | 土葺 | R64-44 | 赤褐色土 | 幅口15.2, 高(1.6) | (外・内)面貼ナテ。 | 砂粒(赤)・暗灰色・普通 |
| 33 | 瓦葺土葺 | 不
純
土
葺 | S64-43 | 赤褐色土 | 横断 5.5×4.9 | 造ナキテ。 | 砂粒(赤)・灰白色・灰色・普通 |
| 14 | 瓦葺土葺 | 土葺 | T65-43 | 暗灰色粘質土 | 幅口 6.1×3.9の隅四角、高(1.5) | 縦方向のナテ? | 砂粒(赤)に近い灰色・普通 |
| 15 | 130-1 | 瓦葺土葺 | R65-23 | 暗灰色粘質土 | 幅口24.6, 高(4.3) | (外)面貼ナテ後ナテ。(内)面貼ナテ。 | 砂粒(赤)・灰白色・普通 |
| 16 | 3 | 瓦葺土葺 | R64-41 | 暗灰色粘質土 | 幅口24.4, 高(3.6) | (外・内)面貼ナテ。 | 砂粒(赤)・灰色・普通 |
| 17 | 3 | 瓦葺土葺 | S64-41 | 赤褐色土 | 幅口25.8, 高(4.7) | (外・内)ナテ。(内)ナテナテ。 | 砂粒(赤)・灰白色・普通 |
| 18 | 4 | 瓦葺土葺 | S64-42 | 暗灰色粘質土 | 幅口25.6, 高(3.9) | (外・内)面貼ナテ。 | 砂粒(赤)・青灰色・普通 |
| 19 | 5 | 瓦葺土葺 | R63-43 | 暗灰色粘質土 | 幅口33.6, 高(3.95) | (外)面貼ナテ。(内)ハナメ。 | 砂粒(赤)・灰白色・普通 |
| 20 | 5 | 瓦葺土葺 | S65-43 | 暗灰色粘質土 | 幅口27.4, 高(2.75) | (外・内)面貼ナテ。 | 砂粒(赤)・青灰色・普通 |
| 21 | 130-14 | 瓦葺土葺 | S63-44 | 赤褐色土 | 幅口30.4, 高(4.8) | (外)面貼ナテ。(外)へナテ。(内)ナテ後
造了土葺。 | 砂粒(赤)・黄灰色・普通 |
| 22 | 130-6 | 瓦葺土葺 | R64-42 | 赤褐色土 | 幅口29.6, 高(5.2) | (外)面貼ナテ(上から下)。(内)面貼ナテ。
(外・内)面貼ナテ。 | 赤・砂粒(赤)・暗灰色・良好 |
| 23 | 7 | 瓦葺土葺 | T65-41 | 暗灰色粘質土 | 幅口25.6, 高(4.2) | (外)面貼ナテ後へナテ。(外・内)ナテ後造了
土葺。 | 砂粒(赤)・灰白色・普通 |
| 24 | 8 | 瓦葺土葺 | T63-34 | 暗灰色粘質土 | 幅口32.6, 高(3.6) | (外)面貼ナテナテナテ。(内)面貼ナテ。 | 砂粒(赤)・灰白色・普通 |
| 25 | 9 | 瓦葺土葺 | R66-41 | 暗灰色粘質土 | 幅口23.8, 高(3.2) | (外・内)面貼ナテ。 | 砂粒(赤)・暗灰色・普通 |
| 26 | 10 | 瓦葺土葺 | T65-42 | 暗灰色粘質土 | 幅口23.2, 高(5.5) | (外)へナテ。(内)面貼ナテ。 | 砂粒(赤)・灰色・普通 |
| 27 | 11 | 瓦葺土葺 | S64-42 | 赤褐色粘質土 | 幅口28.3, 高(4.6) | (外)面貼ナテナテ。(その他外・内)面貼ナテ。 | 砂粒(赤)・灰色・良好 |
| 28 | 11 | 瓦葺土葺 | T63-41 | 暗灰色粘質土 | 幅口28.6, 高(3.9) | (外・内)ナテ。 | 砂粒(赤)・灰白色・良好 |

建構内出土中世土器

| 図番号 | 図面番号 | 種 類 | 種 類 | 造 成・地 区・層 位 | 造 量(m) | 成 形・調 整 | 裏面(土)・色別・形状・その他 |
|------|--------|------|---------------------|--------------------|------------------------|-------------------------------|------------------------------|
| 23-1 | 130-5 | 土師器 | 埴 | S61-44 P365 埴器 | 高(1.6) | (外・内)面貼ナテ。 | 砂粒(赤)・灰色・普通 |
| 2 | 8 | 土師器 | 皿 | SDA 2 土師 | 幅口 7.4, 横底 5.6, 高 1.3 | (外・内)面貼ナテ。 | 砂粒(赤)・黄灰色・灰色・普通 |
| 3 | 4 | 瓦葺 | 皿 | S61-44 P365 埴器 | 幅口10.2, 高(1.3) | (外・内)面貼ナテ。(内)面ナテナテへて戻し
あり。 | 砂粒(赤)・灰白色・普通 |
| 4 | 11 | 瓦葺 | 皿 | SDN 9 | 幅口 9.0, 高 1.4 | (外・内)面貼ナテ。 | 砂粒(赤)・灰色・普通。(内)面
貼ナテ。黄色付着 |
| 5 | 9 | 瓦葺 | 埴 | SDA 2 土師 | 幅口 9.5, 高(1.5) | (外・内)面貼ナテ。 | 砂粒(赤)・灰白色・普通。灰
質 |
| 6 | 10 | 瓦葺土葺 | 埴り埴 | SDA 5 土師 暗褐色土 | 幅口22.4, 高(3.5) | (外・内)面貼ナテ。 | 砂粒(赤)・青灰色・暗褐色・白
砂質 |
| 7 | 11 | 瓦葺土葺 | 埴り埴 | SDA 5 7-21 赤褐色土 | 幅口15.3, 高(3.3) | (外・内)面貼ナテ。 | 砂粒(赤)・灰色・普通。白
砂質。赤付 |
| 8 | 土師器 | 土葺 | 赤褐色砂質土 | 幅口24.0, 高(3.9) | (外・内)面貼ナテ。 | 砂粒(赤)・灰白色・普通。灰
質 | |
| 9 | 130-6 | 瓦葺 | 埴 | SE 1 R62-43 赤褐色粘質土 | 幅口28.0, 高(3.3) | (外)面貼ナテ。(外)へナテ。(内)ハナメ。 | 砂粒(赤)・黄灰色・普通 |
| 10 | 7 | 瓦葺土葺 | 埴器 | SE 1 R62-43 赤褐色粘質土 | 幅口 5, つげ底 5, 高(0.9) | (外・内)ナテ。 | 砂粒(赤)・灰色・普通 |
| 11 | 瓦葺土葺 | 埴 | SDA 3 R62-44 赤褐色土 | 幅口22.0, 高(3.4) | (外)面貼ナテ。(外)へナテ。(内)ハナメ。 | 砂粒(赤)・灰色・普通 | |
| 12 | 瓦葺土葺 | 埴器 | SDA 5 R62-43 赤褐色粘質土 | 幅口22.4, 高(4.4) | (外)面貼ナテ。(内)面貼ナテ。 | 砂粒(赤)・灰色・普通 | |
| 13 | 瓦葺 | 埴 | SDA 5 R62-43 赤褐色粘質土 | 幅口31.6, 高(3.7) | (外・内)面貼ナテ。 | 砂粒(赤)・灰色・普通 | |
| 14 | 130-14 | 瓦葺土葺 | 埴器 | SDA 5 S63-41 赤褐色土 | 幅口27.2, 高(3.4) | (外・内)面貼ナテ。(内)面貼ナテのつぎの。 | 砂粒(赤)・赤褐色・普通。白
砂質 |

中国陶器部・瀬戸・唐津

| 図番号 | 図面番号 | 種 類 | 種 類 | 造 成・地 区・層 位 | 造 量(m) | 成 形・調 整 | 裏面(土)・色別・形状・その他 |
|------|--------|------|---------------|----------------|--|---------------------------------|-----------------------|
| 54-1 | 134-1 | 白磁 | 碗 | R64-41 灰白色 | 幅口18.2, 高(3.2) | (外)へナテ。(内)ナテ。 | オリーブ灰白色。(内)灰白色 |
| 2 | 3 | 青磁 | 碗 | R64-42 暗灰色土 | 幅口15.4, 高(3.4) | (外)面貼ナテ。 | オリーブ灰色。(内)灰白色 |
| 3 | 7 | 青磁 | 碗 | S63-41 暗灰色粘質土 | 底 3.8, 高(1.55) | (底)面貼ナテ。(外・内)高底より3割の取戻。 | 灰白色。(無砂)灰色 |
| 4 | 8 | 青磁 | 碗 | R64-42 暗灰色土 | 底 2.7, 高(1.6) | (外)高底へナテ。 | (内)オリーブ灰色。(内)灰
白色 |
| 5 | 中国陶器 | 碗 | R64-43 暗灰色粘質土 | 幅底 4.3, 高(1.0) | (外)へナテ。(内)ナテ。(内)面貼ナテ。トナ
メ。(外・内)面貼ナテ | 砂粒(赤)・灰白色・良好 | |
| 6 | 4 | 白磁 | 碗 | S64-43 暗灰色粘質土 | 幅底 4.2, 高(1.4) | (外)へナテ。(内)面貼ナテ。(内)面貼ナテ。トナ
メ。 | 砂粒(赤)・灰色。(内)面貼ナ
テ。 |
| 7 | 3 | 白磁 | 皿 | R66-48 赤褐色土 | 幅口 4.6, 底面 3.4, 高 2.8 | (外)高底貼り。(内)ナテ。 | 裏面白磁を削す。 |
| 8 | 6 | 白磁 | 皿 | R64-44 赤褐色土 | 幅底 4.9, 高(1.6) | (外)面貼ナテ。(内)面貼ナテ。 | (外・内)灰白色。(内)面貼
ナテ。 |
| 9 | 青磁 | 碗 | 碗 | R64-43 暗灰色土 | 幅底 4.0, 高(1.4) | (外)面貼ナテ。(内)面貼ナテ。中央に厚り込
みあり。 | 黄褐色土・黄色付着 |
| 10 | 134-4 | 青磁 | 碗 | T65-41 暗灰色粘質土 | 幅口20.8, 幅底10.0, 高 5.9 | (外・内)ナテ。暗色内底。乳白色の輪が
あり。 | (外・内)灰白色。(内)黄褐色
土 |
| 11 | 134-10 | 中国陶器 | 碗 | R62-44 赤褐色粘質土 | 幅底 2.2, 高(1.4) | (外・内)ナテ。外高底・内中央厚り込
みあり。 | (外・内)灰白色。(内)灰色 |
| 12 | 11 | 中国陶器 | 皿 | R62-44 赤褐色粘質土 | 幅底 4.6, 高(1.30) | (内)面貼ナテ。(外)面貼ナテへにより取戻す。 | 青灰色土・良好 |
| 13 | 34 | 中国陶器 | 碗 | S64-42 暗灰色粘質土 | 幅底 4.0, 高(1.3) | (底)へナテ。 | 暗褐色土。(内)面貼ナテ |

| 図番号 | 図面番号 | 種 類 | 種 類 | 遺 構・地 区・層 位 | 法 量(m) | 成 形・割 取 | 断面図上・色別・形状・その他 |
|-------|--------|------|------------|-------------|---------------------|--------------------------------|------------------------|
| 54-34 | 154-13 | 中国産竹 | T65-43 | 暗灰色粘質土 | 断面 4.6、高さ 3.0 | (外高側)ヘラ削り。(内高側・内中央)通貫状直木。 | (外・内)灰白色、細目白色 |
| 15 | 13 | 中国産瓦 | T65-44 | 暗灰色粘質土 | 断面 0.9、高さ 0.8 | (外側)ヘラ削り風。(内中央)角削り文。 | 青灰色、透孔の角型 |
| 16 | 155-17 | 唐津焼 | S51 342-43 | 灰黄色 | 断面 4.4、高さ 0.6 | (外・内)ナデ。(内中央)直線。 | 砂状(赤)、灰黄色、堅塊 |
| 17 | 156-10 | 唐津焼 | R63-41 | 暗灰色粘質土 | 断面 4.8、高さ 4.6 | (外体下半・高側)ヘラ削り。 | 砂状(赤)、細い黒褐色、堅塊 |
| 18 | 155-12 | 唐津焼 | S53 T65-41 | | 径11.6、高さ 0.7 | (外・内)横紐ナデ、高側(オリーブ突)。 | 砂状(赤)、(外)褐色、(内)灰黄色、堅塊 |
| 19 | 156-1 | 唐津焼 | T65-45 | 暗灰色粘質土 | 径11.4、断面 5.3、高さ 3.3 | (外・内)直紐ナデ、高側(オリーブ突)。 | 砂状(赤)、(外)赤褐色、(内)黒褐色、堅塊 |
| 20 | 155-14 | 唐津焼 | T65-44 | 暗灰色粘質土 | 断面 3.6、高さ 1.9 | (内)トロン筋。(外・内)直紐ナデ、高側。 | 砂状(赤)、褐色、堅塊 |
| 21 | 8 | 唐津焼 | R63-44 | 暗灰色粘質土 | 径 9.6、高さ 4.7 | (外体下)ヘラ削り。(その他)直紐ナデ、灰白土。 | 砂状(赤)、褐色、堅塊 |
| 22 | 16 | 唐津焼 | S51 342-43 | 灰黄色 | 断面 4.6、高さ 0.3 | (外側)ヘラ削り。(外・内)直紐ナデ。(外・内)直紐筋。 | 砂状(赤)、灰黄色、灰褐色、堅塊 |
| 23 | 7 | 唐津焼 | S43-43 | 暗灰色粘質土 | 断面 5.1、高さ 4.2 | (外・内)ナデ。 | 砂状(赤)、灰白土、堅塊 |
| 24 | 155-20 | 志野焼 | R62-44 | 暗褐色砂質土 | 断面 4.9、高さ 0.6 | (外・内)直紐ナデ。(外・内)直紐筋。 | 砂状(赤)、灰黄色、灰褐色、堅塊 |
| 25 | 19 | 唐津焼 | T64-44 | 暗灰色粘質土 | 断面 3.6、高さ 0.3 | (外)ハナノ直線。(外・内)ナデ、高側。(内)直紐筋ナデ。 | 砂状(赤)、灰色、オリーブ色、堅塊 |
| 26 | 13 | 唐津焼 | S51 342-43 | 灰黄色 | 断面 5.6、高さ 0.6 | (外・内)直紐ナデ。(外)直紐筋。 | 砂状(赤)、灰白色、赤褐色、堅塊 |
| 27 | 10 | 唐津焼 | S43-44 | 暗灰色粘質土 | 径706.4、高さ 0.6 | (外)ハナノ直線(白、赤褐色)。(外・内)直紐ナデ、高側。 | 砂状(赤)、(外)灰色、(内)褐色、堅塊 |
| 28 | 15 | 唐津焼 | T65-41 | 暗灰色粘質土 | 径113.8、高さ 0.3 | (外・内)直紐ナデ。(外)ヘラ削り。(内)直紐筋ナデ。 | 砂状(赤)、(外)褐色、(内)褐色、堅塊 |
| 29 | 11 | 唐津焼 | T64-42 | 暗灰色粘質土 | 径125.3、高さ 4.0 | (外)ハナノ直線(オリーブ突)。(外・内)直紐ナデ、高側。 | 砂状(赤)、褐色、堅塊 |
| 30 | 9 | 唐津焼 | T65-44 | 暗灰色粘質土 | 径121.0、高さ 4.0 | (内)直紐筋、オキム。(外・内)直紐ナデ、灰白土。 | 砂状(赤)、(外)褐色、堅塊 |
| 31 | 156-3 | 唐津焼 | R63-41 | 暗灰色粘質土 | 径 9.2、高さ 0.3 | (外体側)横ナデ。(その他外・内)直紐ナデ。 | 砂状(赤)、にじり褐色、堅塊 |
| 32 | 155-18 | 唐津焼 | R62-44 | 4 赤褐色砂質土 | 断面 8.2、高さ 4.0 | (内)ハナノ直線。(外・内)ナデ、高側。(外側)ヘラ削り。 | 砂状(赤)、(外)暗褐色、(内)暗褐色、堅塊 |
| 33 | 4 | 瀬戸焼 | S43-44 | 暗灰色粘質土 | 径111.0、高さ 1.2 | (外・内)直紐ナデ。(外)直紐筋。 | 褐色、暗褐色、灰白色、普通 |
| 34 | 155-9 | 瀬戸焼 | S43-42 | 暗灰色粘質土 | 径111.1、高さ 4.0 | (外)高側のため調整不揃。(内)直紐ナデ。(外・内)直紐筋。 | 砂状(赤)、黒褐色、堅塊 |
| 35 | 155-5 | 瀬戸焼 | R62-44 | 暗灰色粘質土 | 断面 4.4、高さ 0.6 | (外側面)赤切り風。(内)暗灰色の地肌。 | 砂状(赤)、褐色、堅塊 |
| 36 | 5 | 瀬戸焼 | S43-41 | 灰黄色 | 径116.7、高さ 0.7 | (外・内)直紐ナデ、高側。 | 砂状(赤)、淡黄色、堅塊 |
| 37 | 3 | 瀬戸焼 | S43-44 | 暗灰色粘質土 | 断面 3.3、高さ 0.7 | (外・内)直紐ナデ、高側(暗褐色)。 | 砂状(赤)、灰白色、堅塊 |
| 38 | 2 | 瀬戸焼 | T65-44 | 暗灰色粘質土 | 径115.5、高さ 0.75 | (外)ナデ。(内)帯筋文。 | 砂状(赤)、淡黄色、堅塊 |
| 39 | 7 | 瀬戸焼 | S43-41 | 暗灰色粘質土 | 断面 4.5、高さ 0.6 | (外・内)直紐筋。(内)直紐ナデ。(外)高側のため調整不揃。 | 砂状(赤)、淡黄色、堅塊 |
| 40 | 1 | 瀬戸焼 | T65-41 | 暗灰色粘質土 | 径112.6、高さ 0.7 | (外・内)直紐筋。(内)直紐ナデ。(外)高側のため調整不揃。 | 砂状(赤)、淡黄色 |
| 41 | 155-9 | 瀬戸焼 | R62-44 | 暗褐色砂質土 | 断面 4.8、高さ 0.3 | (外・内)ナデ、筋。 | 砂状(赤)、淡黄色、灰白色、堅塊 |
| 42 | | 常磐焼 | S51 342-43 | 暗灰色粘質土 | 断面14.6、高さ 4.0 | (外)横オキム。(内)ナデ。(内)平紐。 | 砂状(赤)、暗灰色、堅塊 |

倉倉瀬山土瓦拓影

| 図番号 | 図面番号 | 種 類 | 種 類 | 遺 構・地 区・層 位 | 法 量(m) | 成 形・割 取 | 断面図上・色別・形状・その他 |
|------|--------|-----|--------|-------------|--------------------|-------------------------------------|----------------|
| 55-1 | 1 | 瓦 | S64-43 | 灰黄色土 | 長 6.5、高さ 2.5、幅 4.8 | (内)直線筋文。(外)直線筋。(両)直紐ナデ直紐ナデ、幅 2.7cm。 | 砂状(赤)、灰色、普通 |
| 2 | | 瓦 | S64-45 | 灰黄色土 | 長 3.03上、幅 3.53上上 | (両)直紐。(両)直紐ナデ。(両)直紐ナデ直紐ナデ。 | 砂状(赤)、灰色、普通 |
| 3 | | 瓦 | S64-42 | 灰黄色土 | 断面径14.5 | (両)直線筋筋文。(内)直線筋筋文。(外)直線筋筋文。 | 砂状(赤)、褐色、良好 |
| 4 | | 瓦 | R63-44 | 暗灰色粘質土 | 断面径15.3 | (内)直線筋筋文。(外)直線筋筋文。(内)直線筋筋文。 | 砂状(赤)、灰白色、良好 |
| 5 | | 瓦 | R64-43 | 暗灰色粘質土 | 断面径14.5、厚 1.5 | (内)直線筋筋文。(外)直線筋筋文。(外)直線筋筋文。 | 砂状(赤)、褐色、普通 |
| 6 | | 瓦 | T64-44 | 暗灰色粘質土 | 断面径13.5 | (内)直線筋筋文。(外)直線筋筋文。(外)直線筋筋文。 | 砂状(赤)、褐色、良好 |
| 7 | 155-16 | 瓦 | R62-42 | 灰黄色 | 高13.5、厚 2.0、幅12.0 | (両)直線筋筋文。(内)直線筋筋文。(両)ヘラ削り直紐筋筋文。 | 砂状(赤)、灰色、普通 |
| 8 | 12 | 瓦 | R62-42 | | 長 8.0、厚 8.0、幅 2.6 | (両)ナデ。(内)直線筋筋文、(外)直線筋筋文。(内)直線筋筋文。 | 砂状(赤)、淡褐色、二次焼成 |
| 9 | 13 | 瓦 | R61-44 | | 長 9.5、幅 8、厚 1.8 | (両)直線筋筋文。(内)直線筋筋文。(内)直線筋筋文。 | 砂状(赤)、暗灰色、普通 |
| 10 | 15 | 瓦 | S63-42 | 灰黄色土 | 長10.0、厚 1.5、幅 6.0 | (両)直線筋筋文。(内)直線筋筋文。(内)直線筋筋文。 | 砂状(赤)、暗褐色、普通 |
| 11 | 14 | 瓦 | S64-41 | 暗灰色粘質土 | 長14.5、厚 1.5、幅10.0 | (両)直線筋筋文。(内)直線筋筋文。(内)直線筋筋文。 | 砂状(赤)、暗灰色、良好 |

礎 石

| 図番号 | 図面番号 | 種 類 | 種 類 | 遺 構・地 区・層 位 | 長・厚・幅(m) | 重量 | 備 考 (形状・その他) |
|------|------|-----|--------|-------------|----------------|--------|--------------|
| 56-1 | 1 | 礎 石 | S64-43 | 暗灰色粘質土 | 5.55×6.17×1.33 | 77.0 t | 砂包 |
| 2 | | 礎 石 | T65-43 | 灰黄色土 | 5.42×3.55×1.45 | 45.4 t | 砂包 |
| 3 | | 礎 石 | S63-43 | 暗灰色粘質土 | 4.76×3.42×2.6 | 45.3 t | 40cm厚瓦砂包か? |

包倉層出土石類

| 調査号 | 図面番号 | 種類 | 用途・地区・層位 | 数量(m) | 重量 | 備考(石材・その他) |
|-----|------|-----|--------------|----------------|------|------------|
| 57 | | 磁石? | S45-3 灰褐色粘土 | 20.5x7.25x6.6 | 114g | 砂岩 |
| | | 磁 | S44-4 暗褐色粘質土 | 10.4x7.45x1.25 | 107g | ホルトヘルムス |

SOA 5 他出土土器

| 調査号 | 図面番号 | 種類 | 用途・地区・層位 | 数量(m) | 成形・調整 | 備考(土色・色調・その他) |
|-----|--------|-------|--------------------------|-------------------------|----------------------------|-------------------|
| 1 | 129-4 | 穿通式土器 | SDN19 S45-1 灰褐色粘質土 | 径口17.8, 高(10.5) | (内)ハナメ。内筒付ナメナ。調整無く(調整ナシ) | 砂粒(赤)。淡黄色。普通 |
| 2 | | 土師器 | SDA 5 S45-4 灰褐色土 | 径口22.5, 高(4.2) | (内)口部縮ナメ。(内筒)ハナメ。(内底)ハナメ。 | 砂粒(赤)。黄褐色。普通 |
| 3 | | 穿通式土器 | SDN 9 | 径口20.0, 径体23.0, 高(13.5) | (内)内筒縮ナメ(調整不可) | 砂粒(赤)。黄色。普通 |
| 4 | 129-12 | 須恵器 | SDN16 4地区 | 径口14.1, 高(4.3) | (内)ヘリ削りナメナ。太刀ナメナ。内筒縮ナメ。 | 砂粒(赤)黄褐色。普通 |
| 5 | | 須恵器 | SDA 5 S45-1-3 灰褐色土 | 径口13.2, 高(4.25) | (内)内筒縮ナメ。 | 砂粒(赤)。灰色。自然焼 |
| 6 | | 須恵器 | SDN 2 S45-1-4 灰褐色粘質土 | 径口10.3, 高(2.4) | (内)内筒縮ナメ。 | 砂粒(赤)。灰白色。中々生焼。数枚 |
| 7 | | 穿通式土器 | STG 2 S45-4 暗褐色色砂質土 | 径口14.0, 高(2.8) | (内)内筒縮ナメ。 | 砂粒(赤)。黄褐色。普通 |
| 8 | 129-5 | 高杯 | SDN10 S45-4 | 径底 9.3, 高(2.8) | (内)筒上リボリナ。(内)内筒縮ナメ(調整不可) | 砂粒(赤)。にんじ色。生焼 |
| 9 | 129-6 | 穿通式土器 | SDA 4 S44-4 | 径口24.0, 高(16.5) | (内)ヘリナメナ。ハナメ。ナメ。(内)ヘリ削りナメ。 | 砂粒(赤)。淡黄色。調整ナシ |
| 10 | | 須恵器 | SDA 5 S45 灰褐色土 | 径口25.0, 高(3.7) | (内)縮ナメナ。(その他外)内筒縮ナメ。 | 砂粒(赤)。灰色。良好 |
| 11 | | 須恵器 | SDA 5 S45 1地区 S45-3 灰褐色土 | 径口16.4, 高(3.7) | (内)内筒縮ナメ。 | 砂粒(赤)。黄褐色。普通。自然焼 |
| 12 | | 須恵器 | SDA 5 S45-4 | 径口19.0, 高(3.4) | (内)内筒縮ナメ。 | 砂粒(赤)。灰色。調整。自然焼 |
| 13 | | 須恵器 | SDA 5 S45-3付足 | 径口17.8, 高(3.4) | (内)縮ナメ(調整不可)。(その他外)内筒縮ナメ。 | 砂粒(赤)。暗黄色。良好 |
| 14 | 143-12 | 須恵器 | SDA 5 S45-4 灰褐色土 | 径口24.0, 径底24.8, 高(9.4) | (内)縮ナメ(調整不可)。(その他外)内筒縮ナメ。 | 砂粒(赤)灰色。普通 |

甗・丹波・信濃・播磨

| 調査号 | 図面番号 | 種類 | 用途・地区・層位 | 数量(m) | 成形・調整 | 備考(土色・色調・その他) |
|------|--------|-----|------------------|----------------|--|------------------|
| 58-1 | 129-21 | 須恵器 | R43-1 暗褐色粘質土 | 径口19.8, 高(6.4) | (内)内筒ナメ。(内)口部縮ナメ。(内)筒縮ナメ。 | 砂粒(赤)。灰色。調整。普通 |
| 2 | 22 | 須恵器 | S44-3 暗褐色粘質土 | 径口31.4, 高(5.0) | (内)削りナメ。(内)ナメ調整ナシ。 | 砂粒(赤)。褐色。調整 |
| 3 | 23 | 須恵器 | S44-1 暗褐色粘質土 | 径口21.4, 高(5.5) | (内)内筒ナメ。(内)口部縮ナメ。(内)筒縮ナメ。 | 砂粒(赤)。黄褐色。灰色。普通 |
| 4 | 24 | 須恵器 | T45-4 暗褐色粘質土 | 径口30.5, 高(7.8) | (内)ヘリ削りナメナ。(内)ナメ調整(筒口部)以上。 | 砂粒(赤)。灰色。調整。良好 |
| 5 | 25 | 須恵器 | T44-4 暗褐色粘質土 | 径口40.4, 高(4.1) | (内)削りナメナ。(内)ナメ調整(筒口部)ナメ。片口ナメ。 | 砂粒(赤)。赤褐色。褐色。良好 |
| 6 | 26 | 須恵器 | T44-4 暗褐色粘質土 | 径口21.8, 高(7.4) | (内)右削りナメナ。(内)ナメ調整(筒口部)。 | 砂粒(赤)。にんじ色。調整。良好 |
| 7 | 27 | 信濃焼 | R41-4, 4 赤褐色砂 | 径口29.4, 高(3.7) | (内)内筒ナメ。(内)筒縮ナメ。 | 砂粒(赤)。暗赤褐色。調整 |
| 8 | 28 | 信濃焼 | S44-2 暗褐色粘質土 | 径口28.8, 高(3.8) | (内)内筒ナメ。(内)筒縮ナメ。 | 砂粒(赤)。暗褐色。調整 |
| 9 | 29 | 信濃焼 | S45-2 暗褐色粘質土 | 径口29.2, 高(4.3) | (内)内筒ナメ。(内)筒縮ナメ。 | 砂粒(赤)。灰色。褐色。調整 |
| 10 | 29 | 信濃焼 | T45-4 暗褐色粘質土 | 径口33.4, 高(7.4) | (内)内筒ナメ。(内)口部縮ナメ(調整不可)。(内)ナメ調整(筒口部)ナメ。 | 砂粒(赤)。にんじ色。調整。良好 |
| 11 | 31 | 丹波焼 | R41-4, 4 赤褐色砂 | 径口29.4, 高(5.4) | (内)内筒ナメ。(内)筒縮ナメ。 | 砂粒(赤)。暗赤褐色。調整 |
| 12 | 30 | 丹波焼 | S42-3 灰褐色土(調整ナシ) | 径口31.0, 高(6.8) | (内)内筒ナメ。(内)筒縮ナメ。 | 砂粒(赤)。褐色。調整。自然焼 |
| 13 | 33 | 信濃焼 | R43-4 焼土 | 径口29.4, 高(7.7) | (内)内筒ナメ。(内)筒縮ナメ。 | 砂粒(赤)。灰色。調整 |

濃鏡・丹波・火倉・鹿

| 調査号 | 図面番号 | 種類 | 用途・地区・層位 | 数量(m) | 成形・調整 | 備考(土色・色調・その他) | |
|------|--------|----|----------|--------------------|---|--|------------------|
| 60-1 | 129-12 | 濃鏡 | 火倉 | R41 焼土 | 径(正)14.2, 径(4.5), 径(正)14.2, 径(4.5), 高(15.8) | (内)内筒ナメ。(内)口部縮ナメ(調整不可)。(内)筒縮ナメ。 | 砂粒(赤)。黄褐色。普通 |
| 2 | | 濃鏡 | 火倉 | R41-4, 4 赤褐色砂 | 径口10.0, 高(5.4) | (内)削りナメナ。(その他外)内筒縮ナメ。(内)口部縮ナメ。(内)筒縮ナメ。 | 砂粒(赤)。黄褐色。普通 |
| 3 | 129-9 | 濃鏡 | 火倉 | R43-4 下流北区内 灰褐色粘質土 | 径口29.5, 高(7.4) | (内)口部縮ナメ。(内)削りナメナ。(内)筒縮ナメ。 | 砂粒(赤)。黄褐色。普通 |
| 4 | 7 | 濃鏡 | 火倉 | R41-4, 4 赤褐色砂 | 径口28.2, 高(5.3) | (内)口部縮ナメ。(内)削りナメナ。(内)筒縮ナメ。 | 砂粒(赤)。黄褐色。普通 |
| 5 | 8 | 濃鏡 | 火倉 | R41-4, 4 赤褐色砂 | 径口29.2, 高(5.0) | (内)削りナメナ。(内)削りナメナ。(内)筒縮ナメ。 | 砂粒(赤)。褐色。普通 |
| 6 | | 濃鏡 | 火倉 | R43-4 暗褐色粘質土 | 径口25.0, 高(4.7) | (内)削りナメナ。(その他外)内筒縮ナメ。 | 砂粒(赤)。赤褐色。黄褐色。普通 |
| 7 | | 濃鏡 | 火倉 | R41-4, 4 赤褐色砂 | 径口26.9, 高(6.7) | (内)削りナメナ。(その他外)内筒ナメ。 | 砂粒(赤)。褐色。普通 |
| 8 | | 濃鏡 | 火倉 | S41-3 灰褐色粘質土 | 径口16.2, 高(5.0) | (内)内筒縮ナメ。 | 砂粒(赤)。にんじ色。普通 |
| 9 | | 濃鏡 | 火倉 | R42-4 赤褐色粘質土 | 径口72.4, 高(7.0) | (内)縮ナメナ。ナメ。(内)ハナメはほぼ完成。調整ナシ。 | 砂粒(赤)。褐色。普通 |
| 10 | | 濃鏡 | 鹿 | SKA区内 R42-3 | 径口30.2, 高(11.4) | (内)削りナメナ。(内)削りナメナ。(内)筒縮ナメ。 | 砂粒(赤)。褐色。調整。普通 |

日本刀・濃鏡

| 調査号 | 図面番号 | 種類 | 用途・地区・層位 | 数量(m) | 成形・調整 | 備考(土色・色調・その他) | |
|------|--------|-----|----------|-------|-----------------------------|---------------|-----|
| 60-1 | 129-10 | 日本刀 | 鹿 | 鹿 | 径41.4, 厚(刃部)0.5-0.7, 高(8.8) | | 目打穴 |

Ⅲ 西浦横遺跡

| 図番号 | 図番号 | 種類 | 種類 | 遺構・地区・層位 | 法 量(m) | 成 形・調 整 | 築年(土・色調・構成・その他) |
|------|-------|----|-----|-------------------------|---------------|-------------------------------|-----------------|
| 61-2 | | 溝状 | 溝 | R63-e2 暗褐色粘質土 | 幅口64.0、高(9.3) | (内口)直線ナデ。(内)平行凹ナ。(内)割断して調整不可。 | 砂粒(赤)、にじみ砂色、普通 |
| 3 | | 溝状 | 溝 | 厚6.5cm S62-e4 灰平層
上層 | 幅口59.0、高(4.4) | (内)平行凹ナ。(内)ハナメ調整ナキエ、ハナメ。 | 砂粒(赤)、褐色、普通 |
| 4 | 157-7 | 溝状 | 底め壁 | SKA35 暗褐色砂礫土 | 幅口79.0、高 77.0 | (内)平行凹ナ。(内)直線ナ。(内)調整ナ。 | 砂粒(赤)、褐色、良砂 |

遺構内出土遺物

| 図番号 | 図番号 | 種類 | 種類 | 遺構・地区・層位 | 法 量(m) | 成 形・調 整 | 築年(土・色調・構成・その他) |
|------|-------|-----|-----|---------------|----------------------|----------------------------------|---------------------|
| 61-1 | 157-1 | 管柱 | 筒 | SKA25内 | 直径 5.4、高(9.35) | (内・高台内)削リ。(その他外・内)ナデ。 | 暗褐色、微の灰白色 |
| 2 | 2 | 伊豆瓦 | 筒 | SKA25内 | 直径 4.7、高(3.8) | (内)起へり削り残ナデ。(内・内)灰白色。(内)底の調整ナ。 | 暗褐色、褐色、微の灰白色 |
| 3 | 3 | 溝状 | 柱状 | SKA25内 R63-e2 | 幅口27.0、高(5.5) | (内・内口)直線ナデ。(内)削り。 | 平干土・底砂(赤)、赤褐色、普通 |
| 4 | 4 | 瓦 | 丸瓦 | SKA25 暗褐色砂礫土 | 横径 8.5×7.5 | (底)直ナデ(底)部分の削りナデ。(底)右直削。(削)削ナデ。 | 片砂・砂粒(赤)、灰褐色、普通 |
| 5 | 5 | 瓦 | 平瓦 | SKA25内 | 横径10.3×4 | ナデ。(削)削ナデ。 | 片砂・砂粒(赤)、灰褐色、普通 |
| 6 | 156-2 | 瓦 | 軒入瓦 | SKA25内 | 外径径13.6 | (内)削りのみナデ。(内)削ナデ。 | (内)削り(削)削ナデ。(内)削ナデ。 |
| 7 | 6 | 伊豆瓦 | 瓦 | SC2 | 直径 2.0、直径 3.5、高 3.25 | (内)削りのみナデ。(内)削ナデ。 | (内)削り(削)削ナデ。(内)削ナデ。 |
| 8 | 157-4 | 伊豆瓦 | 仏瓦 | SC2 | 直径 2.0、直径 3.5、高(4.8) | ナデ。(内)削り。(内)削ナデ。 | ナリワア灰白色 |
| 9 | 156-5 | 伊豆瓦 | 筒 | SC2 | 直径10.8、直径 2.4、高 4.8 | (内・内)直線。(内)削り(削)削ナデ。(内)削り(削)削ナデ。 | ナリワア灰白色 |
| 10 | | 瓦 | 瓦 | 層1 暗褐色土 | 直径 2.3、厚 0.1、穴径 0.7 | | |
| 11 | | 瓦 | 筒瓦 | R64-e1 茶褐色土 | 直径2.25、厚 0.3、穴径 0.5 | | |

第2章 付 論

1 飯蛸壺形土器をめぐる諸問題

1 はじめに

西浦橋遺跡において出土した須恵器飯蛸壺形土器（以下蛸壺と呼ぶ）について技法と形態の変化を観察し、蛸壺出土遺跡との関係を考えてみたい。蛸壺全てを観察した訳ではないが、一応の見通しと問題整理を行っておく。

漁具としての蛸壺の生産と、消費をめぐる諸現象を理解しようとする試みは、森浩¹⁾、森茂²⁾、和田晴吾³⁾等によって行われてきている。しかし、生産と流通を蛸壺の技法・形態から追求する仕事は「陶邑」出土蛸壺の分析を経なければならず、問題は進展していない。膨大な「陶邑」の資料を観察する前に、周辺遺跡から出土した資料分析を事前に積み上げ、「陶邑」の資料への見通しを付けておく事は無益な事ではないだろう。

2 蛸壺の技法と形態

西浦橋遺跡出土蛸壺はつまみが付いた鈎鐘形のものである。その天井部内面の技法は、回転ナデ・絞り・小原体による丘痕・中心突出の4類型に分けられた。外面調整はつまみ貼り付け後エビツナエ、又はナデ調整が認められ、外面は磨滅し、使用されていた事も窺えた。口縁部は、内彎するものと、直口するものがあり、強いナデにより凹部を形成するものもみられる。分量は、つまみが太く、上方から見て、円形の中心に一字につまみが付着するものが大型で、つまみが体部に較べ大きく、体部が細長く小型のものもみられる。他につまみ付着部がなで肩になったものもみられる。これらの蛸壺の差異は何を物語るのであろうか。

3 他遺跡出土蛸壺の概観

A 集落跡出土蛸壺

和泉地方では、堺市から上町台地にかけてを北端とし、泉佐野⁴⁾・東南市⁵⁾・阪南町⁶⁾にかけて出土している。大阪市内や貝塚以南では、6世紀から8世紀にかけて土師器の蛸壺と同時出土する例が多い。しかし、大鳥郡から和泉郡については、須恵器蛸壺がほとんどである。このうちまとまって出土している例としては、四ツ池⁷⁾、水源池⁸⁾、大園⁹⁾、壺中¹⁰⁾、湊遺跡⁴⁾が知られる。大園出土例では、SD 303の39個体中、5型式が抽出された。しかし、分量はほぼ均一で、时期的にも6世紀後半代と考えられる。つまり、集落で使用され、放棄された時は一連の蛸壺縄であったが、生産される際、承器の異なる窯で焼かれたか、複数工人による製作である可能性が考えられる。これらの生産が、中央政権の監督下で直接的に行なわれ、その流通についても強い規制があったと考える事はやや無理があらう。

B 窯跡出土蛸壺

第35表 繪壺形土器出土地名表(1)

| 遺跡名 | PS | | | | | 遺跡名 | PS | | | | |
|----------------|----|----|----|----|----|-------------------|----|----|----|----|----|
| | Y | PH | 6C | 8C | 中世 | | Y | PH | 6C | 8C | 中世 |
| 泉北地区 | | | | | | 堺市陶器高藏寺(TK) 209 | | | ○ | | |
| ①堺市土師 | | | ○○ | | | ② * * 7 | | | ○ | | |
| ② * 金岡 | | | | ○ | | ③ * * 27 | | | ○ | | |
| ③ * 船尾西 | | | ○ | | | ④ * * 34 | | | | ○ | |
| ④ * 大和川今池 | | | ○ | | | ⑤ * * 23-I | | | | ○ | |
| ⑤ * 浅香今池 | | | ○○ | | | ⑥ * * 230 | | | | ○ | |
| ⑥ * 四ッ池 | ○ | | ○○ | | | ⑦ * * 4-I | | | ○ | ○ | |
| ⑦ * 大仙 | | | ○ | | ○ | ⑧ * 陶器山5-I (MT) | | | | ○ | |
| ⑧ * 浜寺諏訪・森町東二丁 | | ○ | ○ | | ○ | ⑨ * * 9 | | | | ○ | |
| ⑨ * 反正陵 | | | ○? | | | ⑩ * * 27 | | | | ○ | |
| ⑩ * 旧市内 | | | ○ | | ○ | ⑪ * * 33 | | | | ○ | |
| ⑪ * 翁橋 | | | ○ | | | ⑫ * * 28 | | | | ○ | |
| ⑫ * 長曾根 | | | ○ | ○ | | ⑬ * 榑美木多(TG) 51 | | | | ○ | |
| ⑬ * 田出井 | ○ | | | | | ⑭ * * 63 | | | | ○ | |
| ⑭ * 三国丘 | ○ | | | | | ⑮ * * 68 | | | | ○ | |
| ⑮ * 北花田 | ○ | | | | | ⑯ * * 10-I | | | | ○ | |
| ⑯ * 万崎 | | | | ○ | | ⑰ * * 30-II | | | | ○ | |
| ⑰ * 万崎池 | ○ | | | ○ | | ⑱堺・和泉市光明池(KM) 102 | | | | ○ | |
| ⑲ * 西浦橋 | | | ○ | ○ | | ⑳ * * 24 | | | | ○ | |
| ㉑ * 菱水下 | | | ○ | | | ㉒ * * 25 | | | | ○ | |
| ㉓ * 鶴田池東 | | | ○ | ○ | | ㉔ * * 26 | | | | ○ | |
| ㉕ * 鈴の宮 | ○ | | | | | ㉖ * * 22 | | | | ○ | |
| ㉗ * 羽衣砂丘 | | ○ | ○ | | | ㉘ * * 30-I | | | | ○ | |
| ㉙ * 石津 | | ○ | | | | ㉚ * * 51 | | | | ○ | |
| ㉛ * 塔塚 | | | ○ | | | ㉜ * * 34 | | | | ○ | |
| ㉝ * 浜寺公園駅 | ○ | | | | | ㉞ * * 31 | | | | ○ | |
| ㉟ * 百舌鳥陵南 | | | ○ | | | ㊱和泉市榑本池No.15 | | | | ○ | |

第35表 船造形土器出土地名表(2)

| 遺跡名 | PS | | | | | 遺跡名 | PS | | | | |
|--------------|----|----|----|----|----|-------------|----|--------|----|----|----|
| | Y | PH | 6C | 8C | 中世 | | Y | PH | 6C | 8C | 中世 |
| ④和泉市谷山池長池%62 | | | ○ | | | ⑩泉南市光平寺 | | | | ○ | |
| ⑤高石市大 園 | | | ○ | ○ | | ⑪阪南町田 山 | | ○
大 | ○ | 大 | |
| ⑥ * 水源池 | | | ○ | | | ⑫ * 蓮池 | | | | 大 | |
| ⑦ * 御羅橋 | ○ | ○ | ○ | | | ⑬岬町淡輪 | | 大? | | | |
| ⑧ * 御羅橋東 | | | | | | 摂 津 | | | | | |
| ⑨和泉市池 上 | ○ | | ○ | | | ⑭堺市上ノ島 | ○ | | | | |
| ⑩ * 観音寺山 | ○ | | | | | ⑮ * 田 能 | ○ | | | | |
| ⑪ * 和 気 | ○ | | | | | ⑯ * 庄下川 | ○ | | | | |
| ⑫ * 信太寺 | | | | ○ | | ⑰ * 金楽寺 | | | | | |
| ⑬ * 古池北 | | | ○ | | | ⑱ * 西長州東 | | | | | |
| ⑭泉大津市七の坪 | ○ | | | | | ⑲ * 中食満 | | | | | |
| ⑮ * 壘中古池 | | | ○ | | | ⑳ * 藻 川 | | | | | |
| ⑯ * 池 浦 | ○ | | | | | ㉑大阪市森の宮 | ○ | | | | |
| ⑰ * 穴 師 | | | ○ | | | ㉒ * 浪速区飯津町 | ○ | ○ | | | |
| ⑱ * 二 田 | | | ○ | | | ㉓ * 遠里小野 | | ○ | ○ | ○ | |
| 泉 南 地 区 | | | | | | ㉔ * 桑 津 | | ○ | ○ | ○ | |
| ㉕堺和田市栄の池 | | | ○ | | | ㉖ * 難波貝冴遺跡 | | ○ | | | |
| ㉗ * 吉井一の坪 | | | ○ | | | ㉘ * 住吉第三地点 | | | | | |
| ㉙ * 天の川 | | | | | | ㉚ * 瓜 破 | ○ | | | | |
| ㉛ * 小 寺 | | | | | | ㉜ * 淀川区加島 | | | | | |
| ㉝ * 下野町 | | | | | | ㉞ * 阿倍野区帝塚山 | | | | | |
| ㉟ * 下池田 | ○ | | | | | ㉟ * 高麗橋 | | | | | |
| ㊱ * 土 佐 | ○ | ○ | ○ | | | ㊲ * 山ノ内 | | ○ | | | |
| 河 内 | | | | | | | | | | | |
| ㊳泉佐野市 深 | | 大 | ○ | ○ | 大 | ㊴泉大津市日 下 | | ○ | | | |
| ㊵泉南市男 里 | ○ | ○ | ○ | | 大 | ㊶ * 巨摩・瓜生堂 | ○ | | | | |
| ㊷ * 海会寺 | | | ○ | | | ㊸ * 山 賀 | | | | | |

第35表 繪壺形土器出土地名表(3)

| 道 路 名 | PS | | | | | 道 路 名 | PS | | | | |
|------------|----|----|----|----|----|-------------|----|----|----|----|----|
| | Y | PH | 6C | 8C | 中世 | | Y | PH | 6C | 8C | 中世 |
| ⑧八尾市亀井 | ○ | | | | | ⑩岡山県 | | | | | |
| ⑨柏原市船橋 | | | ○ | ○ | | ⑪倉敷市広江浜 | | | | | |
| ⑩松原市大根 | | ○ | | | | ⑫玉島市長尾 | | | ○ | | |
| ⑪美原町真福寺 | | ○ | ○ | | | 山口県 | | | | | |
| ⑫藤井寺市土師の里 | | ○ | | | | ⑬松山竊跡 | | | | | |
| ⑬羽曳野市菅田白鳥 | | ○ | | | | 福岡県 | | | | | |
| 兵庫県 | | | | | | ⑭天観寺山蔵2区1号 | | | | | |
| ⑮淡路島沖の島古墳群 | | | | | | ⑯ 3区2号 | ○ | | | | |
| ⑯姫路市大津区 | | | | | | ⑰多々良蔵ノ元遺跡 | | | | | |
| ⑰播磨大中 | ○ | | | | | ⑱下山門(福岡市西区) | ○ | | ○ | | |
| ⑱北淡町育波浜田 | | | | | | ⑲西新町 | | | | | |
| ⑲津名土器屋 | | | | | | ⑳志賀島 | | | ○ | | |
| ⑳高砂土器屋 | | ○ | | ○ | | 愛知県 | | | | | |
| 香川県 | | | | | | ㉑瓜舞 | ○ | | | | |
| ㉑雁石島 | | | | | | | | | | | |

Y : 弥生時代
 K : 古墳時代
 PH : 土師器
 PS : 須恵器
 大 : 大埴壺

※各時期の新旧を小○印の位置により表現した。

繪壺は「陶邑」では6世紀代に梅・美木多地区を中心に焼成されていた。光明池地区や、陶器山地区では8世紀代のものが多い。6世紀代のは、比較的大型で、個体差が大きく、プローションがやや異なる。一般に、体部中央に最大腹径がくる。器高は8~12cm位で、口径は3.5~6.5cmのものが多い。7世紀代のは、明確に把握し難いが、6世紀代のものに比べ、最大腹径がつまみに近づき、ほぼ円筒形を呈する。8世紀代のは、器高が低くなり細身になる。肩部が張り、つまみが体部に比べ大きくなる。粘土紐巻き上げ痕が見えにくくなり、みずびき成形を思わせるこまかい凹凸が内外面にみられる。これらの特徴が技法と出土状況に合致すれば、集落出土繪壺との関係が明らかになり、繪壺供給のネットワークが把握されるであろう。また窯跡でのありかたについても、支群毎に分析すれば、6世紀代のありかたと、8世紀代の違いが見ら

れる。簡単に説明すると、6世紀代には数十の窯跡群の中で、比較的長期間操業された所で焼かれている場合（KM 234、TG30—I）と1～2時期の短期間操業の中で焼かれるものがみられる（TG68、63—I、51、10—I・KM 268他）。8世紀代のもは、TG・KM・MT・TK地区でも谷奥部に集中的にみられる。そして、そこでは大抵、各種の土器や瓦、陶棺・硯等が焼成され、窯構造に舟底ピットを持っている。現時点で管見に触れた資料は以上の如き状況である。

4 若干の課題

須恵器生産と流通・消費に関して鋳壺を中心にメモ的に述べてきた。特殊な用途の製品は特徴的で、観察し易いので今後、瓦や、陶棺、壺、鉢、土甕、硯等について観察していかねばならない。先ず生産地での状況を見なければならぬが、困難が多いので、与えられた資料から考える事にした。そこで気付いた事は、千基近くあると言われる「陶邑」の内容について、田辺昭三¹³⁾の段階から余り進展していない事である。5世紀代から9世紀に至る「陶邑」の歴史が一般的な形で提示されて以後その特殊性や個性についての論述が余り見られず、胎土分析、編年の細分と、操業開始時期の問題が議論されている状況である。¹⁵⁾鋳壺の分析からより個性的な歴史を描く第一歩が踏み出せるかもしれない。ひとつは生産集団の問題であり、それを消費する集団内部の問題がある。次にそれらの集団に製品を供給する媒介者の位置が問題になってくる。古墳時代と奈良時代の須恵器鋳壺の分布と土師器鋳壺の分布の変容をどのように解釈し、また平安時代以降の鋳壺生産及び鋳壺流の内容をどう検証すべきか。¹⁶⁾生産手段の生産と生産手段の分配と所有は、古墳から奈良時代にかけていかに変化したのであろうか。今ここでその結論は述べ得ないが、少なくとも①須恵器生産の開始期から鋳壺は生産され、大阪湾沿岸集落に供給されていた。いわゆる一元的体制、ヤマト王権の工人支配のイメージにそぐわない、在地的な流通がみられるのである。②次に6世紀後半代の分布についてはやや遠距離にある村々では土師器の鋳壺もみられ、「陶邑」の供給範囲は鋳壺に限って言えばそれ程広くないという事である。③「陶邑」内での状況も、各尾根毎の変遷に個性があり、¹⁷⁾鋳壺他の製品の焼かれ方も色々な問題が考えられる事、その中で、「陶邑」の生成、展開、発展、消滅の過程を位置付け直す必要に迫られている。④土器生産の比重がどの程度、時の政権に意識されていたのか。等々、思いつくままにあげ出すと時がないのである。考古学は遺構・遺物を分析にする学問である。その場合、形態・法量・状況・量を重んじる場合も多いが、それは時間的累積の結果であり、土器以外に消滅したものも多いはずである。またそれ故にそれらの痕跡から導びかれるイメージの飛躍や、思い付きも大切になるが、あくまでも考古資料に立脚した仮説でなければならない。そうした仮説は遺構・遺物により検証可能で、新たな仮説が生み出されるものである。今後の検証作業の第一歩として、記述しておく。

注

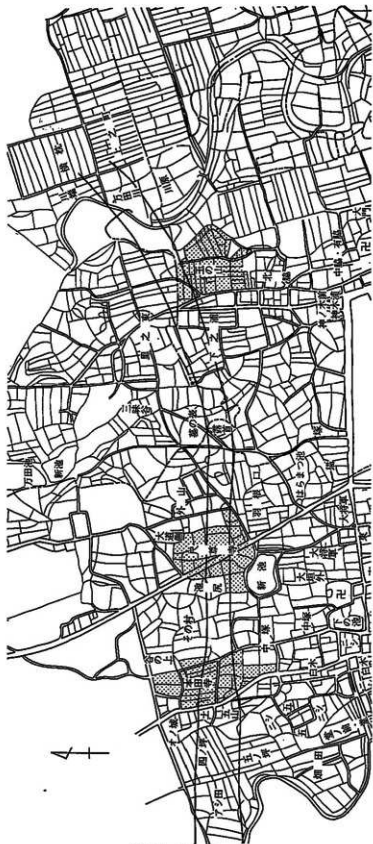
- 1) 森 浩一「大阪湾沿岸における飯館壺形土器とその遺跡」『古代学研究2号』1950
- 2) 森 茂「付1、漁撈遺物出土についての一考察」府教委「大園遺跡VI」1981

- 3) 和田晴吾「弥生・古墳時代の漁具」『小林行雄古稀記念論文集「考古学論考」』 1982
- 4) 泉佐野市教委（鈴木）「泉佐野市所在遺跡発掘調査概要Ⅰ」 1981
- 5) 泉南市教委（仮屋）「男里遺跡発掘調査報告書」 1978～1982
- 6) 大阪文化財センター「田山遺跡発掘調査報告書」 1983
- 7) 堺市教委「四ツ池遺跡発掘調査概要」 1976～1980
- 8) 渡辺昌宏氏の御教示による。
- 9) 大阪府教委「大園遺跡発掘調査概要1～Ⅵ」 1974～1981
大園遺跡調査会「大園遺跡発掘調査概要1～Ⅵ」 1974～1982
- 10) 泉大津市「豊中遺跡発掘調査概要」 1977
豊中・古池遺跡調査会
- 11) 大阪府教委、大園遺跡発掘調査概要Ⅴ 1981
- 12) 大阪府教委「陶邑Ⅰ～Ⅴ」 府教委・企業局「陶邑」 1976～1982
- 13) 田辺昭三「陶邑古窯址群Ⅰ」平安学園 1966
- 15) 中村 浩「須恵器生産の階段階一地方窠成に關する一試考一」考古学雑誌第67巻第1号 1981
- 16) 6世紀後半代の埴塼の所有を物語る可能性を有するものとして、府教委（山本）「大園・古池北遺跡発掘調査概要」に報告された孤立柱建物（倉庫？）の周辺に多数の埴塼が出土する状況を提示しておく。
- 17) 芝野圭之助「陶邑をめぐる諸問題」『青海波』 創刊号 1984

2 小字名図について

和田川西岸から石津川にかけての調査区周辺の小字名を堺市の法務局で点検したところ図のように、菱木下遺跡西部に「本田寺」、西浦橋遺跡西半部に「五ノ坪・四ノ坪」、万崎池遺跡西端に「尺尊寺」、第5調査区に「玉の山」等の地名が残っている事が判った。更に菱木の集落方面には「白木、オノ城、堂ノ前、大垣外、大將軍、大堀」等の地名が見え、太平寺の集落方面には「大門」「神木浦」といった寺院・神社に関する地名もみられた。字名「本田寺」については、西方、鶴田池東遺跡内にも見られ、その支配地かと考えられる。また菱木集落の東には猫塚・西方には中塚の字名が見られ、集落周辺に墓塚が存在した可能性が考えられる。

今後の考古学調査の進展によりこれらの小字名の命名時期が、どの程度遡るものか判明させてゆく必要があろう。



第67図 字 名 図

